

国道9号乙吉電線共同溝 PFI 事業

入札時積算数量図面書

令和5年10月

(令和5年11月16日訂正)

国土交通省中国地方整備局

入札時積算数量図面書一覧

現場説明書追加事項
工事特記仕様書
工事数量総括表
契約図

現場説明書追加事項

現場説明書追加事項

国道9号乙吉電線共同溝PFI事業

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項
一般事項	設計変更に関する資料の作成について	工事請負契約書第18条第4項の条件変更が生じた場合、設計図書の変更に必要な資料の作成について追加する場合がある。 なお、作成に要する費用については、設計変更の対象とする。
	施工地域・工事場所 (上り起点側,下り起点側)	本工事の施工地域・工事場所区分は、「一般交通影響有り(1)－1」で見込んでいる。 なお、現場環境改善費における施工地域は、市街地以外とする。
	施工地域・工事場所 (上り終点側,下り終点側 橋梁部)	本工事の施工地域・工事場所区分は、「市街地(DID補正)(1)－1」で見込んでいる。 なお、現場環境改善費における施工地域は、市街地とする。
	週休2日の試行	本工事は、公共工事の担い手の中長期的な育成・確保の促進を目的とした、週休2日の試行対象工事(発注者指定型(現場閉所))である。 なお、週休2日(4週8休以上)の補正(労務費、機械経費(賃料)及び間接工事費)を見込んでいるが、週休2日の実施状況により、4週8休未滿となる場合は、変更時に補正分を減額するものとする。
	熱中症対策	本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して、現場管理費の補正を行う試行工事である。 工期(工事の始期から工事の終期までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日、後片付け期間の合計をいう。なお、年末年始6日間、夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。)期間中の真夏日(日最高気温30度以上の日(夜間工事の場合は、作業時間帯の最高気温が30度以上の場合とする))の状況に応じて、変更契約時に現場管理費の補正を行うものとする。
	道路施設	道路照明など道路施設の新設・撤去・移設を行う場合は、台帳の更新や契約手続き等の所定の手続きを行い、監督職員に報告すること。
	道路基準点等	当該区間には、1級基準点(1km毎)及び管理標がそれぞれ設置してあるので、予め設置箇所等の確認を行い、当該基準点等に影響を与えないように必要な措置を講ずること。 また、やむを得ず当該工事の支障となる場合は、監督職員の承諾を得た後、撤去すること。 なお、復旧については監督職員の指示を受けること。
	その他	1. 工事の実施にあたっては、道路交通法第77条の規定に基づく所轄警察署長の許可を事前に受け、一般交通に対する支障を最小限にとどめるものとする。

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項																		
		<p>2. 現道の交通処理については、万全を期するものとする。 また、工事中一般交通等に支障を及ぼさないように安全確保に努めること。</p> <p>3. 公安委員会や地元との協議等に伴う要望事項については、監督職員に報告することとし、必要となる場合は監督職員と協議すること。</p> <p>4. 工事期間中、沿道住民等の第三者により苦情、または意見があった場合は丁寧に対応し、直ちに監督職員に報告するとともに適切な処置を講じなければならない。</p> <p>5. 工事中の一般交通開放区間の路面状況については、常時点検を行い特に注意を払い、万一凹凸等が生じた時は速やかに監督職員に連絡し、対策を講じるものとする。</p> <p>6. 施工に際し、現道の路面を損傷あるいは汚損しないようにすること。 なお、路面汚損防止対策が必要となる場合は監督職員と協議すること。</p> <p>7. 現地状況により既設構造物施設等の取壊し、復旧及び移設等が必要となる場合は監督職員と協議すること。</p> <p>8. 残土等の搬出に際し、公道等の路面汚損防止に努め、舗装等の補修が必要となる場合は監督職員と協議すること。</p> <p>9. 工事着手前には十分現地調査を行い、疑義が生じた場合には事前に監督職員と協議のうえ施工すること。</p> <p>10. 工事着手前に占用物件の調査を行い、占有者と協議すること。尚、工事に支障がある場合は監督職員と協議すること。</p> <p>11. 日々の作業終了後、資機材等は現道上へ置かないこと。</p> <p>12. 台帳修正及び境界基準点復元については、見込んでいないが資料の実績により変更の対象とする。</p> <p>13. コンクリートの夜間施工について、5日を見込んでいるが、現地の状況によりこれにより難しい場合は監督職員と協議すること。</p> <p>14. 既設マンホールへの削孔は見込んでいないが、現地の状況により必要となる場合は監督職員と協議すること。</p> <p>15. 照明柱及び基礎を追加する予定である。</p>																		
業務委託料	概数発注	1. 本工事は概数発注であるので、工事の実施に先立ち、設計及び調査を行い施工すること。																		
	業務委託料	<p>設計及び調査に関する業務委託料は下記のとおり見込んでいる。</p> <table border="1" data-bbox="831 1107 1951 1412"> <thead> <tr> <th data-bbox="831 1107 1023 1150"></th> <th data-bbox="1023 1107 1563 1150">項 目</th> <th data-bbox="1563 1107 1720 1150">数 量</th> <th data-bbox="1720 1107 1951 1150">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="831 1150 1023 1412" rowspan="6">設計</td> <td data-bbox="1023 1150 1563 1198">詳細設計業務</td> <td data-bbox="1563 1150 1720 1198">1 式</td> <td data-bbox="1720 1150 1951 1412" rowspan="6">別紙-1 参照</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1023 1198 1563 1246">事前家屋調査業務</td> <td data-bbox="1563 1198 1720 1246">1 式</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1023 1246 1563 1294">事後家屋調査業務</td> <td data-bbox="1563 1246 1720 1294">1 式</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1023 1294 1563 1342">設計マネジメント業務</td> <td data-bbox="1563 1294 1720 1342">1 式</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1023 1342 1563 1390">工事マネジメント業務</td> <td data-bbox="1563 1342 1720 1390">1 式</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1023 1390 1563 1412">工事監督業務</td> <td data-bbox="1563 1390 1720 1412">1 式</td> </tr> </tbody> </table>		項 目	数 量	備 考	設計	詳細設計業務	1 式	別紙-1 参照	事前家屋調査業務	1 式	事後家屋調査業務	1 式	設計マネジメント業務	1 式	工事マネジメント業務	1 式	工事監督業務	1 式
	項 目	数 量	備 考																	
設計	詳細設計業務	1 式	別紙-1 参照																	
	事前家屋調査業務	1 式																		
	事後家屋調査業務	1 式																		
	設計マネジメント業務	1 式																		
	工事マネジメント業務	1 式																		
	工事監督業務	1 式																		

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項													
		<table border="1"> <tr> <td data-bbox="831 189 1023 234"></td> <td data-bbox="1023 189 1565 234">点検・台帳・管理マネジメント業務</td> <td data-bbox="1565 189 1720 234">1 式</td> <td data-bbox="1720 189 2143 323" rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="831 234 1023 279">調査</td> <td data-bbox="1023 234 1565 279">試掘(工事積算)</td> <td data-bbox="1565 234 1720 279">1 式</td> </tr> <tr> <td data-bbox="831 279 1023 323"></td> <td data-bbox="1023 279 1565 323">補修業務(工事積算)</td> <td data-bbox="1565 279 1720 323">1 式</td> </tr> </table>		点検・台帳・管理マネジメント業務	1 式		調査	試掘(工事積算)	1 式		補修業務(工事積算)	1 式			
	点検・台帳・管理マネジメント業務	1 式													
調査	試掘(工事積算)	1 式													
	補修業務(工事積算)	1 式													
工程関係	<p>施工時間帯</p> <p>抑制期間</p> <p>工期の設定</p>	<p>本工事の施工時間帯は、昼間施工(8:00～17:00)【休憩1時間を含む】、夜間施工(20:00～6:00)【休憩1時間を含む】を見込んでいる。</p> <p>なお、現地状況及び関係機関との協議等により、これにより難しい場合は監督職員と協議すること。</p> <p>昼間施工(8:00～17:00)</p> <p>開削土工</p> <p> 残土処理工</p> <p> 整地 N= 1 式</p> <p>仮設工</p> <p> 残土処理工</p> <p> 整地 N= 1 式</p> <p> 運搬処理工</p> <p> 廃材運搬処理(建設汚泥) N= 1 式</p> <p>夜間施工(20:00～6:00)</p> <p> 上記以外</p> <p>本工事期間中において、下記のとおり路上工事抑制期間を定めており、抑制期間中は車線規制を伴う交通規制を原則認めない。やむを得ず抑制期間中に車線規制を実施する場合は、監督職員と協議すること。また、路上工事縮減の主旨に鑑み、対象期間以外においても路上工事縮減されるよう、さらに工程管理に努めること。</p> <p>(1)対象区間:浜田河川国道事務所管理区間</p> <p> なお、令和6年度以降の抑制期間については別途監督職員が通知する。</p> <p>1. 工期の設定にあたっては以下のとおり見込んでいる。</p> <p> なお、以下に示す内容は、発注者が工期設定するための内容を示したものであり、工事の履行にあたっての実施工程については受注者の責任において定めるものとする。</p>													

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項												
		<p>下表の準備期間とは、工事請負契約書における工期の始期日から実作業着手日(当該工事の直接工事費に計上されている種別・細別の現地着手日)までの期間をいい、後片付け期間とは、後片付け着手日(当該工事の直接工事費に計上されている種別・細別の現地完了日)から完成日までの期間をいう。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>日 数</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準備期間</td> <td>90 日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>後片付け期間</td> <td>20 日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>雨休率</td> <td>0.8</td> <td>休日(土日、祝日、年末年始休暇及び夏期休暇)と天候等による作業不能日を見込むための係数 ※雨休率=(休日数 + 天候等による作業不能日) / 実働日数</td> </tr> </tbody> </table> <p>天候等による作業不能日は以下を見込んでいる。 イ)1日の降雨・降雪量が10mm以上の日:35日/年 ロ)8時から17時までのWBGT値が31以上の時間を足し合わせた日数:5日/年 (少数第1位を四捨五入(整数止め)し、日数換算した日数) 過去5か年(2017年～2022年)の気象庁(松江観測所)及び環境省(松江地点)のデータより年間の平均発生日数を算出</p> <p>2. 著しい悪天候や気象状況により「天候等による作業不可能日」が工程(官積算)で見込んでいる日数から著しく乖離し、かつ作業を休止せざるを得なかった場合には、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。</p> <p>3. 工程計画にあたっては上記を想定しているが、現地の施工状況を踏まえ全体工程に影響が生じる場合は、工期変更の対象とする。</p>	項 目	日 数	備 考	準備期間	90 日		後片付け期間	20 日		雨休率	0.8	休日(土日、祝日、年末年始休暇及び夏期休暇)と天候等による作業不能日を見込むための係数 ※雨休率=(休日数 + 天候等による作業不能日) / 実働日数
項 目	日 数	備 考												
準備期間	90 日													
後片付け期間	20 日													
雨休率	0.8	休日(土日、祝日、年末年始休暇及び夏期休暇)と天候等による作業不能日を見込むための係数 ※雨休率=(休日数 + 天候等による作業不能日) / 実働日数												
関係機関	協議関係	<p>1. 本工事の施工において、支障となる占用物件がある場合は、発注者・受注者・占用者で協議を行うこと。</p> <p>2. 本工事の施工において、益田川の河川管理者との協議が必要となるため、発注者・受注者・河川管理者で協議を行うこと。</p> <p>3. 工事における交通規制については、警察へ申請や協議を行うこと。</p>												
公害関係	低騒音型建設機械	本工事は、「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針」による住民の生活環境を保全する必要がある地域である。												
安全対策関係	協議関係	現道の交通処理については万全を期すこと。公安委員会や他機関等との協議により必要となるものについては、監督職員と協議すること。												
	建設現場における建設機械や建設資材の盗難防止対策について	工事の施工にあたり、受注者は、工事中の安全確保の観点から施工計画書に建設機械及び建設資材に関わる盗難防止対策を明記するとともに、建設機械及び建設資材の盗難防止対策の強化に努めること。												
建設副産物関係	建設リサイクル法	1. 建設リサイクル法に係る資材の分別解体、再資源化等												

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項																														
		<p>1-1 本工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律((平成12年法律第104号)。以下「建設リサイクル法」という。)に基づき、特定建設資材(コンクリート、コンクリート及び鉄からなる建設資材、木材及びアスファルトコンクリート)の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。</p> <p>本工事における、建設リサイクル法に係る特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、以下の積算条件を設定している。</p> <p>なお、工事請負契約書「7 解体工事に要する費用等」に記載する事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されるものであり、発注者が積算上条件明示した以下の事項と受注者の提示する事項とが異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。</p> <p>① 分別解体等の方法</p> <table border="1" data-bbox="752 584 2103 1412"> <thead> <tr> <th data-bbox="752 584 831 1412">工 程 ご と の 作 業 内 容 及 び 解 体 方 法</th> <th data-bbox="831 584 1061 627">工程</th> <th data-bbox="1061 584 1368 627">作業内容(注1)</th> <th data-bbox="1368 584 2103 627">分別解体等の方法(注2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="752 627 831 756"></td> <td data-bbox="831 627 1061 756">①仮設</td> <td data-bbox="1061 627 1368 756">仮設工事 ■有 □無</td> <td data-bbox="1368 627 2103 756">□手作業 □手作業・機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 756 831 885"></td> <td data-bbox="831 756 1061 885">②土工</td> <td data-bbox="1061 756 1368 885">土工事 ■有 □無</td> <td data-bbox="1368 756 2103 885">□手作業 □手作業・機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 885 831 1015"></td> <td data-bbox="831 885 1061 1015">③基礎</td> <td data-bbox="1061 885 1368 1015">基礎工事 □有 ■無</td> <td data-bbox="1368 885 2103 1015">□手作業 □手作業・機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 1015 831 1144"></td> <td data-bbox="831 1015 1061 1144">④本体構造</td> <td data-bbox="1061 1015 1368 1144">本体構造の工事 ■有 □無</td> <td data-bbox="1368 1015 2103 1144">□手作業 ■手作業・機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 1144 831 1273"></td> <td data-bbox="831 1144 1061 1273">⑤本体付属品</td> <td data-bbox="1061 1144 1368 1273">本体付属品の工事 □有 ■無</td> <td data-bbox="1368 1144 2103 1273">□手作業 □手作業・機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 1273 831 1412"></td> <td data-bbox="831 1273 1061 1412">⑥その他 (構造物撤去工等)</td> <td data-bbox="1061 1273 1368 1412">その他の工事 ■有 □無</td> <td data-bbox="1368 1273 2103 1412">□手作業 ■手作業・機械作業の併用</td> </tr> </tbody> </table>			工 程 ご と の 作 業 内 容 及 び 解 体 方 法	工程	作業内容(注1)	分別解体等の方法(注2)		①仮設	仮設工事 ■有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用		②土工	土工事 ■有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用		③基礎	基礎工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用		④本体構造	本体構造の工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用		⑤本体付属品	本体付属品の工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用		⑥その他 (構造物撤去工等)	その他の工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用
工 程 ご と の 作 業 内 容 及 び 解 体 方 法	工程	作業内容(注1)	分別解体等の方法(注2)																													
	①仮設	仮設工事 ■有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用																													
	②土工	土工事 ■有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用																													
	③基礎	基礎工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用																													
	④本体構造	本体構造の工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用																													
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用																													
	⑥その他 (構造物撤去工等)	その他の工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用																													

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項						
		<p>(注1) 作業内容については、当該作業の有無であり、分別解体の有無では無い。</p> <p>(注2) 分別解体等の方法については、該当がない場合は記述していない。</p> <p>②再資源化等をする施設の名称及び所在地等</p> <table border="1" data-bbox="757 320 2107 758"> <thead> <tr> <th data-bbox="757 320 949 408">特定建設資材 廃棄物の種類</th> <th data-bbox="949 320 1256 408">施設の名称 所在地</th> <th data-bbox="1256 320 2107 408">受入条件等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="757 408 949 758">アスファルト殻</td> <td data-bbox="949 408 1256 758"> 日本道路(株) 島根県浜田市後野町723-10 片道運搬距離 L=43.7km (上り起点側、下り起点側) L=44.1km (上り終点側、下り終点側) </td> <td data-bbox="1256 408 2107 758"> (受入時間) 平日 午後9時から午前5時 (受入費用) 平日夜間の受入費用で見込んでいます。 (受入条件) 1. 最大粒径は30cm以下とすること。 2. 受入数量は実測計量値 (その他) </td> </tr> </tbody> </table> <p>③その他</p> <p>上記①②は、積算条件を設定しているものの記載であるが、建設リサイクル法の特定建設資材には、準備工、仮設等(丁張、足場材、型枠材等)において発生する木材等の副次的に発生する資材も該当するので、建設リサイクル法に基づき適正に処理すること。</p> <p>また、これらの資材について、当初契約時点で施工計画が未定の場合については、当初契約時の工事請負契約書記載事項、再生資源利用促進計画書への記載は行わなくてもよいが、施工計画決定後においては、関係書面への記載等適正に処理すること。</p> <p>1-2 受注者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条に基づき、以下の事項を書面に記載し、監督職員に報告することとする。なお、書面は土木工事共通仕様書1-1-1-19条6項及び「建設リサイクルガイドライン(平成14年5月)」に定めた様式1〔再生資源利用計画書(実施書)〕及び様式2〔再生資源利用促進計画書(実施書)〕を兼ねるものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再資源化等が完了した年月日 ・再資源化等をした施設の名称及び所在地 ・再資源化等に要した費用 <p>2. 建設副産物の適正処理について</p>	特定建設資材 廃棄物の種類	施設の名称 所在地	受入条件等	アスファルト殻	日本道路(株) 島根県浜田市後野町723-10 片道運搬距離 L=43.7km (上り起点側、下り起点側) L=44.1km (上り終点側、下り終点側)	(受入時間) 平日 午後9時から午前5時 (受入費用) 平日夜間の受入費用で見込んでいます。 (受入条件) 1. 最大粒径は30cm以下とすること。 2. 受入数量は実測計量値 (その他)
特定建設資材 廃棄物の種類	施設の名称 所在地	受入条件等						
アスファルト殻	日本道路(株) 島根県浜田市後野町723-10 片道運搬距離 L=43.7km (上り起点側、下り起点側) L=44.1km (上り終点側、下り終点側)	(受入時間) 平日 午後9時から午前5時 (受入費用) 平日夜間の受入費用で見込んでいます。 (受入条件) 1. 最大粒径は30cm以下とすること。 2. 受入数量は実測計量値 (その他)						

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項																				
		<p>2-1 建設副産物の搬出</p> <p>本工事より発生する建設副産物(建設リサイクル法に係る特定建設資材以外のもの)は、下記の条件により搬出すること。ただし、工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件により難しい場合は監督職員と協議するものとする。</p> <table border="1" data-bbox="752 320 2107 715"> <thead> <tr> <th data-bbox="752 320 947 408">建設副産物の種類</th> <th data-bbox="947 320 1256 408">施設の名称 所在地</th> <th data-bbox="1256 320 2107 408">受入条件等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="752 408 947 715">建設汚泥</td> <td data-bbox="947 408 1256 715">(有)エル・アイ・エス 島根県鹿足郡津和野町柳村522 片道運搬距離 L=20.1km (上り起点側、下り起点側) L=19.7km (上り終点側、下り終点側)</td> <td data-bbox="1256 408 2107 715">(受入時間) 平日 午前8時30分から午後5時 (受入費用) 平日昼間の受入費用で見込んでいる。 (受入条件) 腐敗等により悪臭発生しないこと。 (その他)</td> </tr> </tbody> </table> <p>2-2 建設発生土の搬出</p> <p>本工事で発生する建設発生土は、下記の搬出場所へ運搬、敷均しすること。なお、現地の状況等により、これにより難しい場合は別途、監督職員の指示によるものとする。</p> <table border="1" data-bbox="752 847 2067 978"> <thead> <tr> <th data-bbox="752 847 1218 890">搬出場所</th> <th data-bbox="1218 847 1487 890">片道平均運搬距離</th> <th data-bbox="1487 847 2067 890">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="752 890 1218 978" rowspan="2">益田市内田町地内</td> <td data-bbox="1218 890 1487 933">5.8 km</td> <td data-bbox="1487 890 2067 933">上り起点側、下り起点側</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1218 933 1487 978">5.4 km</td> <td data-bbox="1487 933 2067 978">上り終点側、下り終点側</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 再生資源活用について</p> <p>3-1 再生資源の利用</p> <p>受注者は下記の資材の使用に際し、再生資源を利用するものとする。ただし、工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。</p> <p>なお、使用に際してはプラント再生舗装技術指針、コンクリート副産物の再利用に関する用途別暫定品質基準(案)等を厳守するものとする。</p> <table border="1" data-bbox="752 1241 2107 1412"> <thead> <tr> <th data-bbox="752 1241 1099 1284">資材名</th> <th data-bbox="1099 1241 1563 1284">規格</th> <th data-bbox="1563 1241 2107 1284">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="752 1284 1099 1412">再生クラッシャーラン</td> <td data-bbox="1099 1284 1563 1412">RC-40</td> <td data-bbox="1563 1284 2107 1412">基礎材 舗装復旧(A)下層路盤、舗装復旧(C)路盤 仮舗装(A)路盤</td> </tr> </tbody> </table>	建設副産物の種類	施設の名称 所在地	受入条件等	建設汚泥	(有)エル・アイ・エス 島根県鹿足郡津和野町柳村522 片道運搬距離 L=20.1km (上り起点側、下り起点側) L=19.7km (上り終点側、下り終点側)	(受入時間) 平日 午前8時30分から午後5時 (受入費用) 平日昼間の受入費用で見込んでいる。 (受入条件) 腐敗等により悪臭発生しないこと。 (その他)	搬出場所	片道平均運搬距離	備考	益田市内田町地内	5.8 km	上り起点側、下り起点側	5.4 km	上り終点側、下り終点側	資材名	規格	備考	再生クラッシャーラン	RC-40	基礎材 舗装復旧(A)下層路盤、舗装復旧(C)路盤 仮舗装(A)路盤
建設副産物の種類	施設の名称 所在地	受入条件等																				
建設汚泥	(有)エル・アイ・エス 島根県鹿足郡津和野町柳村522 片道運搬距離 L=20.1km (上り起点側、下り起点側) L=19.7km (上り終点側、下り終点側)	(受入時間) 平日 午前8時30分から午後5時 (受入費用) 平日昼間の受入費用で見込んでいる。 (受入条件) 腐敗等により悪臭発生しないこと。 (その他)																				
搬出場所	片道平均運搬距離	備考																				
益田市内田町地内	5.8 km	上り起点側、下り起点側																				
	5.4 km	上り終点側、下り終点側																				
資材名	規格	備考																				
再生クラッシャーラン	RC-40	基礎材 舗装復旧(A)下層路盤、舗装復旧(C)路盤 仮舗装(A)路盤																				

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項		
		再生加熱アスファルト混合物	再生As安定処理(30)	舗装復旧(A)上層路盤
			再生粗粒度Asポリマー改質Ⅱ型(20)	切削オーバーレイ(A)基層、舗装復旧(A)基層
			再生密粒度As(13)	仮舗装(B)表層
			再生粗粒度As(20)	仮舗装(A)表層
		<p>3-2 建設発生土の利用 該当無し</p> <p>4. 産業廃棄物の処理にかかる税について 本工事で発生する建設廃棄物のうち、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については、産業廃棄物の処理に係る税(鳥取県産業廃棄物処分場税・島根県産業廃棄物減量税・岡山県産業廃棄物処理税・広島県産業廃棄物埋立税・山口県産業廃棄物税)が課税されるので適正に処理すること。 なお、本工事では(鳥取県産業廃棄物処分場税・島根県産業廃棄物減量税・岡山県産業廃棄物処理税・広島県産業廃棄物埋立税、山口県産業廃棄物税)相当額を見込んでいる。</p> <p>5. 建設資材廃棄物 本工事の舗装切断時に発生する廃棄物の運搬及び処分費は見込んでいないが、必要となる場合は監督職員と協議すること。 なお、協議に際しては、該当する産業廃棄物管理票(マニフェスト)の写しを提出すること。</p>		
施工関係	現道工事関係	路肩及び構造物の施工にあたっては、2車線確保を原則とし、やむを得ず規制を行う場合は中国地方整備局制定「土木工事共通仕様書(案)(令和5年度版)」第1編第1章第1節1-1-1-34条(交通安全管理)の追加-1に示す規定によるものとする。		
	支障物件等	<p>1. 本工事区間に埋設されている占用物件の占有者と十分調整を行いながら施工すること。 なお、試掘が必要となる場合は監督職員と協議すること。</p> <p>2. 工事着手前に、情報BOXの埋設位置を情報BOX管理台帳、及び現地埋設標示板等により把握し、情報BOXに影響の無い施工を行うこと。 なお、情報BOX、或いは収容物件に損傷を与えた場合は監督職員に速やかに報告すると共に、その復旧費及び損害費は原因者の負担とする。</p>		
開削土工	掘削工	<p>1. 開削土工の掘削工の床掘り土質については、土砂(レキ質土、砂、砂質土、粘性土)を見込んでいる。</p> <p>2. 開削土工の作業土工で発生する残土については、全て建設発生土として運搬及び敷均しを見込んでいる。</p>		
電線共同溝工		施工に関しては、「電線共同溝マニュアル(案)(第5回改訂版)(中国地方整備局)」を参考にすること。		
	管路工(管路部)	埋設管路にて施工する曲管SUφ50については、直管を見込んでおり、曲管への加工手間については、監督職員と協議の上、変更契約の対象とする。		

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項																																																					
仮設工	全般事項	下記事項及び積算用参考図は、任意仮設としての積算内容を示したものであり、工事目的物を完成させるための一切の手段については、受注者の責任において定めるものとする。																																																					
	作業土工	1. 仮設工の作業土工の床掘り土質については、土砂(レキ質土、砂、砂質土、粘性土)を見込んでいる。 2. 仮設工の作業土工で発生する残土については、下記の場所に運搬し、敷き均しするよう見込んでいる。																																																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>搬出場所</th> <th>片道平均運搬距離</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">益田市内田町地内</td> <td>5.8 km</td> <td>上り起点側、下り起点側</td> </tr> <tr> <td>5.4 km</td> <td>上り終点側、下り終点側</td> </tr> </tbody> </table>	搬出場所	片道平均運搬距離	備考	益田市内田町地内	5.8 km	上り起点側、下り起点側	5.4 km	上り終点側、下り終点側																																													
搬出場所	片道平均運搬距離	備考																																																					
益田市内田町地内	5.8 km	上り起点側、下り起点側																																																					
	5.4 km	上り終点側、下り終点側																																																					
固結工		1. 薬液注入について、二重管ストレナーナ工法を見込んでいる。 2. 薬液注入の注入材は溶液型無機系を見込んでいる。 3. 薬液注入の注入量については下記のとおり見込んでいる。																																																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>注入量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬液注入 (MS1-1 底版)</td> <td>377L/本</td> <td>下り起点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MS1-1 背面)</td> <td>979L/本</td> <td>下り起点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MS5 底版)</td> <td>377L/本</td> <td>下り終点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MS5 背面)</td> <td>979L/本</td> <td>下り終点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MN1 底版)</td> <td>377L/本</td> <td>上り起点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MN1 背面)</td> <td>948L/本</td> <td>上り起点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MN4 底版)</td> <td>377L/本</td> <td>上り終点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MN4 背面)</td> <td>979L/本</td> <td>上り終点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MS1 底版)</td> <td>377L/本</td> <td>下り起点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MS1 背面)</td> <td>948L/本</td> <td>下り起点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MN1-1 底版)</td> <td>377L/本</td> <td>上り起点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MN1-1 背面)</td> <td>948L/本</td> <td>上り起点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MN5 底版)</td> <td>422L/本</td> <td>上り終点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MN5 背面)</td> <td>948L/本</td> <td>上り終点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MS2 底版)</td> <td>422L/本</td> <td>下り起点側</td> </tr> <tr> <td>薬液注入 (MS2 背面)</td> <td>802L/本</td> <td>下り起点側</td> </tr> </tbody> </table>	名 称	注入量	備考	薬液注入 (MS1-1 底版)	377L/本	下り起点側	薬液注入 (MS1-1 背面)	979L/本	下り起点側	薬液注入 (MS5 底版)	377L/本	下り終点側	薬液注入 (MS5 背面)	979L/本	下り終点側	薬液注入 (MN1 底版)	377L/本	上り起点側	薬液注入 (MN1 背面)	948L/本	上り起点側	薬液注入 (MN4 底版)	377L/本	上り終点側	薬液注入 (MN4 背面)	979L/本	上り終点側	薬液注入 (MS1 底版)	377L/本	下り起点側	薬液注入 (MS1 背面)	948L/本	下り起点側	薬液注入 (MN1-1 底版)	377L/本	上り起点側	薬液注入 (MN1-1 背面)	948L/本	上り起点側	薬液注入 (MN5 底版)	422L/本	上り終点側	薬液注入 (MN5 背面)	948L/本	上り終点側	薬液注入 (MS2 底版)	422L/本	下り起点側	薬液注入 (MS2 背面)	802L/本	下り起点側		
	名 称	注入量	備考																																																				
	薬液注入 (MS1-1 底版)	377L/本	下り起点側																																																				
	薬液注入 (MS1-1 背面)	979L/本	下り起点側																																																				
	薬液注入 (MS5 底版)	377L/本	下り終点側																																																				
	薬液注入 (MS5 背面)	979L/本	下り終点側																																																				
	薬液注入 (MN1 底版)	377L/本	上り起点側																																																				
	薬液注入 (MN1 背面)	948L/本	上り起点側																																																				
	薬液注入 (MN4 底版)	377L/本	上り終点側																																																				
	薬液注入 (MN4 背面)	979L/本	上り終点側																																																				
	薬液注入 (MS1 底版)	377L/本	下り起点側																																																				
	薬液注入 (MS1 背面)	948L/本	下り起点側																																																				
	薬液注入 (MN1-1 底版)	377L/本	上り起点側																																																				
	薬液注入 (MN1-1 背面)	948L/本	上り起点側																																																				
	薬液注入 (MN5 底版)	422L/本	上り終点側																																																				
	薬液注入 (MN5 背面)	948L/本	上り終点側																																																				
薬液注入 (MS2 底版)	422L/本	下り起点側																																																					
薬液注入 (MS2 背面)	802L/本	下り起点側																																																					

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項			
		薬液注入 (MS6 底版)	422L/本	下り終点側	
		薬液注入 (MS6 背面)	802L/本	下り終点側	
		薬液注入 (AS1 底版)	324L/本	下り起点側	
		薬液注入 (AS1 背面)	780L/本	下り起点側	
		薬液注入 (AN1 底版)	324L/本	上り起点側	
		薬液注入 (AN1 背面)	766L/本	上り起点側	
		薬液注入 (AS2、AS3 底版)	363L/本	下り終点側	
		薬液注入 (AS2、AS3 背面)	664L/本	下り終点側	
		薬液注入 (AN2 底版)	363L/本	上り終点側	
		薬液注入 (AN2 背面)	664L/本	上り終点側	
		薬液注入 (TN2 底版)	407L/本	上り起点側	
		薬液注入 (TN2 背面)	820L/本	上り起点側	
		薬液注入 (TS3 底版)	407L/本	下り終点側	
		薬液注入 (TS3 背面)	776L/本	下り終点側	
		薬液注入 (TN5 底版)	407L/本	上り終点側	
		薬液注入 (TN5 背面)	776L/本	上り終点側	
		薬液注入 (TS2 底版)	407L/本	下り起点側	
		薬液注入 (TS2 背面)	703L/本	下り起点側	
			4. 注入設備移設について、各特殊部間毎に1回計上している。		
土留・仮締切工	1. 簡易土留について、1-セット15mの簡易土留(H=3.0m(下り起点側、下り終点側)、H=2.5m(上り起点側)、H=2.0m(上り終点側))を転用して使用するよう見込んでいるが、現地の状況によりこれにより難しい場合は監督職員と協議すること。				
	2. 簡易土留について、建込・引抜を下記のとおり見込んでいます。				
		上り起点側	上り終点側	下り起点側	下り終点側
	簡易土留(H=2.0m)	L= 79 m	L= 163 m	L= 146 m	L= 85 m
簡易土留(H=2.5m)	L= 7 m	—	L= 14 m	L= 15 m	
簡易土留(H=3.0m)	—	—	L= 3 m	L= 4 m	
	3. 簡易土留については、設置期間中の賃料を下記のとおり見込んでいます。				
	名 称	供用日数	転用回数	備考	

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項																																										
		簡易土留(H=3.0m 15m/1セット)	115日	8回	下り起点側																																							
		簡易土留(H=3.0m 15m/1セット)	111日	5回	下り終点側																																							
		簡易土留(H=2.5m 15m/1セット)	107日	5回	上り起点側																																							
		簡易土留(H=2.0m 15m/1セット)	107日	11回	上り終点側																																							
	構造物取壊し工	<p>舗装復旧時の舗装版破砕を下記のとおり見込んでいる。なお、撤去後のアスファルト殻については、運搬・処分を見込んでいる。</p> <p>舗装版破砕(機械施工 t=15cm以下) A= 420 m2 上り起点側</p> <p>舗装版破砕(機械施工 t=15cm以下) A= 392 m2 上り終点側</p> <p>舗装版破砕(機械施工 t=15cm以下) A= 429 m2 下り起点側</p> <p>舗装版破砕(機械施工 t=15cm以下) A= 393 m2 下り終点側</p>																																										
	運搬処理工	<p>薬液注入により発生する建設汚泥として下記のとおり見込んでいる。</p> <p>上り起点側 V= 54 m3</p> <p>上り終点側 V= 49 m3</p> <p>下り起点側 V= 68 m3</p> <p>下り終点側 V= 56 m3</p>																																										
	交通管理工	<p>交通誘導警備員は、下表のとおり見込んでいるが、配置場所、人員等については監督職員と協議すること。</p> <table border="1" data-bbox="752 890 2105 1369"> <thead> <tr> <th data-bbox="752 890 904 932">作業区分</th> <th data-bbox="904 890 1218 932">交通誘導警備員の区分</th> <th data-bbox="1218 890 1406 932">延べ人数</th> <th data-bbox="1406 890 2105 932">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="752 932 904 973">夜間作業</td> <td data-bbox="904 932 1218 973">交通誘導警備員A</td> <td data-bbox="1218 932 1406 973">100 人</td> <td data-bbox="1406 932 2105 1021" rowspan="2">上り起点側</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 973 904 1015">夜間作業</td> <td data-bbox="904 973 1218 1015">交通誘導警備員B</td> <td data-bbox="1218 973 1406 1015">400 人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 1015 904 1056">夜間作業</td> <td data-bbox="904 1015 1218 1056">交通誘導警備員A</td> <td data-bbox="1218 1015 1406 1056">100 人</td> <td data-bbox="1406 1015 2105 1104" rowspan="2">上り終点側</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 1056 904 1098">夜間作業</td> <td data-bbox="904 1056 1218 1098">交通誘導警備員B</td> <td data-bbox="1218 1056 1406 1098">400 人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 1098 904 1139">夜間作業</td> <td data-bbox="904 1098 1218 1139">交通誘導警備員A</td> <td data-bbox="1218 1098 1406 1139">100 人</td> <td data-bbox="1406 1098 2105 1187" rowspan="2">下り起点側</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 1139 904 1181">夜間作業</td> <td data-bbox="904 1139 1218 1181">交通誘導警備員B</td> <td data-bbox="1218 1139 1406 1181">400 人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 1181 904 1222">夜間作業</td> <td data-bbox="904 1181 1218 1222">交通誘導警備員A</td> <td data-bbox="1218 1181 1406 1222">100 人</td> <td data-bbox="1406 1181 2105 1270" rowspan="2">下り終点側</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 1222 904 1264">夜間作業</td> <td data-bbox="904 1222 1218 1264">交通誘導警備員B</td> <td data-bbox="1218 1222 1406 1264">400 人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 1264 904 1305">夜間作業</td> <td data-bbox="904 1264 1218 1305">交通誘導警備員A</td> <td data-bbox="1218 1264 1406 1305">100 人</td> <td data-bbox="1406 1264 2105 1369" rowspan="2">橋梁部</td> </tr> <tr> <td data-bbox="752 1305 904 1347">夜間作業</td> <td data-bbox="904 1305 1218 1347">交通誘導警備員B</td> <td data-bbox="1218 1305 1406 1347">400 人</td> </tr> </tbody> </table>				作業区分	交通誘導警備員の区分	延べ人数	備 考	夜間作業	交通誘導警備員A	100 人	上り起点側	夜間作業	交通誘導警備員B	400 人	夜間作業	交通誘導警備員A	100 人	上り終点側	夜間作業	交通誘導警備員B	400 人	夜間作業	交通誘導警備員A	100 人	下り起点側	夜間作業	交通誘導警備員B	400 人	夜間作業	交通誘導警備員A	100 人	下り終点側	夜間作業	交通誘導警備員B	400 人	夜間作業	交通誘導警備員A	100 人	橋梁部	夜間作業	交通誘導警備員B	400 人
作業区分	交通誘導警備員の区分	延べ人数	備 考																																									
夜間作業	交通誘導警備員A	100 人	上り起点側																																									
夜間作業	交通誘導警備員B	400 人																																										
夜間作業	交通誘導警備員A	100 人	上り終点側																																									
夜間作業	交通誘導警備員B	400 人																																										
夜間作業	交通誘導警備員A	100 人	下り起点側																																									
夜間作業	交通誘導警備員B	400 人																																										
夜間作業	交通誘導警備員A	100 人	下り終点側																																									
夜間作業	交通誘導警備員B	400 人																																										
夜間作業	交通誘導警備員A	100 人	橋梁部																																									
夜間作業	交通誘導警備員B	400 人																																										

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項			
			交通誘導警備員の区分	備 考	
			交通誘導警備員A	交通誘導警備1・2級検定合格者	
			交通誘導警備員B	交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員等	
共通仮設費	運搬費	1. 建設機械輸送は、下記のとおり見込んでいます。 路面切削機・廃材積込装置付 2回（1台×2回(往復)） 橋梁部除く			
		2. 仮設材運搬費は、下記のとおりを片道分見込んでいます。 なお、往路については冬期割増を見込んでいます。			
			片道運搬距離	重量	備考
			L= 1.7 km	W= 11.1 t	上り起点側
			L= 1.3 km	W= 9.6 t	上り終点側
			L= 1.7 km	W= 13.7 t	下り起点側
			L= 1.3 km	W= 13.7 t	下り終点側
		3. 建設機械の運搬については、運転中の落下事故等を防止するため、機械のトラクトレーラー等への固定において諸法規を遵守するとともに、受注者において確認・指導を行うこと。			
	事業損失防止施設費	工事の施工に伴い、騒音、振動、粉塵、地盤沈下等により、環境対策が必要となる場合は監督職員と協議すること。			
	技術管理費	1. 道路施設基本データ作成費用を見込んでいる。 なお、道路施設基本データ作成費は、週休2日の補正対象外とする。			
		2. 道路工事完成図の作成費用を下記のとおり見込んでいる。			
			距離標の計測	完成図の作成	備考
			N= 2 点	L= 0.22 km	上り起点側、下り起点側
			N= 2 点	L= 0.25 km	上り終点側、下り終点側
		3. 「距離標の計測」及び「完成図の作成」についての作業時間帯は昼間で見込んでいる。			
		4. 「距離標の計測」及び「完成図の作成」は市街地(上り終点側、下り終点側)で見込んでいる。			
		5. 「距離標の計測」及び「完成図の作成」は山間部(上り起点側、下り起点側)で見込んでいる。			
		6. 距離標の計測は、作業計画、道路標測定作業、計画整理(座標等入力作業)を見込んでいる。			
		7. 完成図の作成は、「平面図のみ」及び「CADデータを貸与する場合」で見込んでいる。			
		8. 舗装体調査に係わる費用は見込んでいないが、監督職員が必要と認めた場合は設計変更の対象とする。			

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項
	営繕費	<p>快適トイレに要する費用については、当初は計上していない。</p> <p>受注者は、「中国地方整備局 土木工事共通仕様書 令和5年度版」に記載の快適トイレの試行「1. 内容」を満たす快適トイレであることを示す書類を添付し、規格・基数等の詳細について監督職員と協議することとし、精算変更時において、見積書を提出するものとする。「中国地方整備局 土木工事共通仕様書 令和5年度版」に記載の快適トイレの試行「1. 内容」の【快適トイレに求める機能】(1)～(6)及び【付属品として備えるもの】(7)～(11)の費用については、従来品相当を差し引いた後、51,000円/基・月を上限に設計変更の対象とする。</p> <p>なお、設計変更数量の上限は、男女別で各1基ずつ2基/工事(施工箇所)※までとする。</p> <p>また、運搬・設置費は共通仮設費(率)に含むものとし、2基/工事(施工箇所)※より多く設置する場合や積算上限額を超える費用については、現場環境改善費(率)を想定しており、別途計上は行わない。</p> <p>※「施工箇所が点在する工事の積算」適用工事や施工延長が長いなどのトイレを施工箇所に応じて複数設置する必要性が認められる工事については、「工事」を「施工箇所」に読み替え、個々の施工箇所です計上できるものとする。</p>
その他	工事の主たる部分	<p>本工事において、工事請負契約書第6条の「主たる部分」は、電線共同溝工とする。</p>
	ICT活用工事の費用について	<p>1. 受注者が、契約後、施工計画書の提出(施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む)までにICT活用の又は中国LightICT活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、「ICT活用工事(舗装工(修繕工))積算要領」により計上することとする。</p> <p>また、現地状況により、小型ICT建設機械が活用される場合において、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積書を提出するものとする。</p> <p>監督職員の指示に基づき、3次元起工測量を実施するとともに3次元設計データの作成を行った場合は、設計変更の対象とする。この場合、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。なお、見積り書の提出がない場合は、費用は計上しないものとする。</p> <p>2. 施工合理化調査を追加する場合がある。</p>
	ICT活用工事の費用について	<p>1. 受注者が、契約後、施工計画書の提出(施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む)までにICT活用の又は中国LightICT活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、「ICT活用工事(作業土工(床掘))積算要領」により計上することとする。</p> <p>監督職員の指示に基づき、3次元起工測量を実施するとともに3次元設計データの作成を行った場合は、設計変更の対象とする。この場合、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。なお、見積り書の提出がない場合は、</p>

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項																																
		費用は計上しないものとする。 2. 施工合理化調査を追加する場合がある。																																
	中国ICTサポート企業・団体の活用について	本工事は、「中国ICTサポート企業・団体」によるサポート制度が活用できる対象工事である。 ICT活用工事受注者はサポートの必要性の有無を判断して、中国地方整備局HPに公開されている「ICTサポート企業・団体登録名簿」から依頼したいサポートを選定し、サポート内容、回数等の契約条件の調整を行うとともに、契約内容について発注者に報告すること。 なお、サポート費用が発生する場合は監督職員と協議すること。																																
	歩掛見積	「見積参考資料」と同様に配布する「歩掛見積」は、積算内容を示したもので、「見積参考資料」「積算用参考図」と同様に「設計図書」とはならない。 よって、工事目的物を完成させるための一切の手段については、受注者の責任において定めるものとする。																																
	その他	工事着手前に、情報BOXの埋設位置を情報BOX管理台帳、及び現地埋設標示板等により把握し、情報BOXに影響の無い施工を行うこと。尚、情報BOX、或いは収容物件に損傷を与えた場合は監督職員に速やかに報告すると共に、その復旧費及び損害費は原因者の負担とする。																																
応急処理工	応急処理事業工	<p>応急処理工で使用する労務費・材料費・機械費を下記のとおり見込んでいる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>名 称</th> <th>規 格</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">労務費(夜間)</td> <td>土木一般世話役</td> <td></td> <td>7 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特殊作業員</td> <td></td> <td>7 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通作業員</td> <td></td> <td>7 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>材料費</td> <td>ハンドホール鉄蓋</td> <td>960×500</td> <td>14 個</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">機械費</td> <td>バックホウ</td> <td>山積0.28m3(平積0.2m3)</td> <td>56 時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ダンプトラック</td> <td>2t</td> <td>56 時間</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		名 称	規 格	数 量	備 考	労務費(夜間)	土木一般世話役		7 人		特殊作業員		7 人		普通作業員		7 人		材料費	ハンドホール鉄蓋	960×500	14 個		機械費	バックホウ	山積0.28m3(平積0.2m3)	56 時間		ダンプトラック	2t	56 時間	
	名 称	規 格	数 量	備 考																														
労務費(夜間)	土木一般世話役		7 人																															
	特殊作業員		7 人																															
	普通作業員		7 人																															
材料費	ハンドホール鉄蓋	960×500	14 個																															
機械費	バックホウ	山積0.28m3(平積0.2m3)	56 時間																															
	ダンプトラック	2t	56 時間																															
	安全費	<p>交通誘導警備員については、下記のとおり見込んでいる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業区分</th> <th>名 称</th> <th>延べ人数</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">夜間作業</td> <td>交通誘導警備員A</td> <td>14 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交通誘導警備員B</td> <td>14 人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	作業区分	名 称	延べ人数		夜間作業	交通誘導警備員A	14 人		交通誘導警備員B	14 人																						
作業区分	名 称	延べ人数																																
夜間作業	交通誘導警備員A	14 人																																
	交通誘導警備員B	14 人																																
	施工地域・工事場所	本工事の施工地域・工事場所区分は、「市街地(DID補正)(1)－1」で見込んでいる。																																

工 種	種 別	現 場 説 明 書 追 加 事 項
	(応急作業工)	なお、現場環境改善費における施工地域は、市街地とする。
		「以下余白」

項目	適用
<p>交差点 照明施設 詳細設計</p> <p>電線共同溝 詳細設計</p> <p>旅費交通費</p>	<p style="text-align: center;">調査業務・詳細設計業務</p> <p>1. 交差点照明施設詳細設計については、下記を適用する。 ・電気通信施設設計業務共通仕様書(令和5年3月 国土交通省 大臣官房) ・電気通信施設設計業務積算基準(令和3年2月 国土交通省)</p> <p>1. 電線共同溝詳細設計（橋梁除く）における各部設計は下記のとおり見込んでいる。 ・各部設計 管路部：4ケース ・各部設計 特殊部：4ケース ・各部設計 地上機器部：4ケース ・各部設計 仮設構造物：4ケース ・箇所数：1 なお、現場条件等により数量を変える必要がある場合は、協議のうえ発注者が必要と認めた場合は、変更の対象とする。</p> <p>2. 電線共同溝詳細設計（橋梁除く）における各部設計は下記のとおり見込んでいる。 ・各部設計 管路部：2ケース ・箇所数：1 ・特殊設計：3形式 なお、現場条件等により数量を変える必要がある場合は、協議のうえ発注者が必要と認めた場合は、変更の対象とする。</p> <p>1. 本業務の旅費交通費は率を用いた積算としている。 なお、契約変更によって直接人件費の増減があった場合、または業務内容の変更が生じた場合は、率の変更または率を用いない積算に変更する可能性がある。</p>
<p>業務期間</p>	<p style="text-align: center;">調整マネジメント業務（設計段階）</p> <p>1. 業務期間として24ヶ月を見込んでいるが、これによりがたい場合、協議のうえ、発注者が必要と認めた場合は、変更の対象とする。</p>
<p>業務期間</p>	<p style="text-align: center;">調整マネジメント業務（工事段階）</p> <p>1. 業務期間として60ヶ月を見込んでいるが、これによりがたい場合、協議のうえ、発注者が必要と認めた場合は、変更の対象とする。</p>
<p>事前調査</p> <p>旅費交通費</p>	<p style="text-align: center;">調査業務（事前家屋調査）</p> <p>1. 現場条件等により数量を変える必要がある場合は、協議のうえ発注者が必要と認めた場合は、変更の対象とする。</p> <p>1. 本業務の旅費交通費は率を用いた積算としている。 なお、契約変更によって直接人件費の増減があった場合、または業務内容の変更が生じた場合は、率の変更または率を用いない積算に変更する可能性がある。</p>
<p>事前調査</p> <p>旅費交通費</p>	<p style="text-align: center;">調査業務（事後家屋調査）</p> <p>1. 現場条件等により数量を変える必要がある場合は、協議のうえ発注者が必要と認めた場合は、変更の対象とする。</p> <p>1. 本業務の旅費交通費は率を用いた積算としている。 なお、契約変更によって直接人件費の増減があった場合、または業務内容の変更が生じた場合は、率の変更または率を用いない積算に変更する可能性がある。</p>

<p>業務用事務室 損料等</p> <p>旅費交通費</p>	<p>1. 受注者は、業務用事務室を対象工事現場の近傍に確保するものとする。 なお、業務用事務室損料等は契約変更において計上するものである。</p> <p>1. 本業務の旅費交通費は率を用いた積算としている。 なお、契約変更によって直接人件費の増減があった場合、または業務内容の変更が生じた場合は、率を用いない積算に変更する場合がある。</p>
<p>共通</p> <p>安全費</p> <p>旅費交通費</p>	<p>点検業務・台帳作成・管理業務・調整マネジメント業務（維持管理段階）</p> <p>1. 現場条件等により数量を変える必要がある場合は、協議のうえ発注者が必要と認めた場合は、変更の対象とする。</p> <p>1. 点検作業等に係る交通誘導員等の安全費は当初見込んでいないが、現地状況等により必要となった場合は、発注者と協議の上、必要と認めた場合は変更契約の対象とする。</p> <p>1. 本業務の旅費交通費は率を用いた積算としている。 なお、契約変更によって直接人件費の増減があった場合、または業務内容の変更が生じた場合は、率の変更または率を用いない積算に変更する場合がある。</p>

数量総括表

業務名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 調査業務・詳細設計業務

浜田河川国道事務所 道路管理課

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝 P F I 事業 調査業務・詳細設計業務				業種 項目	設計業務 道路設計
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
道路設計		式		1		
交差点照明施設設計		式		1		
交差点照明施設詳細設計		式		1		
交差点照明施設詳細設計		箇所		3		
地下構造物設計		式		1		
電線共同溝設計		式		1		
電線共同溝詳細設計		式		1		
電線共同溝詳細設計		(箇所)式		(1)1		設計計画, 現地踏査, 設計条件の整理・検討, 平面・縦断線形設計, 数量計算, 管路部設計, 特殊部設計, 地上機器部設計, 施工計画, 関係機関との協議用資料作成, 照査, 報告書作成, 各部・仮設構造物詳細設計
電線共同溝詳細設計	橋梁添架	(箇所)式		(1)1		設計計画, 現地踏査, 設計条件の整理・検討, 平面・縦断線形設計, 数量計算, 管路部設計, 施工計画, 関係機関との協議用資料作成, 照査, 報告書作成, 各部・仮設構造物詳細設計

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝 P F I 事業 調査業務・詳細設計業務				業種 項目	設計業務 共通
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
共通		式		1		
共通 (設計業務)		式		1		
打合せ等		式		1		
打合せ		式		1		
公開成果品作成		式		1		
公開成果品作成		業務		1		
直接経費		式		1		
直接経費		式		1		
旅費交通費		式		1		
旅費 (率計上・宿泊無)		式		1		
電子成果品作成費		式		1		

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 調査業務・詳細設計業務				業種 項目	設計業務 直接経費
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
電子成果品作成費		式		1		
直接原価（その他原価除く）		式		1		
その他原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
業務価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
業務委託料		式		1		

数量総括表

業務名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 事前家屋調査

浜田河川国道事務所 道路管理課

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝 P F I 事業 事前家屋調査				業種項目	用地調査業務業務原価
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
業務原価		式		1		
直接人件費		式		1		
用地調査等打合せ協議		式		1		
打合せ協議	業務着手時	業務		1		
打合せ協議	中間打合せ	回		1		
打合せ協議	成果物納入時	業務		1		
地盤変動調査		式		1		
事前調査	木造建物A (70㎡以上130㎡未満)	棟		4		
事前調査	非木造建物イ (200㎡以上400㎡未満)	棟		16		
直接経費		式		1		
材料費等		式		1		

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 事前家屋調査				業種 項目	用地調査業務 業務原価
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
材料費等		式		1		
旅費交通費		式		1		
旅費交通費		式		1		
直接原価（その他原価除く）		式		1		
その他原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
業務価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
業務委託料		式		1		

数量総括表

業務名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 事後家屋調査

浜田河川国道事務所 道路管理課

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝 P F I 事業 事後家屋調査				業種項目	用地調査業務業務原価
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
業務原価		式		1		
直接人件費		式		1		
用地調査等打合せ協議		式		1		
打合せ協議	業務着手時	業務		1		
打合せ協議	中間打合せ	回		1		
打合せ協議	成果物納入時	業務		1		
地盤変動調査		式		1		
事後調査	木造建物A (70㎡以上130㎡未満)	棟		4		
事後調査	非木造建物イ (200㎡以上400㎡未満)	棟		16		
直接経費		式		1		
材料費等		式		1		

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 事後家屋調査					業種 項目	用地調査業務 業務原価
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要	
材料費等		式		1			
旅費交通費		式		1			
旅費交通費		式		1			
直接原価（その他原価除く）		式		1			
その他原価		式		1			
一般管理費等		式		1			
業務価格		式		1			
消費税相当額		式		1			
業務委託料		式		1			

数量総括表

業務名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 設計マネジメント

浜田河川国道事務所 道路管理課

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 設計マネジメント				業種 項目	設計業務 調査・設計業務
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
調査・設計業務		式		1		
調整マネジメント		式		1		
設計マネジメント		式		1		
設計マネジメント		月		24		
直接原価（その他原価除く）		式		1		
その他原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
業務価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
業務委託料		式		1		

数量総括表

業務名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 工事マネジメント

浜田河川国道事務所 道路管理課

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 工事マネジメント				業種 項目	設計業務 工事業務
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
工事業務		式		1		
調整マネジメント		式		1		
工事マネジメント		式		1		
工事マネジメント		月		60		
直接原価（その他原価除く）		式		1		
その他原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
業務価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
業務委託料		式		1		

数量総括表

業務名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 工事監督業務

浜田河川国道事務所 道路管理課

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 工事監督業務				業種 項目	発注者支援業務等 工事監督支援業務
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
工事監督支援業務		式		1		
工事監督支援業務		式		1		
業務計画		式		1		
業務計画		業務		1		
工事管理		式		1		
工事管理		工事		1		
工事監督支援		式		1		
工事監督支援		月		60		
打合せ		式		1		
打合せ協議		式		1		
定例打合せ		式		1		

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 工事監督業務				業種 項目	発注者支援業務等 直接経費
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
直接経費		式		1		
旅費交通費		式		1		
旅費交通費		式		1		
旅費交通費		式		1		
直接原価（その他原価除く）		式		1		
その他原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
業務価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
業務委託料		式		1		

数量総括表

業務名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 点検業務・台帳作成・管理業務・調整マネジメント業務（維持管理段階）

浜田河川国道事務所 道路管理課

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 点検業務・台帳作成・管理業務・調整マネジメント業務（維持管理段階）				業種項目	設計業務 道路施設点検
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
道路施設点検		式		1		
電線共同溝点検		式		1		
計画準備		式		1		
計画準備		(km)式		(1.32)1		
定期点検		式		1		
鉄蓋に関する点検		箇所		140		
定期点検		式		1		
特殊部に関する点検		箇所		140		
信頼性の評価		式		1		
信頼性の評価		箇所		140		
点検調書の作成		式		1		

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 点検業務・台帳作成・管理業務・調整マネジメント業務（維持管理段階）				業種 項目	設計業務 道路施設点検
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
点検調書の作成		箇所		140		
報告書作成		式		1		
報告書作成		式		1		
台帳作成・管理		式		1		
台帳作成・管理		式		1		
台帳作成・管理		(km)式		(1.32)1		
維持管理マネジメント		式		1		
調整マネジメント		式		1		
維持管理マネジメント		月		264		
共通		式		1		
共通（設計業務）		式		1		

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 点検業務・台帳作成・管理業務・調整マネジメント業務（維持管理段階）				業種項目	設計業務共通
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
打合せ等		式		1		
打合せ		式		1		
公開成果品作成		式		1		
公開成果品作成		業務		1		
直接経費		式		1		
直接経費		式		1		
旅費交通費		式		1		
旅費（率計上・宿泊無）		式		1		
電子成果品作成費		式		1		
電子成果品作成費		式		1		
直接原価（その他原価除く）		式		1		

数量総括表

業務名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 点検業務・台帳作成・管理業務・調整マネジメント業務（維持管理段階）				業種 項目	設計業務 その他原価
項目・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
その他原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
業務価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
業務委託料		式		1		

工 事 数 量 総 括 表

工 事 名 乙吉電線共同溝PFI事業 試掘工事（調査・設計）

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

工事数量総括表

工事名	乙吉電線共同溝PFI事業 試掘工事（調査・設計）						（ 当 初 ）
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要	
道路維持		式		1			
仮設工		式		1			
試掘工	歩道試掘	式		1			
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下	式		1			
舗装版破碎	アスファルト舗装版	式		1			
殻運搬	舗装版破碎	式		1			
殻処分	アスファルト殻	式		1			
床掘り	土砂	式		1			
積込(ル=ス)	土砂 小規模(標準)	式		1			
土砂等運搬	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	式		1			
整地	残土受け入れ地での処理	式		1			

工事数量総括表

工事名	乙吉電線共同溝PFI事業 試掘工事（調査・設計）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
埋戻し	土砂 土砂	式		1		
下層路盤(歩道部)	クラッシュラン C-30 仕上り厚 100mm	m2		20		
表層(歩道部)	各種(2.20以上2.30t/m3未満) 再生密粒度AC13(夜間) 舗装厚 40mm 1.4m未満(1層当り平均仕上)	m2		20		
交通管理工		式		1		
交通誘導警備員		式		1		
交通誘導警備員		式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		
共通仮設費(率計上)		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		

工事数量総括表

工事名	乙吉電線共同溝PFI事業 試掘工事（調査・設計）						（当 初）
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要	
工事原価		式		1			
一般管理費等		式		1			
工事価格		式		1			
消費税相当額		式		1			
工事費計		式		1			

工 事 数 量 総 括 表

工 事 名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 補修業務

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 補修業務 (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
道路維持		式		1		
応急処理工		式		1		
応急処理作業工		式		1		
労務費	(夜間)	人		28		
材料費		式		1		
機械費		式		1		
仮設工		式		1		
交通管理工		式		1		
交通誘導警備員		式		1		
交通誘導警備員		式		1		
直接工事費		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 補修業務 (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
共通仮設費		式		1		
共通仮設費		式		1		
現場環境改善費(率計上)		式		1		
共通仮設費(率計上)		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		
工事原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
工事価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
工事費計		式		1		

国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 見積参考資料【設計及び調査】

当資料は、見積の参考資料であり、設計図書とはならない。

項目	適用
適用単価	<p style="text-align: center;">【共通】</p> <p>1. 労務単価については令和5年度単価を採用している。</p>
交差点照明施設 詳細設計	<p style="text-align: center;">【調査業務・詳細設計業務】</p> <p>1. 交差点照明施設詳細設計における条件は、下記のとおり見込んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> ・一般柱：2箇所 ・個別製作柱：1箇所 </p> <p>2. 交差点照明施設詳細設計の歩掛は「電気通信施設設計業務積算基準」を適用している。</p>
電線共同溝 詳細設計	<p>1. 電線共同溝詳細設計（橋梁除く）における条件は下記のとおり見込んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> ・延べ延長：1, 103m ・市街地以外の延長：560m ・予備設計：あり ・各部設計 管路部：4 ・各部設計 特殊部：4 ・各部設計 地上機器部：4 ・各部設計 仮設構造物：4 ・箇所数：1 </p> <p>2. 電線共同溝詳細設計（橋梁添架部）における条件は下記のとおり見込んでい <ul style="list-style-type: none"> ・延べ延長：217m ・市街地以外の延長：109m ・予備設計：なし ・各部設計 管路部：2 ・箇所数：1 ・特殊設計：3形式 <p>なお、特殊設計は、管路の橋梁添架についての設計を想定している。 また、本種別は歩掛見積の対象とする。</p> </p>
打合せ	<p>1. 打合せにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> ・1回あたりに要する時間（移動時間を含む）0.5日・人 ・編成人数：3人 ・打ち合わせ回数：2回 </p>
旅費交通費	<p>1. 本業務において打合せ、関係機関協議、現地作業（現地踏査含む）にかかる旅費交通費は率を用いた積算（宿泊、滞在を伴わない業務（区分：土木設計業務）の場合）とする。 <p>なお、契約変更によって直接人件費の増減があった場合は変更後の直接人件費に対し率を乗じた額により計上し、業務内容の変更によって率を用いない積算に変更する場合がある。</p> </p>
電子成果品 作成費	<p>1. 電子成果品作成費は、「概略設計、予備設計又は詳細設計」を見込んでいる。</p>

国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 見積参考資料【設計及び調査】

当資料は、見積の参考資料であり、設計図書とはならない。

項目	適用
	【調査業務（事前家屋調査）】
事前調査	1. 事前調査の区分は下記のとおり見込んでいる。 木造建物A（70㎡以上130㎡未満） 4棟 非木造建物イ（200㎡以上400㎡未満） 16棟
打合せ	1. 打合せにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。 ・1回あたりに要する時間（移動時間を含む）0.5日・人 ・編成人数：3人 ・打ち合わせ回数（業務着手時）：1回 ・打ち合わせ回数（成果品納入時）：1回
適用歩掛	1. 事前調査に係る歩掛については「用地調査等業務費積算基準（R4.3）」を適用している。
	【調査業務（事後家屋調査）】
事後調査	1. 事後調査の区分は下記のとおり見込んでいる。 木造建物A（70㎡以上130㎡未満） 4棟 非木造建物イ（200㎡以上400㎡未満） 16棟
打合せ	1. 打合せにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。 ・1回あたりに要する時間（移動時間を含む）0.5日・人 ・編成人数：3人 ・打ち合わせ回数（業務着手時）：1回 ・打ち合わせ回数（成果品納入時）：1回
適用歩掛	1. 事前調査に係る歩掛については「用地調査等業務費積算基準（R4.3）」を適用している。
	【調整マネジメント業務（設計段階）】
設計 マネジメント	1. 設計マネジメントにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。 ・1月当たり日数：19.5日/月 ・編成人数：技師（A）0.5人・技術員0.5人
	【調整マネジメント業務（工事段階）】
工事 マネジメント	1. 工事マネジメントにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。 ・1月当たり日数：19.5日/月 ・編成人数：技師（A）0.5人
	【工事監理業務】
工事 監督支援業務	1. 工事監督支援業務における条件は、下記のとおり見込んでいる。 ・管理技術者の職階は、技師（A）を見込んでいる。 ・担当技術者は技師（C）を見込んでいる。 ・担当技術者の延べ数量は、1,170人工 ・担当技術者の超過業務は、1人当たり1月30時間を見込んでいる。
打合せ	2. 打合せにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。 ・打合せの場所は益田国道維持出張所を予定している。 ・業務全体計画等に関する打合せ（業務着手時1回、業務完了時1回）の場所は益田国道維持出張所を予定し、定例打合せと兼ねる予定である。

国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 見積参考資料【設計及び調査】

当資料は、見積の参考資料であり、設計図書とはならない。

項目	適用
旅費交通費、業務用自動車損料、燃料費及び運転手賃金等	<ol style="list-style-type: none"> 本業務において打合せ、現地確認、段階確認、工場検査等への臨場にかかる旅費交通費は率を用いた積算とする。 なお、契約変更によって直接人件費の増減があった場合の旅費交通費においては変更後の直接人件費に対し率を乗じた額により計上し、業務内容の変更によって率を用いない積算に変更する場合がある。 本業務の当初契約では、旅費交通費以外の直接経費（積み上げ計上分）に該当する項目はない。 変更契約において計上する業務用事務室損料等は以下を標準とする。なお、地域特性等により標準によりがたい場合は、調査職員と協議をすること。 ①業務用事務室賃料（建物面積25m²/箇所）：1箇所
点検箇所数	<p>【点検業務・台帳作成・管理業務・調整マネジメント業務（維持管理段階）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 点検の箇所数は下記の条件を想定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・特殊部 35箇所 ・点検期間（頻度） 22年間（5年/回） ・点検回数 4回 ・延べ点検箇所数 140箇所
計画準備	<ol style="list-style-type: none"> 計画準備の対象延長は1.32km見込んでいる。
台帳作成・管理	<ol style="list-style-type: none"> 台帳作成・管理の対象延長は1.32km見込んでいる。
見積歩掛	<ol style="list-style-type: none"> 本業務における下記細別の歩掛については歩掛見積とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・計画準備 ・鉄蓋に関する点検 ・特殊部に関する点検 ・信頼性の評価 ・点検調書の作成 ・報告書作成 ・台帳作成・管理
打合せ	<ol style="list-style-type: none"> 打合せにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> ・1回あたりに要する時間（移動時間を含む）0.5日・人 ・編成人数：3人 ・打ち合わせ回数：7回
維持管理 マネジメント	<ol style="list-style-type: none"> 維持管理マネジメントにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> ・1月当たり日数：19.5日/月 ・編成人数：技師（A）0.5人
調査	<p>【調査業務（試掘調査）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 試掘調査における条件は、下記のとおり 別紙：見積参考資料 乙吉電線共同溝PFI事業 調査業務（試掘調査） 試掘調査における施工時間帯は、夜間施工（20:00～6:00）【休憩1時間を見込んでいる。

国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 見積参考資料【設計及び調査】

当資料は、見積の参考資料であり、設計図書とはならない。

項目	適用
調査	【調査業務（補修業務）】 1. 補修業務における条件は、下記のとおり 別紙：見積参考資料 乙吉電線共同溝PFI事業 調査業務（補修業務）

見 積 参 考 資 料

工 事 名 乙吉電線共同溝PFI事業 試掘工事（調査・設計）

この「見積参考資料」は入札参加者の適切かつ迅速な見積に資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。従って「見積参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を充分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。

なお、この「見積参考資料」の有効期間は、この工事の入札日までとする。

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

見積参考資料（積算条件）

工事名	乙吉電線共同溝PFI事業 試掘工事（調査・設計）（当初）		主たる工種	道路維持工事
間接費名称	積算条件			
	補正項目	条件		
共通仮設費（率計上）	施工地域補正 除雪工事補正	市街地（DIDD補正）（1）-1 補正無		
現場管理費	施工地域補正 施工時期補正 熱中症補正 緊急工事補正 砂防・地滑り補正	市街地（DIDD補正）（1）-1 補正しない 補正しない 補正しない 補正しない		
一般管理費等	財団法人等による補正 前払金割合による補正 契約保証に係る補正	補正しない 35%を超えるもの・補正しない 発注者が金銭的保証を必要とする場合		
その他	ICT施工補正 週休2日の補正	補正しない 補正しない		

見積参考資料

工事名	乙吉電線共同溝PFI事業 試掘工事 (調査・設計) (当初)					工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
道路維持		式		1					
仮設工		式		1					
試掘工	歩道試掘	式		1					
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下	m		80		< 1 m当り > 舗装版切断	m	1	
舗装版破碎	アスファルト舗装版	m2		20		< 1 m2当り > 舗装版破碎	m2	1	
殻運搬	舗装版破碎	m3		1		殻運搬	m3	1	
殻処分	アスファルト殻	m3		1		処分費 (m3)	m3	1	
床掘り	土砂	m3		19		< 1 m3当り > 床掘り	m3	1	
積込(ルーズ)	土砂 小規模(標準)	m3		2		< 1 m3当り > 積込 (ルーズ)	m3	1	
土砂等運搬	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	m3		2		< 1 m3当り > 土砂等運搬	m3	1	

見積参考資料

工事名	乙吉電線共同溝 P F I 事業 試掘工事 (調査・設計) (当初)					工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
整地	残土受入れ地での処理	m3		2		< 1 m3当り > 整地	m 3	1	
埋戻し	土砂 土砂	m3		17		< 1 m3当り > 埋戻し	m 3	1	
下層路盤(歩道部)	クラックラン C-30 仕上り厚 100mm	m2		20		< 1 m2当り > 下層路盤 (歩道部)	m 2	1	
表層(歩道部)	各種(2.20以上2.30t/m3未満)再生密粒度AC13(夜間) 舗装厚 40mm 1.4m未満(1層当り平均仕上)	m2		20		< 1 m2当り > 表層 (歩道部)	m 2	1	
交通管理工		式		1					
交通誘導警備員		人日		10		< 1 人日当り > 交通誘導警備員 A	人日	1	
交通誘導警備員		人日		10		< 1 人日当り > 交通誘導警備員 B	人日	1	
直接工事費		式		1					
共通仮設費		式		1					

見積参考資料

工事名	乙吉電線共同溝 P F I 事業 試掘工事 (調査・設計) (当初)					工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
共通仮設費 (率計上)		式		1		施工地域補正=市街地 (D I D補正) (1) - 1 ; 除雪工補正=補正無; ICT施工補正=しない; 週休2 日の補正=しない			
純工事費		式		1					
現場管理費		式		1		施工地域補正=市街地 (D I D補正) (1) - 1 ; 緊急工事補正=しない; 砂防・地滑り工事補正=しな い; ICT施工補正=しない; 週休2日の補正=しない			
工事原価		式		1					
一般管理費等		式		1					
工事価格		式		1					
消費税相当額		式		1					
工事費計		式		1		建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかか る経費として、労務費のほか各種経費 (法定福利費の 事業者負担額、労務管理費、安全訓練等に要する費用 等) が必要であり、本積算ではこれらを現場管理費等 の一部として率計上している。			

見積参考資料（管理費区分一覧表）

凡 例	管理費区分1 共通仮設費のみ非対象	管理費区分2 工場管理費・一般管理費の対象	管理費区分5 一般管理費等対象	管理費区分7 間接労務費対象	労務費				
	管理費区分9 率計算の非対象	管理費区分T 処分費等の対象にする							
○：該当する管理費区分が含まれている									
工事名	乙吉電線共同溝PFI事業 試掘工事（調査・設計）（当初）				事業区分	道路維持・修繕			
					工事区分	道路維持			
	細別名称	規格	単位	数量	管理費区分 1 管理費区分 T	管理費区分 2	管理費区分 5	管理費区分 7	管理費区分 9
処分	処分	アスファルト	m3	1	○				

見 積 参 考 資 料

工 事 名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 補修業務

この「見積参考資料」は入札参加者の適切かつ迅速な見積に資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。従って「見積参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を充分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。

なお、この「見積参考資料」の有効期間は、この工事の入札日までとする。

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

見積参考資料（積算条件）

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 補修業務 (当初)		主たる工種	道路維持工事
間接費名称	積算条件			
	補正項目	条件		
共通仮設費（率計上）	施工地域補正 除雪工事補正	市街地（DID補正）（1）－1 補正無		
現場環境改善費（率計上）	市街地補正	市街地		
現場管理費	施工地域補正 施工時期補正 熱中症補正 緊急工事補正 砂防・地滑り補正	市街地（DID補正）（1）－1 補正しない 補正しない 補正しない 補正しない		
一般管理費等	財団法人等による補正 前払金割合による補正 契約保証に係る補正	補正しない 35%を超えるもの・補正しない 発注者が金銭的保証を必要とする場合		
その他	ICT施工補正 週休2日の補正	補正しない 4週8休以上		

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 補修業務 (当初)					工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
道路維持		式		1					
応急処理工		式		1					
応急処理作業工		式		1					
労務費	(夜間)	人		28		土木一般世話役 特殊作業員 普通作業員	人 人 人	7 7 14	
材料費		式		1		蓋(材料費)	組	14	
機械費		式		1		バックホウ(クローラ) [標準・クレーン機能付き] 排ガス型(第1次) 山積0.28m3 1.7t 吊 ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2t積 級 ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] タイヤ	時間 時間 時間	56 56 56	
仮設工		式		1					
交通管理工		式		1					
交通誘導警備員		人日		14		< 1 人日当り > 交通誘導警備員A	人日	1	

見積参考資料

工事名		国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 補修業務 (当初)				工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
交通誘導警備員		人日		14		< 1 人日当り > 交通誘導警備員B	人日	1	
直接工事費		式		1					
共通仮設費		式		1					
共通仮設費		式		1					
現場環境改善費(率計上)		式		1		市街地補正=市街地			
共通仮設費(率計上)		式		1		施工地域補正=市街地(DID補正)(1)-1; 除雪工補正=補正無; ICT施工補正=しない; 週休2 日の補正=4週8休以上			
純工事費		式		1					
現場管理費		式		1		施工地域補正=市街地(DID補正)(1)-1; 緊急工事補正=しない; 砂防・地滑り工事補正=しな い; ICT施工補正=しない; 週休2日の補正=4週8 休以上			
工事原価		式		1					
一般管理費等		式		1					

見積参考資料

工事名		国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 補修業務 (当初)				工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
工事価格		式		1					
消費税相当額		式		1					
工事費計		式		1		建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額、労務管理費、安全訓練等に要する費用等）が必要であり、本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。			

見積参考資料（管理費区分一覧表）＜データ無し＞

凡 例	○：該当する管理費区分が含まれている									
	工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業 補修業務 (当 初)				事業区分				
	細別名称	規格	単位	数量		工事区分				

工事特記仕様書

工事特記仕様書

国道9号乙吉電線共同溝PFI事業

第1条 本工事の施工に当っては、国土交通省制定「土木工事共通仕様書(案)(令和5年3月)」並びに中国地方整備局制定「土木工事共通仕様書(令和5年度版)」に基づき実施しなければならない。

第2条 土木工事共通仕様書に対する特記及び追加仕様事項は、下記のとおりとする。

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項
1	1	1	1-1-1-2	用語の定義 (ICT活用工事における適用 について)	13	1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ(以下「3次元データ」という)等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。
1	1	1	1-1-1-4	施工計画書	追加	本工事の施工に当たり、設計図書の読み間違いや測量の間違いを防止するための体制を施工計画書に記載するものとし、施工計画に従い履行するものとする。
1	1	1	1-1-1-5	コリンズ(CORINS)への登録 (コリンズへの位置情報の入力)	追加	土木工事共通仕様書(令和5年3月版)1-1-1-5 コリンズ(CORINS)への登録に定める「登録のための確認のお願い」を作成するにあたり、位置情報については以下のとおりとし、工事場所および座標(緯度、経度)を記載するものとする。なお、座標は、世界測地系(JGD2011)に準拠する。 起点 島根県益田市乙吉町 緯度 34° 41' 09" 経度131° 50' 34" 終点 島根県益田市中吉田町 緯度 34° 40' 57" 経度131° 50' 10"
1	1	1	1-1-1-5	コリンズ(CORINS)への登録	追加	技術者の従事期間は、工期をもって登録するものとする。(工事以外を含まないことに留意するものとする。)
1	1	1	1-1-1-11	受発注者間の情報共有	追加	受発注者間の設計思想の伝達及び情報共有を図るため、設計者、受注者、発注者が一堂に会する会議を施工者が設計図書の照査を実施した後及びその他必要に応じて開催するものとする。なお、開催の詳細については別途通知する。
1	1	1	1-1-1-19	建設副産物 (受領書の交付)	9 追加	受注者は、土砂を再生資源利用計画に記載した搬入元から搬入したときは、法令等に基づき、速やかに受領書を搬入元に交付しなければならない。(様式-1~2)
1	1	1	1-1-1-19	建設副産物	10	受注者は、再生資源利用促進計画の作成に当たり、建設発生土を工事現場から搬出する

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項																	
				(再生資源利用促進計画を作成する上での確認事項等)	追加	場合は、工事現場内の土地の掘削その他の形質の変更に関して発注者等が行った土壌汚染対策法等の手続き状況や、搬出先が盛土規制法の許可地等であるなど適正であることについて、法令等に基づき確認しなければならない。(様式-3~4) また、確認結果は再生資源利用促進計画に添付するとともに、公衆の見やすい場所に掲げなければならない。																	
1	1	1	1-1-1-19	建設副産物 (建設発生土の運搬を行う者に対する通知)	11 追加	受注者は、建設現場等から土砂搬出を他の者に委託しようとするときは、再生資源利用促進計画に記載した事項(搬出先の名称及び所在地、搬出量)と前項の確認結果を、委託した搬出者に対して、法令等に基づいて通知しなければならない。(様式-3~4)																	
1	1	1	1-1-1-19	建設副産物 (建設発生土の搬出先に対する受領書の交付請求等)	12 追加	受注者は、建設発生土を再生資源利用促進計画に記載した搬出先へ搬出したときは、法令等に基づき、速やかに搬出先の管理者に受領書の交付を求め、受領書に記載された事項が再生資源利用促進計画に記載した内容と一致することを確認するとともに、監督職員から請求があった場合は、受領書の写しを提出しなければならない。(様式-1~2)																	
1	1	1	1-1-1-19	建設副産物	追加	受注者は、工事の施工に伴い発生した廃プラスチックを再生処理施設または中間処理施設へ搬出するものとする。																	
1	1	1	1-1-1-32	環境対策 (特定調達品目)	9 追加	グリーン購入法に基づく特定調達品目について、使用箇所等が決定している品目は下記のとおりとする。 <table border="1" data-bbox="1093 890 2063 1412"> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th colspan="2">品目名</th> <th rowspan="2">使用箇所</th> </tr> <tr> <th>(品目分類)</th> <th>(品目名)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">資材</td> <td>アスファルト混合物</td> <td>再生加熱アスファルト混合物</td> <td>切削オーバーレイ(A)(基層) 舗装復旧(A)(上層路盤、基層) 仮舗装(A)(表層) 仮舗装(B)(表層)</td> </tr> <tr> <td>路盤材</td> <td>再生骨材等</td> <td>舗装復旧(A)(下層路盤) 舗装復旧(C)(路盤) 仮舗装(A)(路盤) 構造物基礎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>混合セメント</td> <td>高炉セメント</td> <td>鉄筋構造物 モルタル</td> </tr> </tbody> </table>	分類	品目名		使用箇所	(品目分類)	(品目名)	資材	アスファルト混合物	再生加熱アスファルト混合物	切削オーバーレイ(A)(基層) 舗装復旧(A)(上層路盤、基層) 仮舗装(A)(表層) 仮舗装(B)(表層)	路盤材	再生骨材等	舗装復旧(A)(下層路盤) 舗装復旧(C)(路盤) 仮舗装(A)(路盤) 構造物基礎		混合セメント	高炉セメント	鉄筋構造物 モルタル
分類	品目名		使用箇所																				
	(品目分類)	(品目名)																					
資材	アスファルト混合物	再生加熱アスファルト混合物	切削オーバーレイ(A)(基層) 舗装復旧(A)(上層路盤、基層) 仮舗装(A)(表層) 仮舗装(B)(表層)																				
	路盤材	再生骨材等	舗装復旧(A)(下層路盤) 舗装復旧(C)(路盤) 仮舗装(A)(路盤) 構造物基礎																				
	混合セメント	高炉セメント	鉄筋構造物 モルタル																				

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項			
						建設機械	—	排出ガス対策型建設機械	「建設機械に関する技術指針」による
								低騒音型建設機械	「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針」による
						目的物	舗装	排水性舗装	車道舗装(A)
								透水性舗装	歩道舗装(A)(B)
1	1	1	1-1-1-38	施工時間	追加	本工事の夜間施工における、交通規制時間は21:00～6:00とする。			
1	1	追加		通信等設備事故防止計画について		<p>本工事は、情報ボックス(電線共同溝、道路管理用光ファイバーケーブル)の近接工事であるため、施工計画書に通信等設備事故防止計画を定め発注者に提出すること。</p> <p>なお、通信等設備事故防止計画には下記事項を記載するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備事故防止管理者 ・埋設箇所の確認方法 ・近接部の工事施工方法(仮設計画含む) ・作業上の留意事項及び作業員への周知方法 ・事故発生時の連絡体制及び即応対制 ・その他必要な事項 <p>また、試掘が必要な場合、監督職員と協議し立会を求め実施すること。</p>			
1	追加			工期		<p>工期は、雨天・休日等905日(雨休率0.8)を見込み、設定している。なお、休日等には、日曜日・祝日、夏季休暇及び年末年始休暇の他、作業期間内の全ての土曜日を含んでいる。</p> <p>工事打合せ簿の指示等により工期延期が生じた場合においても休日等には、日曜日・祝日、夏季休暇及び年末年始休暇の他、作業期間内の全ての土曜日を含み協議を行う。</p>			
1	追加			工事工程の共有		<p>受注者は、現場着手前(準備期間内)に設計図書等を踏まえた工事工程表(クリティカルパスを含む)を作成し、監督職員と共有すること。工程に影響のある事項がある場合は、その事項の処理対応者(「発注者」又は「受注者」)を明確にすること。</p> <p>施工中に工事工程表に変更が生じた場合は適切に受発注者間で共有することとし、受注者は工程の変更理由が以下の①～⑤に示すような受注者の責によらない場合は、工期の延期が可能となる場合があるので協議すること。</p>			

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項
						<p>①受発注者間で協議した工事工程の条件に変更が生じた場合 ②著しい悪天候により作業不稼働日が多く発生した場合 ③工事中止や工事一部中止により全体工程に影響が生じた場合 ④資機材や労働需要のひっ迫により、全体工程に影響が生じた場合 ⑤その他特別な事象により全体工程に影響が生じた場合</p> <p>なお、工事工程の共有を円滑に実施するために、共有にあつては原則、情報共有システム(ASP)の機能を活用するものとする。また、受注者が作成した工事工程については成果物として電子データで納品を受けるものとする。</p>
1	追加			週休2日の試行		<p>本工事は、週休2日の試行対象工事(発注者指定型(現場閉所))である。現場閉所の計画を明記した施工計画書を工事着手日までに提出し、完成時に現場閉所状況(閉所実績が記載された工程表(カレンダー等)等)を提出すること。</p> <p>各経費の補正は対象期間全体に対する週休2日の達成状況により決定するものとするが、建設業の働き方改革を推進する観点から、受注者は1ヶ月ごとに4週8休以上の現場閉所が達成できるよう努めること。</p> <p>【週休2日の考え方】</p> <p>週休2日とは、対象期間(工事着手日から工事完成日までの期間。なお、年末年始6日間、夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間(受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間など)は含まない)において4週8休以上の現場閉所を行うことをいう。</p> <p>なお、受・発注者間において、工事工程を共有し、週休2日が確保されるよう工程管理を行うこと。</p> <p>試行実施の中で、週休2日を導入するにあつての問題点、課題等を抽出・整理することを目的にアンケート調査等を実施する場合は協力をすること。</p> <p>受注者の責により、週休2日が実施出来ない場合は、必要に応じ、工事成績評定実施要領に基づく点数を減ずる措置を行う。</p>
1	追加			熱中症対策に資する現場管理費補正の試行		<p>本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して、現場管理費の補正を行う試行工事である。</p> <p>受注者は、工事期間中における気温の計測方法及び計測結果の報告方法を明記した施工</p>

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項														
						<p>計画書を工事着手前に提出し、工事完成時に計測結果を提出すること。</p> <p>気温計測箇所及び結果は、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温または環境省が公表している観測地点の暑さ指数(以下、「WBGT」という)を用いることを標準とする。なお、WBGTを用いる場合は、WBGTが25℃以上となる日を真夏日と見なす。</p> <p>ただし、これによりがたい場合は、施工現場を代表する1地点で気象庁の気温計測方法に準拠した方法により得られた計測結果を用いることも可とする。その計測に要する費用は受注者の負担とするものとする。</p>														
1	3	3	1-3-3-1	一般事項 (超速硬コンクリート)	追加	<p>1. 超速硬コンクリートの配合は下記のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>粗骨材の最大 寸法 mm</th> <th>スランプ cm</th> <th>呼び強度 N/mm²</th> <th>単位セメント量 kg/m³以上</th> <th>減水剤 (%)</th> <th>凝結遅延剤</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20～25</td> <td>12±3</td> <td>24 (材令3時間)</td> <td>400</td> <td>セメント量の 0.5～2.0</td> <td>セメント量の 0～1.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 本工事に使用するコンクリートの練り混ぜは、JIS A 8603(強制練ミキサ)を使用すること。 やむを得ず可傾式ミキサを使用する場合には、監督職員の承諾を得ること。</p> <p>3. コンクリートの練り混ぜ後、硬化を開始したコンクリートは、使用してはならない。</p> <p>4. 材料の分離が認められたコンクリートは、使用してはならない。</p> <p>5. 施工場所が湿潤状態及び雨天時又は、気温5℃以下の時は、使用してはならない。</p>	粗骨材の最大 寸法 mm	スランプ cm	呼び強度 N/mm ²	単位セメント量 kg/m ³ 以上	減水剤 (%)	凝結遅延剤	備考	20～25	12±3	24 (材令3時間)	400	セメント量の 0.5～2.0	セメント量の 0～1.4	
粗骨材の最大 寸法 mm	スランプ cm	呼び強度 N/mm ²	単位セメント量 kg/m ³ 以上	減水剤 (%)	凝結遅延剤	備考														
20～25	12±3	24 (材令3時間)	400	セメント量の 0.5～2.0	セメント量の 0～1.4															
3	1	1	3-1-1-7	工事完成図書の納品	追加	<p>本工事は、道路工事完成図等作成の対象工事である。</p>														
3	1	1	3-1-1-7	工事完成図書の納品	追加	<p>完成図等の作成について</p> <p>受注者は、「道路工事完成図等作成要領(国土技術政策総合研究所資料、平成20年12月)」に基づいて作成した電子データを、電子媒体で提出しなければならない。</p> <p>受注者は、本要領に基づき、国土技術政策総合研究所がホームページ上に無償で公開している本要領に対応したチェックプログラムによるチェックを行い、エラーがないことを確認した後、ウィルス対策を実施した上で出力資料を含む(別紙等での提出も可能)電子データを提出しなければならない。</p> <p>道路工事完成図の作成にあたっては「CAD製図基準(平成29年3月版)」を適用することとする。</p> <p>提出資料(道路工事完成図等作成要領 p71 参照)</p>														

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項						
						<p>【電子データ(CD等で提出)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成平面図: SXF データ(拡張子 .P21) ・完成縦断図: SXF データ(拡張子 .P21) ・完成平面図: 属性XML データ(拡張子 .saf) <p>※またはこれらを圧縮したデータ(拡張子 .P2Z)</p> <p>【出力資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェック結果記録 ・完成平面図 ・完成縦断図 ・「完成平面図」チェック結果記録 ・道路工事完成図等チェックプログラム結果ログ 						
3	1	1	3-1-1-7	工事完成図書の納品	追加	<p>道路工事完成図等の電子納品にあたっては、従来の道路工事完成図等チェックプログラムに加え、完成平面図品質評価ツール(追加チェックプログラム)による品質チェックを行い提出すること。</p> <p>①ツール及びマニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成平面図品質評価ツール暫定版(ツール及びマニュアル) ・完成平面図の位置ずれチェック方法(マニュアル) <p>道路工事完成図等作成支援サイトよりダウンロード (http://nilim-cdrw.jp/dl_tool_quality.html)</p> <p>②チェックフロー</p> <p>完成平面図の品質チェックの概要【別添1】、完成平面図チェック作業フロー図【別添2】</p> <p>③完成平面図品質評価ツールで検出されるエラーに関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成平面図品質評価ツールのQ&A (http://nilim-cdrw.jp/qa_quality.html) ・Q&Aに掲載されていない項目はヘルプデスクに問合せ (http://nilim-cdrw.jp/index_help.html) 						
3	1	1	3-1-1-7	道路施設基本データについて	追加	<p>作成対象となる道路施設は下記のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">区分</th> <th style="width: 33%;">施設番号</th> <th style="width: 33%;">施設名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	区分	施設番号	施設名			
区分	施設番号	施設名										

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項																																			
						道路構造	C050	舗装																																	
3	2	6	3-2-6-3	アスファルト舗装の材料	追加	<p>基層(中間層)において、改質アスファルトを使用する再生加熱アスファルト混合物の再生骨材の配合率は10%以下とする。</p>																																			
3	2	6	3-2-6-3	アスファルト舗装の材料	追加	<p>基層に使用する再生粗粒度Asポリマー改質Ⅰ型のマーシャル試験値に対する基準値は、下記の条件を満足するものとし、監督職員に配合表を提出し承諾を得ること。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>突固め回数</th> <th>安定度</th> <th>フロー値</th> <th>空隙率</th> <th>飽和度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値</td> <td>75回</td> <td>4.9kN</td> <td>20~40</td> <td>3~7</td> <td>65~85%</td> </tr> </tbody> </table> <p>アスファルト混合物の設計アスファルト量は、決定した骨材配合についてマーシャル試験及びホイールトラッキング試験を行い決定する。なお、目標DS値は3,000回/mm以上とする。</p>			項目	突固め回数	安定度	フロー値	空隙率	飽和度	基準値	75回	4.9kN	20~40	3~7	65~85%																					
項目	突固め回数	安定度	フロー値	空隙率	飽和度																																				
基準値	75回	4.9kN	20~40	3~7	65~85%																																				
3	2	6	3-2-6-3	アスファルト舗装の材料	追加	<p>透水性アスファルト混合物は、ストレートアスファルトをバインダーに使用した開粒度アスファルト混合物(13)を標準とし、下記に示す規格に適合するものとする。但し、使用に当たっては、監督職員の承諾を得ること。</p> <p>1. 透水性アスファルト混合物の基準値</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準値</th> <th>試験方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>突き固め回数(回)</td> <td>50</td> <td>マーシャル安定度試験(舗装調査・試験法便覧)</td> </tr> <tr> <td>空隙率(%)</td> <td>12以上</td> <td>マーシャル安定度試験(舗装調査・試験法便覧)</td> </tr> <tr> <td>安定度(kN)</td> <td>2.94以上</td> <td>マーシャル安定度試験(舗装調査・試験法便覧)</td> </tr> <tr> <td>フロー値(1/100cm)</td> <td>20~40</td> <td>マーシャル安定度試験(舗装調査・試験法便覧)</td> </tr> <tr> <td>透水係数(cm/sec)</td> <td>1×10⁻²</td> <td>透水性アスファルト混合物透水試験(舗装調査・試験法便覧)</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. アスファルト混合物の種類と標準粒度範囲</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tbody> <tr> <td>混合物の種類</td> <td colspan="2">透水性アスファルト混合物</td> </tr> <tr> <td>仕上がり厚cm</td> <td colspan="2">4~5</td> </tr> <tr> <td>最大粒径mm</td> <td colspan="2">13</td> </tr> <tr> <td>通</td> <td>19mm</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>過</td> <td>13.2mm</td> <td>95~100</td> </tr> </tbody> </table>			項目	基準値	試験方法	突き固め回数(回)	50	マーシャル安定度試験(舗装調査・試験法便覧)	空隙率(%)	12以上	マーシャル安定度試験(舗装調査・試験法便覧)	安定度(kN)	2.94以上	マーシャル安定度試験(舗装調査・試験法便覧)	フロー値(1/100cm)	20~40	マーシャル安定度試験(舗装調査・試験法便覧)	透水係数(cm/sec)	1×10 ⁻²	透水性アスファルト混合物透水試験(舗装調査・試験法便覧)	混合物の種類	透水性アスファルト混合物		仕上がり厚cm	4~5		最大粒径mm	13		通	19mm	100	過	13.2mm	95~100
項目	基準値	試験方法																																							
突き固め回数(回)	50	マーシャル安定度試験(舗装調査・試験法便覧)																																							
空隙率(%)	12以上	マーシャル安定度試験(舗装調査・試験法便覧)																																							
安定度(kN)	2.94以上	マーシャル安定度試験(舗装調査・試験法便覧)																																							
フロー値(1/100cm)	20~40	マーシャル安定度試験(舗装調査・試験法便覧)																																							
透水係数(cm/sec)	1×10 ⁻²	透水性アスファルト混合物透水試験(舗装調査・試験法便覧)																																							
混合物の種類	透水性アスファルト混合物																																								
仕上がり厚cm	4~5																																								
最大粒径mm	13																																								
通	19mm	100																																							
過	13.2mm	95~100																																							

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項																																														
						<table border="1"> <tr> <td>質</td> <td>4.75mm</td> <td>20～36</td> </tr> <tr> <td>量</td> <td>2.36mm</td> <td>12～25</td> </tr> <tr> <td>百</td> <td>600 μm</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>300 μm</td> <td>5～13</td> </tr> <tr> <td>率</td> <td>150 μm</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>75 μm</td> <td>3～6</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量%</td> <td></td> <td>3.5～5.5</td> </tr> </table> <p>3. 品質管理項目と基準値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格値</th> <th>試験方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粒度(2.36mmフルイ)</td> <td>±12%以内基準粒度</td> <td>舗装調査・試験法便覧</td> </tr> <tr> <td>粒度(75 μmフルイ)</td> <td>±5%以内基準粒度</td> <td>舗装調査・試験法便覧</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量</td> <td>±0.9%以内</td> <td>舗装調査・試験法便覧</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>プラント:配合設計で決定した混合温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>締め固め度</td> <td>基準密度の94%以上</td> <td>舗装調査・試験法便覧</td> </tr> <tr> <td>現場透水量</td> <td>300ml/15sec以上</td> <td>舗装調査・試験法便覧</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. フィルター層用材料</p> <p>適度な透水性を保有し、シルトや粘土などが少ない下記の粒度を満足する川砂・山砂・海砂・採砂及び再生砂等を使用する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75 μmふるい通過量</td> <td>6%以下</td> </tr> </tbody> </table>	質	4.75mm	20～36	量	2.36mm	12～25	百	600 μm	—	分	300 μm	5～13	率	150 μm	—	%	75 μm	3～6	アスファルト量%		3.5～5.5	項目	規格値	試験方法	粒度(2.36mmフルイ)	±12%以内基準粒度	舗装調査・試験法便覧	粒度(75 μmフルイ)	±5%以内基準粒度	舗装調査・試験法便覧	アスファルト量	±0.9%以内	舗装調査・試験法便覧	温度	プラント:配合設計で決定した混合温度		締め固め度	基準密度の94%以上	舗装調査・試験法便覧	現場透水量	300ml/15sec以上	舗装調査・試験法便覧	項目	規格値	75 μmふるい通過量	6%以下
質	4.75mm	20～36																																																		
量	2.36mm	12～25																																																		
百	600 μm	—																																																		
分	300 μm	5～13																																																		
率	150 μm	—																																																		
%	75 μm	3～6																																																		
アスファルト量%		3.5～5.5																																																		
項目	規格値	試験方法																																																		
粒度(2.36mmフルイ)	±12%以内基準粒度	舗装調査・試験法便覧																																																		
粒度(75 μmフルイ)	±5%以内基準粒度	舗装調査・試験法便覧																																																		
アスファルト量	±0.9%以内	舗装調査・試験法便覧																																																		
温度	プラント:配合設計で決定した混合温度																																																			
締め固め度	基準密度の94%以上	舗装調査・試験法便覧																																																		
現場透水量	300ml/15sec以上	舗装調査・試験法便覧																																																		
項目	規格値																																																			
75 μmふるい通過量	6%以下																																																			
3	2	6	3-2-6-3	アスファルト舗装の材料	追加	配合設計におけるホイールトラッキング試験は、「舗装調査・試験法便覧」により実施するものとし、試験基準は配合ごとに1回とする。ただし、同一配合の合材が100t未満のものは適用除外とする。																																														
3	2	6	3-2-6-9	排水性舗装工	追加	表層に用いるポーラスアスファルト混合物の目標塑性変形輪数は、3,000回/mmとする。																																														
10	12	5	10-12-5-2	管路工(管路部)	追加	管路の布設終了後(埋設管では、埋戻し前または終了後、露出・添架配管ではケーブル入線前)別添資料により管路試験を行うこと。試験の結果、不合格の時は手直しを実施すること。尚、工事完成後に試験表を提出すること。																																														

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項
					追加	電線共同溝の管路部に使用する管路材は、JIS C 3653に示す管路材または別添「管路材の性能規定」に示す性能と同等以上のものを使用するものとする。
追加				境界基準点の復元		工事が完成した場合、既成の敷地台帳に基づき境界基準点を現地に復元すること。
追加				引き渡し前における成果物の使用		発注者は引き渡し前においても、成果物の全部又は一部を受注者の承諾を得て使用することができる。
追加				ICT活用工事について (ICT舗装工(舗装修繕))		<p>1. ICT活用工事</p> <p>本工事は、国土交通省が提唱するi-Constructionに基づき、ICTの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するICT活用工事(施工者希望Ⅱ型)の対象工事である。また、「3次元出来形管理等施工管理」での3次元データ活用を必須とし、その他の施工プロセス段階での活用を任意とする中国LightICT活用工事としての活用もできるものとする。なお、中国地方整備局発注工事におけるICT活用未経験企業においては、「3次元起工測量」のみの実施も可能とする。</p> <p>2. 定義</p> <p>(1)i-Constructionとは、ICTの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてICTを活用した工事(ICT活用工事)を実施するものとする。</p> <p>(2)ICT活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、ICTを全面的に活用する工事である。また、次の①～⑤の全ての段階でICT施工技術を活用することをICT活用工事という。</p> <p>対象は、切削オーバーレイ工事とする。</p> <p>①3次元起工測量</p> <p>②3次元設計データ作成</p> <p>③ICT建設機械による施工(選択)</p> <p>④3次元出来形管理等の施工管理(選択)</p> <p>⑤3次元データの納品</p> <p>3. 受注者は、ICT活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出(施工数量</p>

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項
						<p>や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む)までに発注者へICT活用工事計画書を添付のうえ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記4～10によりICT活用施工を行うことができる。</p> <p>4. 原則、本工事においては上記2. (2)①～⑤全ての段階でICT施工技術を活用(③④は選択)することとし、切削オーバーレイ工について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び対象範囲を監督職員と協議するものとする。</p> <p>5. ICTを用い、以下の施工を実施する。</p> <p>①3次元起工測量 受注者は、交通規制を削減し3次元測量データを取得するため、下記1)～4)から選択(複数以上可)して測量を行うものとする。 起工測量は、施工現場の環境条件を鑑みて、監督職員との協議により管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択出来るものとする。</p> <p>1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) TS(ノンプリズム方式)を用いた起工測量 3) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4) その他の3次元計測技術を用いた起工測量</p> <p>②3次元設計データ作成 受注者は、設計図書や5. ①で得られた測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、施工指示に用いる切削計画を作成する。また、3次元出来形管理を行う場合は、3次元設計データを作成する。</p> <p>③ICT建設機械による施工(選択) 5. ②で作成した3次元設計データを用い、下記に示す施工管理システムを搭載した建設機械を用いた施工、又は従来型建設機械による施工を選択し、実施する。 切削指示値等に積極的に3次元設計データ等を活用するものとする。</p> <p>1) 3次元位置を用いた施工管理システムを搭載した建設機械 施工中の路面切削機の作業装置位置及び切削深さ(高さ)をリアルタイムに計測・記録する機能を有するICT建設機械を用い施工を行う。 切削深さの計測・記録方法として、外部計測機による切削装置計測の他、切削装置</p>

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項
						<p>に表示される指示値を取得する方法などがある。</p> <p>④3次元出来形管理等の施工管理(選択)</p> <p>5. ③で、施工管理システムを搭載した建設機械を用いた施工を選択した場合、下記手法により施工管理を実施するものとし、従来型建設機械による施工を選択した場合は、従来手法による施工管理を実施するものとし、一方を選択する。</p> <p>1) 施工履歴データを用いた出来形管理</p> <p>2) 地上写真測量を用いた出来形管理</p> <p>3) TS等光波方式を用いた出来形管理</p> <p>⑤3次元データの納品</p> <p>5. ①②④により確認された3次元施工管理データ等を、工事完成図書として電子納品する。</p> <p>6. 上記5. ①～⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用工事用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。</p> <p>発注者は、3次元設計データの作成に必要となる詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用工事を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。</p> <p>7. 上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。</p> <p>8. 土木工事施工管理基準(案)に基づく出来形管理が行われていない箇所、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。</p> <p>9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。</p> <p>10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。</p>
追加				ICT活用工事について (ICT作業土工(床掘)		<p>1. ICT活用工事</p> <p>本工事は、国土交通省が提唱するi-Constructionに基づき、ICTの全面的活用を図るた</p>

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項
						<p>め、受注者の提案・協議により、3次元設計データの作成、施工及び納品について3次元データの活用を必須とし3次元起工測量を任意とする中国LightICT(作業土工(床掘))活用工事(施工者希望Ⅱ型)の対象工事である。</p> <p>2. 定義</p> <p>(1) i-Constructionとは、ICTの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてICTを活用した工事(ICT活用工事)を実施するものとする。</p> <p>(2) 中国LightICT(作業土工(床掘))活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、ICTを全面的に活用する工事であり、次の②③⑤の全ての段階でICT施工技術を活用することをいう。</p> <p>対象は、作業土工を含む全ての工事とする。</p> <p>①3次元起工測量(任意)</p> <p>②3次元設計データ作成(活用提案の場合は必須)</p> <p>③ICT建設機械による施工(活用提案の場合は必須)</p> <p>④なし</p> <p>⑤3次元データの納品(活用提案の場合は必須)</p> <p>3. 受注者は、中国LightICT(作業土工(床掘))活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出(施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む)までに発注者へ中国LightICT(作業土工(床掘))活用工事計画書を添付のうえ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記4～8によりICT活用施工を行うことができる。</p> <p>(以下、ICT活用施工を行う場合)</p> <p>4. 原則、現場条件によりICTによる施工が適当でない箇所を除く本工事の作業土工施工範囲の全てを対象とすることとし、ICT活用施工の具体的な工事内容及び対象範囲を監督職員と協議するものとする。</p> <p>5. ICTを用い、以下の施工を実施する。</p> <p>①3次元起工測量(任意)</p> <p>受注者は、3次元測量データを取得するため、下記1)～8)から選択(複数以上可)し</p>

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項
						<p>で測量を行うものとする。</p> <p>起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、現場条件により面的計測が非効率となる場合及び、前工事での3次元納品データが活用出来る場合においては、監督職員との協議により管理断面及び変化点の計測による測量が選択出来るものとする。</p> <p>但し、ICT土工等の起工測量データ等を活用することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 空中写真測量(無人航空機)を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) TS等光波方式を用いた起工測量 4) TS(ノンプリズム方式)を用いた起工測量 5) RTK-GNSSを用いた起工測量 6) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 7) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量 <p>②3次元設計データ作成</p> <p>受注者は、設計図書や5. ①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。</p> <p>③ICT建設機械による施工</p> <p>5. ②で作成した3次元設計データを用い、下記に示すICT建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するにあたっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。</p> <p>なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則(平成20年国土交通省告示第413号)付録1測量機器検定基準2-6の性能における検定基準を満たすこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 3次元マシンコントロールまたは3次元マシンガイダンス建設機械 <p>建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、</p>

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項
						<p>建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて実施する。</p> <p>④3次元出来形管理等の施工管理 該当無し</p> <p>⑤3次元データの納品 5. ②により作成した3次元施工管理データを、電子納品する。</p> <p>6. 上記5. ①～⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用工事用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用工事を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。</p> <p>7. 上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。</p> <p>8. 受注者は、当該技術の施工にあたり、活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。</p> <p>9. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。</p>
追加				ICT活用証明書の発行		<p>ICT活用工事および中国Light ICT 活用工事において発行する活用証明書の発行対象は、受注者、監理技術者等(主任技術者、監理技術者、特例監理技術者又は監理技術者補佐をいう。)及び担当技術者等(※)とする。</p> <p>なお、1工事あたりの技術者への活用証明書の発行は、監理技術者等1名、担当技術者等1名の最大2名までとする。</p> <p>担当技術者等の活用証明書発行は、ICT活用工種に従事したことを確認できる書類(施工計画書等)により主任監督員が認めるものに限る。</p> <p>活用証明書の発行を求める監理技術者等及び担当技術者等を監督職員に申し出、担当技術者等の活用証明書発行を求める場合は、確認書類を監督職員に提出すること。</p> <p>※担当技術者等については、現場代理人若しくは担当技術者とする。</p>

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項																
追加				BIM/CIM適用工事について		<p>本工事は、BIM/CIM 適用工事(発注者指定型)である。</p> <p>以下に示す活用内容について、3次元モデルを作成し、活用する。詳細については、受発注者間で協議し、1～3により実施する。</p> <p>受注者が希望する場合、発注者が示す活用内容以外の活用内容を提案することができる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活用内容</th> <th>活用内容の詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施工計画の検討補助</td> <td>詳細設計等で作成された3次元モデルを閲覧し、施工計画を検討する際の参考にする。</td> </tr> <tr> <td>2次元図面の理解補助</td> <td>詳細設計等で作成された3次元モデルを閲覧し、2次元図面を理解する際の参考にする。</td> </tr> <tr> <td>現場作業員等への説明</td> <td>詳細設計等で作成された3次元モデルを用いて、現場作業員等に工事の完成イメージ等を説明し、現場作業員等の理解促進を図る。</td> </tr> <tr> <td>重ね合わせによる確認</td> <td>3次元モデルに複数の情報を重ね合わせて表示することにより、位置関係にずれ、干渉等がないかを確認する。 (例)本工事では、建築限界及び構造物等と官民境界の位置を確認する。</td> </tr> <tr> <td>現場条件の確認</td> <td>3次元モデルに建機等を配置し、近接物の干渉等、施工に支障がないか確認する。 (例)本工事では、建機の搬出入経路及び旋回範囲を確認する。</td> </tr> <tr> <td>施工ステップの確認</td> <td>一連の施工工程のステップごとの3次元モデルで施工可能かどうかを確認する。 (例)本工事では、交通規制を伴う部分の切り替え、作業スペース等を確認する。 (例)本工事では、工事進捗に伴い変化する仮設及び建機等の作業スペース等を確認する。</td> </tr> <tr> <td>施工管理での活用</td> <td>3次元モデルとAR、レーザー測量等を組み合わせ</td> </tr> </tbody> </table>	活用内容	活用内容の詳細	施工計画の検討補助	詳細設計等で作成された3次元モデルを閲覧し、施工計画を検討する際の参考にする。	2次元図面の理解補助	詳細設計等で作成された3次元モデルを閲覧し、2次元図面を理解する際の参考にする。	現場作業員等への説明	詳細設計等で作成された3次元モデルを用いて、現場作業員等に工事の完成イメージ等を説明し、現場作業員等の理解促進を図る。	重ね合わせによる確認	3次元モデルに複数の情報を重ね合わせて表示することにより、位置関係にずれ、干渉等がないかを確認する。 (例)本工事では、建築限界及び構造物等と官民境界の位置を確認する。	現場条件の確認	3次元モデルに建機等を配置し、近接物の干渉等、施工に支障がないか確認する。 (例)本工事では、建機の搬出入経路及び旋回範囲を確認する。	施工ステップの確認	一連の施工工程のステップごとの3次元モデルで施工可能かどうかを確認する。 (例)本工事では、交通規制を伴う部分の切り替え、作業スペース等を確認する。 (例)本工事では、工事進捗に伴い変化する仮設及び建機等の作業スペース等を確認する。	施工管理での活用	3次元モデルとAR、レーザー測量等を組み合わせ
活用内容	活用内容の詳細																					
施工計画の検討補助	詳細設計等で作成された3次元モデルを閲覧し、施工計画を検討する際の参考にする。																					
2次元図面の理解補助	詳細設計等で作成された3次元モデルを閲覧し、2次元図面を理解する際の参考にする。																					
現場作業員等への説明	詳細設計等で作成された3次元モデルを用いて、現場作業員等に工事の完成イメージ等を説明し、現場作業員等の理解促進を図る。																					
重ね合わせによる確認	3次元モデルに複数の情報を重ね合わせて表示することにより、位置関係にずれ、干渉等がないかを確認する。 (例)本工事では、建築限界及び構造物等と官民境界の位置を確認する。																					
現場条件の確認	3次元モデルに建機等を配置し、近接物の干渉等、施工に支障がないか確認する。 (例)本工事では、建機の搬出入経路及び旋回範囲を確認する。																					
施工ステップの確認	一連の施工工程のステップごとの3次元モデルで施工可能かどうかを確認する。 (例)本工事では、交通規制を伴う部分の切り替え、作業スペース等を確認する。 (例)本工事では、工事進捗に伴い変化する仮設及び建機等の作業スペース等を確認する。																					
施工管理での活用	3次元モデルとAR、レーザー測量等を組み合わせ																					

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項				
						<p>て、出来形の計測・管理等に活用する。 (例)本工事では、舗装の出来形管理に活用する。</p> <p>(参考)3次元モデル作成の目安</p> <table border="1"> <tr> <td>詳細度</td> <td>200又は300程度 ※1 ※1 構造形式がわかるモデル～主構造の形状がわかるモデル</td> </tr> <tr> <td>属性情報 ※2 ※2 部材等の名称、 規格、仕様等の情報</td> <td>オブジェクト分類名※3 のみ入力し、その他は任意とする。 ※3 道路土構造物、橋梁等の分類の名称</td> </tr> </table> <p>1. BIM/CIM 実施計画書の作成</p> <p>3次元モデルの活用について、以下の内容を受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施計画書を作成する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施(変更)計画書を作成する。</p> <p>また、作成したBIM/CIM 実施計画書(変更含む)に基づき、本工事を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 3次元モデルの活用内容(実施内容、期待する効果等) 2) 3次元モデルの作成仕様(作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された3次元モデルの使用等) 3) 3次元モデルの作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類 4) 3次元モデルの作成担当者 5) 3次元モデルの作成・活用に要する費用 <p>2. BIM/CIM 実施報告書の作成</p> <p>BIM/CIM 実施計画書に基づく3次元モデルの活用について、以下の内容を記載したBIM/CIM 実施報告書を作成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 3次元モデルの活用概要(実施概要、期待する効果の結果等、期待した効果が十分に得られなかった場合の考察を含む) 2) 作成・活用した3次元モデル(作成範囲、詳細度、属性情報、基準点の情報等) 3) 後段階への引継事項(対応する無償ビューワーの種類、2次元図面との整合に関する情報、活用時の注意点等) 4) 成果物 	詳細度	200又は300程度 ※1 ※1 構造形式がわかるモデル～主構造の形状がわかるモデル	属性情報 ※2 ※2 部材等の名称、 規格、仕様等の情報	オブジェクト分類名※3 のみ入力し、その他は任意とする。 ※3 道路土構造物、橋梁等の分類の名称
詳細度	200又は300程度 ※1 ※1 構造形式がわかるモデル～主構造の形状がわかるモデル									
属性情報 ※2 ※2 部材等の名称、 規格、仕様等の情報	オブジェクト分類名※3 のみ入力し、その他は任意とする。 ※3 道路土構造物、橋梁等の分類の名称									

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項																																									
						5)その他(創意工夫内容、基準要領に関する改善提案・意見・要望、ソフトウェアへの技術開発提案事項等) 3. 成果の納品 BIM/CIM 実施計画書(変更含む)、BIM/CIM 実施報告書及び作成した3次元モデルを納品する。																																									
追加				遠隔地からの建設資材調達にかかる設計変更について	1. 変更対象項目 次の資材については、以下の調達地域等から調達することを想定しているが、安定的な確保を図るために、当該調達地域等以外から調達せざるを得ない場合には、事前に監督職員と協議するものとする。また、購入費及び輸送費等に要した費用について、証明書類(実際の取引伝票等)を監督職員に提出するものとし、その費用について設計変更とすることとする。 表-1 建設資材の購入・調達地域等 <table border="1" data-bbox="1093 671 2063 1283"> <thead> <tr> <th>資材名</th> <th>規格</th> <th>調達地域等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">■資材</td> </tr> <tr> <td>骨材</td> <td>再生クラッシュラン(RC-40)</td> <td>益田地区</td> </tr> <tr> <td>骨材</td> <td>クラッシュラン(C-30)</td> <td>益田地区</td> </tr> <tr> <td>骨材</td> <td>粒度調整碎石(M-40)</td> <td>益田地区</td> </tr> <tr> <td>アスファルト合材</td> <td>再生粗粒度As(20)</td> <td>益田地区</td> </tr> <tr> <td>アスファルト合材</td> <td>再生密粒度As(13)</td> <td>益田地区</td> </tr> <tr> <td>アスファルト合材</td> <td>再生As安定処理(30)</td> <td>益田地区</td> </tr> <tr> <td>アスファルト合材</td> <td>再生粗粒度Asポリマー改質 I 型(20)DS3000</td> <td>益田地区</td> </tr> <tr> <td>アスファルト合材</td> <td>ポーラスAs(13)DS3000</td> <td>益田地区</td> </tr> <tr> <td>アスファルト合材</td> <td>ポーラスAs(13)</td> <td>益田地区</td> </tr> <tr> <td>生コンクリート</td> <td>24-12-25(20)(高炉)</td> <td>益田地区</td> </tr> <tr> <td colspan="3">■仮設材</td> </tr> <tr> <td>仮設材</td> <td>簡易土留</td> <td>益田市</td> </tr> </tbody> </table>	資材名	規格	調達地域等	■資材			骨材	再生クラッシュラン(RC-40)	益田地区	骨材	クラッシュラン(C-30)	益田地区	骨材	粒度調整碎石(M-40)	益田地区	アスファルト合材	再生粗粒度As(20)	益田地区	アスファルト合材	再生密粒度As(13)	益田地区	アスファルト合材	再生As安定処理(30)	益田地区	アスファルト合材	再生粗粒度Asポリマー改質 I 型(20)DS3000	益田地区	アスファルト合材	ポーラスAs(13)DS3000	益田地区	アスファルト合材	ポーラスAs(13)	益田地区	生コンクリート	24-12-25(20)(高炉)	益田地区	■仮設材			仮設材	簡易土留	益田市
資材名	規格	調達地域等																																													
■資材																																															
骨材	再生クラッシュラン(RC-40)	益田地区																																													
骨材	クラッシュラン(C-30)	益田地区																																													
骨材	粒度調整碎石(M-40)	益田地区																																													
アスファルト合材	再生粗粒度As(20)	益田地区																																													
アスファルト合材	再生密粒度As(13)	益田地区																																													
アスファルト合材	再生As安定処理(30)	益田地区																																													
アスファルト合材	再生粗粒度Asポリマー改質 I 型(20)DS3000	益田地区																																													
アスファルト合材	ポーラスAs(13)DS3000	益田地区																																													
アスファルト合材	ポーラスAs(13)	益田地区																																													
生コンクリート	24-12-25(20)(高炉)	益田地区																																													
■仮設材																																															
仮設材	簡易土留	益田市																																													
						※上表における用語の定義 ・ここでいう購入地域とは積算上設定している地区別単価区分を指す。 ・ここでいう調達地域とは積算上設定している運搬起点となる所在地を指す。																																									

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項						
						<p>・積算上、資材は現着単価を計上している。</p> <p>輸送費用の増し分については、実際の取引においても、現着単価が基本であることから、材料費に含んでも良い。なお、ひっ迫により購入・調達地域等以外からの購入費用（輸送費用）の増分について理由・実績等が確認できるものについて変更対象とする。</p> <p>・仮設材は、土木工事標準積算基準により運搬費用を積上により計上するものを対象としているが、任意仮設による契約であるため、積算上想定しているものを記載しているに過ぎず、指定するものではない。</p> <p>なお、ひっ迫による所在地以外からの調達による、購入費用（賃料）や輸送費用の増分について理由・実績等が確認出来るものについて変更対象とする。</p> <p>2. 提出資料等</p> <p>受注者は、遠隔地からの建設資材の調達等にかかる設計変更の対象となる品目等について、下表の資料を提出するものとし、各段階において監督職員と協議・確認を受けるものとする。なお、下表の①～③については、提出資料を別途指示する様式1-1～3にてとりまとめて提出するものとする。</p> <p>表-2 提出資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">提出資料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①調達計画 (当初) 様式1-1</td> <td> <p>・受注者が計画する建設資材の項目毎の購入・調達条件と発注時期等(予定)がわかるもの</p> <p>・契約後に受注者がメーカー・商社や運送会社等から入手した見積書で項目毎の当初計画額がわかるもの(発注書・注文書・請書など計画段階での購入・調達条件(金額や購入・調達地域等がわかるもの。)</p> <p>※契約後遅滞なく提出(変更追加等の場合は変更の都度提出)</p> </td> </tr> <tr> <td>②調達計画 (変更) 様式1-2</td> <td> <p>・建設資材のひっ迫により、①によりがたい場合で、購入費・運搬費が増となる購入・調達条件で①との変更点ができるものおよび変更理由。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	提出資料		①調達計画 (当初) 様式1-1	<p>・受注者が計画する建設資材の項目毎の購入・調達条件と発注時期等(予定)がわかるもの</p> <p>・契約後に受注者がメーカー・商社や運送会社等から入手した見積書で項目毎の当初計画額がわかるもの(発注書・注文書・請書など計画段階での購入・調達条件(金額や購入・調達地域等がわかるもの。)</p> <p>※契約後遅滞なく提出(変更追加等の場合は変更の都度提出)</p>	②調達計画 (変更) 様式1-2	<p>・建設資材のひっ迫により、①によりがたい場合で、購入費・運搬費が増となる購入・調達条件で①との変更点ができるものおよび変更理由。</p>
提出資料												
①調達計画 (当初) 様式1-1	<p>・受注者が計画する建設資材の項目毎の購入・調達条件と発注時期等(予定)がわかるもの</p> <p>・契約後に受注者がメーカー・商社や運送会社等から入手した見積書で項目毎の当初計画額がわかるもの(発注書・注文書・請書など計画段階での購入・調達条件(金額や購入・調達地域等がわかるもの。)</p> <p>※契約後遅滞なく提出(変更追加等の場合は変更の都度提出)</p>											
②調達計画 (変更) 様式1-2	<p>・建設資材のひっ迫により、①によりがたい場合で、購入費・運搬費が増となる購入・調達条件で①との変更点ができるものおよび変更理由。</p>											

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項						
						<table border="1"> <tr> <td></td> <td>※購入・調達の条件が変更の都度提出</td> </tr> <tr> <td>③調達計画 (実施) 様式1-3</td> <td>・②の結果で、建設資材の購入費・運搬費にかかる支出実績を証明する書類(領収書、領収書のないものは金額の適切性を証明する金額計算書など)。</td> </tr> </table> <p>3. 設計変更</p> <p>設計変更については、最終精算変更時点において、表-2 提出資料に記載の証明書類を監督職員に協議・確認を得たものについて行うものとする。</p> <p>なお、受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。</p>		※購入・調達の条件が変更の都度提出	③調達計画 (実施) 様式1-3	・②の結果で、建設資材の購入費・運搬費にかかる支出実績を証明する書類(領収書、領収書のないものは金額の適切性を証明する金額計算書など)。		
	※購入・調達の条件が変更の都度提出											
③調達計画 (実施) 様式1-3	・②の結果で、建設資材の購入費・運搬費にかかる支出実績を証明する書類(領収書、領収書のないものは金額の適切性を証明する金額計算書など)。											
追加				労務及び資機材調達にかかる適正な設計変更について		<p>契約締結後、当該工種着手時点において、労務及び資機材の調達が難しいと判断される場合は、遠方からの調達や工法変更等も含め設計変更協議の対象とする。ただし、受注者の責による着手時期の遅延等の場合を除く。</p>						
追加				地域外からの労働者確保に要する間接費の設計変更について		<p>1. 本工事は、「共通仮設費(率分)のうち営繕費」及び「現場管理費のうち労務管理費」の下記に示す費用(以下「実績変更対象費」という。)について、工事実施にあたって不足する技術者や技能者及び交通誘導員を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労務者確保に要する方策に変更が生じ、土木工事標準積算基準書の金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は、実績変更対象費の支出実績を踏まえて最終精算変更時点で設計変更する対象工事である。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">地域外からの労働者確保に要する間接費について実績変更の対象となる費用</td> </tr> <tr> <td>営繕費</td> <td>労働者送迎費、宿泊費、借上費 (宿泊費、借上費については労働者確保に係るものに限る。)</td> </tr> <tr> <td>労務管理費</td> <td>募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用</td> </tr> </table> <p>2. 受注者から請負代金内訳書の提出があった後、発注者は工事費構成書にて共通仮設費及び現場管理費に対する実績変更対象費の割合を提示するものとする。</p> <p>3. 受注者は、当初契約締結後の単価合意を行う際に、2. で示された割合を参考にして労働者確保に関する計画書(任意様式)及び実績変更対象費に係る費用の内訳を記載した実施計画書(当初)(様式2-1)を作成し、監督職員に提出するものとする。</p>	地域外からの労働者確保に要する間接費について実績変更の対象となる費用		営繕費	労働者送迎費、宿泊費、借上費 (宿泊費、借上費については労働者確保に係るものに限る。)	労務管理費	募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用
地域外からの労働者確保に要する間接費について実績変更の対象となる費用												
営繕費	労働者送迎費、宿泊費、借上費 (宿泊費、借上費については労働者確保に係るものに限る。)											
労務管理費	募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用											

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項
						<p>4. 最終精算変更時点において、実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更する場合は、実施計画書(実施)(様式2-2)及び実績変更対象費に実際に支払った全ての証明書類(領収書、領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など。)を監督職員に提出し、設計変更の内容について協議するものとする。</p> <p>5. 受注者の責めによる工事工程の遅れ等、受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。</p> <p>6. 実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更する場合、共通仮設費率分は、土木工事標準積算基準に基づく算出額から実施計画書(当初)(様式2-1)に記載された共通仮設費率分の合計額を差し引いた後、証明書類において確認された費用を調整額として加算して算出する。また、現場管理費は、土木工事標準積算基準に基づく算出額から実施計画書(当初)(様式2-1)に記載された現場管理費の合計額を差し引いた後、証明書類において確認された費用を調整額として加算して算出する。</p> <p>なお、全ての証明書類の提出がない場合であっても、提出された証明書類をもって金額の変更を行うものとする。</p> <p>7. 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び指名停止等の措置を行う場合がある。</p> <p>8. 疑義が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。</p>
追加				生産性向上チャレンジ工事		<p>1. 試行の実施</p> <p>本工事は、受注者の発案による施工手順の工夫等の創意工夫による生産性向上の取組を推進する「生産性向上チャレンジ」の試行対象工事である。</p> <p>2. 試行の内容</p> <p>工事契約後、受注者は、当該工事において、省人化等の生産性向上に資する取組を実施することができる。</p> <p>本取組を実施する場合は、施工計画書に「生産性向上チャレンジ工事」の項目を設け、①取組の内容、②期待される効果等を明記するものとし、完成検査までに実施内容及び効果を報告するものとする。また、期待される効果等については、人員削減や作業時間削減等の定量的な効果を記載できる場合は記載することとする。</p> <p>3. 工事成績評定</p>

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項
						<p>施工計画書で位置づけられた「生産性向上チャレンジ工事」の取組の履行が確認できた場合は加点を行うこととする。</p> <p>4. 本試行に係る費用については、原則、受注者負担によるものとする。</p>
追加				資料の貸与		<p>本工事における過年度成果品の貸与については、「貸与資料ダウンロードシステム」を利用する。</p> <p>利用にあたっては、別途、監督(調査)職員から通知するIDおよびパスワードによりログインし、利用登録を行う。</p> <p>なお、上記システムの利用が困難な場合は、監督(調査)職員との協議により、電子媒体等で貸与を受けるものとする。</p>
						「以下余白」

(搬出元)

●●●●●建設工事

責任者(※) ●●●● 殿

(受領先)

■●●●■建設工事

責任者(※) ■●●■

土砂受領書

受領先の名称及び所在地： ■●●●■建設工事

■●県■市■町■丁目■番地■地内

受領した管理者の商号： ■●●■建設(株)

搬出元の名称及び所在地： ●●●●●建設工事

●●県●●市●●町●●丁目●番地●地内

土砂の搬入： 盛土利用等 第1種建設発生土 ●●●●m³ (地山量)

一時堆積 第1種建設発生土 ●●●m³ (地山量)

搬入が完了した日： 令和●年●月●日

※ 建設業に属する事業を行う者の指定副産物に係る再生資源の利用の促進に関する判断の基準となるべき事項を定める省令(平成3年建設省令第20号)第9条(管理体制の整備)により定める工事現場における責任者(監理技術者など)

(搬出元)

●●●●ストックヤード(株)
代表取締役 ●●●● 殿

(受領先)

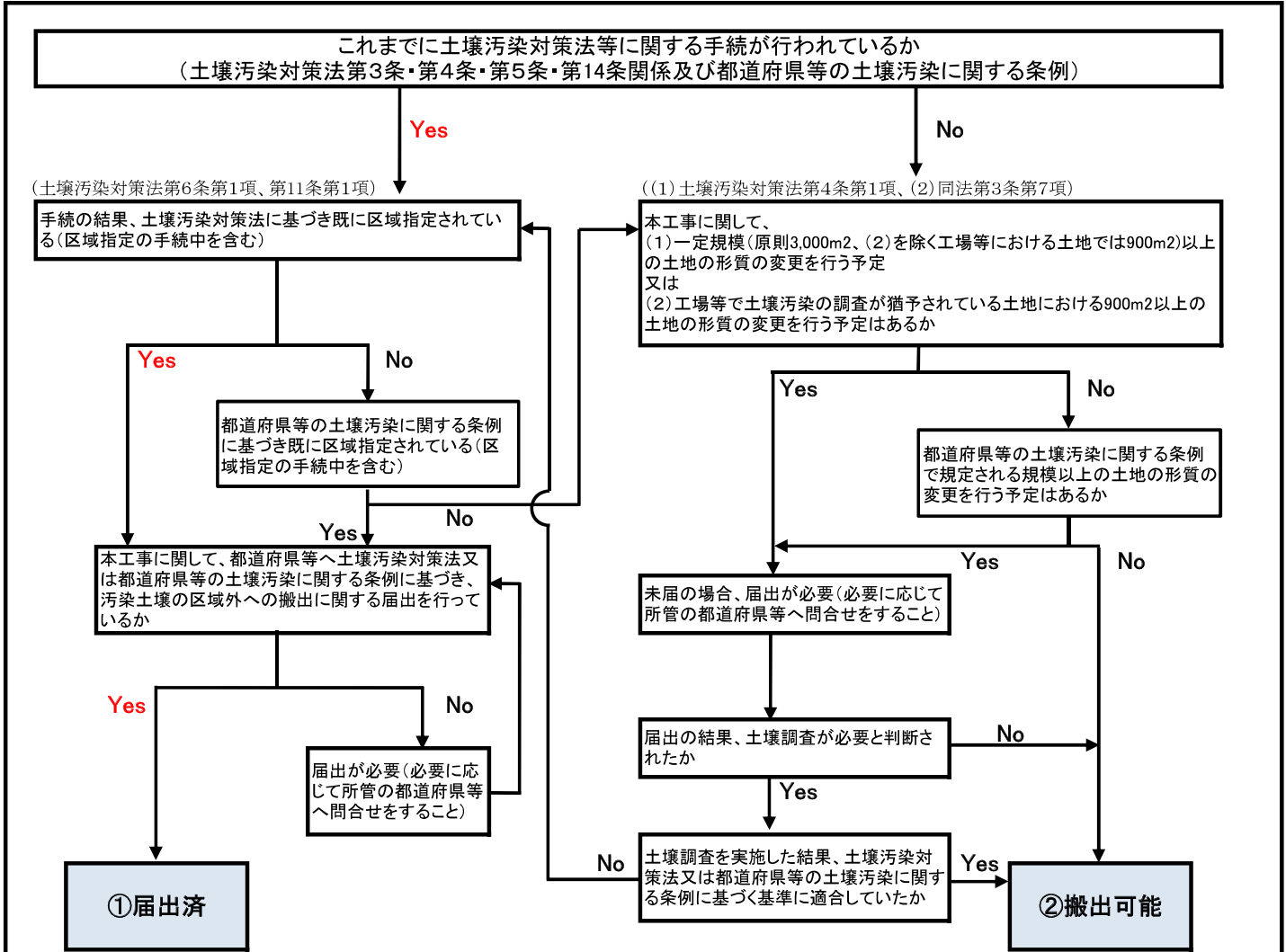
■■■■■■建設工事
責任者(※) ■■■■

土砂受領書

受領先の名称及び所在地 : ■■■■■■建設工事
■■■県■■■市■■■町■■■丁目■■番地■■地内
受領した管理者の商号名 : ■■■■■■建設(株)
搬入元の名称及び所在地 : ●●●●ストックヤード
●●●●県●●●●市●●●●町●●●●丁目●●番地
土砂の搬入量 : 盛土利用等 第1種建設発生土 ●●●●m³ (締固め量)
一時堆積 第1種建設発生土 ●●●●m³ (ほぐし土量)
搬入が完了した日 : 令和●年●月●日

※ 建設業に属する事業を行う者の再生資源の利用に関する判断の基準となるべき事項を定める省令(平成3年建設省令第19号)第10条(管理体制の整備)により定める工事現場における責任者(監理技術者など)

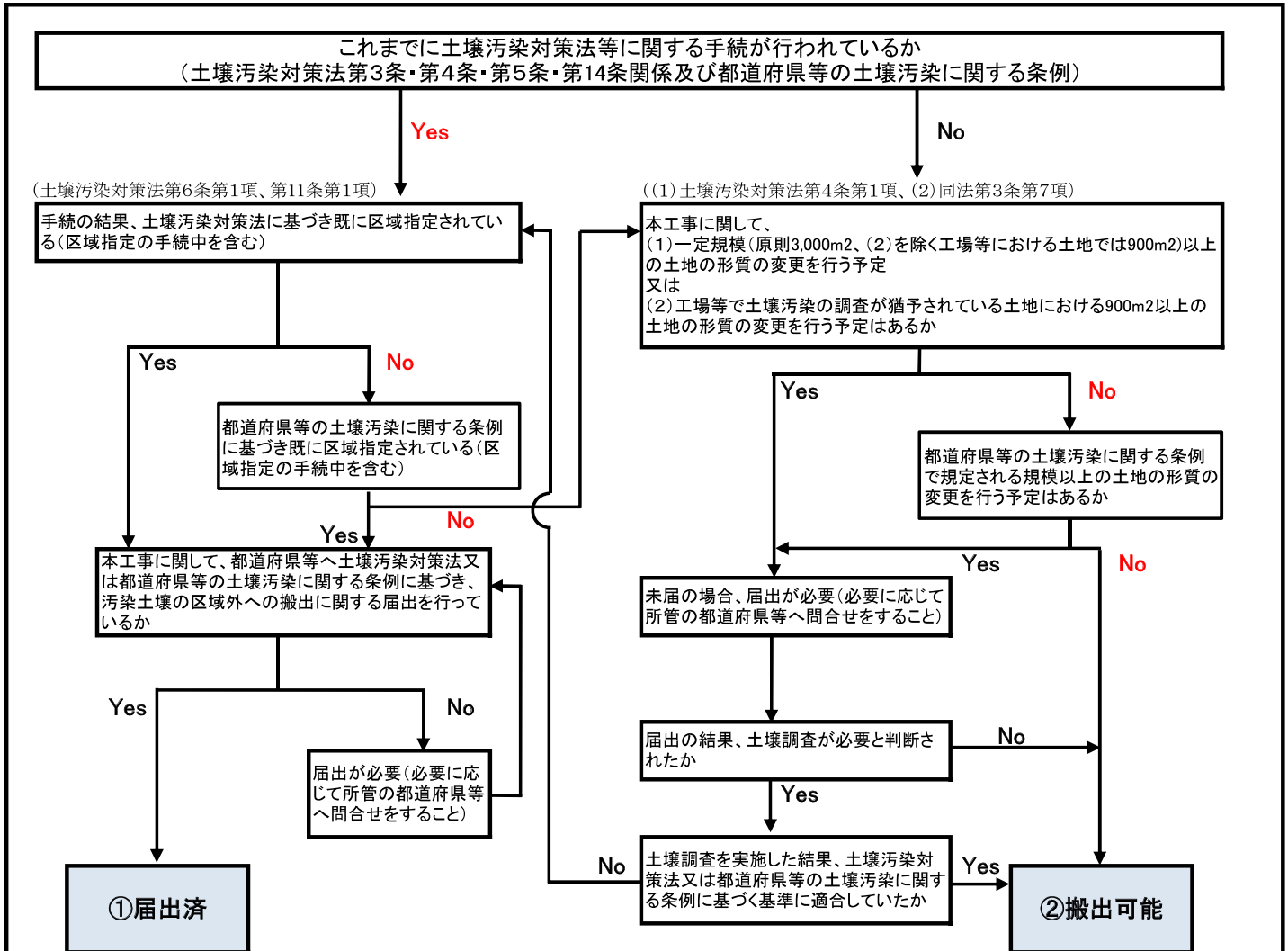
土壌汚染対策法等手続の確認フロー(●●工区)



結果区分	確認結果
①	手続確認済 (区域指定地域に該当し、所管の都道府県等へ汚染土壌の区域外搬出に関する届出済)
(備考)	

【補足事項】

- ・フローのうち該当する箇所(Yes又はNo)を赤色着色ください。
- ・本フローは確認結果票とともに記録・保存してください。
- ・詳細は「確認結果票作成に当たっての解説(土壌汚染対策法等の手続確認編)」を参照ください。



結果区分	確認結果
②	手続確認済(搬出可能)
(備考)	

【補足事項】

- ・フローのうち該当する箇所(Yes又はNo)を赤色に着色ください。
- ・本フローは確認結果票とともに記録・保存してください。
- ・詳細は「確認結果票作成に当たっての解説(土壌汚染対策法等の手続確認編)」を参照ください。

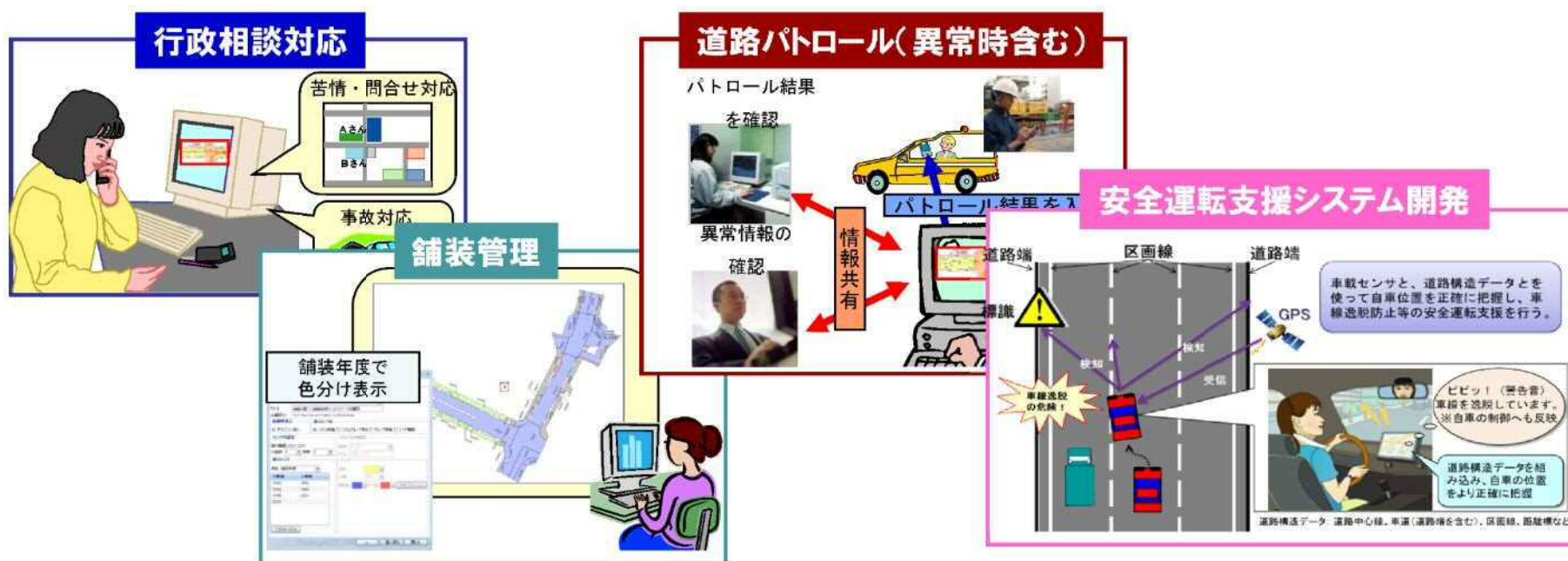
完成平面図の品質チェックの概要

品質チェックの目的

完成平面図は、「道路管理業務」、「災害対応」、「民間利用」等の多様かつ重要な場面での利活用を想定している。

これらの場面において、完成平面図が有効活用されるためには、高い品質(正しい位置、形状、属性情報)の確保が重要である。

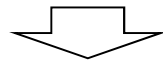
そこで、完成平面図の品質確保のためのチェック作業を実施する。



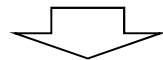
完成平面図品質評価ツール・位置ずれチェックの目的

国土交通省内の全国会議(道路情報管理官会議 2014年9月30日)において、完成平面図の品質確保のために、完成平面図品質評価ツールの試行が決定。

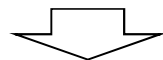
1)現状、完成平面図の品質は「道路工事完成図等チェックプログラムVer.2.4」により最低限のチェック(地物同士の重なり等)を実施(参照 右図緑枠)



2)「完成平面図品質評価ツール」により今まで目視で確認していたチェック(距離標の高さ属性等)の自動化が可能(参照 右図赤枠)

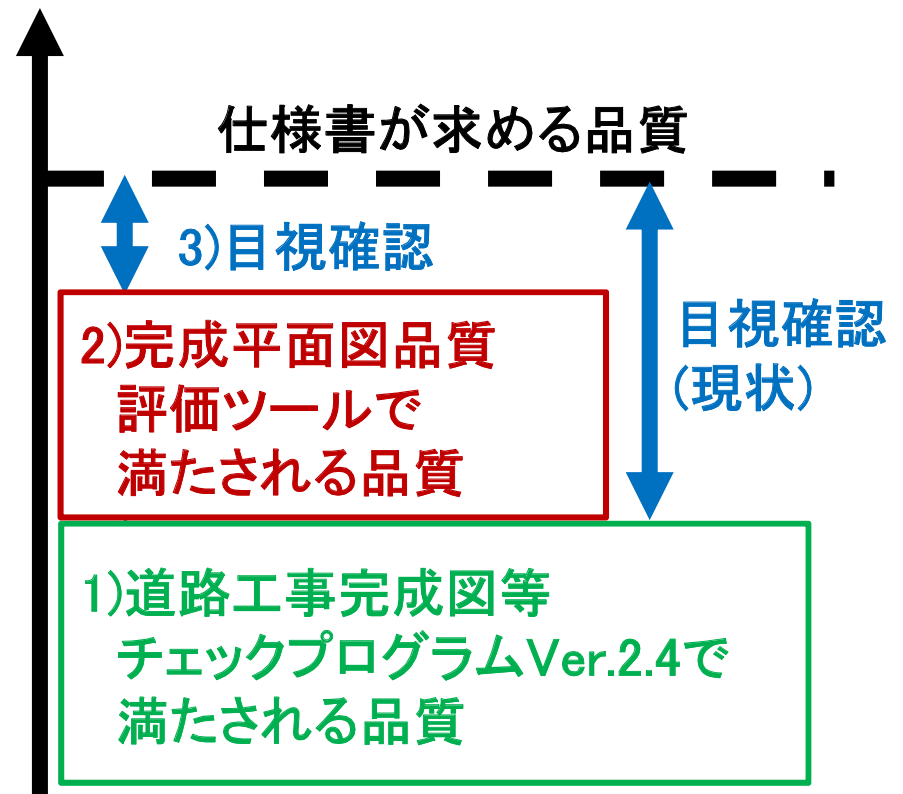


3)目視確認(位置ずれチェック等)



仕様書が求める完成平面図の品質を確保

完成平面図の品質



完成平面図品質評価ツール・位置ずれチェックの概要

- 完成平面図品質評価ツール: 今まで目視確認で行っていた完成平面図の品質チェックの一部を自動的に行うツール
- 完成平面図の位置ずれチェック方法: 完成平面図が実際の位置(座標)とずれがないかを確認する方法を示したマニュアル

■ ダウンロード

http://nilim-cdrw.jp/dl_tool_quality.html

■ 完成平面図品質評価ツールのQ&A

http://nilim-cdrw.jp/qa_quality.html

道路工事完成図等作成支援サイト

国土交通省 国土技術政策総合研究所

国土交通省 国土技術政策総合研究所

道路工事完成図等作成支援サイト

ホーム > 品質評価ツールのダウンロード

■ 品質評価ツール

道路工事完成図等チェックプログラム Ver.2.4 [Download](#)
道路工事完成図等作成要領に準拠した完成平面図CADデータおよび道路施設基本データ
 道路工事完成図等チェックプログラムの関連資料は、こちら

※必ず利用マニュアルを参照し、指示に従いインストールを実施して下さい。

完成平面図品質評価ツール(GIS追加チェックプログラム) 暫定版 [Download](#)
道路工事完成図等作成要領に準拠した完成平面図CADデータについて、地物の正確
 リや離れ)の確認を行うチェックプログラム。

完成平面図の位置ずれチェック方法 [Download](#)
道路工事完成図等作成要領に準拠した完成平面図CADデータについて、実際の位置
 院地図との重ね合わせにより確認する方法を示したマニュアル。

※本ソフトウェアについては、必ず「利用にあたっての注意事項」の内容をお読みください。なお、本ソフトウェアは予告なく変更する場合があります。利用に際しては、本サイトに確認下さい。

ホーム
 完成平面図
 完成縦断面図
 道路施設基本データ
 ダウンロード
 基準類
 作成支援ツール
品質評価ツール
 サンプルデータ
 その他
 Q&A
 ヘルプデスク
 リンク
 サイトマップ

国土交通省 国土技術政策総合研究所

道路工事完成図等作成支援サイト

ホーム > 完成平面図品質評価ツールに関するQ&A

■ 完成平面図品質評価ツールに関するQ&A

完成平面図品質評価ツールで検出されるエラーを紹介します。
 リンクをクリックするとエラー内容と対応方法が表示されます。
 リンクのないエラーについての対応方法は現在準備中ですので、ヘルプデスクまでお問合せください。

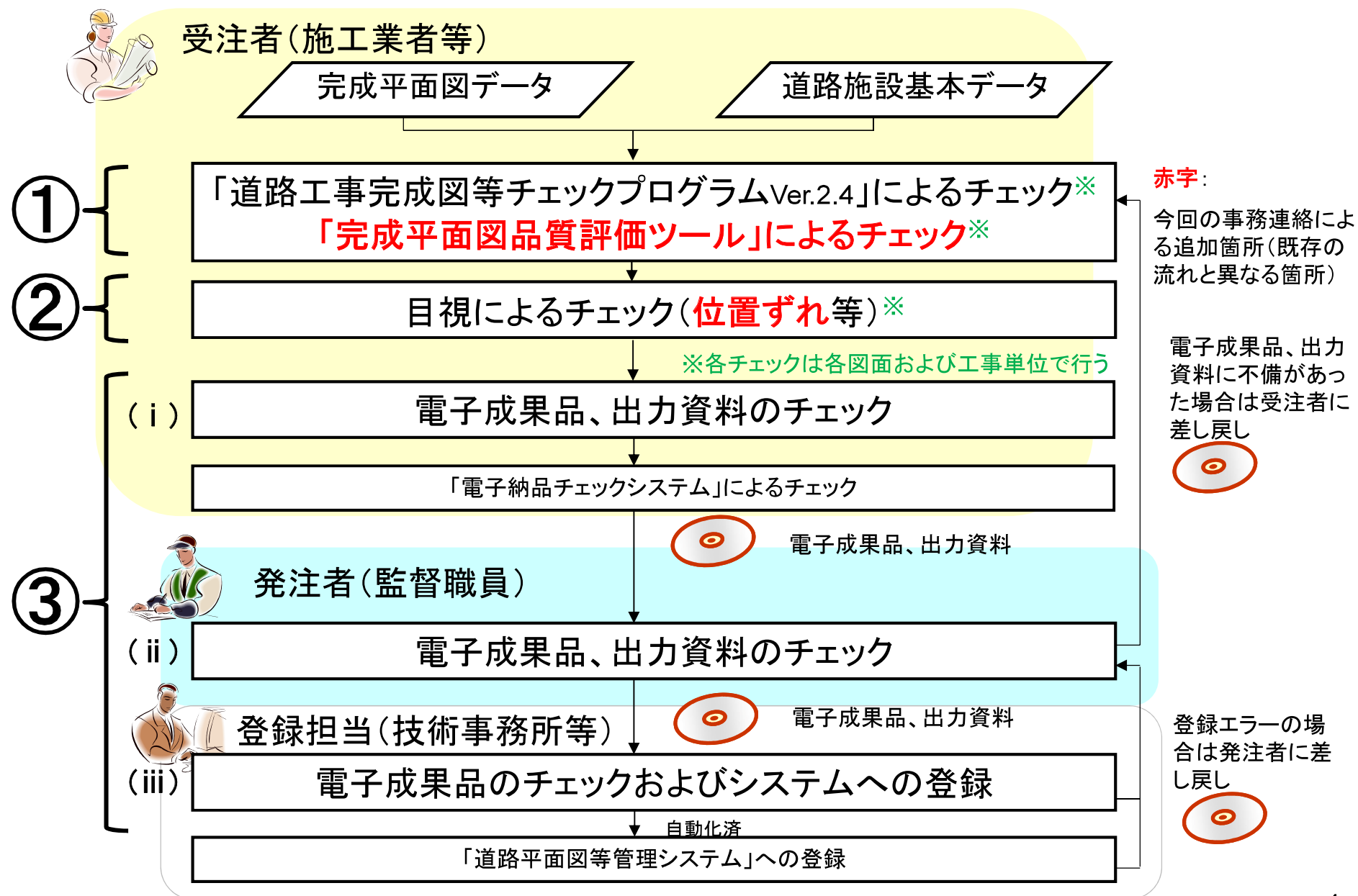
区分	エラー番号	エラーメッセージ
セカンドチェック	E00001	点データを格納するレイヤに、点データ以外の図形があります。
	E00002	線データを格納するレイヤに、線分、折線、円弧以外の図形があります。
	E00003	面データを格納するレイヤに、既定義ハッチング以外の図形があります。
	E00004	斜面对策レイヤに、点(点マーカ)、線(線分/折線/円弧)、面(既定義ハッチング)以外の図形があります。
	E00005	要領で定義されている地物名が、要領で定義されていないレイヤの図形に属性として付加されています。
	E00006	図形データに対応する属性データがありません。
	E00007	属性データに対応する図形データがありません。
	E00008	工期終了日が設置日に入力されている地物がありません。
	E00009	距離標、測点の属性の桁数が、要領通りになっていません。
	E00010	距離標、測点の属性の高さに0.000が入力されています。

ホーム
 完成平面図
 完成縦断面図
 道路施設基本データ
 ダウンロード
 Q&A
 ヘルプデスク
 リンク
 サイトマップ

⇒Q&Aに掲載されていない項目はヘルプデスクにお問い合わせください

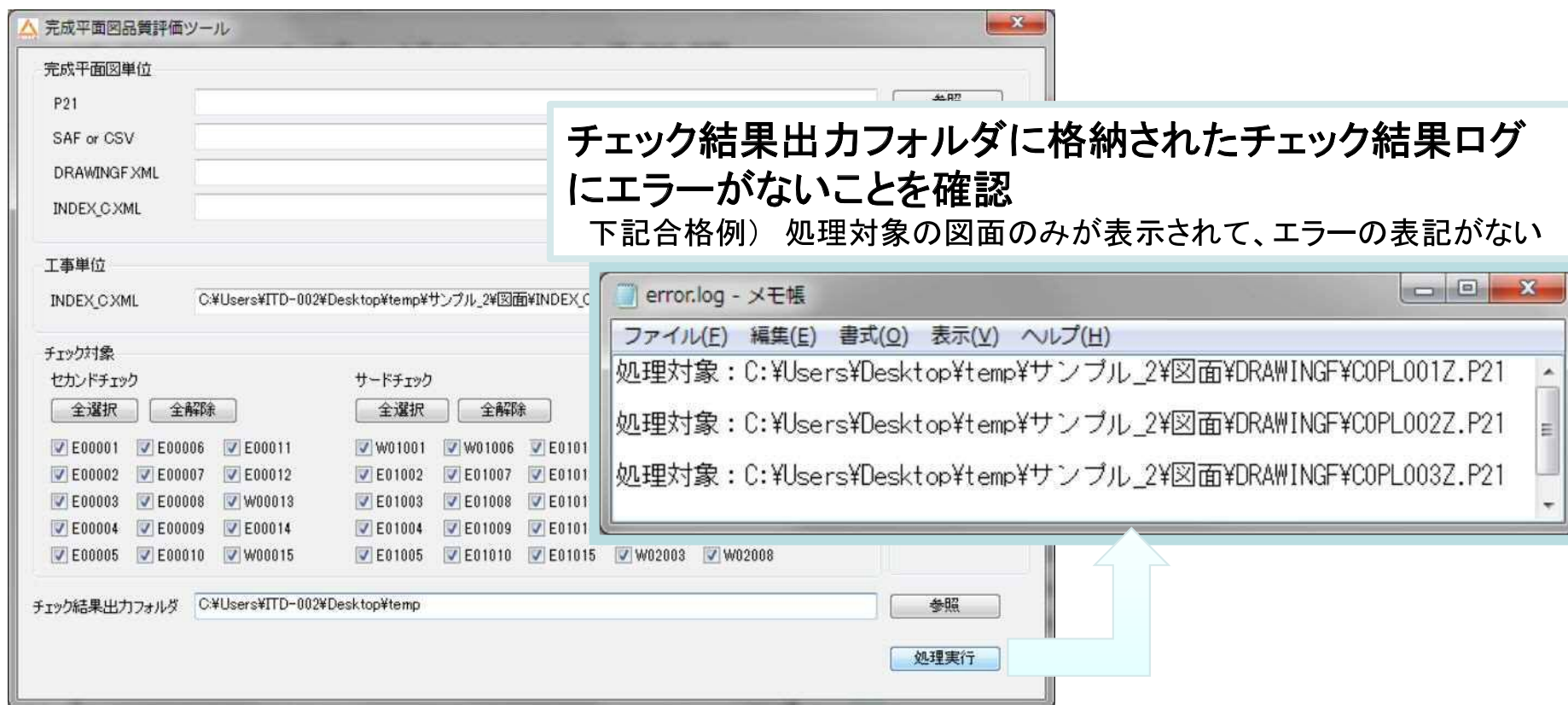
http://nilim-cdrw.jp/index_help.html

データのチェックから登録までの流れ



① 完成平面図品質評価ツールによるチェック

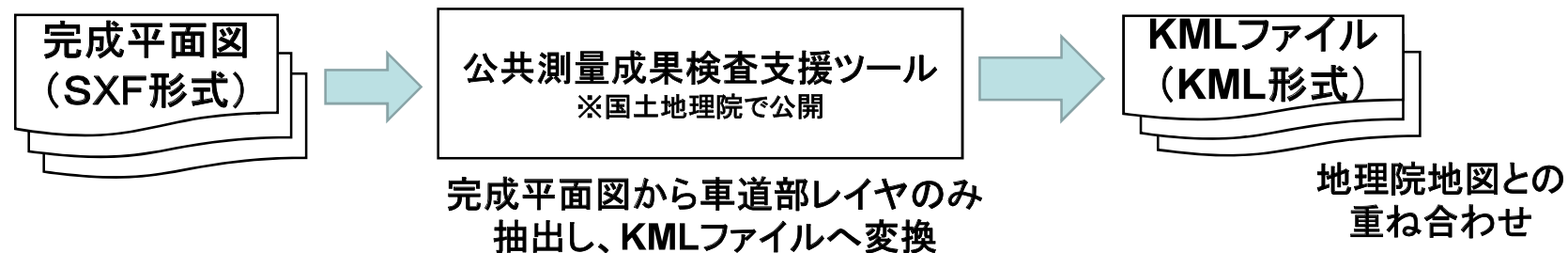
道路工事完成図等チェックプログラムVer.2.4に加えて完成平面図品質評価ツールのチェック結果にエラーがないことを確認



完成平面図品質評価ツールによるチェック結果ログのイメージ

②目視によるチェック(位置ずれチェック等)

完成平面図から抽出・変換した車道部レイヤと地理院地図とを重ね合わせ、位置ずれがないことを確認



○位置ずれなし⇒合格



×位置ずれあり⇒要修正

位置ずれがないことを確認

③電子成果品、出力資料のチェック及びシステム登録

赤字が今回の事務連絡による追加箇所

	資料リスト	(i)受注者	(ii)発注者		(iii)登録担当	
		チェック	チェック	登録担当へ送付	チェック	登録
電子成果品 CD-R, DVD	完成平面図(SXFデータ), 完成縦断図(SXFデータ), 道路施設基本データ, 工事管理ファイル, 図面管理ファイル, その他管理ファイル	●	●	●		●
出力資料	道路工事完成図等チェックプログラム チェック結果記録(様式1)	●	●			
	道路工事完成図等チェックプログラム 「完成平面図」チェック結果記録(様式2)	●	●			
	道路工事完成図等チェックプログラム 結果ログ	●	●	●	●	
	完成平面図品質評価ツール 結果ログ	●	●	●	●	
	完成平面図	●	●			
	完成縦断図	●	●			

サポート体制

ヘルプデスク(道路工事完成図等作成支援サイト併設)

- 各種問合せをヘルプデスク質問送信フォームから送信
回答は3日以内(土日を除く)にメールで返信
- Q & Aは順次更新

国土交通省 国土技術政策総合研究所 道路工事完成図等作成支援サイト ヘルプデスク

ヘルプデスク ホーム > 質問フォーム

■ 質問フォーム

個人情報の取り扱いについて

当サイトで収集する情報は、道路工事完成図等作成要領に関するご質問に対して適切に回答を作成し、ご質問された方に回答するために必要な情報を収集するためのものです。
回答作成のために、個人情報を含むご質問内容を、協力会社へ提供する場合があります。
当サイトは、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律及び国土交通省情報セキュリティポリシーを厳守し、収集目的の範囲を超えて個人情報を利用することはありません。
また、上述の場合を除き、収集した個人情報を他人に知らせたり、漏洩されることのないよう、適切に取り扱います。

[質問フォームへ](#)

受付確認メール

件名: 道路工事完成図等ヘルプデスク 受付確認メール

ご利用ありがとうございます。
ご質問を受け付けました。
後ほど回答をお送りしますので、少々お待ちください。

道路工事完成図等作成支援サイト ヘルプデスク
http://www.nilim-cdrw.jp/
helpdesk@nilim-cdrw.jp

質問を送信する前に、以下の項目を必ず入力してください。
「全項目が必須項目」の場合は、「全項目を必ず入力してください」と表示され、送信できません。
ヘルプデスクでは、できる限り迅速に対応いたします。国土交通省道路局のホームページからお問い合わせ先やお問い合わせ先電話番号、電子メールにてお問い合わせください。
お問い合わせ先が不明な場合は、お問い合わせ先を教えてください。お問い合わせ先が不明な場合は、お問い合わせ先を教えてください。
お問い合わせ先が不明な場合は、お問い合わせ先を教えてください。

ヘルプデスク質問送信フォーム

所属区分(※)

所属部署名(※)

所属部署名(※)

氏名(※)

E-mail(※)

E-mail(再入力)(※)

受注者情報(※)

工事名称(※)

工事番号(※)

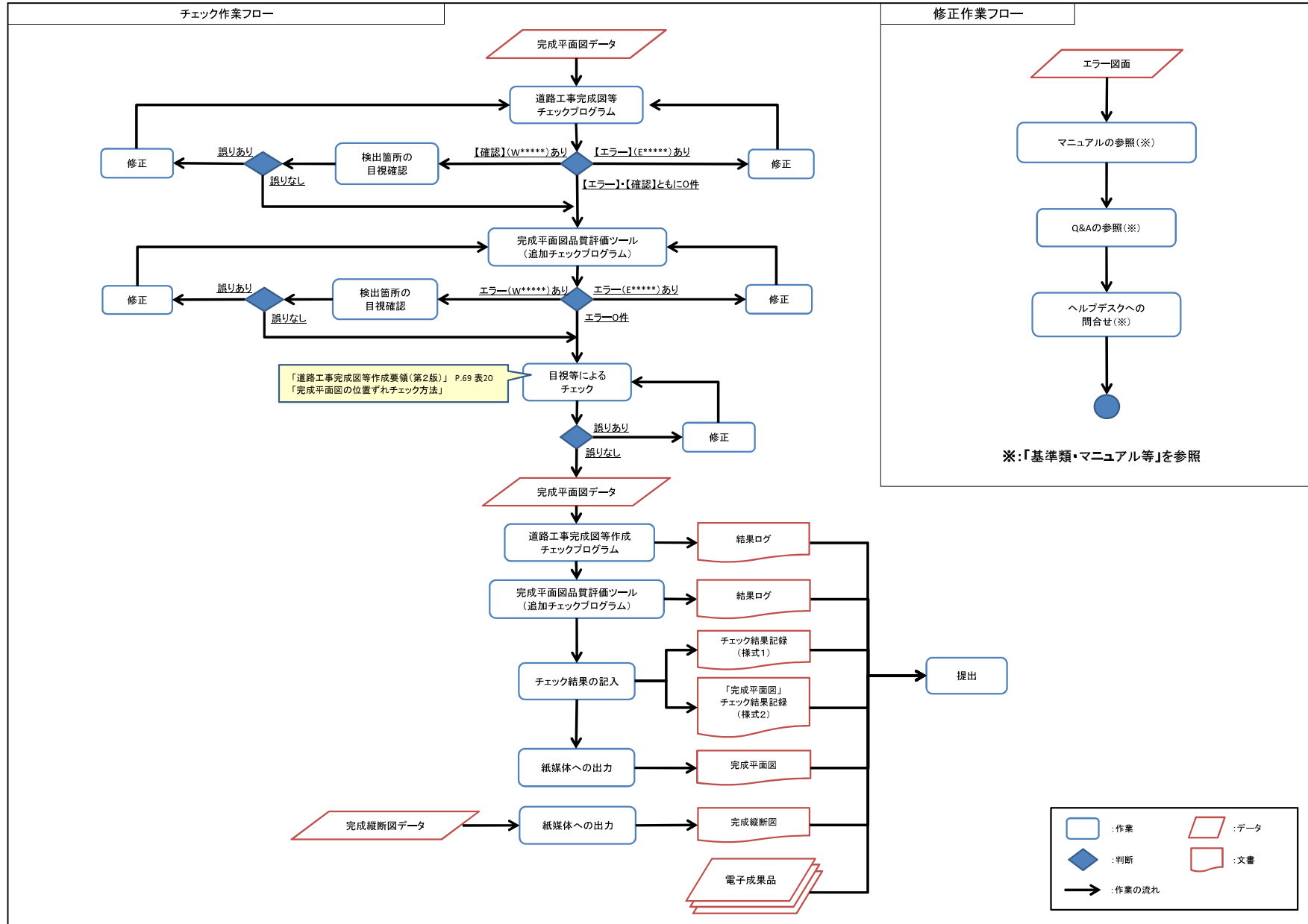
質問の大分類(※)

質問の小分類(※)

質問の内容(※)

送信

完成平面図 チェック作業フロー図



基準類・マニュアル等

	資料リスト	概要	URL
基準類	CAD製図基準(案) 平成20年5月	公共工事における標準的なCAD製図に関する基準を定めたもの	http://www.cals-ed.go.jp/cri_point/
	道路工事完成図等作成要領(第2版) 平成20年12月	完成平面図や道路施設基本データの作成方法、チェック方法を記載したもの(チェック結果記録様式を含む)	http://www.nilim-cdrw.jp/dl_std.html
	道路基盤地図情報交換属性セット(案) 平成20年8月	CAD開発者を対象とした、道路基盤地図情報に変換可能な完成平面図を作成するSXF Ver.3.x(Ver.3.0またはVer.3.1)CADソフトの仕様書	
	道路基盤地図情報製品仕様書(案) 平成20年8月 平成24年3月改訂	GIS利用者を対象とした、道路基盤地図情報そのものの定義や作成例を表すデータ仕様書及びXML Schemaを記載したもの	
	地理情報標準プロファイル(JPGIS) Ver.2.1(平成21年5月)	地理情報規格群の中から、地理空間情報の概念スキーマを記述し符号化するために必要となる基本的な要素を抽出し、体系化したもの	http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis-downloads.html
	地理空間データ製品仕様書作成マニュアル JPGIS Ver.2.1(平成21年7月)	地理情報標準プロファイル(JPGIS)に準拠した地理空間データを整備する際に必要となる、地理空間データ製品仕様書の書き方についてまとめたもの	http://psgsy2.gsi.go.jp/koukyou/download/ps_manual.pdf
マニュアル	道路工事完成図等チェックプログラム Ver.2.4 利用マニュアル(プログラムに同梱)	道路工事完成図等作成要領に準拠した完成平面図データおよび道路施設基本データのチェックを行うためのチェックプログラムについて、検出されるエラーとその対処方法を記したもの(エラーの内容・対処法については巻末資料1・巻末資料2を参照)	http://www.nilim-cdrw.jp/dl_tool_quality.html
	完成平面図品質評価ツール(追加チェックプログラム)のエラー内容(ツールに同梱)	完成平面図品質評価ツール(追加チェックプログラム)について、検出されるエラー内容を説明したもの	
	完成平面図の位置ずれチェック方法	完成平面図が実際の位置(座標)とずれがないか確認する方法を示したマニュアル	
Q&A	完成平面図の作成に関するQ&A	完成平面図の作成に関する質問・回答をまとめたもの	http://www.nilim-cdrw.jp/qa_pv.html
	チェックプログラムに関するQ&A	チェックプログラムの利用方法に関する質問・回答をまとめたもの	http://www.nilim-cdrw.jp/qa_cp.html
	完成平面図品質評価ツールに関するQ&A	完成平面図品質評価ツールで検出されるエラー内容と対処法についての質問・回答をまとめたもの	http://www.nilim-cdrw.jp/qa_quality.html
ヘルプデスク	道路工事完成図等作成要領関連のヘルプデスク	道路工事完成図等作成要領に関連した質問を受け付けているヘルプデスク(24時間メールにて受付)	http://www.nilim-cdrw.jp/index_help.html

電線共同溝管路試験要領（案）

管路試験

管路の布設が終了したら、埋設管路では埋戻し前か終了後に、露出、添架配管ではケーブル入線前に、必ず管路が完全に接続され、良好に布設されているか否かを試験し、試験の結果、不合格の時は、手直しを実施する。

なお、工事完成時には試験表を提出するものとする。

【道路管理用】

(1) 試験項目

管路の試験と種類と適用範囲について表 2. 2-11 に示す。

表 2. 2-11 試験の適用表

管種・管径 試験内容	管 路 及 び 地 下 配 線 管 路								
	鋼管 100A	鋼管 80A	鋼管 65A	鋼管 50A	VE管 82	VE管 70	VE管 50	FEP 80	FEP 50
通 過 試 験	○	○	○	○	○	○	○	○	○
気 圧 試 験	△	△	×	×	×	×	×	×	×

○ : 実施する , △ : 省略しても良い , × : 実施しない

ア 通過試験

引き通し線に毛ブラシ、雑巾の順に清掃用品を取付け、管路内の清掃を行った後、マンドリルまたはテストケーブルを用いて行う試験。

イ 気圧試験

通過試験を行った後、管路内に圧搾空気を送り込み、空気が漏洩するか否かを試験し、管路の水密性を調べる試験。なお、この試験はφ 50mm以下の管路には適用しない。

(2) 試験方法

ア 通過試験

中間試験と最終試験があり、中間試験は管の布設途中において管路を縦断、平面的に曲げた場合、その状況を勘案の上、必要に応じて実施する。

最終試験は1管路区間の布設、埋戻し後（コンクリート打設の場合はコンクリート打設前）に実施し、中間試験を実施したものを必ず実施する。

以下に最終試験を実施する場合の試験方法につき述べるが、中間試験もこれに準ずるものとする。

① 試験材料及び器具

a マンドリル

マンドリルは、直線管路の通過試験の際に使用する木製の棒で、両端に引き通し線が容易に取付けられる構造となっている。材質は容易に摩擦されない堅材（ケヤキ、クスノキ等）で、寸法・形状は表 2. 2-12 及び図 2. 2-55 のとおりである。

表 2. 2-12 マンドリルの規格表 (mm)

管 種	L	ϕ
50AまたはVE54	300	40
65AまたはVE70	300	50
80AまたはVE82	300	70

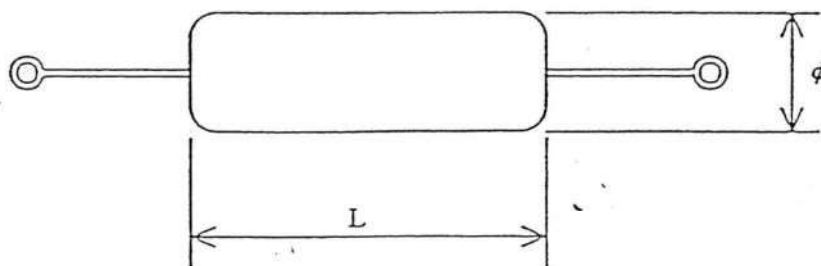


図 2. 2-55 マンドリル形状

b テストケーブル

短区間の配管で、マンドリルによる通過試験が不能の場合に使用するもので、管内径に適合するケーブルをケーブルグリップにより巻きつけツイストレスを経由して引き通し試験をする。これに使用するケーブルは外被にキズが少ないものを用い、管内部のキズを発見できるものでなければならない。

形状・寸法は図2. 2-56及び表2. 2-13のとおりである。

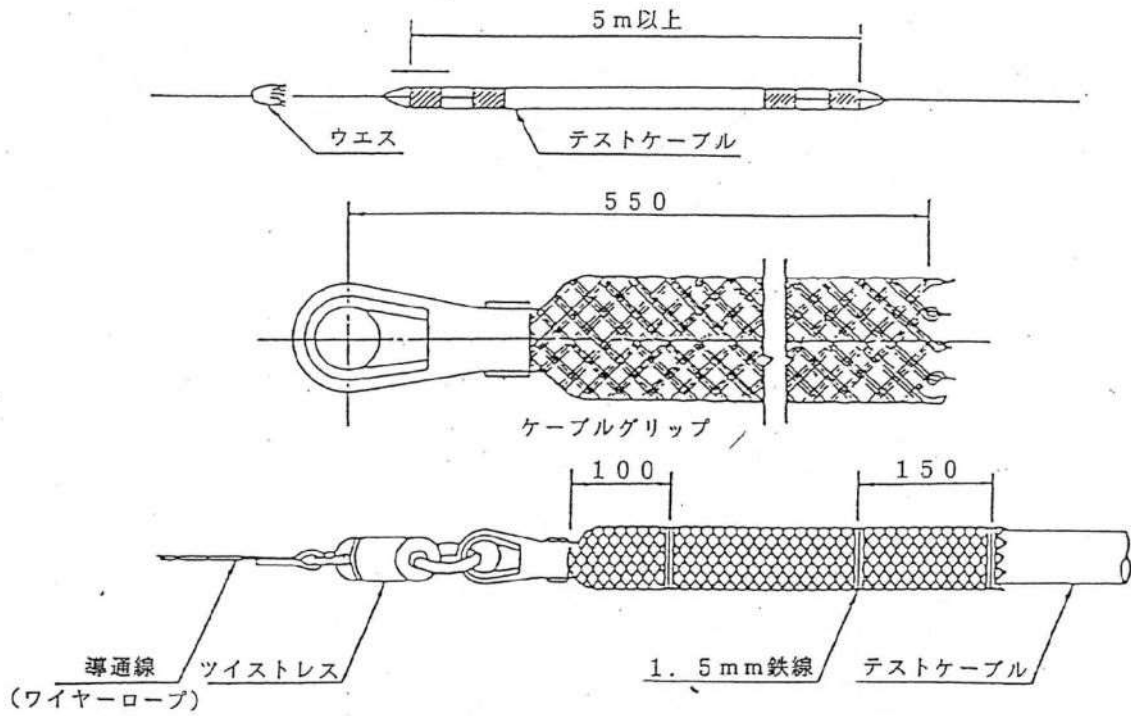


図 2. 2-56 テストケーブル

表 2. 2-13 テストケーブルの規格

用途	管種	使用ケーブル
通信用	50A又はVE54	40φ
	65A又はVE70	50φ
	80A又はVE82	60φ
照明用	50A又はVE54 以上の管	導体断面積が22mm ² 以上の ビニールシースケーブルで、そ の仕上がり外径は管内径の67 %以上のもの

c 引き通し線

通過試験の際に清掃用具及びマンドリル等に管路内を通過させるための引線であり、一般には、φ4.0～4.5mmの鉄線、ワイヤーロープ等を使用する。

d 線とおし材料及び器具

管路内に引通し線を通すために使用する材料及び器具で、短区間では竹材細径のビニールパイプ、又は銅線による。

長い区間は線とおし器具を用い、圧搾空気を利用して行う。

(図 2. 2-57 参照)

e 試験表の提出

管路がマンドリルで通過したか、テストケーブルで通過したかの試験表を提出する。

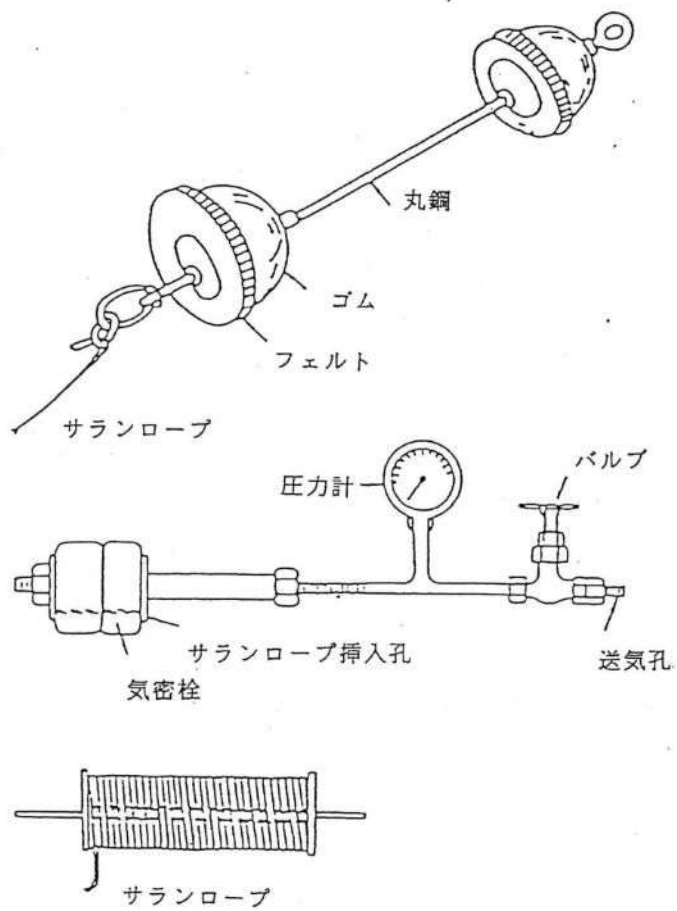


図 2. 2 - 5 7 線とおし器具

e 清掃用具

毛ブラシ、雑巾等があり、管の内面を十分清掃できるものでなければならない。

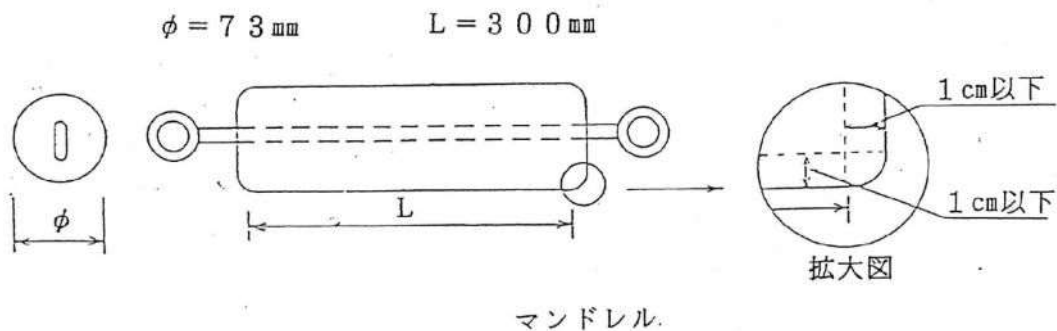
【通信ケーブル（NTT仕様）用】

(1) 試験項目

NTTの通信ケーブルを布設する公称φ75mmPV管の試験項目は、「管路通過性能試験」、「管路接続性能試験」とする。

ア 管路通過性能試験

下図のマンドレルがスムーズに通過すること。



通線後、下図のように毛ブラシ、ウエス（雑巾を40cm間隔で2箇所）の順に取付け、管路内を清掃すること。ウエスの大きさは表2.2-14に示す。



図-1 毛ブラシ、ウエス（雑巾）の取付け

表 2.2-14 通過性能確認ウエス

管 径	ウエスの最小外周長
φ75	23cm以上

イ 管路接続性能試験

・管路接続性能試験方法

管路内空気圧を0.0490Mpa(0.5kgf/c㎡)とし、3分間放置して圧力低下が0.00196Mpa(0.02kgf/c㎡)以下であること。

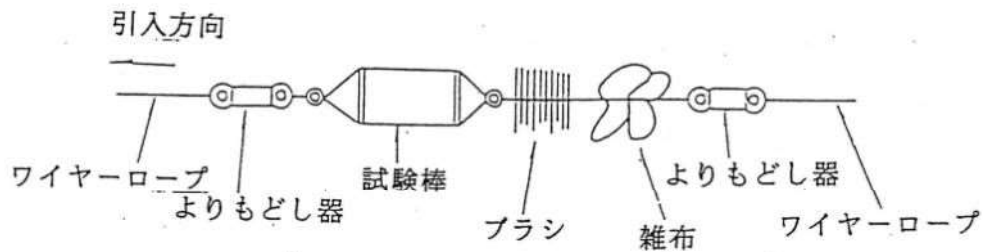
※ 1 kgf/c㎡ = 0.0980665Mpa

・管路接続性能試験の目的

管路が正常に接続され、水密性を保持しているかどうか確認するため。水密性が保持されていない場合、地下水の流入に伴い土砂が管路内に堆積し、ケーブルの布設に支障を生じる。また、ケーブル布設済管路に土砂が堆積した場合、ケーブル更改時の撤去が困難となることが予想される。

【電力ケーブル（中国電力仕様）用】

ケーブルを入れる管路は、事前に清掃と導通試験を行わなければならない。



管路清掃及び導通試験方法例

(1) 試験器具

a 管路導通試験棒（ポビン）

管路導通試験棒（ポビン）は原則として、太さ（管路内径－10mm）×長さ（600mm）ものを使用する。

ただし、曲率半径が小さい場合や管路接続箇所を屈曲させている場合は、下表に示した試験棒長さ以下のものを使用する。（この場合も試験棒太さは管路内径－10mm とする）

曲率半径	接続部角度	試験棒長さ (cm)					
		管路 200mm	管路 150mm	管路 100mm	管路 80mm	管路 75mm	管路 65mm
1.3	0.0	33.4	33.1	32.8	32.7	32.6	32.6
	0.5	32.4	32.1	31.7	31.6	31.6	31.5
	1.0	31.4	31.0	30.7	30.6	30.5	30.5
	1.5	30.4	30.1	29.7	29.6	29.5	29.4
	2.0	29.5	29.1	28.7	28.6	28.6	28.5
	2.5	28.6	28.2	27.8	27.7	27.6	27.5
	3.0	27.8	27.4	27.0	26.8	26.7	26.6
5	0.0	63.8	63.7	63.5	63.5	63.5	63.4
	0.5	59.7	59.5	59.4	59.3	59.3	59.2
	1.0	55.9	55.7	55.5	55.4	55.4	55.3
	1.5	52.3	52.1	51.9	51.8	51.8	51.8
	2.0	49.1	48.8	48.6	48.5	48.5	48.4
	2.5	46.1	45.8	45.6	45.5	45.4	45.4
	3.0	43.3	43.1	42.8	42.7	42.6	42.6
6	0.0	69.8	69.7	69.5	69.5	69.5	69.4
	0.5	64.9	64.7	64.5	64.5	64.5	64.4
	1.0	60.3	60.1	59.9	59.9	59.8	59.8
	1.5	56.1	55.9	55.7	55.6	55.6	55.6
	2.0	52.3	52.1	51.9	51.8	51.7	51.7
	2.5	48.8	48.6	48.3	48.2	48.2	48.2
	3.0	45.7	45.4	45.1	45.0	45.0	45.0
10	0.0	89.9	89.8	89.6	89.6	89.6	89.6
	0.5	81.6	81.5	81.4	81.3	81.3	81.3
	1.0	74.3	74.1	74.0	73.9	73.9	73.9
	1.5	67.7	67.5	67.3	67.3	67.3	67.2
	2.0	61.8	61.7	61.5	61.4	61.4	61.3
	2.5	56.7	56.5	56.3	56.2	56.2	56.1
	3.0	52.2	51.9	51.7	51.6	51.6	51.5
15	0.0	109.9	109.8	109.7	109.7	109.7	109.6
	0.5	97.7	97.6	97.4	97.4	97.4	97.4
	1.0	87.0	86.8	86.7	86.6	86.6	86.6
	1.5	77.7	77.5	77.4	77.3	77.3	77.3
	2.0	69.7	69.5	69.4	69.3	69.3	69.3
	2.5	62.9	62.7	62.5	62.4	62.4	62.4
	3.0	57.0	56.8	56.6	56.5	56.5	56.5

曲率半径	接続部角度	試験棒長さ (cm)					
		管路 200mm	管路 150mm	管路 100mm	管路 80mm	管路 75mm	管路 65mm
20	0.0	126.8	126.7	126.6	126.6	126.6	126.6
	0.5	110.6	110.5	110.4	110.4	110.4	110.3
	1.0	96.8	96.7	96.5	96.5	96.5	96.4
	1.5	85.1	84.9	84.8	84.7	84.7	84.7
	2.0	75.3	75.1	75.0	74.9	74.9	74.8
	2.5	67.1	66.9	66.7	66.7	66.6	66.6
	3.0	60.2	60.0	59.9	59.8	59.8	59.7
25	0.0	141.7	141.6	141.5	141.5	141.5	141.5
	0.5	121.6	121.5	121.4	121.4	121.4	121.4
	1.0	104.8	104.7	104.6	104.5	104.5	104.5
	1.5	90.9	90.8	90.6	90.6	90.6	90.5
	2.0	79.5	79.3	79.2	79.1	79.1	79.1
	2.5	70.2	70.0	69.8	69.8	69.7	69.7
	3.0	62.5	62.3	62.1	62.1	62.1	62.0
30	0.0	155.2	155.1	155.0	155.0	155.0	155.0
	0.5	131.3	131.2	131.4	131.1	131.0	131.0
	1.0	111.6	111.5	111.4	111.3	111.3	111.3
	1.5	95.6	95.5	95.4	95.3	95.3	95.3
	2.0	82.8	82.7	82.5	82.5	82.5	82.4
	2.5	72.5	72.4	72.2	72.2	72.1	72.1
	3.0	64.2	64.1	63.9	63.8	63.8	63.7

(参考) 試験棒長さの算定式

$$\frac{l}{2} = \sqrt{\left(R - \frac{d_1}{2}\right)^2 - \left\{ R - \frac{d_1}{2} \div d - \left(R - \frac{d_1}{2}\right) \cdot \left(1 - \cos\frac{\alpha}{2}\right) \right\}^2} - \left(R - \frac{d_1}{2}\right) \sin\frac{\alpha}{2}$$

- l : 導通可能試験棒長さ
- d : 試験棒外径
- R : 曲管の曲率半径
- d₁ : 管内径
- α : 接続部屈曲角度

表3-4-1 管路材性能規定

①電力用管路材

(a) 合成樹脂管

管種	引張試験	圧縮試験	曲げ強度	偏平試験	水密性	静電誘導試験	耐腐蝕性	ビッカト軟化温度	耐熱試験	耐酸性	ゴム仕様	難燃性	外観性	導通性	接合部			
															接合力	引抜力		
HVP	20℃ 450kgf/cm ² 以上 試験方法 (JIS K 7113)	60℃以上で1時間 状態調整した後、試 験機が0±0.5℃に なつて5分後、管軸 直角方向に 10mm/minの速さで 圧縮した時の偏平 量が管内径の2.5% 以下	規定なし	常温で管軸直角 方向に10mm /minの速さで管 の外径がその 1/2になるまで 圧した時(偏平 試験)管はまっ すく、亀裂お よびひびきが生じ ないこと	管接合部に外水圧 5kgf/cm ² の水圧を3 分間かけ、漏水、そ の他の異常があつ てはならない	静電誘導係 数 最大値0.6以下 平均値0.5以下	60±2℃および80± 5℃、0-6℃で1時間 以上状態調整した 試験体に重錘 (16.16kg)を落 下させたとき、亀裂お よびひびきに支障を きたす変形を生じ ないこと また、試験機先端が 管内面に露出しな いこと	80℃以上 試験方法 (JIS K 7206) 試験荷重: B法 14.5kgf-cm/cm ² 以 上 6ヶ月以上の屋外暴 露後の耐衝撃試験 に合格すること	JIS K 7111 (硬質ア ラバックのケルバ)試験 方法)による測定値 の平均が 14.5kgf-cm/cm ² 以 上 6ヶ月以上の屋外暴 露後の耐衝撃試験 に合格すること	60±2℃で3時間 加熱後、室温ま で冷却したとき の変化率が± 1%以内	JIS K 6353 (水道用ゴム) ゴムの試験 JIS K 6250	60sec.燃焼後、自 然消火	管の断面は同心円 で、かつ管の端面は 管軸に対して直角 とする 直管はまっすく、曲 管は定められた曲 率半径を一律に有 すること	直管は管内径よ り2mm小さい外径を 有する 長さ800mm (±5mm) の導通試験棒が曲 管は呼び径に合 合わせた曲管用試験 棒と試験球が容易 に通ずること	接合力 引抜力	規定なし		
															呼び径 (mm)	接合力 (kgf)	呼び径 (mm)	引抜力 (kgf)
															75	300	100	300
															100	360	125	360
															150	400	150	400
															200	500	200	500

(b) 強化プラスチック複合管

管種	引張試験	圧縮試験	曲げ強度	偏平試験	水密性	静電誘導試験	耐腐蝕性	ビッカト軟化温度	耐熱試験	耐酸性	ゴム仕様	難燃性	外観性	導通性	接合部			
															接合力	引抜力		
FRP	規定なし	規定なし	管の曲げ試験を行った時、その破壊荷重が下記の値以上とする 破壊荷重 呼び径100mm 3300kgf以上 呼び径125mm 3400kgf以上 呼び径150mm 4000kgf以上 呼び径200mm 5000kgf以上 また、下記の荷重時における支持点間中央部のたわみは3.0mm以下とする 呼び径100mm 1100kgf 呼び径125mm 1130kgf 呼び径150mm 1340kgf 呼び径200mm 1670kgf	管は環状圧縮試験を行った時、その破壊荷重が下記の値以上とする 破壊荷重 呼び径100mm 3900kgf以上 呼び径125mm 4200kgf以上 呼び径150mm 5100kgf以上 呼び径200mm 6300kgf以上 また、下記の荷重時の環状中央部の上下直径方向のたわみは次の値以下とする 呼び径 (mm) 荷重 (kgf) たわみ (mm) 100 1300 1.0 125 1400 1.25 150 1700 1.5 200 2100 2.0	管接合部に外水圧 5kgf/cm ² の水 圧を3分間かけ、 漏水、その他の 異常があつては ならない	静電誘導係 数 最大値0.6以下 平均値0.5以下	試験材料に重錘 (16.16kg)を落 下させた時、試 験器の先端が管 を貫通しないこと	規定なし	JIS A 1415 (プ ラシック建築材料 の耐衝撃試験 方法)に規定す る方法で、200 時間促進暴風試 験を行い、強度 保持率が95%以 上とする	熟練化性の樹脂 を原材料として いるので、ケー ブルの発熱や格 面温度の影響に より管の剛性が 低下して内空寸 法が変化すること はない	JIS K 6353 (水道用ゴム) ゴムの試験 JIS K 6250	自消滅のある難 燃性である	管の断面は同心 円で、かつ管の 端面は管軸に対 して直角とする 直管はまっす く、曲管は定め られた曲率半径 を一律に有する こと	直管は管内径よ り2mm小さい 外径を有する 長さ800mm (± 5mm)の導通試験 棒が曲管は呼び 径に合わせた曲 管用試験棒と試 験球が容易に通 ずること	接合力 引抜力	接合した状態で引 抜き試験を行った 時、引き抜き力は次 の値以上		
															呼び径 (mm)	接合力 (kgf)	呼び径 (mm)	引抜力 (kgf)
															100	350	100	350
															125	350	125	350
															150	400	150	400
															200	500	200	500
GRP	規定なし	規定なし	管の曲げ試験を行った時、その破壊荷重が下記の値以上とする 破壊荷重 呼び径100mm 2540kgf以上 呼び径125mm 2850kgf以上 呼び径150mm 3360kgf以上 呼び径200mm 3970kgf以上 また、下記の荷重時における支持点間中央部のたわみは3.0mm以下とする 呼び径100mm 840kgf 呼び径125mm 940kgf 呼び径150mm 1120kgf 呼び径200mm 1320kgf	管は環状圧縮試験を行った時、その破壊荷重が下記の値以上とする 破壊荷重 呼び径100mm 3467kgf以上 呼び径125mm 3870kgf以上 呼び径150mm 4487kgf以上 呼び径200mm 5812kgf以上 また、下記の荷重時の環状中央部の上下直径方向のたわみは次の値以下とする 呼び径 (mm) 荷重 (kgf) たわみ (mm) 100 1152 1.0 125 1256 1.3 150 1499 1.5 200 1937 2.0	管接合部に外水圧 5kgf/cm ² の水 圧を3分間かけ、 漏水、その他の 異常があつては ならない	静電誘導係 数 最大値0.6以下 平均値0.5以下	試験材料に重錘 (16.16kg)を落 下させた時、試 験器の先端が管 を貫通しないこと	規定なし	JIS A 1415 (プ ラシック建築材料 の耐衝撃試験 方法)に規定す る方法で、200 時間促進暴風試 験を行い、強度 保持率が95%以 上とする	熟練化性の樹脂 を原材料として いるので、ケー ブルの発熱や格 面温度の影響に より管の剛性が 低下して内空寸 法が変化すること はない	JIS K 6353 (水道用ゴム) ゴムの試験 JIS K 6250	自消滅のある難 燃性である	管の断面は同心 円で、かつ管の 端面は管軸に対 して直角とする 直管はまっす く、曲管は定め られた曲率半径 を一律に有する こと	直管は管内径よ り2mm小さい 外径を有する 長さ800mm (± 5mm)の導通試験 棒が曲管は呼び 径に合わせた曲 管用試験棒と試 験球が容易に通 ずること	接合力 引抜力	接合した状態で引 抜き試験を行った 時、引き抜き力は次 の値以上		
															呼び径 (mm)	接合力 (kgf)	呼び径 (mm)	引抜力 (kgf)
															100	357	100	357
															125	357	125	357
															150	406	150	408
															200	510	200	510

(c) 鋼管

管種	引張試験	圧縮試験	曲げ強度	偏平試験	水密性	静電誘導試験	耐腐蝕性試験	電気伝導性試験	被覆仕様	ゴム支承	外観性	導通性	接合部	
													接合力	引抜力
軽鋼管 (SS41)	JIS Z 2201, JIS Z 2241による 試験 一般構造用圧延鋼材 (SS41) 引張強さ41kg/mm ² 以上 降伏点 26kg/mm ² 以上 伸び 21%以上	圧縮荷重が以下の値に達した時の管内径のたわみ量は2.5%以下とする 圧縮荷重1.0kg たわみ量 2.2mm以下 呼び径100mm 圧縮荷重15.1kg たわみ量 2.7mm以下 呼び径150mm 圧縮荷重23.1kg たわみ量 4.0mm以下 呼び径200mm 圧縮荷重30.7kg たわみ量 5.2mm以下	曲げ荷重試験での破壊荷重 が以下の値以上 呼び径 90mm180kg 呼び径100mm2400kg 呼び径150mm3450kg 呼び径200mm5600kg	常温で外径 2/3 の 高さまで圧縮し、管 の端に傷、割れなど が生じないこと	水密試験を行った時外水圧 5kg/cm ² 3分間において、 漏れその他の 異常がないこと	静電誘導係 数 最大値0.6以下 平均値0.5以下	試験材料に重錘 (16.16kg)を落 下させた時、試験器の 先端が管を貫通し ないこと	規定なし	JIS H 0401 (溶融亜鉛メッキ 試験方法) 亜鉛メッキ 付着量 60kg/cm ² 以上 (塩化ビニルチモン 法) 均一性 7回以上 (偏析物割合)	JIS K 6353 (水道用ゴム) ゴムの試験 JIS K 6250	管の断面は同心円 で、かつ管の端面は 管軸に対して直角 とする 直管はまっすく、曲 管は定められた曲 率半径を一律に有 すること	直管は管内径よ り2mm小さい外径を 有する 長さ800mm (±5 mm)の導通試験棒が 曲管は呼び径に合 合わせた曲管用試験 棒と試験球が容易 に通ずること	接合力 引抜力	規定なし 規定なし
ESP管	引張強さ41kg/mm ² 以上 降伏点 26kg/mm ² 以上 伸び 18%以上	圧縮荷重が以下の値に達した時の管内径のたわみ量は2.5%以下とする 圧縮荷重1.0kg たわみ量 2.2mm以下 呼び径100mm 圧縮荷重15.1kg たわみ量 2.7mm以下 呼び径150mm 圧縮荷重23.1kg たわみ量 4.0mm以下 呼び径200mm 圧縮荷重30.7kg たわみ量 5.2mm以下	曲げ荷重試験での破壊荷重 が以下の値以上 呼び径 90mm180kg 呼び径100mm2400kg 呼び径150mm3450kg 呼び径200mm5600kg	常温で外径 2/3 の 高さまで圧縮し、管 の端に傷、割れなど が生じないこと	水密試験を行った時外水圧 5kg/cm ² 3分間において、 漏れその他の 異常がないこと	静電誘導係 数 最大値0.6以下 平均値0.5以下	試験材料に重錘 (16.16kg)を落 下させた時、試験器の 先端が管を貫通し ないこと	規定なし	JIS H 0401 (溶融亜鉛メッキ 試験方法) 亜鉛メッキ 付着量 60kg/cm ² 以上 (塩化ビニルチモン 法) 均一性 7回以上 (偏析物割合)	JIS K 6353 (水道用ゴム) ゴムの試験 JIS K 6250	管の断面は同心円 で、かつ管の端面は 管軸に対して直角 とする 直管はまっすく、曲 管は定められた曲 率半径を一律に有 すること	直管は管内径よ り2mm小さい外径を 有する 長さ800mm (±5 mm)の導通試験棒が 曲管は呼び径に合 合わせた曲管用試験 棒と試験球が容易 に通ずること	接合力 引抜力	規定なし 規定なし

d) FEP管

	引張試験	圧縮試験	曲げ強度	偏平試験	水密性	静電抵抗試験	耐衝撃性	ピカット軟化温度	耐熱性試験	耐燃性	ゴム仕様	難燃性	外観性	導通性
角型多層線管 (高純度FEP) (FEP)	規定なし。	JIS C 3653 付属書3で規定された強度評価方法により試験荷重を加えた時の変形率が3.5%以下であること。	規定なし。	規定なし。	管接合部に外水圧を徐々に加え、0.05MPaの水圧の達した後5分間保持し、漏水、その他の異常があつてはならない。	静電抵抗係数 最大値0.9以下 平均値0.8以下	JIS A 8902に規定されたシヨベル丸型の刃先を供試管の管軸に直角にあて、緩衝剤 (CRゴム:厚さ10mm、硬度85) を下面に張り付けた10kgの錘を13cmの高さから自然落下させ供試管の山部、谷部を打撃する。供試管の長さは30cmとし、60±2℃ならびに0±2℃の雰囲気の中で1時間以上状態調整したものを用い、すみやかに試験を行いスコップ先端が管路内に露出しないこと。	115℃以上 試験方法 (JIS K 6922-1)	規定なし。	60±2℃で3時間加熱後、室温まで放冷したときの変化率が±1%以内であること。	規定なし。	JIS C 3564 付属書3製品から採取した長さ600mmの試験体を鉛直に設置し、その下端から100mmの部分にバーナーの炎を接触させ30秒以内に自然消火すること。	品質、外観、形状、寸法および表示について点検	導通試験球が管路内を容易に通過できること。

e) 合成樹脂管

	引張試験	圧縮試験	曲げ強度	偏平試験	水密性	静電抵抗試験	耐衝撃性	ピカット軟化温度	耐熱性試験	耐燃性	ゴム仕様	難燃性	外観性	導通性
直線型合成樹脂管 (PE)	規定なし	60±2℃で1時間状態調整した後、管軸直角方向に10mm/minの速さで圧縮した時の偏平量が管内径の2.5%以下 (規定荷重) φ100:145N φ125:181N φ150:218N	規定なし	常温で管軸直角方向に10mm/minの速さで管の外径がその1/2になるまで圧した時 (偏平試験)、割れおよびひびびが生じないこと	管接合部に外水圧50kPaの水圧を5分間かけ、漏水、その他の異常があつてはならない。	静電抵抗係数 最大値0.9以下 平均値0.8以下	JIS A 8902に規定されたシヨベル丸型の刃先を供試管の管軸に直角にあて、緩衝剤 (CRゴム:厚さ10mm、硬度85) を下面に張り付けた10kgの錘を13cmの高さから自然落下させ打撃する。供試管の長さは30cmとし、60±2℃ならびに0±2℃の雰囲気の中で1時間以上状態調整したものを用い、すみやかに試験を行いスコップ先端が管路内に露出しないこと。	80℃以上 試験方法 (JIS K 7206) 試験荷重: B50法	規定なし	60±2℃で3時間加熱後、室温まで放冷したときの変化率が±1%以内	規定なし	60sec燃焼後、自然消火すること 試験方法 (JIS C 8430-1993)	品質、外観、形状、寸法および表示について点検	導通試験球 (直管内径-2×0.5、-0mm、曲管内径-5×0.5、-0mmの球) が管路内を容易に通過できること。

②通信用管路材
(a) 耐衝撃性塩化ビニル管

	導通性	強度	水密性	耐衝撃性	偏平強度	耐久性	耐薬性・不等沈下	内部腐蝕	耐燃性	耐熱性	導電性	その他	備考				
													引張強さ	CTD	初期変形	耐衝撃強さ	
硬質塩化ビニル管	PV φ75	施工後の検査(通過試験)により、確認(外径70mm、長さ60cmのマンドレルがスムーズに通ること)	引張強度 47.1MPa (480kgf/cm ²)以上 (JIS K 6741の引張試験)	管接合部:所定の気圧(294及び78kPa(3.0及び0.8kgf/cm ²))を20分間加えたとき漏れのないこと	衝撃試験(重量25.8kgを規定の高さ150cm、60cmから落下させる)の結果、試験片が分離、亀裂を生じないこと	偏平量が管の1/2に達した時の荷重が2.45kN以上(23±2°C)試験後認め、ひびのないこと	規定なし(液体輸送管に必要な規定)	変位5以上に耐えられること(形状) (継手に挿入可能があること:伸縮しろ長さ49.7mm以上) (伸縮しろ長さ:地盤30.9mm+温度8.8mm+施工誤差10.0mm=49.7mm)	腐蝕係数0.5以下	自己燃焼性なし(材質)	ピカド軟化温度試験85°C以上(JIS K 7206;試験荷重:A法)	規定なし(防凍対策区間では金属管を適用すること)	管接合部入力(ゴム輪受口):150kgf以内	○	○	○	○
	PV φ50	施工後の検査(通過試験)により、確認(最小外径長13cm以上のウエスを40cmの間隔で2箇所とりつけたものが通過すること)	引張強度 41.7kgf/cm ² 以上 (JIS C 8430)	管接合部:所定の気圧(294及び78kPa(3.0及び0.8kgf/cm ²))を20分間加えたとき漏れのないこと	規定なし(※)	内径線軸まで加圧した時の最大荷重が2.55kN以上(23±2°C)試験後認め、ひびのないこと(JIS C 8430)	規定なし(液体輸送管に必要な規定)	変位5以上に耐えられること(形状) (継手に挿入可能があること:伸縮しろ長さ39.4mm以上) (伸縮しろ長さ:地盤22.9mm+温度6.6mm+施工誤差10.0mm=39.4mm)	腐蝕係数0.5以下	自己燃焼性なし(材質)	規定なし	規定なし(防凍対策区間では金属管を適用すること)	管接合部入力(ゴム輪受口):150kgf以内	○	○	○	-
	VP φ150 JIS E6741 準拠	施工後の検査(通過試験)により、確認(最小外径長42cm以上のウエスを40cmの間隔で2箇所とりつけたものが通過すること)	引張強度 47N/mm ² (480kgf/cm ²)以上	接合部水圧試験、水圧試験(水圧2.0MPa(20.5kgf/cm ²))、1分間放置、試験片1000mm以上「割れその他の欠点のないこと」	規定なし(※)	規定なし	酸、アルカリ等による浸透試験(5時間)の結果、試験後の質量変化率が±0.20(kg/cm ²)以下である。	規定なし(※)	規定なし(※)	規定なし(※)	ピカド軟化温度試験76°C以上(JIS K 7206;試験荷重:B法)	規定なし(防凍対策区間では金属管を適用すること)	規定なし(注3)	○	-	-	-
	VP φ100 JIS K6741 準拠	施工後の検査により、確認(原則として、太さ90mm、長さ600mmの管形通過試験片が5箇所通ること)	引張強度 47.1MPa (480kgf/cm ²)以上 (JIS K 6741)	気密性試験、管接合部に所定の気圧(294及び78kPa(3.0及び0.8kgf/cm ²))を20分間加えたとき漏れのないこと。	規定なし	23°C±2°Cで管軸直角方向に10mm/分±20%の早さで、管の外径がその1/2になるまで圧縮した時(偏平率試験)、管れおよびひびが生じないこと(JIS K 6741)	酸、アルカリ等による浸透試験(5時間)の結果、試験後の質量変化率が±0.20kg/cm ² 以下であること	規定なし(注5)	腐蝕係数最大値0.6以下 平均値0.5以下(注4)	60sec燃焼後、自然消火	ピカド軟化温度試験76°C以上(JIS K 7206;試験荷重:B法)	規定なし(防凍対策区間では金属管を適用すること)	防水パッキンのゴムはJIS K 6363に適合すること。	○ (注4)	-	-	○
	VE JIS C8430 準拠	規定なし	20°C 引張強度 46.1N/mm ² 以上	接合部水圧および外水圧0.4MPa(5kgf/cm ²)3分間放置し、漏れ等のないこと	2.0±0.02kgfのハンマーを10cmの高さから落下し、破壊の兆候がなく、ひび割れ等がないこと	2.0±0.02kgfのハンマーを10cmの高さから落下させたとき、表面除去後減少率10%以下 試験後、目視で認め、ひびのないこと	規定なし	規定なし	規定なし	JIS C 0069に規定する	規定なし			-	○	○	-
	VP φ150 φ200 φ250 JIS E6741 準拠	規定なし	23°C 引張強度 43MPa (JIS K 6741)	気密性試験、管接合部に所定の気圧(294及び78kPa(3.0及び0.8kgf/cm ²))を20分間加えたとき漏れのないこと	147Nの重錘を高さ50cmから落下させたとき、先端部が半壊体を貫通したり、分離、亀裂を生じないこと	23°C±2°Cで管の扁平量が外径の1/2になるまで圧縮し試験後管除去時に試験片の内外面にヒビ、ワレ等生じないこと。(JIS K 6741)	酸・アルカリ等による浸透試験の結果、試験後の質量変化率が±0.20kg/cm ² 以下であること(JIS K 6741-1999)	継手部と地盤時のひずみ量(1/100)を吸収する構造とする。	規定なし	耐熱性試験 JIS C 8430-1993に規定する	ピカド軟化温度試験76°C以上(JIS K 6741)	規定なし		ポディー管			
	SU φ30 φ50	電線の敷設時及び撤去時にケーブルの外装に著しい損傷を与えないこと	23°C引張強度 43MPa以上 (JIS K 6741) 曲線部可とうさや管(φSUφ50)は23°C引張強度30.4MPa以上	規定なし	規定なし	規定なし	規定なし	規定なし	規定なし	耐熱性試験 JIS C 8430-1993に規定する	規定なし	規定なし	規定なし		○	○	○

(※):フリーアクセス(車置)方式の技術仕様において所要機能を満足していることを確認済み
 (注1):管軸線差込み長:120±10mm(欄外記入)が望ましい
 (注2):管端部の内外面取りを施すことが望ましい
 (注3):管接合部入力(ゴム輪受口):180kgf以内が望ましい
 (注4):管端部の内外面取りを施すこと
 (注5):管軸線差込み長:114±10mm(欄外記入)

(b) 鋼管

	導通性	強度	水密性	耐腐蝕性	偏平強度	耐久性	耐震性	不等況下	内腐蝕	耐燃性	耐熱性	導電性	その他	備考			
														製造 試験	QATY	試験 試験	
差込み型 塗布型 鋼管	PL-PS φ75	施工後の検査(面通 試験)により、確認 (外径73mm、長さ 60cmのマンドレル がスムーズに通過 すること)	引張強度29QN/ mm ² 以上(JIS G 3452) (JIS Z 2241の引 張試験による)	管接合部に所定の気圧 (0.91および0.78 kPa(3.0および0.8 kgf/cm ²))を20分間加 えたとき漏れのないこ と	衝撃試験(重量25.8 kgを規定の高さ150 cm(管体部)、60cm (継手部)から落下さ せる)の結果、試験片 が分離したり亀裂を生 じないこと	2枚の平均値に挟み、 管外径の2/3まで圧縮 し、管の壁に傷、潰れ を生じないこと(JIS G 3452)	外面塗布装(ポリリン 被覆)に対して、加熱 偏平、浸せき試験の結 果、亀裂、はく離のな いこと 温度解除試験の結果、 防食層PSの管軸方向 伸縮量が10 mm以内であること	震度5以上で耐えら れること(併設) (継手に伸縮補強が あること)	不等況下に耐えら れること	腐蝕係数0.5以下	不燃性または自消 性のある難燃性で あること	腐蝕の発生熱また は周囲の土壌の影 響による温度変化 によっても所要の 強度が確保できる こと	電気抵抗: 平均値0.74Ω以下で あること [JIS C 3307の600V22cm ² 塩 化ビニル電線を参照表 し、ダブルブリッジ形 の試験器にて電気抵抗 を測定(3線の試験片 の平均値)]	管接合部入力 (ボム輸出口): 300kgf以内	○	○	—

遠隔地からの建設資材調達に係る実施計画書(当初)

様式1-1

建設資材等 名 称	規 格	調 達 地 域 等 (発 注 者)	調 達 地 域 等 (予 定 : 受 注 者)	調 達 等 時 期 (予 定 : 受 注 者)	単 位	調 達 等 定 量 予 数	調達等金額(予定)			備 考
							合計額	材料費	輸送費	
記載例										
骨材	C-40	〇〇地区	△地区	H25.〇中旬	m3	1,000	00,000	00,000	-	資料〇参照
土砂	購入土	〇〇地区	△地区	H25.△初旬	m3	1,200	00,000	00,000	-	資料△参照
アスファルト合材	密粒度As(20)	〇〇地区	△地区	H25.◆初旬	t	3,000	** ,000	** ,000	-	資料◆参照
生コンクリート	18-8-40BB	〇〇地区	△地区	H25.△初旬	m3	500	** ,***	** ,***	-	資料△参照
仮設材(鋼矢板)	IV型	□□市	△市	H25.□初旬	t	30.0	00,000	-	00,000	資料□参照
						計	000,000	000,000	000,000	

【留意事項】

- ・特記事項に記載の建設資材の調達地域等について、受注者が調達地域(当初:予定)を記載する。当該資料は記載事項に関する基礎資料(見積等の確認資料)の総括表として使用するものとし、受注者において、工事打合簿(提出)に(当該資料は当初契約段階において受注者の任意に設定する購入・調達条件であり、ひっ迫による変更が生じた際の基礎資料となるもの。)
- ・工程進捗において調達時期を数回行う場合は、調達時期毎に記載内容をまとめるものとする。

遠隔地からの建設資材調達に係る実施計画書(変更)

建設資材 等 名 称	規 格	調 達 地 域 等 (当初:受注者)	調 達 地 域 等 (変更:受注者)	調 達 等 時 期 (変更予定)	単 位	調 達 等 予 定 数 量 (当初)	調 達 等 予 定 数 量 (変更)	調 達 等 金 額 (予 定)						変 更 理 由	備 考
								差 額 (予定)	合 計 額 (変更)	材 料 費 (当初)	輸 送 費 (当初)	材 料 費 (変更)	輸 送 費 (変更)		
記載例															
骨材	C-40	〇〇地区	△地区	H25.〇中旬	m3	1,000	500	00,000	00,000	00,000	-	*0,000	-	当初購入先において、建設資材等の ひっ迫による入荷遅延から、当初計画 が守れず、やむを得ず在庫を持つ購 入先に変更する事となり材料費に増し 分費用が発生したため。(※変更理由 等は資料等参照)	資料-1(変更)参照
土砂	購入土	〇〇地区	△地区	H25.△初旬	m3	1,200	1,700	00,000	00,000	00,000	-	*0,000	-	同上	同上
アスファルト合材	密粒度As(20)	〇〇地区	△地区	H25.◆初旬	t	3,000	4,500	-	-	**0,000	-	**0,000	-		変更なし
生コンクリート	18-8-40BB	〇〇地区	△地区	H25.△初旬	m3	500	600	-	-	***0,000	-	***0,000	-		変更なし
仮設材(鋼矢板)	IV型	□□市	△市	H25.□初旬	t	30.0	28.5	-	-	-	00,000	-	00,000		変更なし
計								000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000		

【留意事項】

- ・受注者が建設資材のひっ迫により調達地域を変更せざるを得ない場合に、購入・調達条件の当初・変更を記載する。当該資料は記載事項に関する基礎資料(見積等の確認資料)の総括表として使用するものとし、受注者において、工事打合簿(協議)にて提出するものとする。
- ・発注者は当該計画(変更)の妥当性など資料を確認のうえ、工事打合簿(承諾)にて「当該計画(変更)について承諾するので、納入後に実施に関して支払関係資料の提出を行うこと」などと回答を行う。
- ・受注者において、調達時期を数回行う場合は、調達時期毎に記載するものとする。変更が無いものについても記載するものとする。

遠隔地からの建設資材調達に係る実施計画書(実施)

建設資材等 名 称	規 格	調達地域等 (当初:受注者)	調達地域等 (変更:受注者)	調達等時期 (変更予定)	単 位	調 達 等 予 定 数 量	調 達 等 予 定 数 量	調 達 等 金 額 (予 定)					変 更 理 由	備 考	
								差 額 (予定)	合 計 (実施)	材 料 (当初)	輸 送 (当初)	材 料 (実施)			輸 送 (実施)
記載例															
骨材	C-40	〇〇地区	△地区	H25.〇中旬	m ³	1,000	600	00,000	00,000	00,000	-	*0,000	-	当初購入先において、建設資材等のひっ迫による入荷遅延から、当初計画が守れず、やむを得ず在庫を持つ購入先に変更する事となり材料費に増し分費用が発生したため。(※変更理由等は資料等参照)	資料-1(実施)参照
土砂	購入土	〇〇地区	△地区	H25.△初旬	m ³	1,200	1,650	00,000	00,000	00,000	-	*0,000	-	同上	同上
アスファルト合材	密粒度As(20)	〇〇地区	△地区	H25.◆初旬	t	3,000	4,300	-	-	**0,000	-	**0,000	-		変更なし
生コンクリート	18-8-40BB	〇〇地区	△地区	H25.△初旬	m ³	500	650	-	-	**0,000	-	**0,000	-		変更なし
仮設材(鋼矢板)	IV型	□□市	△市	H25.□初旬	t	30.0	28.0	-	-	-	00,000	-	00,000		変更なし
								計	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000		

【留意事項】

- ・受注者が建設資材のひっ迫に伴い購入・調達条件の変更に伴う費用の当初・実施の支払額を記載し、記載事項に関する基礎資料(支払状況がわかる確認資料)の総括表として使用し、受注者において、工事打合簿(協議)にて提出するものとする。
- ・発注者は当該計画(実施)の妥当性など資料を確認のうえ、工事打合簿(通知)にて「当該計画(実施)について承諾し、変更対象とする。」などと回答を行う。
- ・受注者において、調達時期を数回行う場合は、調達時期毎に記載するものとする。

実績変更対象費に関する実施計画書(当初)

費目		費用	内容	計上額
共通仮設費	営繕費	借上費	現場事務所、試験室、労働者宿舎、倉庫、材料保管場所等の敷地借上げに要する地代及びこれらの建物を建築する代わりに貸しビル、マンション、民家等を長期借上げする場合に要する費用	
		宿泊費	労働者が、旅館、ホテル等に宿泊する場合に要する費用	
		労働者送迎費	労働者をマイクロバス等で日々当該現場に送迎輸送(水上輸送を含む)をするために要する費用(運転手賃金、車両損料、燃料費等含む)	
	小計			
現場管理費	労務管理費	募集及び開催に要する費用	労働者の赴任手当、労働者の帰省旅費、労働者の帰省手当	
		賃金以外の食事、通勤等に要する費用	労働者の食事補助、交通費の支給	
	小計			
合計				

実績変更対象費に関する実施計画書(実施)

費目		費用	内容	当初計上額	変更計上額	差額
共通仮設費	営繕費	借上費	現場事務所、試験室、労働者宿舎、倉庫、材料保管場所等の敷地借上げに要する地代及びこれらの建物を建築する代わりに貸しビル、マンション、民家等を長期借上げする場合に要する費用			
		宿泊費	労働者が、旅館、ホテル等に宿泊する場合に要する費用			
		労働者送迎費	労働者をマイクロバス等で日々当該現場に送迎輸送(水上輸送を含む)をするために要する費用(運転手賃金、車両損料、燃料費等含む)			
	小計					
現場管理費	労務管理費	募集及び開催に要する費用	労働者の赴任手当、労働者の帰省旅費、労働者の帰省手当			
		賃金以外の食事、通勤等に要する費用	労働者の食事補助、交通費の支給			
	小計					
合計						

工事数量総括表

工 事 数 量 総 括 表

工 事 名 国道 9 号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側)

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
電線共同溝		式		1		
開削土工		式		1		
掘削工 (夜間)		式		1		
開削掘削	土砂	m3		550		
開削掘削(二次掘削)	土砂 特殊部沈下埋設型	m3		60		
埋戻し工 (夜間)		式		1		
埋戻し・締固め	土砂	m3		280		
埋戻し・締固め	中埋砂	m3		150		
残土処理工		式		1		
電線共同溝工		式		1		
管路工(管路部) (夜間)		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
埋設管路	角型FEP φ130	m		22		
埋設管路	角型FEP φ100	m		294		
埋設管路	角型FEP φ75	m		465		
埋設管路	HIVP φ100	m		316		
埋設管路	VP φ200	m		136		
埋設管路	VP φ150	m		192		
埋設管路	PV φ50	m		211		
埋設管路	VE φ70	m		150		
埋設管路 (曲管(R10))	HIVP φ100	m		162		
埋設管路 (曲管(R10))	VP φ200	m		34		
埋設管路 (EB曲管(R10))	VP φ150	m		51		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
埋設管路 (曲管(R10))	PV φ 50	m		212		
埋設管路 (曲管(R10))	VE φ 70	m		91		
埋設管路 (曲管(R6))	HIVP φ 100	m		12		
埋設管路 (EB曲管(R6))	VP φ 150	m		9		
埋設管路 (曲管(R6))	PV φ 50	m		23		
埋設管路 (曲管(R6))	VE φ 70	m		9		
中間継手	角型FEP φ 130用	個		2		
中間継手	角型FEP φ 100用	個		6		
中間継手	角型FEP φ 75用	個		14		
中間継手	HIVP φ 100用	個		6		
中間継手	VP φ 200用	個		4		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
中間継手	VPφ150用	個		5		
中間継手	PVφ50用	個		11		
中間継手	VEφ70用	個		6		
防水栓	VPφ150用	個		2		
鞘管固定管 (起点側)	VPφ200用 ホール固定	個		4		
鞘管固定管 (終点側)	VPφ200用 ホール固定	個		4		
埋設標示シート	W300 2倍	m		607		
敷砂		m ³		16		
コンクリート	超速硬コンクリート	m ³		2		
型枠		式		1		
セラミック防護板	W100 t=7mm	m		21		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
エキスパンションメタル	XG14 2枚重ね	m2		11		
鋼板防護	SS400 t=16mm	m2		4		
管路布設工 (夜間)		式		1		
管路受台	φ100-150P HIVP用	個		687		
管路受台	φ200-300P VP用	個		184		
管路受台	φ150-220P VP用	個		138		
管路受台	φ50-95P PV用	個		548		
管路受台	φ70-130P VE用	個		560		
プレキャストボックス工(特殊部) (夜間)		式		1		
プレキャストボックス (MN2)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (MN1-1)	内幅 1.35m/2.15m 内高 1.8m RC-40	個		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
プレキャストボックス (MN1)	内幅 1.35m/2.15m 内高 1.8m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (AN1)	内幅 1.2m 内高 1.5m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (TN2)	内幅 1m 内高 1.5m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (TN1)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (TN3)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		
舗装工		式		1		
切削オーバーレイ工 (夜間)		式		1		
切削オーバーレイ (切削オーバーレイ(A))	7cmを超え12cm以下 一層 段差すりつけ無 再生粗粒度Asポリマー改質I型(20)DS3000	m2		735		
殻運搬(路面切削)	As切削屑	m3		74		
殻処分	As切削屑	m3		74		
排水性舗装工 (車道舗装(A))(夜間)		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
排水性舗装・表層(車道・路肩部)	ポ-ラスAs(13)DS3000 2.4m以上 舗装厚 50mm	m2		841		
透水性舗装工 (歩道舗装(A))(夜間)		式		1		
表層	ポ-ラスAs(13) 2.4m以上 舗装厚 40mm	m2		502		
透水性舗装工 (歩道舗装(B))(夜間)		式		1		
表層	ポ-ラスAs(13) 2.4m以上 舗装厚 50mm	m2		258		
アスファルト舗装工 (舗装復旧(A))(夜間)		式		1		
下層路盤(車道・路肩部)	再生クラッシュ RC-40 仕上り厚 200mm	m2		106		
上層路盤(車道・路肩部)	粒度調整碎石 M-40 仕上り厚 150mm	m2		106		
上層路盤(車道・路肩部)	再生As安定処理(30) 仕上り厚 80mm	m2		106		
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度Asポリマー改質I型(20)DS3000 舗装厚 50mm 1.4m未満	m2		106		
透水性舗装工 (舗装復旧(B))(夜間)		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m2		234		
下層路盤(歩道部) (路盤)	クラッシュラン C-30 仕上り厚 100mm	m2		234		
透水性舗装工 (舗装復旧(C))(夜間)		式		1		
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m2		80		
下層路盤(歩道部) (路盤)	再生クラッシュラン RC-40 仕上り厚 150mm	m2		80		
区画線工		式		1		
区画線工 (夜間)		式		1		
溶融式区画線	溶融式手動 実線 15cm 白色 厚1.5mm 排水性舗装有	m		220		
排水構造物工		式		1		
排水性舗装用路肩排水工 (夜間)		式		1		
導水管(A)		m		220		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
構造物撤去工		式		1		
構造物取壊し工 (夜間)		式		1		
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下	m		660		
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cmを超え30cm以下	m		180		
舗装版破碎	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cm以下	m2		767		
舗装版破碎	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cmを超え35cm以下	m2		106		
運搬処理工		式		1		
殻運搬 (夜間)	アスファルト殻	m3		52		
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3		52		
仮設工		式		1		
作業土工 (夜間)		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
残土処理工		式		1		
固結工 (夜間)		式		1		
土留・仮締切工 (夜間)		式		1		
仮舗装工 (仮舗装(A))(夜間)		式		1		
仮舗装工 (仮舗装(B))(夜間)		式		1		
構造物取壊し工 (夜間)		式		1		
運搬処理工		式		1		
交通管理工		式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		
共通仮設費		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
運搬費		式		1		
建設機械運搬費		式		1		
仮設材運搬費		式		1		
技術管理費		式		1		
道路施設基本データ作成費		式		1		
道路工事完成図作成費		式		1		
現場環境改善費(率計上)		式		1		
共通仮設費(率計上)		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		
工事原価		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
一般管理費等		式		1		
工事価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
工事費計		式		1		

工 事 数 量 総 括 表

工 事 名 国道 9 号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側)

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
電線共同溝		式		1		
開削土工		式		1		
掘削工 (夜間)		式		1		
開削掘削	土砂	m3		610		
開削掘削(二次掘削)	土砂 特殊部沈下埋設型	m3		70		
埋戻し工 (夜間)		式		1		
埋戻し・締固め	土砂	m3		300		
埋戻し・締固め	中埋砂	m3		160		
残土処理工		式		1		
電線共同溝工		式		1		
管路工(管路部) (夜間)		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
埋設管路	角型FEP φ130	m		356		
埋設管路	角型FEP φ100	m		353		
埋設管路	角型FEP φ75	m		607		
埋設管路	HIVP φ125	m		82		
埋設管路	HIVP φ100	m		79		
埋設管路	VP φ200	m		123		
埋設管路	VP φ150	m		139		
埋設管路	PV φ50	m		159		
埋設管路	VE φ70	m		45		
埋設管路 (曲管(R10))	HIVP φ125	m		83		
埋設管路 (曲管(R10))	HIVP φ100	m		84		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
埋設管路 (曲管(R10))	VP φ 200	m		62		
埋設管路 (EB曲管(R10))	VP φ 150	m		73		
埋設管路 (曲管(R10))	PV φ 50	m		256		
埋設管路 (曲管(R10))	VE φ 70	m		73		
埋設管路 (曲管(R6))	VP φ 200	m		7		
埋設管路 (EB曲管(R6))	VP φ 150	m		7		
中間継手	角型FEP φ 130用	個		6		
中間継手	角型FEP φ 100用	個		10		
中間継手	角型FEP φ 75用	個		12		
中間継手	HIVP φ 125用	個		4		
中間継手	HIVP φ 100用	個		6		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
中間継手	VPφ200用	個		4		
中間継手	VPφ150用	個		4		
中間継手	PVφ50用	個		14		
中間継手	VEφ70用	個		4		
防水栓	VPφ150用	個		2		
鞘管固定管 (起点側)	VPφ200用 ボルト固定	個		4		
鞘管固定管 (終点側)	VPφ200用 ボルト固定	個		4		
埋設標示シート	W300 2倍	m		580		
敷砂		m ³		16		
コンクリート	超速硬コンクリート	m ³		2		
型枠		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
セラミック防護板	W100 t=7mm	m		15		
エキスパンションメタル	XG14 2枚重ね	m2		11		
鋼板防護	SS400 t=16mm	m2		7		
管路布設工 (夜間)		式		1		
管路受台	φ125-250P HIVP用	個		274		
管路受台	φ100-150P HIVP用	個		273		
管路受台	φ200-300P VP用	個		245		
管路受台	φ150-220P VP用	個		136		
管路受台	φ50-95P PV用	個		569		
管路受台	φ70-130P VE用	個		323		
プレキャストボックス工(特殊部) (夜間)		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
プレキャストボックス (MS2)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (MS3)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (MS1)	内幅 1.35m/2.15m 内高 1.8m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (MS1-1)	内幅 1.35m/2.15m 内高 1.8m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (AS1)	内幅 1.2m 内高 1.5m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (TS2)	内幅 1m 内高 1.5m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (TS1)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (BS1-1)	内幅 0.6m 内高 0.475m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (BS1)	内幅 0.6m 内高 0.475m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (BS2)	内幅 0.6m 内高 0.475m RC-40	個		1		
舗装工		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
切削オーバーレイ工 (夜間)		式		1		
切削オーバーレイ (切削オーバーレイ(A))	7cmを超え12cm以下 一層 段差すりつけ無 再生粗粒度Asポリマー改質 I 型 (20)DS3000	m2		1,010		
殻運搬(路面切削)	As切削屑	m3		102		
殻処分	As切削屑	m3		102		
排水性舗装工 (車道舗装(A))(夜間)		式		1		
排水性舗装・表層(車道・路肩部)	ポラスAs(13)DS3000 2.4m以上 舗装厚 50mm	m2		1,130		
透水性舗装工 (歩道舗装(A))(夜間)		式		1		
表層	ポラスAs(13) 2.4m以上 舗装厚 40mm	m2		329		
透水性舗装工 (歩道舗装(B))(夜間)		式		1		
表層	ポラスAs(13) 2.4m以上 舗装厚 50mm	m2		264		
アスファルト舗装工 (舗装復旧(A))(夜間)		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
下層路盤(車道・路肩部)	再生クラッシュラン RC-40 仕上り厚 200m m	m2		113		
上層路盤(車道・路肩部)	粒度調整砕石 M-40 仕上り厚 150m m	m2		113		
上層路盤(車道・路肩部)	再生As安定処理(30) 仕上り厚 80m m	m2		113		
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度Asポリマー改質 I 型(20)D S3000 舗装厚 50mm 1.4m未満	m2		113		
透水性舗装工 (舗装復旧(B))(夜間)		式		1		
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m2		237		
下層路盤(歩道部) (路盤)	クラッシュラン C-30 仕上り厚 100mm	m2		237		
透水性舗装工 (舗装復旧(C))(夜間)		式		1		
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m2		80		
下層路盤(歩道部) (路盤)	再生クラッシュラン RC-40 仕上り厚 150m m	m2		80		
区画線工		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
区画線工 (夜間)		式		1		
溶融式区画線	溶融式手動 実線 15cm 白色 厚1.5mm 排水性舗装有	m		220		
排水構造物工		式		1		
排水性舗装用路肩排水工 (夜間)		式		1		
導水管(A)		m		220		
構造物撤去工		式		1		
構造物取壊し工 (夜間)		式		1		
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下	m		610		
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cmを超え30cm以下	m		190		
舗装版破砕	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cm以下	m ²		610		
舗装版破砕	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cmを超え30cm以下	m ²		113		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
運搬処理工		式		1		
殻運搬 (夜間)	アスファルト殻	m3		47		
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3		47		
仮設工		式		1		
作業土工 (夜間)		式		1		
残土処理工		式		1		
固結工 (夜間)		式		1		
土留・仮締切工 (夜間)		式		1		
仮舗装工 (仮舗装(A))(夜間)		式		1		
仮舗装工 (仮舗装(B))(夜間)		式		1		
構造物取壊し工 (夜間)		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
運搬処理工		式		1		
交通管理工		式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		
共通仮設費		式		1		
運搬費		式		1		
建設機械運搬費		式		1		
仮設材運搬費		式		1		
技術管理費		式		1		
道路施設基本データ作成費		式		1		
道路工事完成図作成費		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
現場環境改善費(率計上)		式		1		
共通仮設費(率計上)		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		
工事原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
工事価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
工事費計		式		1		

工 事 数 量 総 括 表

工 事 名 国道 9 号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側)

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
電線共同溝		式		1		
開削土工		式		1		
掘削工 (夜間)		式		1		
開削掘削	土砂	m3		560		
開削掘削(二次掘削)	土砂 特殊部沈下埋設型	m3		50		
埋戻し工 (夜間)		式		1		
埋戻し・締固め	土砂	m3		290		
埋戻し・締固め	中埋砂	m3		150		
残土処理工		式		1		
電線共同溝工		式		1		
管路工(管路部) (夜間)		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
埋設管路	角型FEP φ130	m		22		
埋設管路	角型FEP φ100	m		634		
埋設管路	角型FEP φ75	m		587		
埋設管路	HIVP φ100	m		48		
埋設管路	VP φ200	m		113		
埋設管路	VP φ150	m		150		
埋設管路	PV φ50	m		135		
埋設管路	VE φ70	m		110		
埋設管路 (曲管(R10))	HIVP φ100	m		55		
埋設管路 (曲管(R10))	VP φ200	m		55		
埋設管路 (EB曲管(R10))	VP φ150	m		74		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
埋設管路 (曲管(R10))	PVφ50	m		202		
埋設管路 (曲管(R10))	VEφ70	m		81		
埋設管路 (曲管(R6))	HIVPφ100	m		35		
埋設管路 (EB曲管(R6))	VPφ150	m		4		
埋設管路 (曲管(R6))	PVφ50	m		80		
埋設管路 (曲管(R6))	VEφ70	m		32		
中間継手	角型FEPφ130用	個		2		
中間継手	角型FEPφ100用	個		8		
中間継手	角型FEPφ75用	個		21		
中間継手	HIVPφ100用	個		6		
中間継手	VPφ200用	個		4		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
中間継手	VPφ150用	個		5		
中間継手	PVφ50用	個		11		
中間継手	VEφ70用	個		6		
防水栓	VPφ150用	個		2		
鞘管固定管 (起点側)	VPφ200用 ボルト固定	個		4		
鞘管固定管 (終点側)	VPφ200用 ボルト固定	個		4		
埋設標示シート	W300 2倍	m		618		
敷砂		m ³		15		
コンクリート	超速硬コンクリート	m ³		2		
型枠		式		1		
セラミック防護板	W100 t=7mm	m		14		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
エキスパントメタル	XG14 2枚重ね	m2		8		
鋼板防護	SS400 t=16mm	m2		3		
管路布設工 (夜間)		式		1		
管路受台	φ100-150P HIVP用	個		260		
管路受台	φ200-300P VP用	個		209		
管路受台	φ150-220P VP用	個		138		
管路受台	φ50-95P PV用	個		580		
管路受台	φ70-130P VE用	個		559		
プレキャストボックス工(特殊部) (夜間)		式		1		
プレキャストボックス (MN3)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (MN5)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40	個		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
プレキャストボックス (MN4)	内幅 1.35m/2.15m 内高 1.8m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (AN2)	内幅 1.2m 内高 1.5m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (TN5)	内幅 1m 内高 1.5m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (TN4)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (TN6)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (BN1(2連))	内幅 0.6m 内高 0.475m RC-40	個		1		
舗装工		式		1		
切削オーバーレイ工 (夜間)		式		1		
切削オーバーレイ (切削オーバーレイ(A))	7cmを超え12cm以下 一層 段差すりつけ無 再生粗粒度Asポリマー改質 I 型 (20)DS3000	m2		1,140		
殻運搬(路面切削)	As切削屑	m3		114		
殻処分	As切削屑	m3		114		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
排水性舗装工 (車道舗装(A))(夜間)		式		1		
排水性舗装・表層(車道・路肩部)	ポ-ラスAs(13)DS3000 2.4m以上 舗装厚 50mm	m2		1,250		
透水性舗装工 (歩道舗装(A))(夜間)		式		1		
表層	ポ-ラスAs(13) 2.4m以上 舗装厚 40m m	m2		335		
透水性舗装工 (歩道舗装(B))(夜間)		式		1		
表層	ポ-ラスAs(13) 2.4m以上 舗装厚 50m m	m2		269		
アスファルト舗装工 (舗装復旧(A))(夜間)		式		1		
下層路盤(車道・路肩部)	再生クワッチャレン RC-40 仕上り厚 200m m	m2		110		
上層路盤(車道・路肩部)	粒度調整碎石 M-40 仕上り厚 150m m	m2		110		
上層路盤(車道・路肩部)	再生As安定処理(30) 仕上り厚 80m m	m2		110		
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度Asポリマー改質 I 型(20)D S3000 舗装厚 50mm 1.4m未満	m2		110		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
透水性舗装工 (舗装復旧(B))(夜間)		式		1		
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m2		227		
下層路盤(歩道部) (路盤)	クラッシュラン C-30 仕上り厚 100mm	m2		227		
透水性舗装工 (舗装復旧(C))(夜間)		式		1		
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m2		55		
下層路盤(歩道部) (路盤)	再生クラッシュラン RC-40 仕上り厚 150mm	m2		55		
区画線工		式		1		
区画線工 (夜間)		式		1		
溶融式区画線	溶融式手動 実線 15cm 白色 厚1.5mm 排水性舗装有	m		250		
排水構造物工		式		1		
排水性舗装用路肩排水工 (夜間)		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
導水管(A)		m		251		
構造物撤去工		式		1		
構造物取壊し工 (夜間)		式		1		
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下	m		530		
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cmを超え30cm以下	m		200		
舗装版破碎	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cm以下	m ²		626		
舗装版破碎	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cmを超え35cm以下	m ²		111		
運搬処理工		式		1		
殻運搬 (夜間)	アスファルト殻	m ³		48		
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m ³		48		
仮設工		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
作業土工 (夜間)		式		1		
残土処理工		式		1		
固結工 (夜間)		式		1		
土留・仮締切工 (夜間)		式		1		
仮舗装工 (仮舗装(A))(夜間)		式		1		
仮舗装工 (仮舗装(B))(夜間)		式		1		
構造物取壊し工 (夜間)		式		1		
運搬処理工		式		1		
交通管理工		式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
共通仮設費		式		1		
運搬費		式		1		
建設機械運搬費		式		1		
仮設材運搬費		式		1		
技術管理費		式		1		
道路施設基本データ作成費		式		1		
道路工事完成図作成費		式		1		
現場環境改善費(率計上)		式		1		
共通仮設費(率計上)		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
工事原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
工事価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
工事費計		式		1		

工 事 数 量 総 括 表

工 事 名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側)

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
電線共同溝		式		1		
開削土工		式		1		
掘削工 (夜間)		式		1		
開削掘削	土砂	m3		550		
開削掘削(二次掘削)	土砂 特殊部沈下埋設型	m3		50		
埋戻し工 (夜間)		式		1		
埋戻し・締固め	土砂	m3		260		
埋戻し・締固め	中埋砂	m3		160		
残土処理工		式		1		
電線共同溝工		式		1		
管路工(管路部) (夜間)		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
埋設管路	角型FEP φ 100	m		406		
埋設管路	角型FEP φ 75	m		564		
埋設管路	HIVP φ 125	m		103		
埋設管路	HIVP φ 100	m		91		
埋設管路	VP φ 250	m		67		
埋設管路	VP φ 200	m		25		
埋設管路	VP φ 150	m		133		
埋設管路	PV φ 50	m		185		
埋設管路	VE φ 70	m		53		
埋設管路 (曲管(R10))	HIVP φ 125	m		98		
埋設管路 (曲管(R10))	HIVP φ 100	m		94		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
埋設管路 (曲管(R10))	VP φ 250	m		62		
埋設管路 (曲管(R10))	VP φ 200	m		22		
埋設管路 (EB曲管(R10))	VP φ 150	m		84		
埋設管路 (曲管(R10))	PV φ 50	m		163		
埋設管路 (曲管(R10))	VE φ 70	m		46		
埋設管路 (曲管(R6))	HIVP φ 125	m		20		
埋設管路 (曲管(R6))	HIVP φ 100	m		35		
埋設管路 (曲管(R6))	PV φ 50	m		71		
埋設管路 (曲管(R6))	VE φ 70	m		20		
中間継手	角型FEP φ 100用	個		9		
中間継手	角型FEP φ 75用	個		12		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
中間継手	HIVP φ 125用	個		4		
中間継手	HIVP φ 100用	個		6		
中間継手	VP φ 250用	個		3		
中間継手	VP φ 200用	個		1		
中間継手	VP φ 150用	個		4		
中間継手	PV φ 50用	個		14		
中間継手	VE φ 70用	個		4		
防水栓	VP φ 150用	個		2		
鞘管固定管 (起点側)	VP φ 250用 ホール固定	個		3		
鞘管固定管 (終点側)	VP φ 250用 ホール固定	個		3		
鞘管固定管 (起点側)	VP φ 200用 ホール固定	個		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
鞘管固定管 (終点側)	VPφ200用 ボルト固定	個		1		
埋設標示シート	W300 2倍	m		541		
敷砂		m3		14		
コンクリート	超速硬コンクリート	m3		3		
型枠		式		1		
セミック防護板	W100 t=7mm	m		31		
エキスパントメタル	XG14 2枚重ね	m2		14		
鋼板防護	SS400 t=16mm	m2		8		
管路布設工 (夜間)		式		1		
管路受台	φ125-250P HIVP用	個		367		
管路受台	φ100-150P HIVP用	個		377		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
管路受台	φ250-325P VP用	個		184		
管路受台	φ200-300P VP用	個		65		
管路受台	φ150-220P VP用	個		138		
管路受台	φ50-95P PV用	個		554		
管路受台	φ70-130P VE用	個		313		
プレキャストボックス工(特殊部) (夜間)		式		1		
プレキャストボックス (MS4)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (MS6)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (MS5)	内幅 1.35m/2.15m 内高 1.8m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (AS2)	内幅 1.2m 内高 1.5m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (AS3)	内幅 1.2m 内高 1.5m RC-40	個		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
プレキャストボックス (TS3)	内幅 1m 内高 1.5m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (TS4)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (TS5)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		
プレキャストボックス (BS3)	内幅 0.6m 内高 0.475m RC-40	個		1		
舗装工		式		1		
切削オーバーレイ工 (夜間)		式		1		
切削オーバーレイ (切削オーバーレイ(A))	7cmを超え12cm以下 一層 段差すりつけ無 再生粗粒度Asポリマー改質I型(20)DS3000	m2		1,150		
殻運搬(路面切削)	As切削屑	m3		115		
殻処分	As切削屑	m3		115		
排水性舗装工 (車道舗装(A))(夜間)		式		1		
排水性舗装・表層(車道・路肩部)	ポラスAs(13)DS3000 2.4m以上 舗装厚50mm	m2		1,280		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
透水性舗装工 (歩道舗装(A))(夜間)		式		1		
表層	ポーラスAs(13) 2.4m以上 舗装厚 40m m	m2		350		
透水性舗装工 (歩道舗装(B))(夜間)		式		1		
表層	ポーラスAs(13) 2.4m以上 舗装厚 50m m	m2		235		
アスファルト舗装工 (舗装復旧(A))(夜間)		式		1		
下層路盤(車道・路肩部)	再生クラッシュラン RC-40 仕上り厚 200m m	m2		126		
上層路盤(車道・路肩部)	粒度調整碎石 M-40 仕上り厚 150m m	m2		126		
上層路盤(車道・路肩部)	再生As安定処理(30) 仕上り厚 80m m	m2		126		
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度Asポリマー改質I型(20)D S3000 舗装厚 50mm 1.4m未満	m2		126		
透水性舗装工 (舗装復旧(B))(夜間)		式		1		
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m2		213		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
下層路盤(歩道部) (路盤)	クラッシュラン C-30 仕上り厚 100mm	m2		213		
透水性舗装工 (舗装復旧(C))(夜間)		式		1		
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m2		54		
下層路盤(歩道部) (路盤)	再生クラッシュラン RC-40 仕上り厚 150mm	m2		54		
区画線工		式		1		
区画線工 (夜間)		式		1		
溶融式区画線	溶融式手動 実線 15cm 白色 厚1.5mm 排水性舗装有	m		250		
溶融式区画線	溶融式手動 実線 30cm 黄色 厚1.5mm 排水性舗装有	m		110		
排水構造物工		式		1		
排水性舗装用路肩排水工 (夜間)		式		1		
導水管(A)		m		251		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
構造物撤去工		式		1		
構造物取壊し工 (夜間)		式		1		
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下	m		560		
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cmを超え30cm以下	m		240		
舗装版破碎	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cm以下	m2		596		
舗装版破碎	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cmを超え35cm以下	m2		127		
運搬処理工		式		1		
殻運搬 (夜間)	アスファルト殻	m3		49		
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3		49		
仮設工		式		1		
作業土工 (夜間)		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
残土処理工		式		1		
固結工 (夜間)		式		1		
土留・仮締切工 (夜間)		式		1		
仮舗装工 (仮舗装(A))(夜間)		式		1		
仮舗装工 (仮舗装(B))(夜間)		式		1		
構造物取壊し工 (夜間)		式		1		
運搬処理工		式		1		
交通管理工		式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		
共通仮設費		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
運搬費		式		1		
建設機械運搬費		式		1		
仮設材運搬費		式		1		
技術管理費		式		1		
道路施設基本データ作成費		式		1		
道路工事完成図作成費		式		1		
現場環境改善費(率計上)		式		1		
共通仮設費(率計上)		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		
工事原価		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
一般管理費等		式		1		
工事価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
工事費計		式		1		

工 事 数 量 総 括 表

工 事 名 国道 9 号乙吉電線共同溝PFI事業(橋梁部)

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(橋梁部) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
電線共同溝		式		1		
電線共同溝工		式		1		
橋梁添架工 (夜間)		式		1		
1号添架		m		108		
2号添架		m		109		
異種管継手	HIVP φ125-SGP φ125	個		4		
異種管継手	HIVP φ100-SGP φ100	個		10		
異種管継手	VE φ70-SGP φ80	個		8		
異種管継手	PV φ50-SGP φ50	個		24		
橋台コア削孔工 (夜間)		式		1		
コンクリート削孔	穿孔径 φ120 削孔長 L=0.5m	孔		6		

工事数量総括表

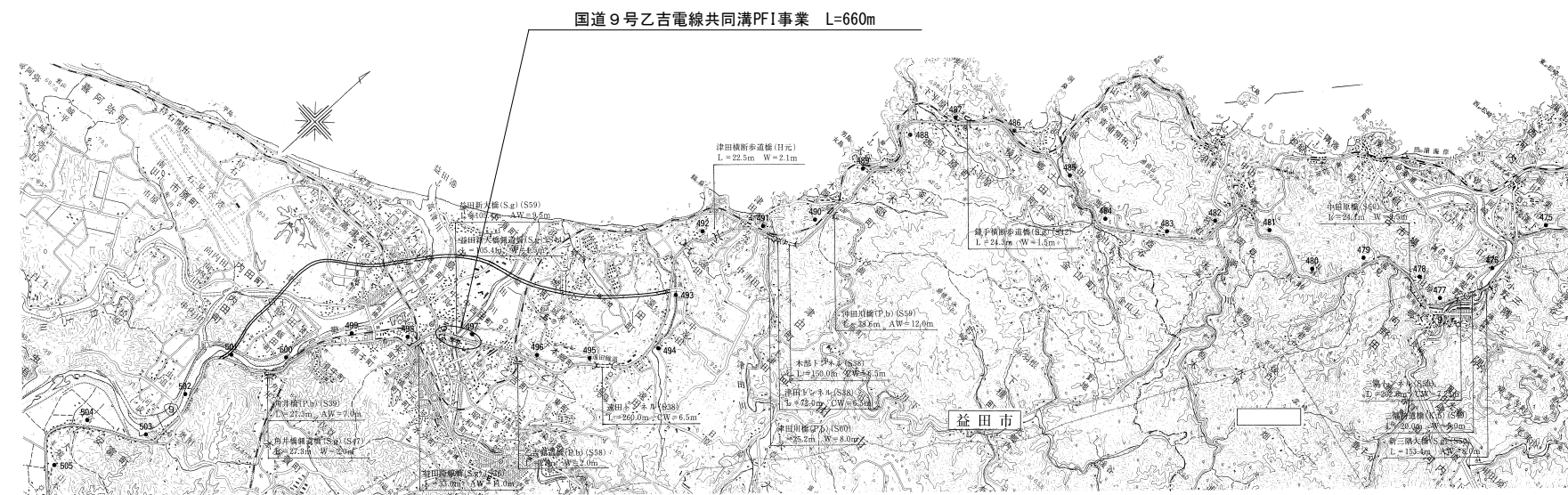
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(橋梁部) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
コンクリート削孔	穿孔径φ100 削孔長 L=0.5m	孔		4		
コンクリート削孔	穿孔径φ75 削孔長 L=0.5m	孔		10		
モルタル充填	高炉	m3		0.01		
仮設工		式		1		
交通管理工		式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		
共通仮設費		式		1		
現場環境改善費(率計上)		式		1		
共通仮設費(率計上)		式		1		
純工事費		式		1		

工事数量総括表

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(橋梁部) (当初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
現場管理費		式		1		
工事原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
工事価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
工事費計		式		1		

契約図

位置図



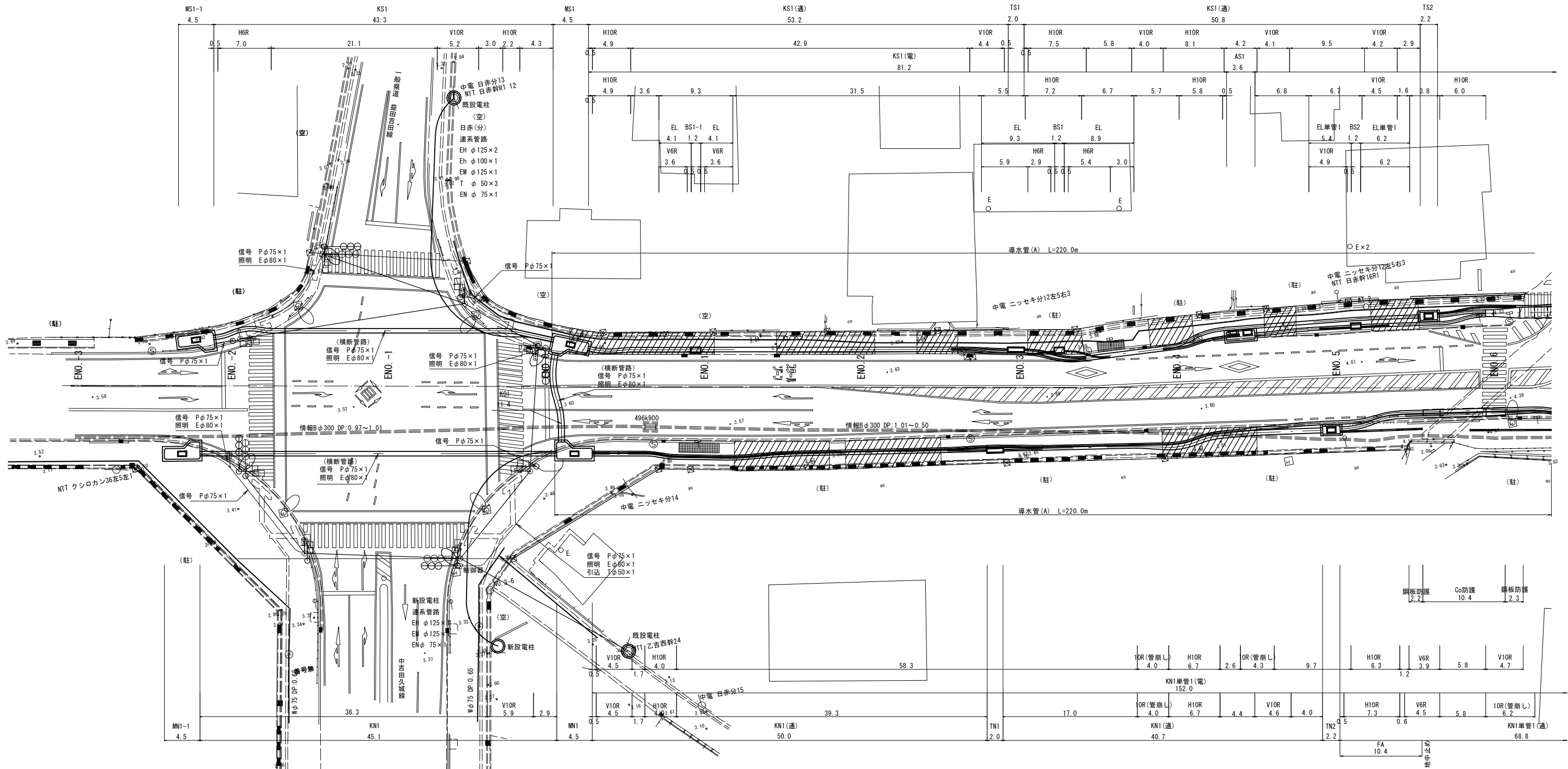
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	位置図		
作成年月日			
縮尺	1:50,000	図面番号	43 葉之内 1
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

工事起点
ENO-3

平面図(1)

国道9号乙吉電線共同溝PF1事業 L=660m

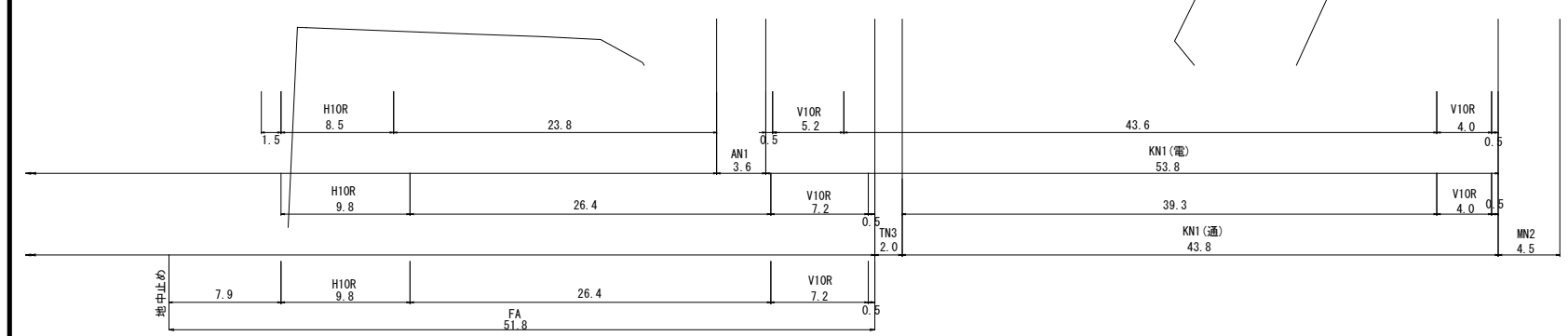
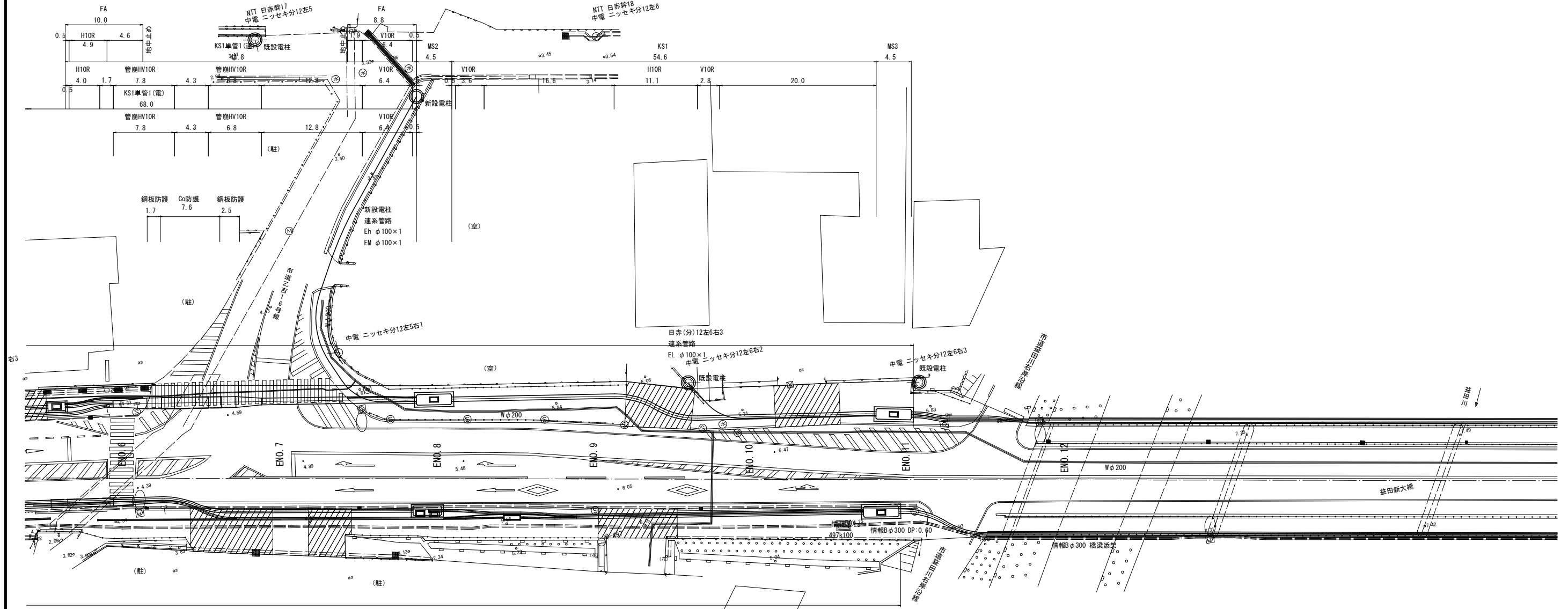
管台布設工		車道舗装(A)		舗装復旧(B)	
管路受台(φ125-250P H1VP用)	N= 641個	表層(ポーラスAs(13)DS3000 t=5cm)	A= 4,501m ²	フィルター層(砂 t=5cm)	A= 911m ²
管路受台(φ100-150P H1VP用)	N= 1,597個	歩道舗装(A)	A= 1,516m ²	路盤(C-30 t=10cm)	A= 911m ²
管路受台(φ250-325P VP用)	N= 184個	表層(ポーラスAs(13) t=4cm)	A= 1,026m ²	舗装復旧(C)	A= 269m ²
管路受台(φ200-300P VP用)	N= 703個	歩道舗装(B)	A= 1,026m ²	フィルター層(砂 t=5cm)	A= 269m ²
管路受台(φ150-220P VP用)	N= 550個	表層(ポーラスAs(13) t=5cm)	A= 455m ²	路盤(RC-40 t=15cm)	A= 455m ²
管路受台(φ50-95P PV用)	N= 2,251個	舗装復旧(A)	A= 455m ²	区画線工	L= 942.0m
管路受台(φ70-130P VE用)	N= 1,755個	下層路盤(RC-40 t=20cm)	A= 455m ²	溶融式区画線(実線 W=15cm 白色 厚1.5mm 排水性舗装用)	L= 110.0m
切削オーバーレイ		上層路盤(M-40 t=15cm)	A= 455m ²	溶融式区画線(実線 W=30cm 黄色 厚1.5mm 排水性舗装用)	L= 110.0m
切削オーバーレイ(A)	A= 4,035m ²	上層路盤(再生As安定処理(30) t=8cm)	A= 455m ²		
(平均切削深さ Mt=10.0cm 基層・再生粗粒度Asポリマー改質1型(20)DS3000 t=5cm)		基層(再生粗粒度Asポリマー改質1型(20)DS3000 t=5cm)	A= 455m ²		



工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	平面図(1)		
作成年月日			
縮尺	1:250	図面番号	43 業之内 2
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

平面図(2)

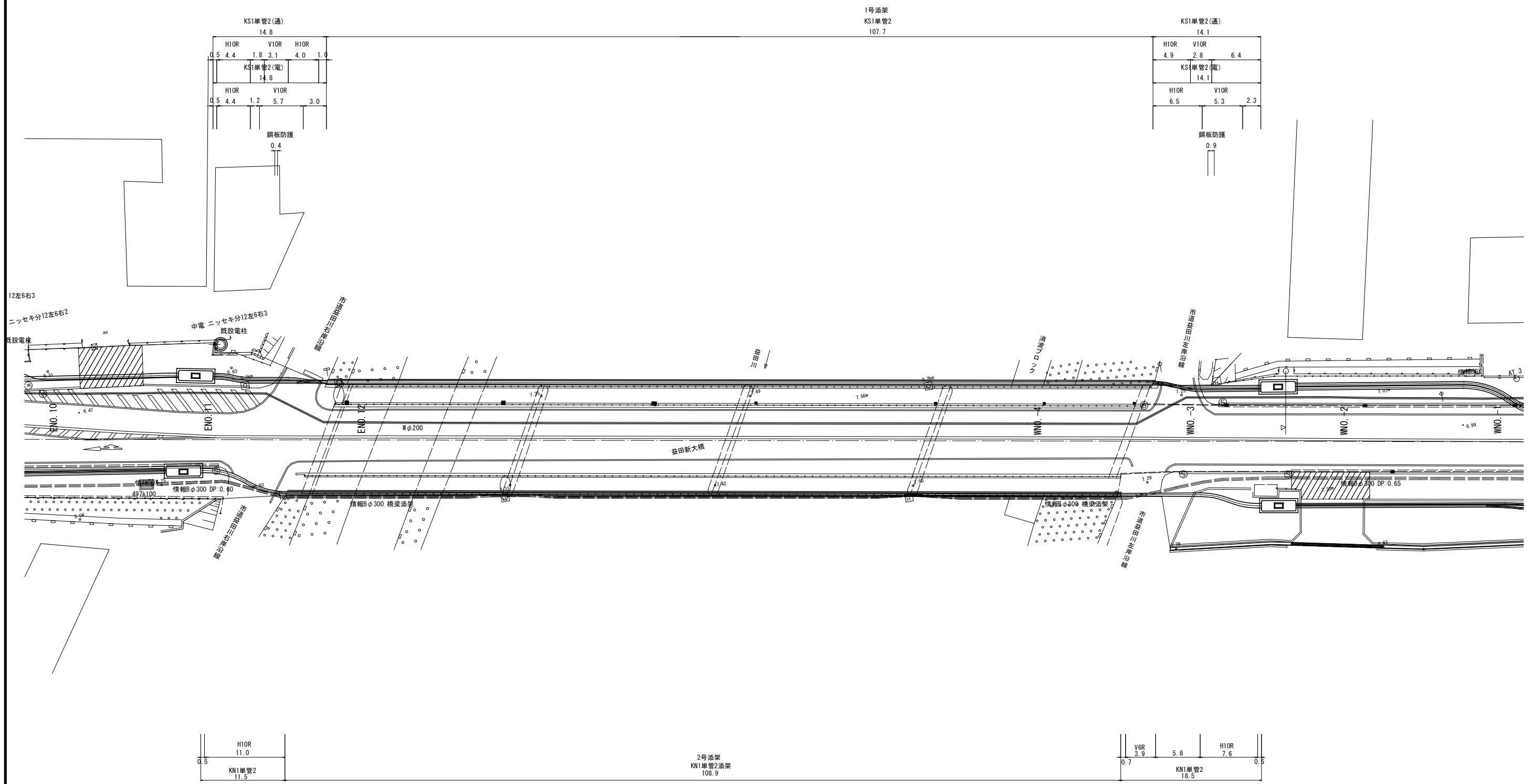
国道9号乙吉電線共同溝PF1事業 L=660m



工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	平面図(2)		
作成年月日			
縮尺	1:250	図面番号	43 葉之内 3
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

平面図(3)

国道9号乙吉電線共同溝PF1事業 L=660m



H1OR	11.0
KN1単管2	11.5

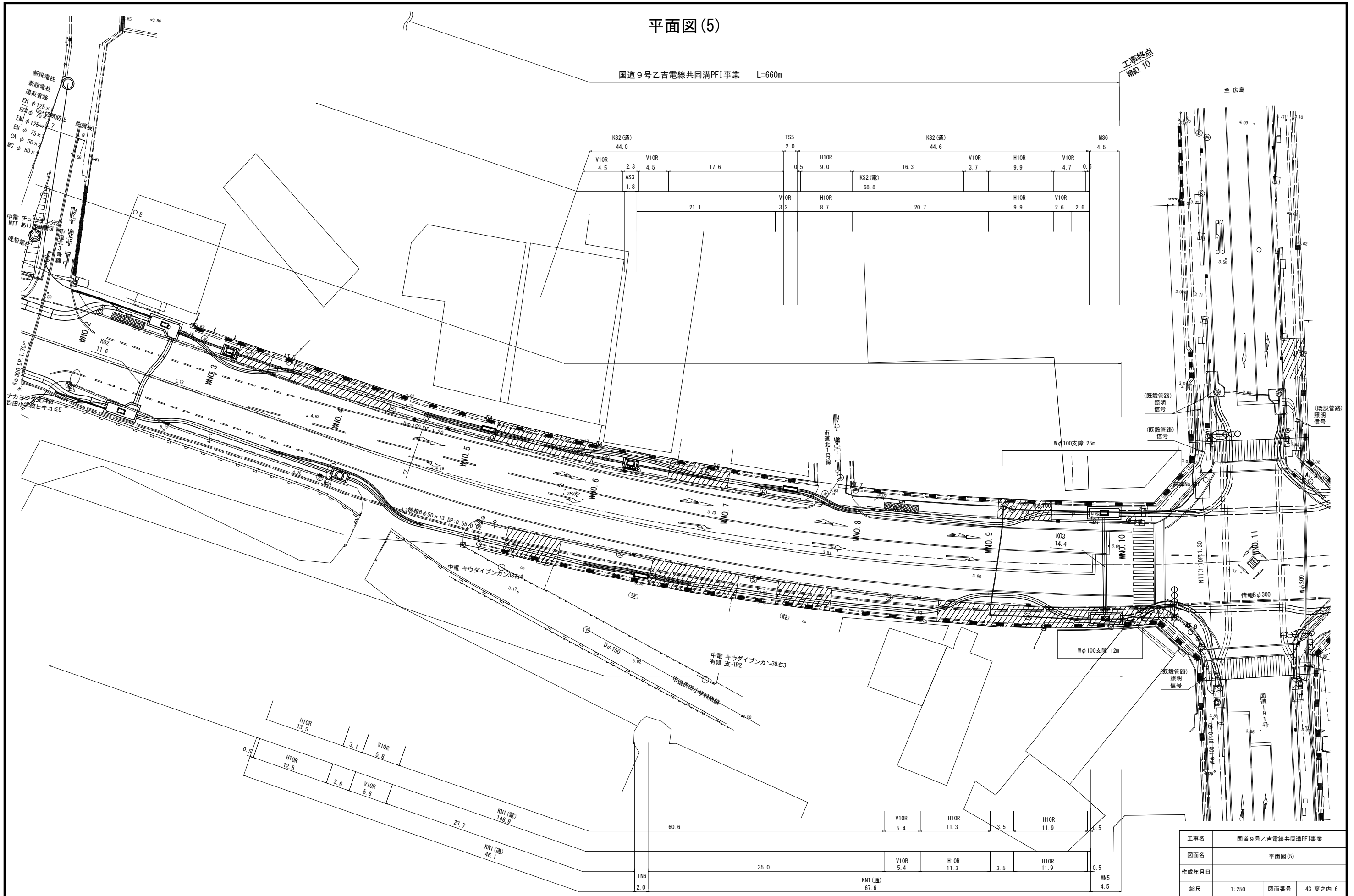
2号添架
KN1単管2添架
108.9

V6R	3.9	5.8	H1OR	7.6
KN1単管2		18.5		

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	平面図(3)		
作成年月日			
縮尺	1:250	図面番号	43 葉之内 4
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

平面図(5)

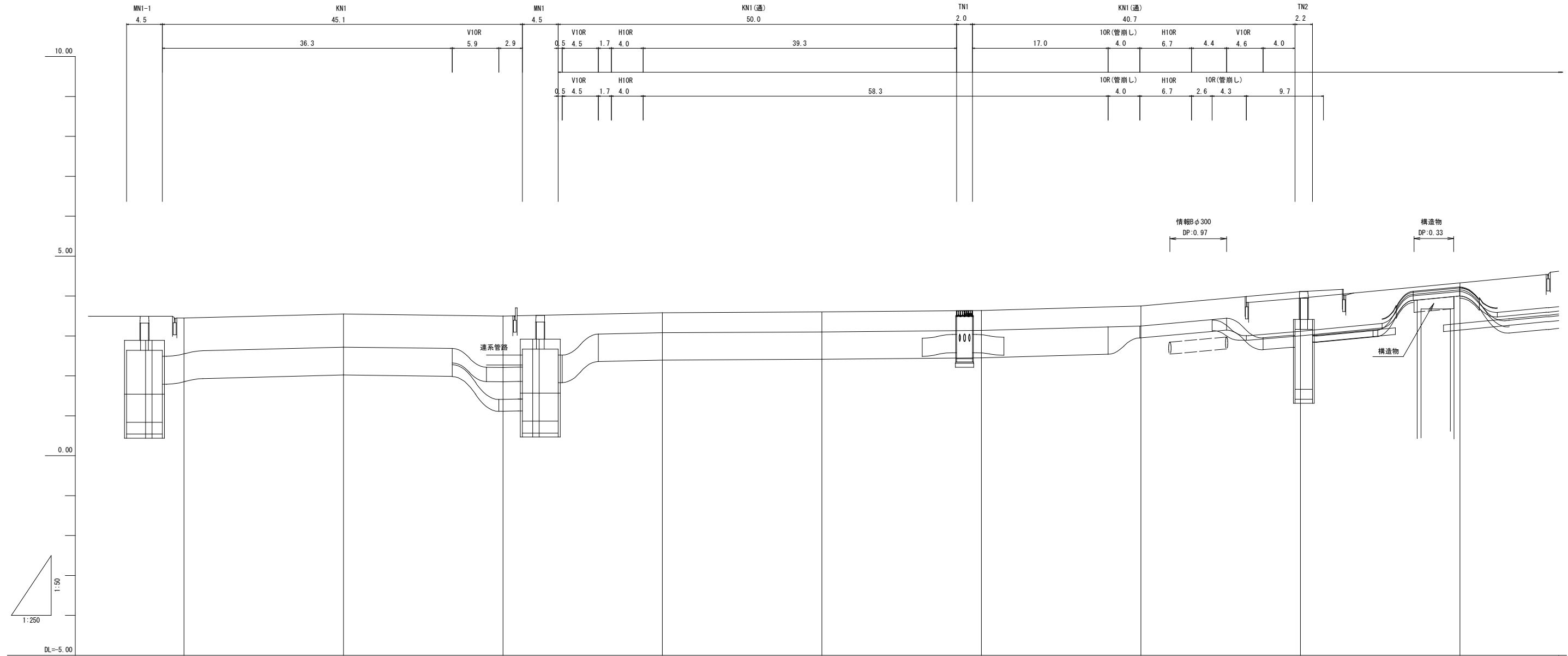
国道9号乙吉電線共同溝PF1事業 L=660m



工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	平面図(5)		
作成年月日			
縮尺	1:250	図面番号	43 葉之内 6
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

管路縦断図(1)

(乙吉町交差点～中吉田町交差点)上り線

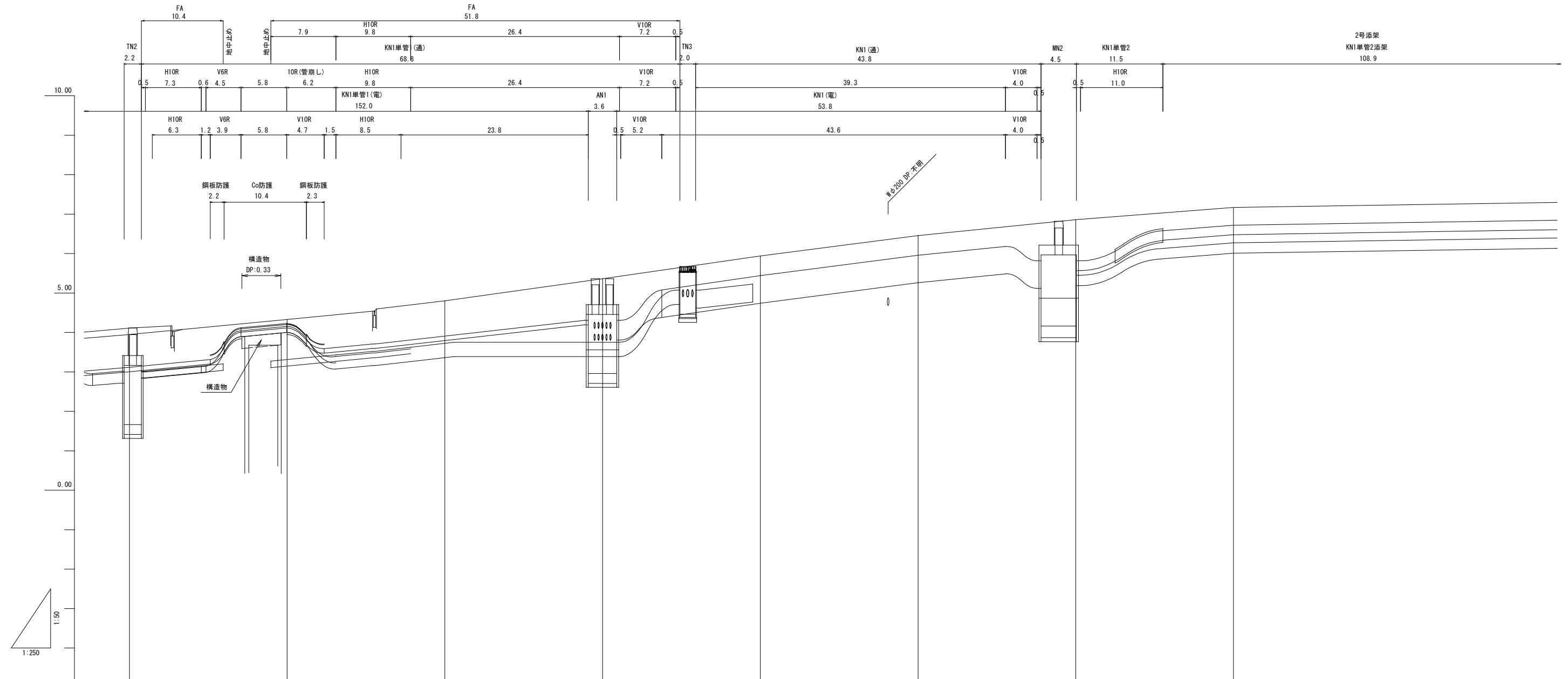


地盤高	3.45	3.55	3.50	3.58	3.60	3.64	3.75	4.11	4.33
土被り	0.00	0.03	1.29	0.50	0.50	0.50	0.50	0.03	0.10
追加距離	0.000	20.000	40.000	60.000	80.000	100.000	120.000	140.000	160.000
単距離	0.000	20.000	20.000	20.000	20.000	20.000	20.000	20.000	20.000
測点	ENO -2	ENO -1	ENO 0	ENO 1	ENO 2	ENO 3	ENO 4	ENO 5	ENO 6

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	管路縦断図(1)		
作成年月日			
縮尺	V=1:50 H=1:250	図面番号	43 葉之内 7
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

管路縦断図(2)

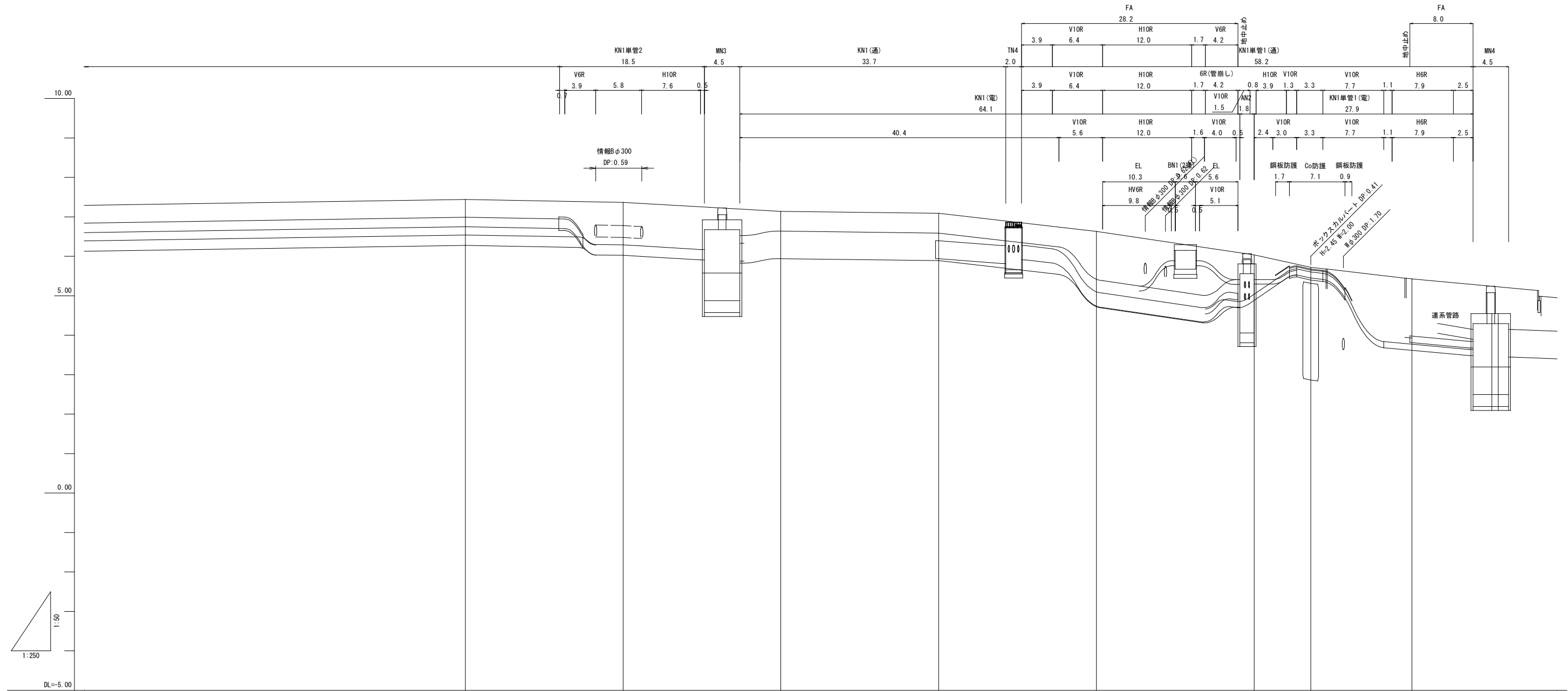
(乙吉町交差点～中吉田町交差点)上り線



地盤高	4.11	4.33	4.80	5.36	5.94	6.46	6.96	7.17
土被り	0.83	0.10	0.89		0.50	0.50		
追加距離	140,000	160,000	180,000	200,000	220,000	240,000	260,000	280,000
単距離	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
測点	ENO.5	ENO.6	ENO.7	ENO.8	ENO.9	ENO.10	ENO.11	ENO.12

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	管路縦断図(2)		
作成年月日			
縮尺	V=1:50 H=1:250	図面番号	43 葉之内 8
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

管路縦断図(3)
(乙吉町交差点～中吉田町交差点)上り線

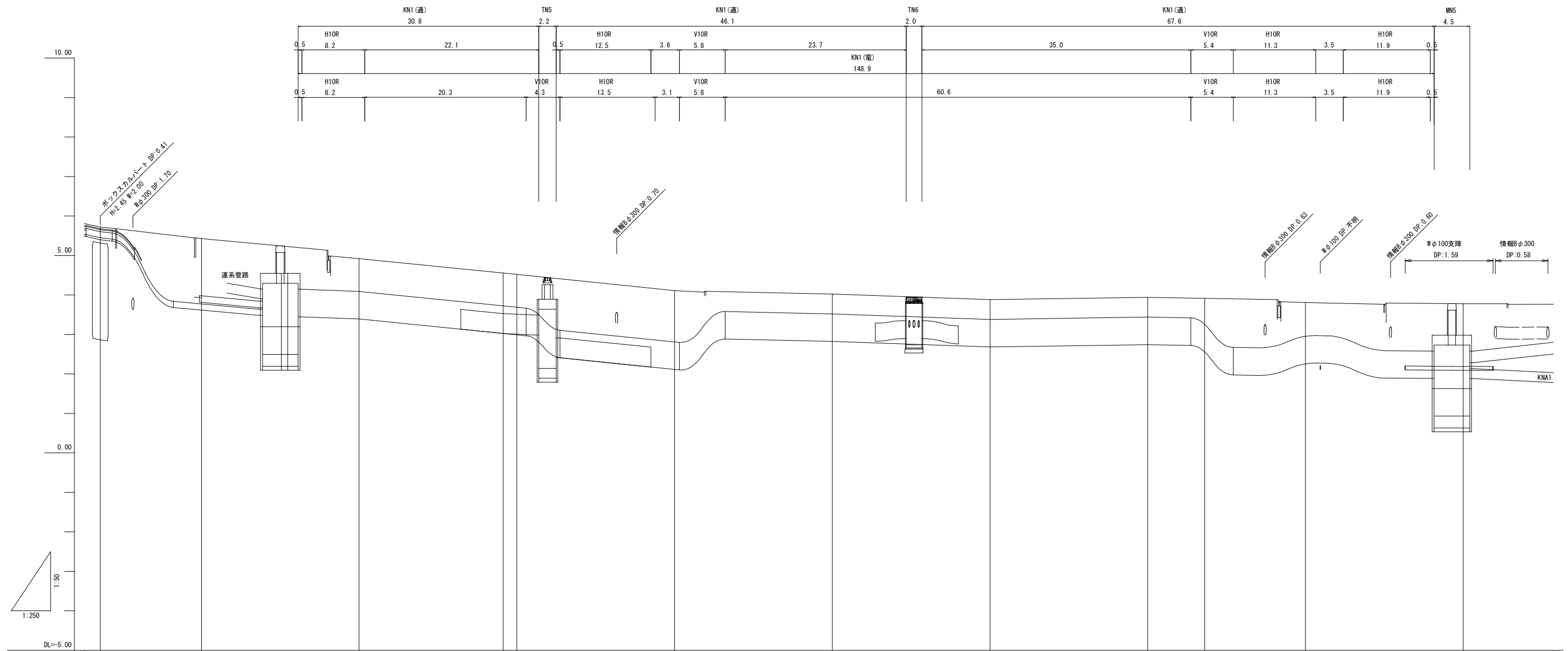


地盤高		7.44	7.37	7.14	7.09	6.63	6.04	5.72	5.43
土被り			1.08	0.50	0.50	1.21		0.04	1.66
追加距離		0.000	0.000	20.000	40.000	60.000	80.000	87.183	100.000
単距離		0.000	0.000	20.000	20.000	20.000	20.000	7.183	12.817
測点		WNO.-4	WNO.-3	WNO.-2	WNO.-1	WNO.0	WNO.1	WNO.1+7.183	WNO.2

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	管路縦断図(3)		
作成年月日			
縮尺	V=1:50 H=1:250	図面番号	43 葉之内 9
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

管路縦断図(4)

(乙吉町交差点～中吉田町交差点)上り線

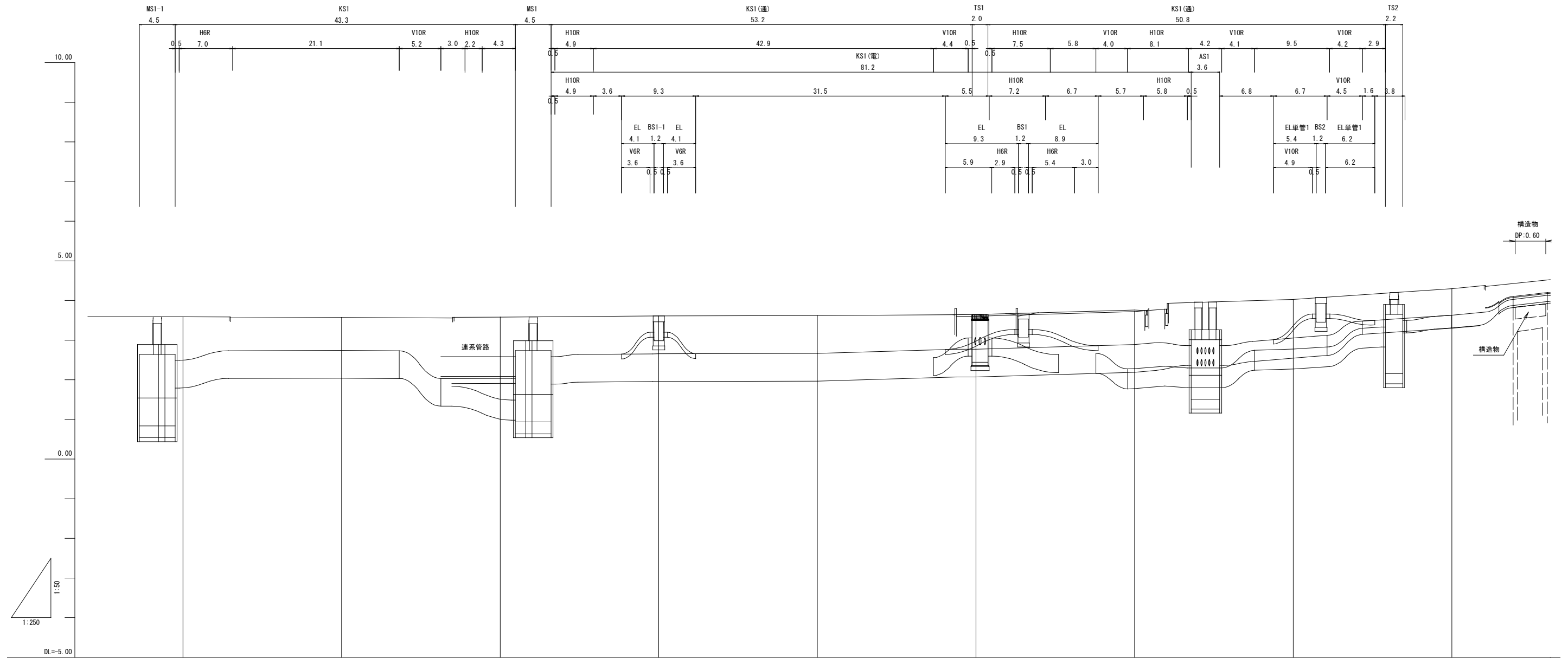


地盤高	5.72	5.43	4.92	4.52	4.11	4.02	3.88	3.94	3.81	3.78	
土被り	0.04	1.66	0.83	0.83	1.30	0.50	0.50	0.50	0.66	0.86	
追加距離	87.183	100.000	120.000	138.274	140.000	180.000	200.000	220.000	227.213	240.000	260.000
単距離	7.183	12.817	20.000	18.274	1.726	20.000	20.000	20.000	7.213	12.787	20.000
測点	WNO. 1+7.2	WNO. 2	WNO. 3	BC. 1 WNO. 4	WNO. 5	WNO. 6	WNO. 7	WNO. 8	SP. 1	WNO. 9	WNO. 10

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	管路縦断図(4)		
作成年月日			
縮尺	V=1:50 H=1:250	図面番号	43 葉之内 10
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

管路縦断図(5)

(乙吉町交差点～中吉田町交差点)下り線

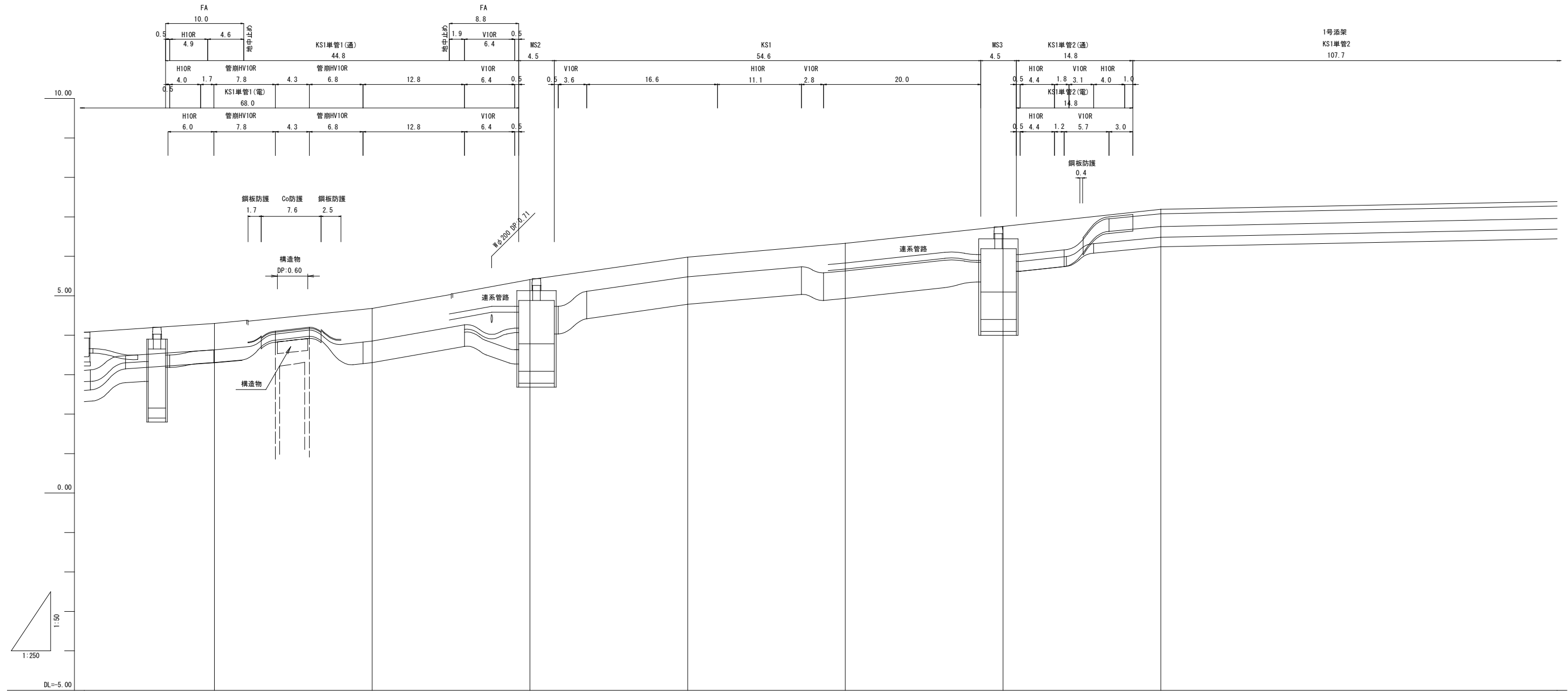


地盤高	3.89	3.57	3.58	3.61	3.62	3.65	3.72	4.03	4.30
土被り	1.10	0.83	1.54	0.96	0.96	0.83	0.83	0.97	0.67
追加距離	0.000	20.000	40.000	60.000	80.000	100.000	120.000	140.000	160.000
単距離	0.000	20.000	20.000	20.000	20.000	20.000	20.000	20.000	20.000
測点	ENO -2	ENO -1	ENO 0	ENO 1	ENO 2	ENO 3	ENO 4	ENO 5	ENO 6

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	管路縦断図(5)		
作成年月日			
縮尺	V=1:50 H=1:250	図面番号	43 葉之内 11
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

注) 管路延長はm単位とする。

管路縦断図(6)
(乙吉町交差点～中吉田町交差点)下り線



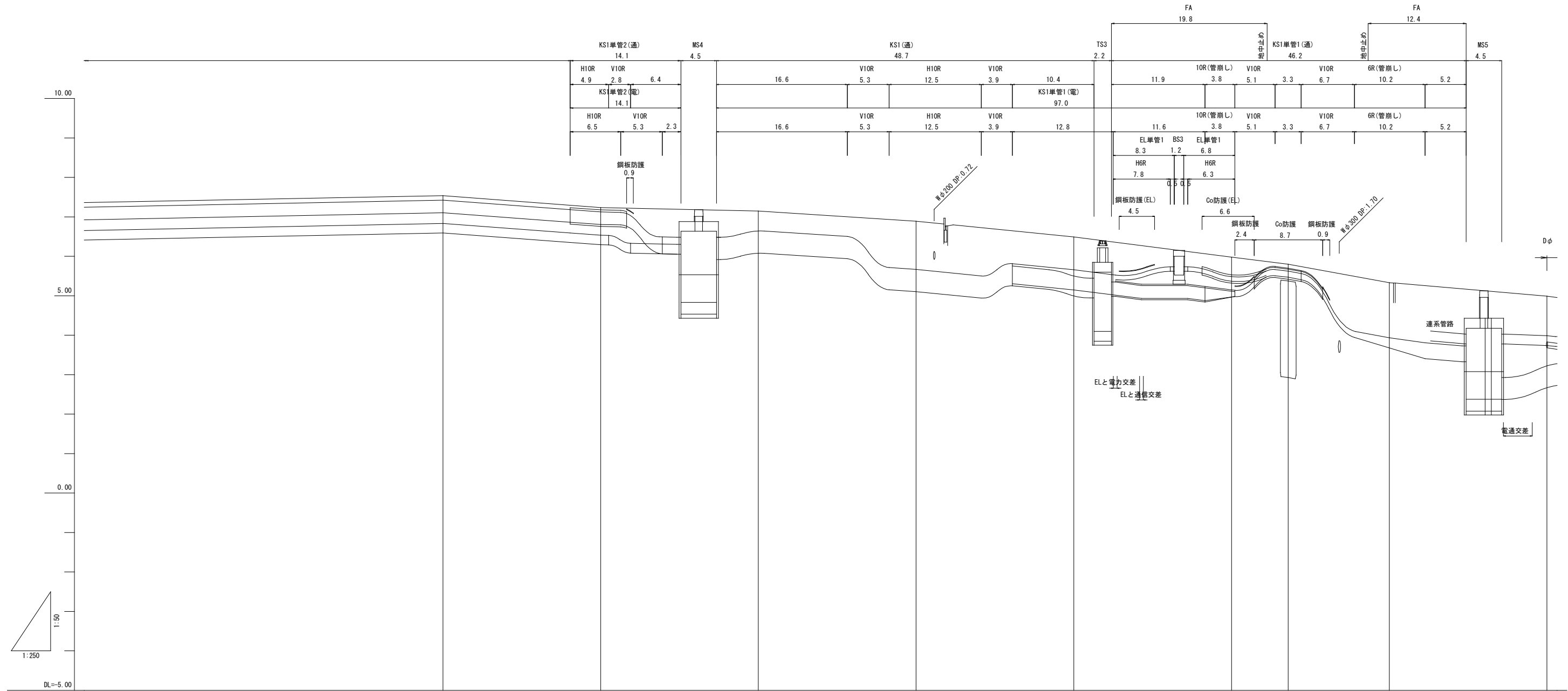
地盤高	4.30	4.68	5.41	5.98	6.33	6.76	7.19
土被り	0.67	0.83		0.50	0.70		
追加距離	160,000	180,000	200,000	220,000	240,000	260,000	280,000
単距離	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
測点	ENO. 6	ENO. 7	ENO. 8	ENO. 9	ENO. 10	ENO. 11	ENO. 12

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	管路縦断図(6)		
作成年月日			
縮尺	V=1:50 H=1:250	図面番号	43葉之内 12
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

注) 管路延長はm単位とする。

管路縦断図(7)

(乙吉町交差点～中吉田町交差点)下り線



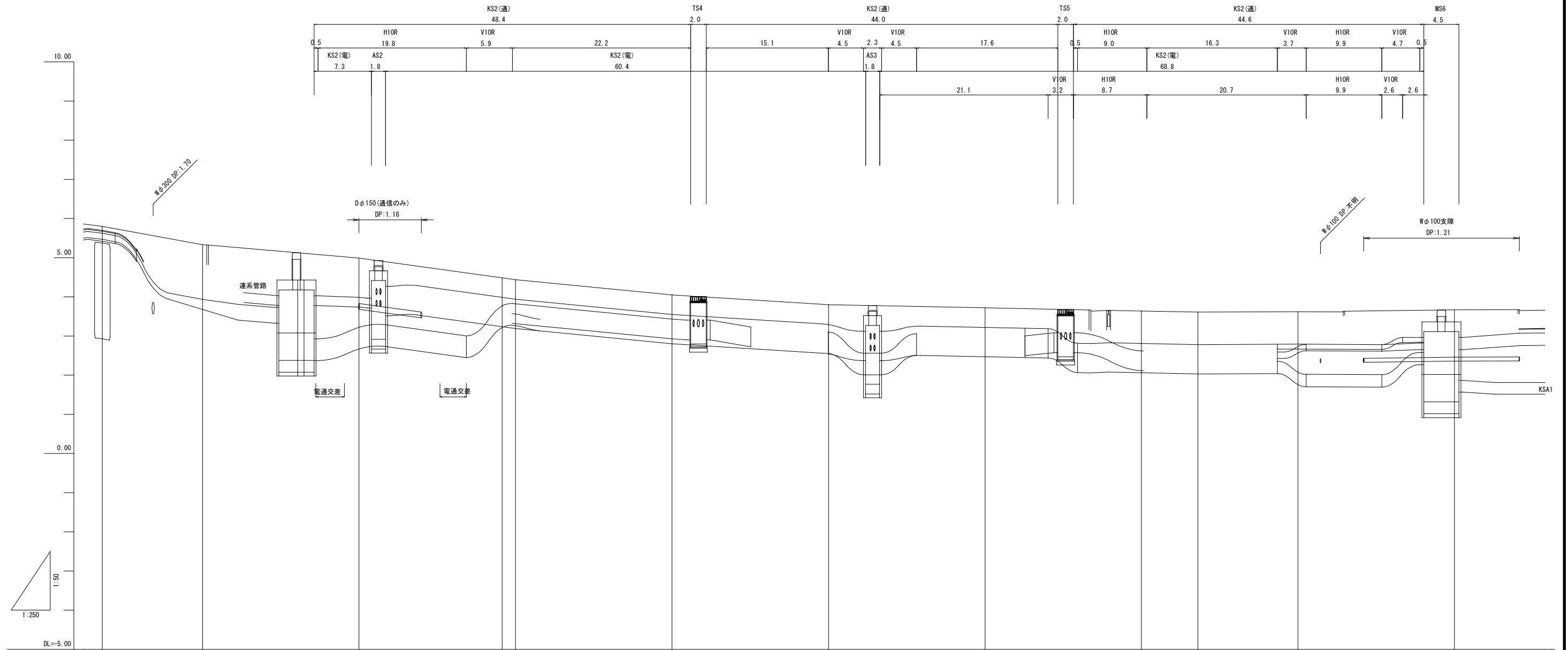
地盤高		7.54	7.24	7.15	6.88	6.49	5.98	5.80	5.33	4.99
土被り				0.51	1.22	0.83	0.45	0.10	1.39	1.00
追加距離		0.000	0.000	20.000	40.000	60.000	80.000	87.183	100.000	120.000
単距離		0.000	0.000	20.000	20.000	20.000	20.000	7.183	12.817	20.000
測点		WNO.-4	WNO.-3	WNO.-2	WNO.-1	WNO.0	WNO.1	WNO.1+7.183	WNO.2	WNO.3

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	管路縦断図(7)		
作成年月日			
縮尺	V=1:50 H=1:250	図面番号	43 葉之内 13
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

注) 管路延長はm単位とする。

管路縦断図(8)

(乙吉町交差点～中吉田町交差点)下り線

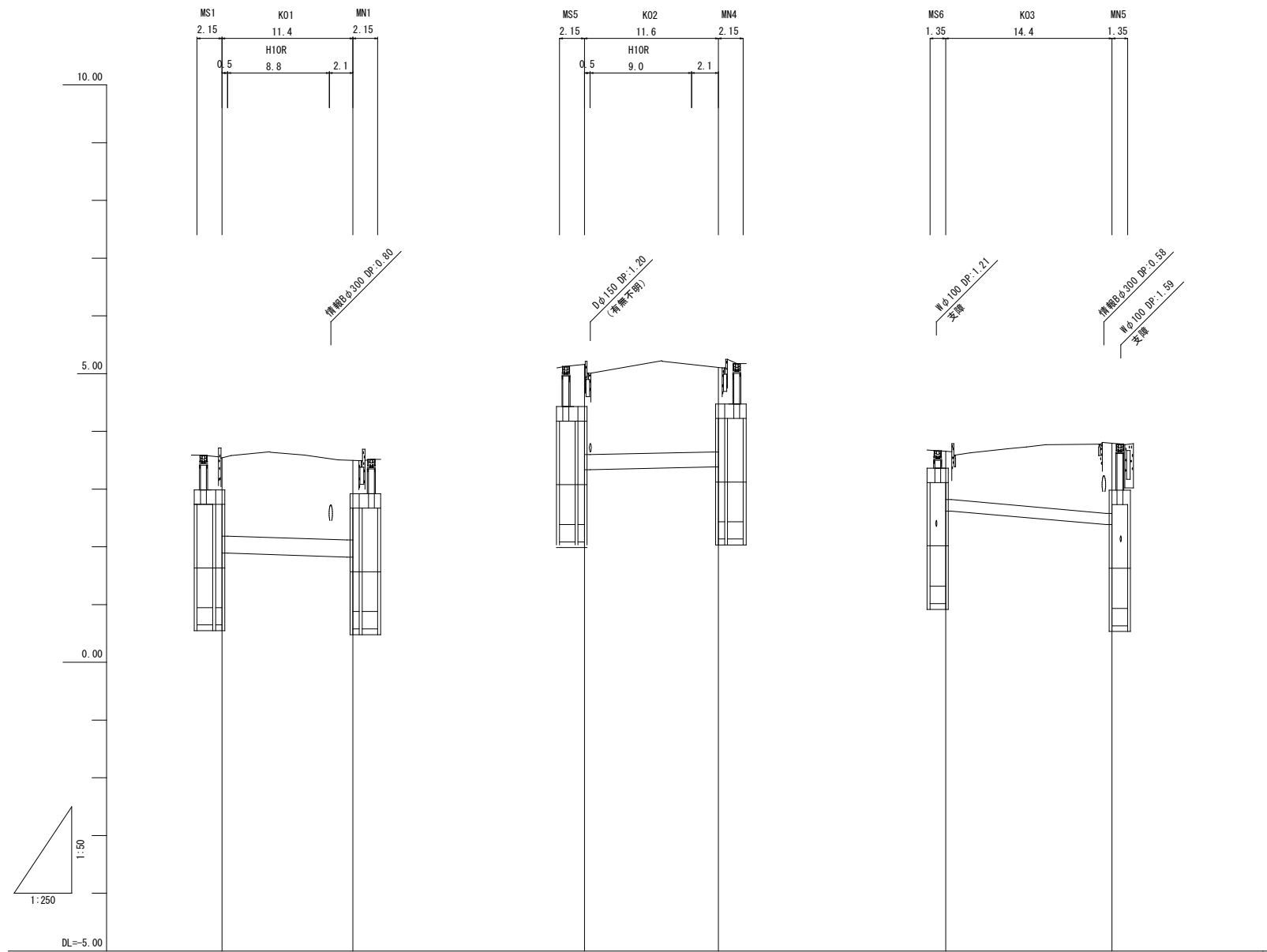


地盤高	5.80	5.33	4.99	4.44	4.05	3.80	3.72	3.64	3.62	3.67
土被り	0.10	1.39	1.00	0.50 0.50	0.50	0.50	0.50	0.83	0.83	0.83
追加距離	87.183	100.000	120.000	138.274 140.000	160.000	180.000	200.000	220.000	227.213	240.000
単距離	7.183	12.817	20.000	18.274 1.726	20.000	20.000	20.000	20.000	7.213	12.787
測点	WNO.1+7.24	WNO.2	WNO.3	BC.1 WNO.4	WNO.5	WNO.6	WNO.7	WNO.8	SP.1	WNO.9 WNO.10

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	管路縦断図(8)		
作成年月日			
縮尺	V=1:50 H=1:250	図面番号	43 葉之内 14
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

注) 管路延長はm単位とする。

管路縦断図(9)
(乙吉町交差点～中吉田町交差点)横断部

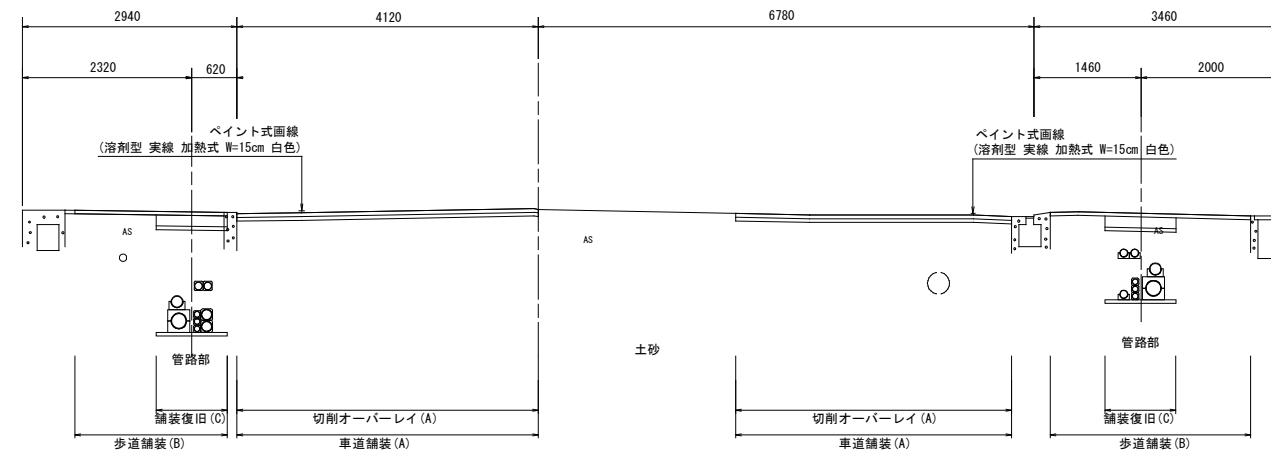


地盤高					
土被り	1.36	1.38	1.56	1.46	0.84
追加距離	0.000	11.400	0.000	11.600	14.400
単距離	0.000	11.400	0.000	11.600	14.400
測点					

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	管路縦断図(9)		
作成年月日			
縮尺	V:1:50 H:1:250	図面番号	43 葉之内 15
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

標準断面図

EN0.2付近



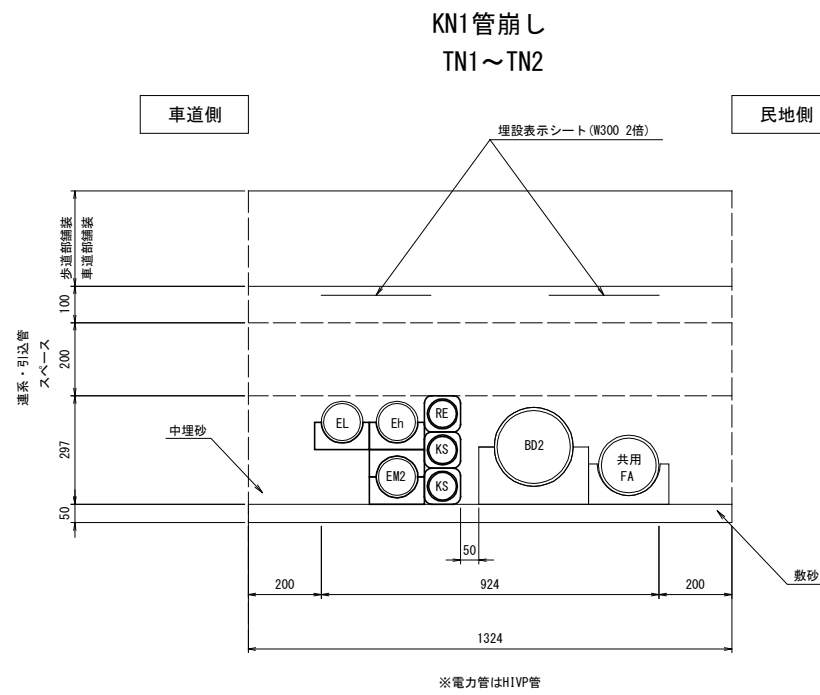
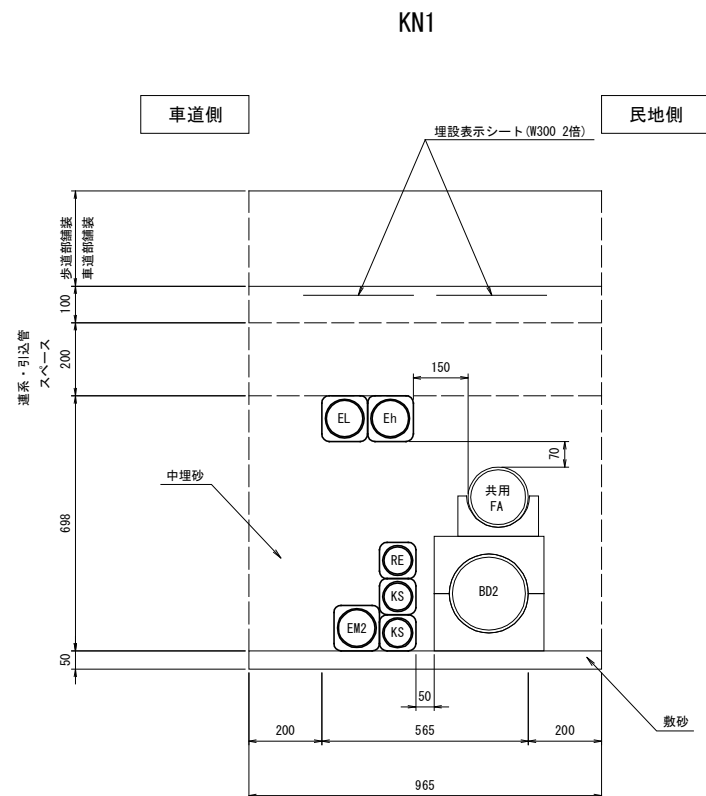
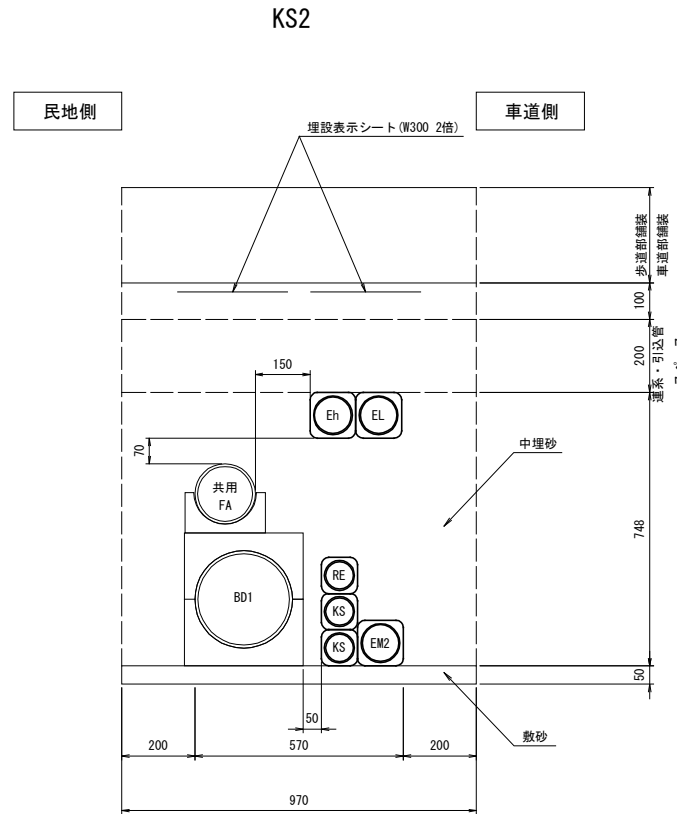
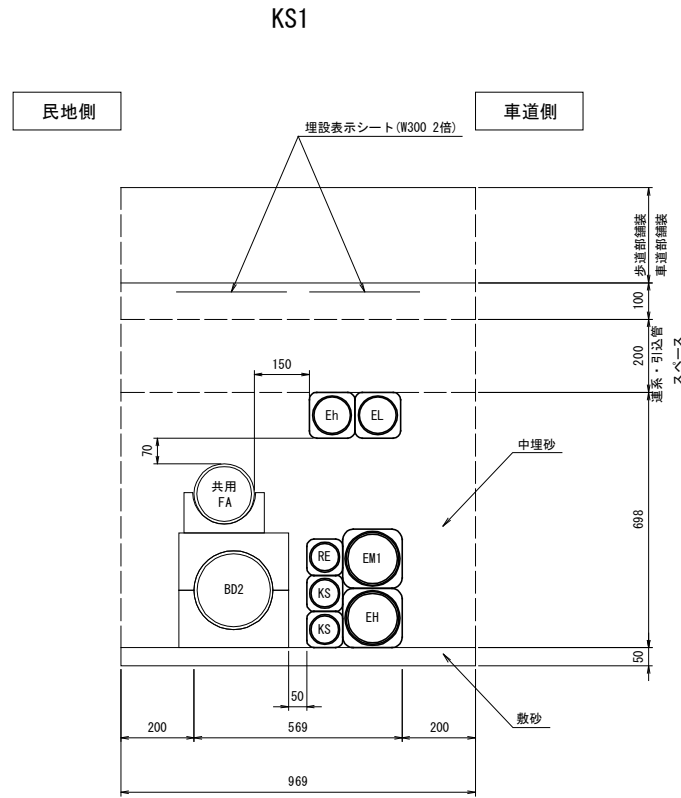
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	標準断面図		
作成年月日			
縮尺	1:50	図面番号	43 葉之内 16
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

標準管路断面図(1)

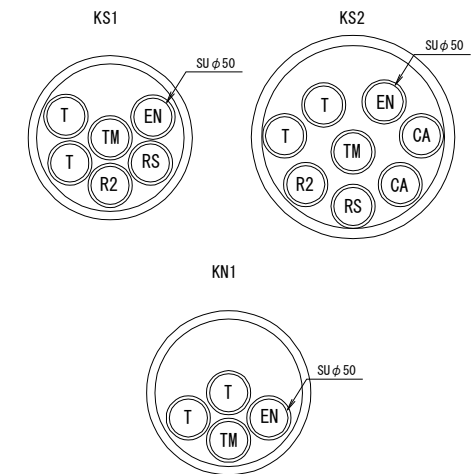
条数一覧表

区分	事業者	記号	管種別	外径	管路条数				
					KS1	KS2	KN1	KN1管前	
電力	中国電力	EH	角型FEPφ130	□162	1	-	-	-	
		Eh	角型FEPφ100	□125	1	1	1	(1)	
		EL	角型FEPφ100	□125	1	1	1	(1)	
		EC1	角型FEPφ75	□99	-	-	-	-	
		EM1	角型FEPφ130	□162	1	-	-	-	
		EM2	角型FEPφ100	□125	-	1	1	(1)	
通信	共通FA	FA	VPφ150	φ165	1	1	1	1	
		BD1	VPφ250	φ267	-	1	-	-	
		BD2	VPφ200	φ216	1	-	1	1	
		NTT	T	SUφ50	φ58	2	2	2	2
			EN	SUφ50	φ58	1	1	1	1
			CA	SUφ50	φ58	-	2	-	-
		道路管理者	R1	SUφ50	φ58	-	-	-	-
			R2	SUφ50	φ58	1	1	-	-
			RS	SUφ50	φ58	1	1	-	-
			TM	SUφ50	φ58	1	1	1	1
		NTT	T1	VPφ150	φ165	-	-	-	-
			T2	PVφ75	φ96	-	-	-	-
			T3	PVφ50	φ60	-	-	-	-
		エネルギー・コミュニケーションズ	EN1	角型FEPφ75	□99	-	-	-	-
		ひとまるビジョン	CA1	角型FEPφ75	□99	-	-	-	-
		道路管理者	MC1	角型FEPφ75	□99	-	-	-	-
			R1	角型FEPφ75	□99	-	-	-	-
			R2	角型FEPφ75	□99	-	-	-	-
			RS	角型FEPφ75	□99	-	-	-	-
		通信メンテナンス管	TM2	角型FEPφ75	□99	-	-	-	-
道路管理者照明用	RE	角型FEPφ75	□99	1	1	1	1		
公安用	KS	角型FEPφ75	□99	2	2	2	2		

注) 1. 埋設表示シートについて、アスファルト舗装版(表層、基層、再生As安定処理) + 10cmより深い位置に設置すること。
 2. 管路と埋設表示シートの距離が20cm以上の場合、埋設表示シートのみ設置すること。
 3. 管路と埋設表示シートの距離が20cm未満の場合、埋設表示シート + 表示紙を設置すること。
 4. ()はHIVP管



ボディ管内の条数



ボディ管とさや管の組合せ一覧表

ボディ管径	さや管径と条数	
	φ50	合計条数
φ200mm	4	4
φ250mm	6	6
	8	8

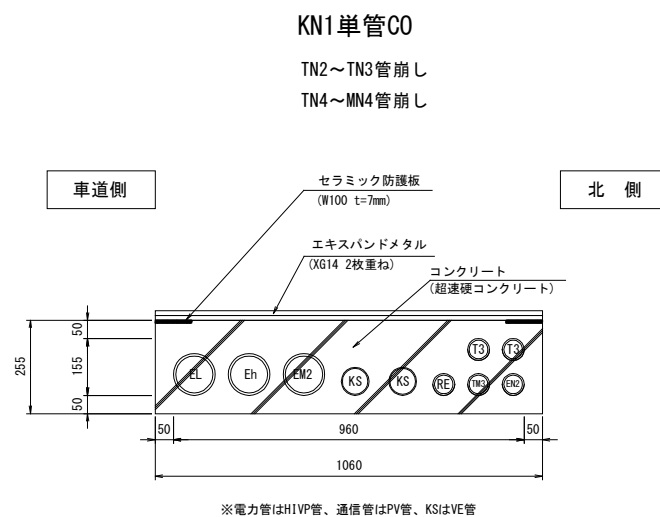
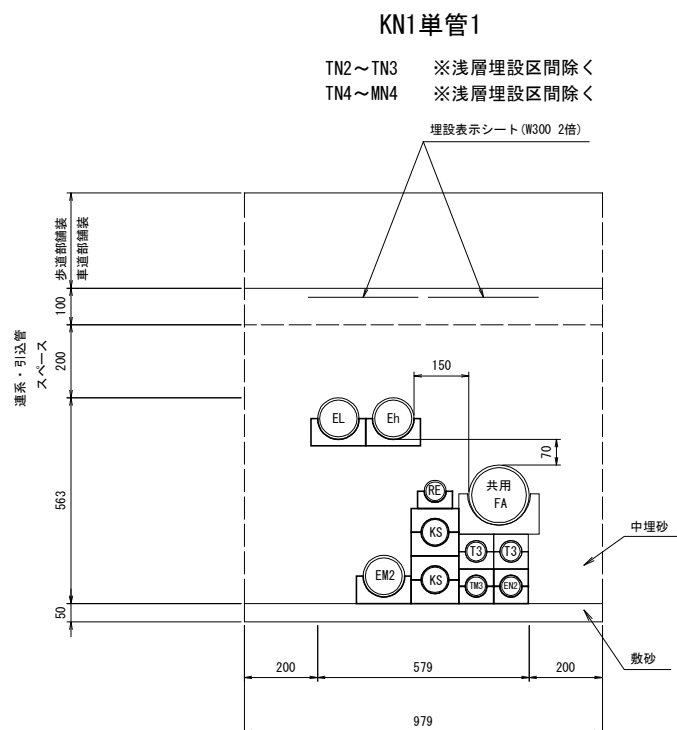
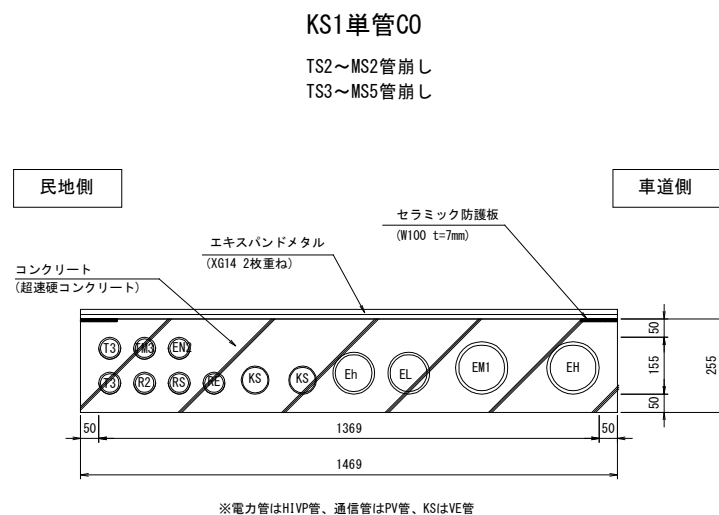
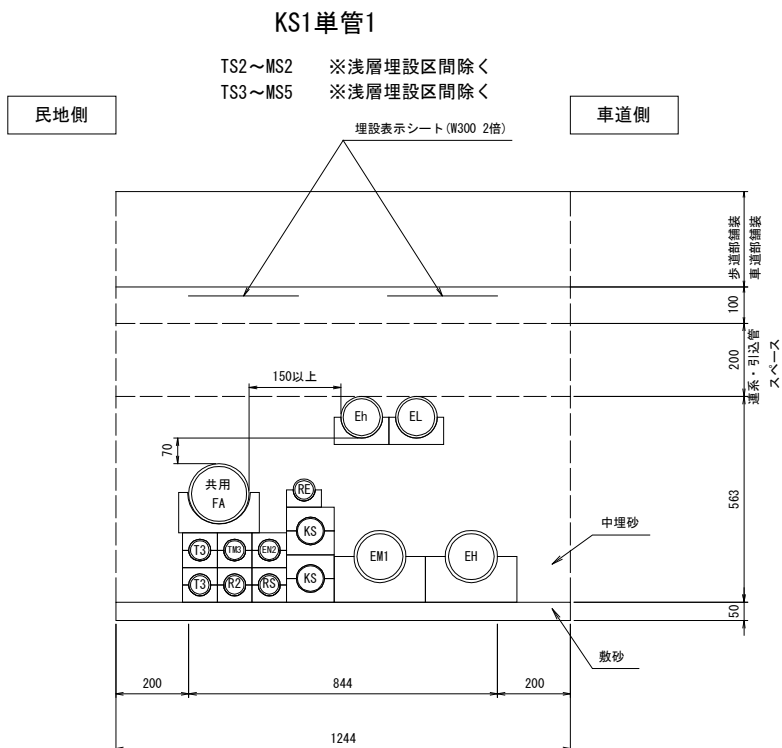
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	標準管路断面図(1)		
作成年月日			
縮尺	1:10	図面番号	43 葉之内 17
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

標準管路断面図(2)

管路の種別及び径

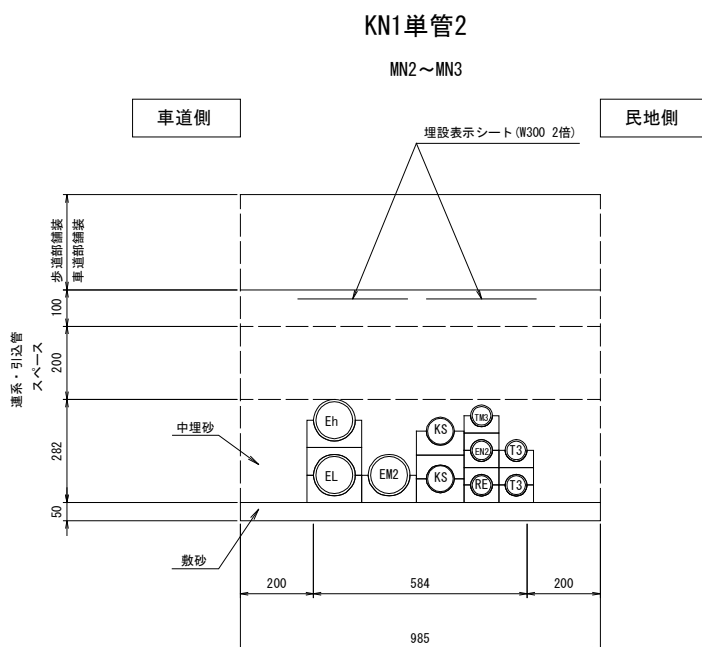
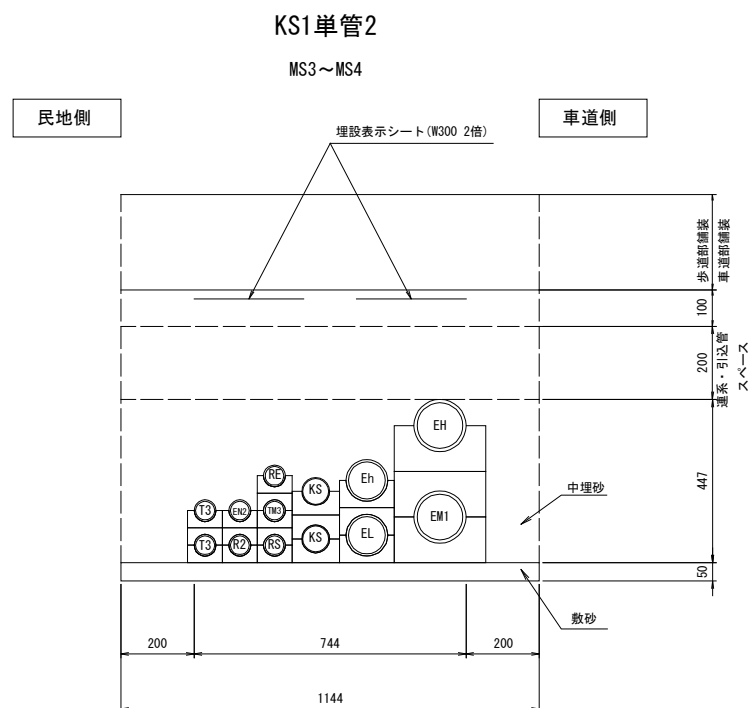
区分	事業者	記号	管種別	外径	管路条数			
					KS1単管1	KS1単管C0	KN1単管1	KN1単管C0
電力	中国電力	EH	HIVP φ125	φ143	1	1	-	-
		Eh	HIVP φ100	φ114	1	1	1	1
		EL	HIVP φ100	φ114	1	1	1	1
		EC1	PV φ75	φ96	-	-	-	-
		EM2	HIVP φ100	φ114	-	-	1	1
通信	共通FA	FA	VP φ150	φ165	1	-	1	-
	NTT	T1	VP φ150	φ165	-	-	-	-
		T2	PV φ75	φ96	-	-	-	-
		T3	PV φ50	φ60	2	2	2	2
	エネルギー・コミュニケーションズ	EN2	PV φ50	φ60	1	1	1	1
		CA1	PV φ50	φ60	-	-	-	-
	道路管理者	MC1	PV φ50	φ60	-	-	-	-
		R1	PV φ50	φ60	-	-	-	-
		R2	PV φ50	φ60	1	1	-	-
		RS	PV φ50	φ60	1	1	-	-
通信メンテナンス管	TM3	PV φ50	φ60	1	1	1	1	
道路管理者照明用	RE	PV φ50	φ60	1	1	1	1	
公安用	KS	VE φ70	φ76	2	2	2	2	

- 注) 1. 埋設表示シートについて、アスファルト舗装版(表層、基層、再生As安定処理) + 10cmより深い位置に設置すること。
 2. 管路と埋設表示シートの距離が20cm以上の場合、埋設表示シートのみ設置すること。
 3. 管路と埋設表示シートの距離が20cm未満の場合、埋設表示シート + 表示紙を設置すること。



工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	標準管路断面図(2)		
作成年月日			
縮尺	1:10	図面番号	43 葉之内 18
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

標準管路断面図(3)



条数一覧表

区分	事業者	記号	管種別	外径	管路条数	
					KS1単管2	KN1単管2
電力	中国電力	EH	HIVPφ125	φ143	1	-
		Eh	HIVPφ100	φ114	1	1
		EL	HIVPφ100	φ114	1	1
		EC1	PVφ75	φ96	-	-
		EM1	HIVPφ125	φ143	1	-
		EM2	HIVPφ100	φ114	-	1
通信	NTT	T1	VPφ150	φ165	-	-
		T2	PVφ75	φ96	-	-
		T3	PVφ50	φ60	2	2
	エネルギー・コミュニケーションズ	EN2	PVφ50	φ60	1	1
		CA1	PVφ50	φ60	-	-
	ひとまるビジョン	MC1	PVφ50	φ60	-	-
		R1	PVφ50	φ60	-	-
		R2	PVφ50	φ60	1	-
	道路管理者	RS	PVφ50	φ60	1	-
		TM3	PVφ50	φ60	1	1
		RE	PVφ50	φ60	1	1
	通信メンテナンス管	TM3	PVφ50	φ60	1	1
道路管理者照明用	RE	PVφ50	φ60	1	1	
公安用	KS	VEφ70	φ76	2	2	

- 注) 1. 埋設表示シートについて、アスファルト舗装版(表層、基層、再生As安定処理) + 10cmより深い位置に設置すること。
 2. 管路と埋設表示シートの距離が20cm以上の場合、埋設表示シートのみ設置すること。
 3. 管路と埋設表示シートの距離が20cm未満の場合、埋設表示シート + 表示紙を設置すること。

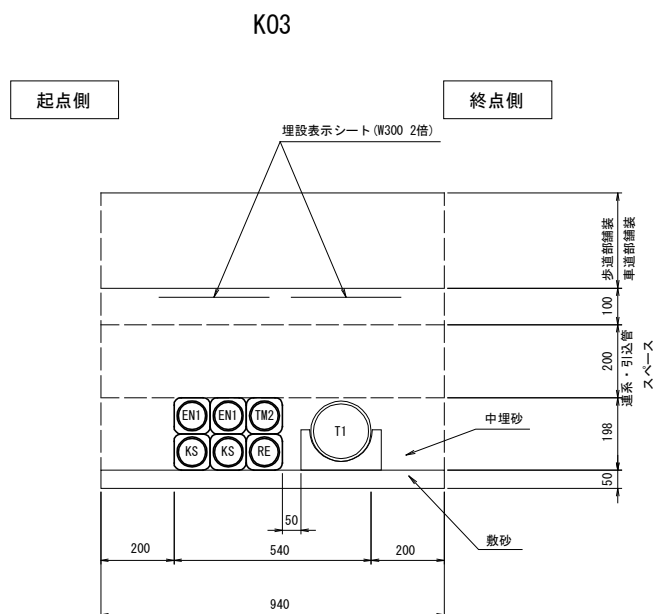
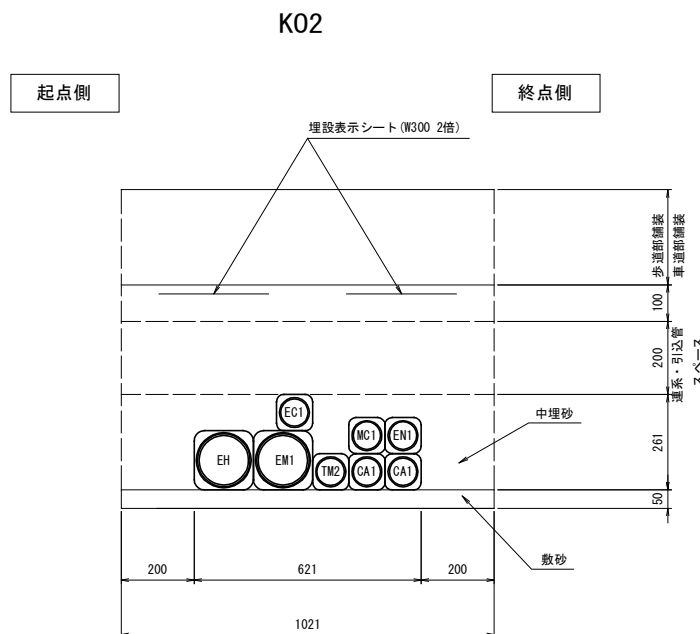
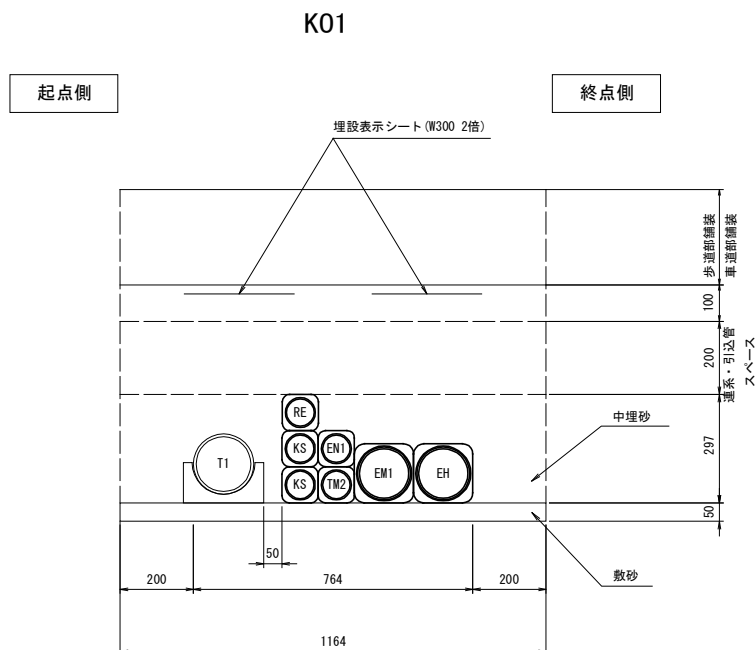
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	標準管路断面図(3)		
作成年月日			
縮尺	1:10	図面番号	43 葉之内 19
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

標準管路断面図(4)

条数一覧表

区分	事業者	記号	管種別	外径	管路条数		
					K01	K02	K03
電力	中国電力	EH	角型FEPφ130	□162	1	1	—
		Eh	角型FEPφ100	□125	—	—	—
		EL	角型FEPφ100	□125	—	—	—
		EC1	角型FEPφ75	□99	—	1	—
		EM1	角型FEPφ130	□162	1	1	—
		EM2	角型FEPφ100	□125	—	—	—
通信	共通F A	FA	VPφ150	φ165	—	—	—
	通信ボディー管	BD1	VPφ250	φ267	—	—	—
		BD2	VPφ200	φ216	—	—	—
	NTT	T	SUφ50	φ58	—	—	—
		EN	SUφ50	φ58	—	—	—
	エネルギー・コミュニケーションズ	CA	SUφ50	φ58	—	—	—
	ひとまるビジョン	R1	SUφ50	φ58	—	—	—
		R2	SUφ50	φ58	—	—	—
	道路管理者	RS	SUφ50	φ58	—	—	—
		TM	SUφ50	φ58	—	—	—
	通信メンテナンス管	T1	VPφ150	φ165	1	—	1
		T2	PVφ75	φ96	—	—	—
		T3	PVφ50	φ60	—	—	—
	エネルギー・コミュニケーションズ	EN1	角型FEPφ75	□99	1	1	2
	ひとまるビジョン	CA1	角型FEPφ75	□99	—	2	—
	道路管理者	MC1	角型FEPφ75	□99	—	1	—
		R1	角型FEPφ75	□99	—	—	—
		R2	角型FEPφ75	□99	—	—	—
RS		角型FEPφ75	□99	—	—	—	
通信メンテナンス管	TM2	角型FEPφ75	□99	1	1	1	
道路管理者照明用	RE	角型FEPφ75	□99	1	—	1	
公安用	KS	角型FEPφ75	□99	2	—	2	

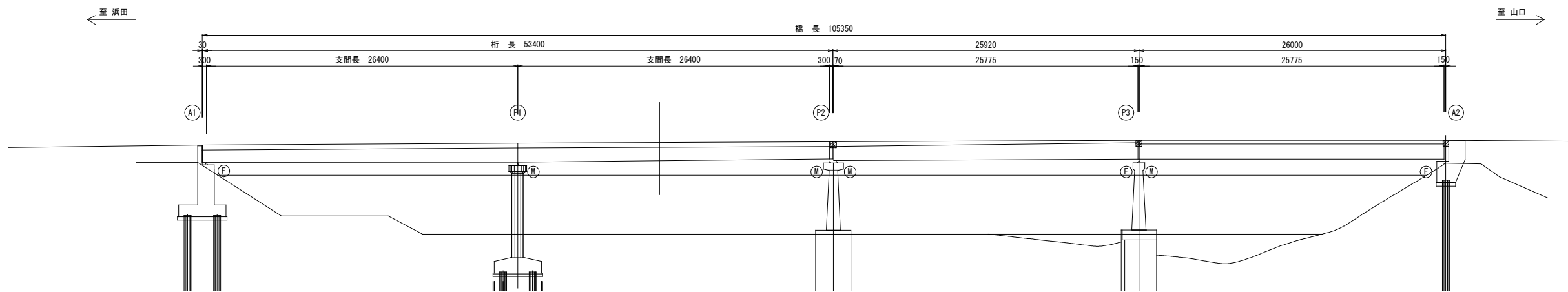
- 注) 1. 埋設表示シートについて、アスファルト舗装版(表層、基層、再生As安定処理)+10cmより深い位置に設置すること。
 2. 管路と埋設表示シートの距離が20cm以上の場合、埋設表示シートのみ設置すること。
 3. 管路と埋設表示シートの距離が20cm未満の場合、埋設表示シート+表示紙を設置すること。



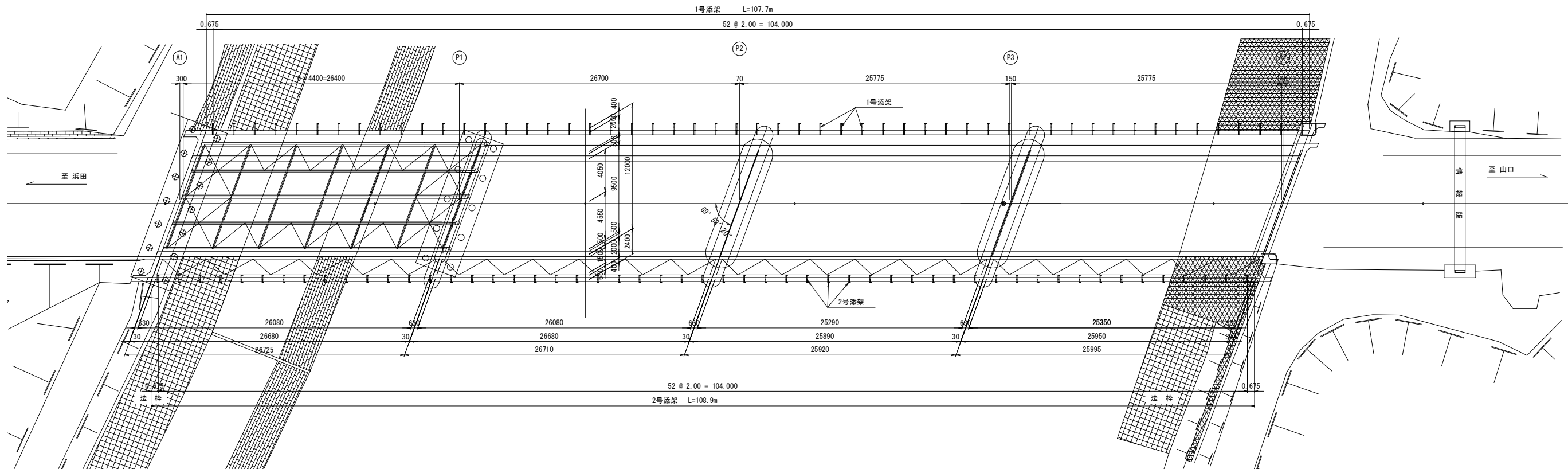
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	標準管路断面図(4)		
作成年月日			
縮尺	1:10	図面番号	43 葉之内 20
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

桥梁一般図

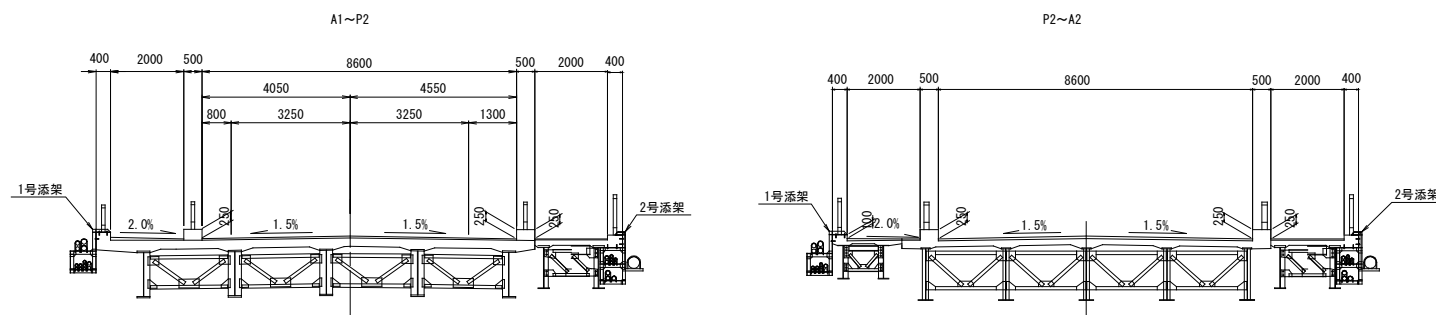
側面図 S=1:200



平面図 S=1:200



断面図 S=1:100



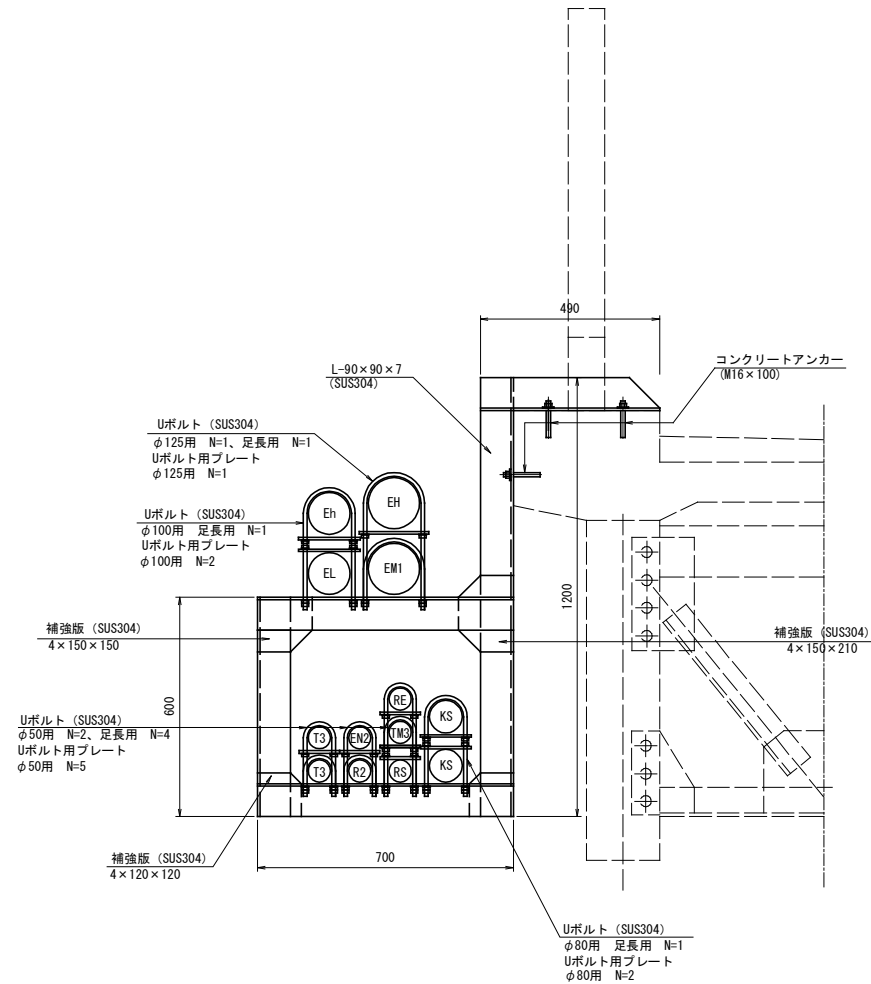
※橋長や支間長等については参考値であり、詳細設計及び施工については現地調査によること。

益田新大橋			
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	橋梁一般図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	43 葉之内 21
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

橋梁添架管路部標準断面図

1号添架

KS1単管2添架

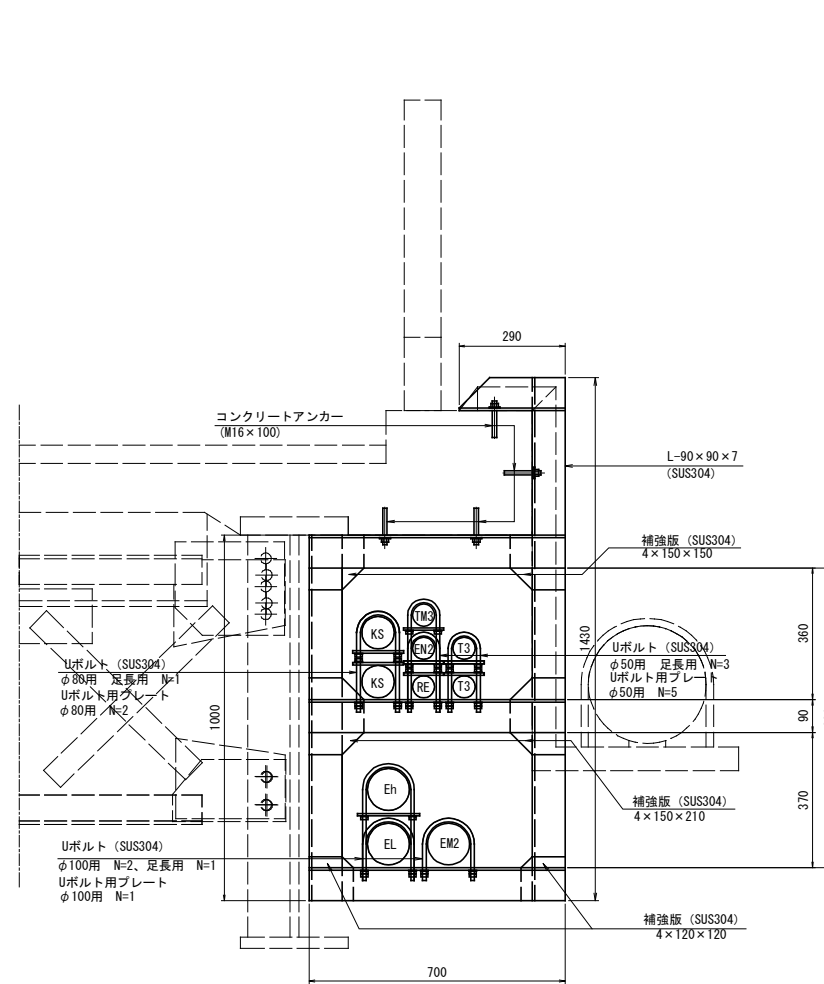


数量表

名称	規格	単位	数量	備考
等辺山形鋼	L-90×90×7 SUS304	m	3.690	9.59kg/m
		kg	35.387	
		枚	1	31.7kg/m ²
		枚	2	
補強板	SUS304 150×150×4	枚	1	31.7kg/m ²
		枚	2	
		枚	1	
		kg	2.663	
Uボルト	φ50用、M10 SUS304	組	2	ボルトナット含む
		組	4	ボルトナット含む
		組	-	
		組	1	ボルトナット含む
		組	-	
		組	1	ボルトナット含む
		組	1	ボルトナット含む
		組	1	ボルトナット含む
Uボルト用プレート	φ50用 SUS304	枚	5	7×110×30
		枚	2	7×140×30
		枚	2	7×170×30
		枚	1	7×190×30
プレート用ボルト・ナット	M10用	組	20	
コンクリートアンカー	M16×100	本	3	

2号添架

KN1単管2添架



数量表

名称	規格	単位	数量	備考
等辺山形鋼	L-90×90×7 SUS304	m	4.820	9.59kg/m
		kg	46.224	
		枚	2	31.7kg/m ²
		枚	2	
補強板	SUS304 150×150×4	枚	2	31.7kg/m ²
		枚	2	
		枚	2	
		kg	4.343	
Uボルト	φ50用、M10 SUS304	組	-	
		組	3	ボルトナット含む
		組	-	
		組	1	ボルトナット含む
		組	2	ボルトナット含む
		組	1	ボルトナット含む
		組	-	
		組	-	
Uボルト用プレート	φ50用 SUS304	枚	5	7×110×30
		枚	2	7×140×30
		枚	1	7×170×30
		枚	-	
プレート用ボルト・ナット	M10用	組	16	
コンクリートアンカー	M16×100	本	4	

管路の種別及び径 (橋梁部)

区分	事業者	記号	管種別	外径	管路条数		
					KS1単管2	KN1単管2	
電力	中国電力	EH	SGPφ125	φ139.8	1	-	
					1	1	
					1	1	
		電力メンテナンス管	EM1	SGPφ125	φ139.8	1	-
						1	-
						-	1
通信	NTT	T1	-	-	-	-	
					-	-	
					-	-	
		エネルギー・コミュニケーションズ	EN2	SGPφ50	φ60.5	2	2
						1	1
						-	-
	益田市(ひとまるビジョン)	CA1	SGPφ50	φ60.5	-	-	
					-	-	
					-	-	
	道路管理者	R1	SGPφ50	φ60.5	-	-	
					1	-	
		道路管理者照明用	RS	SGPφ50	φ60.5	1	-
-						-	
通信メンテナンス管	TM3	SGPφ50	φ60.5	1	1		
				1	1		
公安用	KS	SGPφ80	φ89.1	2	2		

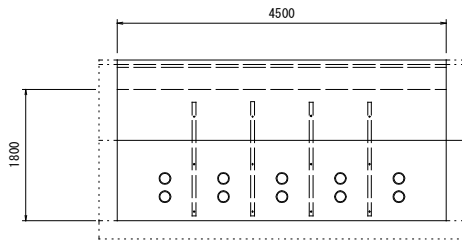
益田新大橋

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	橋梁添架管路部標準断面図		
作成年月日			
縮尺	1:10	図面番号	43 葉之内 22
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

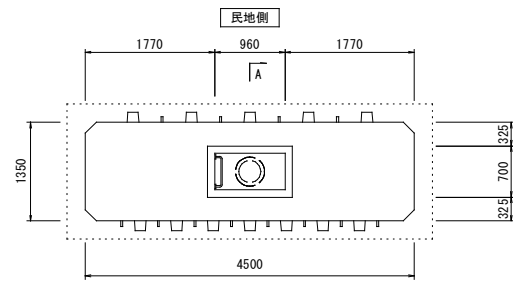
注) 添架金物の溶接部は突合わせ溶接、又はすみ肉溶接の全周溶接とする。

構造図 S=1:50

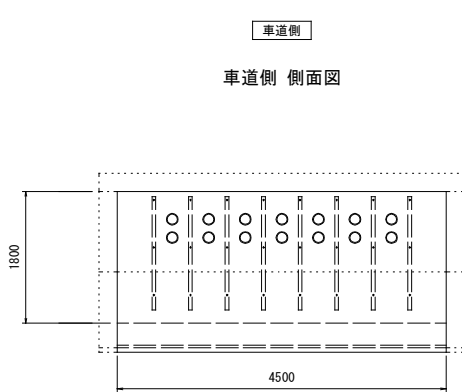
民地側 側面図



平面図



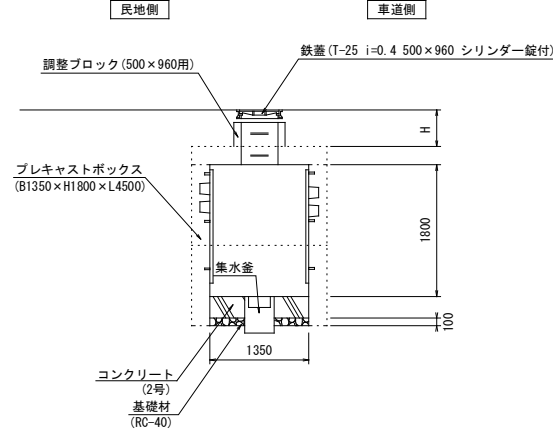
車道側 側面図



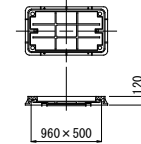
特殊部構造図(1)

S型マンホール
(MN2, MN3, MN5, MS2, MS3, MS4, MS6)

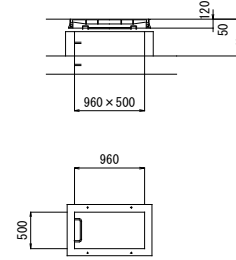
A-A断面図



鉄蓋

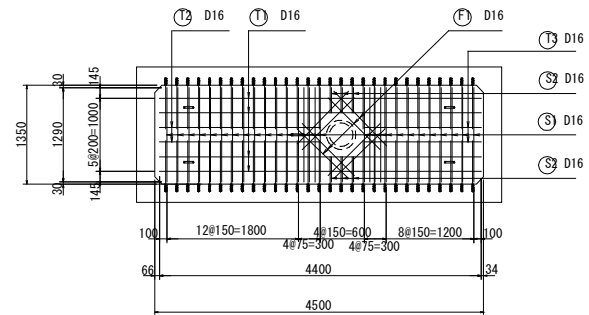


首部配置図

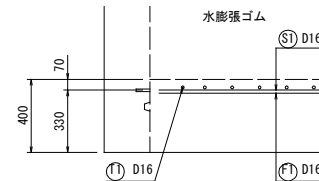


下床版配筋図

配筋図 S=1:50



詳細図 S=1:20



鉄筋質量表

符号	径	単位質量	長さ	本数	質量	形状
S1	D16	1.560	1.290	2.01	30	60
S2	D16	1.560	0.360	0.56	6	3
T1	D16	1.560	4.400	6.86	4	27
T2	D16	1.560	2.200	3.43	2	7
T3	D16	1.560	1.600	2.50	2	5
F1	D16	1.560	1.000	1.56	8	12
鉄筋合計						114 kg
差筋	D16	1.560	0.650	1.01	52	53
差筋	D16	1.560	0.420	0.66	6	4
差筋合計						57 kg
D16						171 kg
合計						171 kg

特殊部	首高
MS2, MS3, MS4, MS6, MN3	H=300
MN2	H=600
MN5	H=800

設計条件

設計荷重	活荷重	T-25
	衝撃係数	頂版・底版 i=0.4
	構造形式	鉄筋コンクリート箱形断面
	内空寸法 (幅×高さ×長さ)	レジンコンクリート箱形断面
	土の単位重量	B=1350×H=1800×L=4500
	地下水位以上	γs =19.0KN/m3
	地下水位以下	-
	地下水位	-
	土圧係数	Ka=0.500
使用材料	コンクリート	設計基準強度 σck=40N/mm2
	レジンコンクリート	設計基準強度 σbk=20.6MPa
	コンクリート(下床版)	設計基準強度 σck=24N/mm2
	鉄筋	SD345 D13~D22
	鉄筋(下床版)	SD345 D16

数量表(MN3, MS2, MS3, MS4, MS6)

名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B1350×H1800×L4500	基	1	ベルマウス付風金物含む
調整ブロック	500×960用 H=300	個	1	
鉄蓋	T-25 i=0.4 500×960 シリンダー錠付	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m2	6.075	
コンクリート	2号	m3	1.823	
鉄筋	SD345 D16	t	0.114	
差筋	SD345 D16	t	0.057	

数量表(MN2)

名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B1350×H1800×L4500	基	1	ベルマウス付風金物含む
調整ブロック	500×960用 H=600	個	1	
鉄蓋	T-25 i=0.4 500×960 シリンダー錠付	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m2	6.075	
コンクリート	2号	m3	1.823	
鉄筋	SD345 D16	t	0.114	
差筋	SD345 D16	t	0.057	

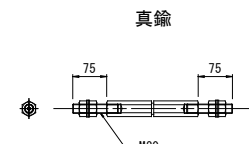
数量表(MN5)

名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B1350×H1800×L4500	基	1	ベルマウス付風金物含む
調整ブロック	500×960用 H=800	個	1	
鉄蓋	T-25 i=0.4 500×960 シリンダー錠付	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m2	6.075	
コンクリート	2号	m3	1.823	
鉄筋	SD345 D16	t	0.114	
差筋	SD345 D16	t	0.057	

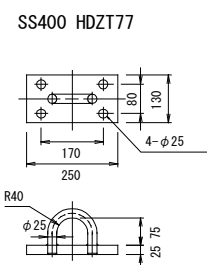
電力用立金物構造図 S=1:20

SS400 HDZT77

接地線取付けボルト S=1:8

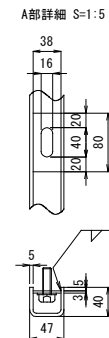
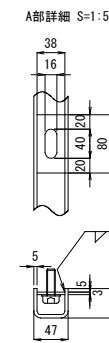


ケーブル引込フック S=1:10



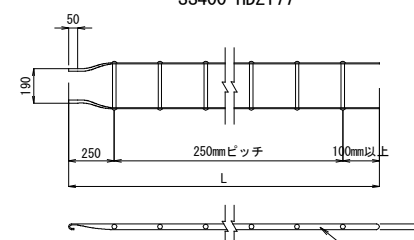
通信用立金物構造図 S=1:20

SS400 HDZT77



梯子構造図 S=1:20

SS400 HDZT77

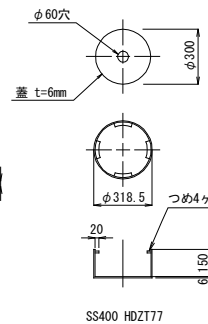


梯子、立金物寸法表

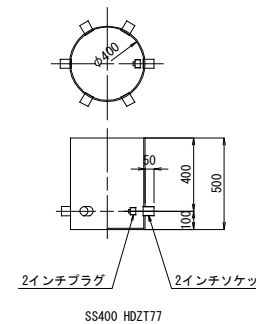
内空高さ(mm)	梯子長さL(mm)	立金物長さL(mm)
1800	2000	1550

集水釜構造図 S=1:20

水溜樹



集水釜

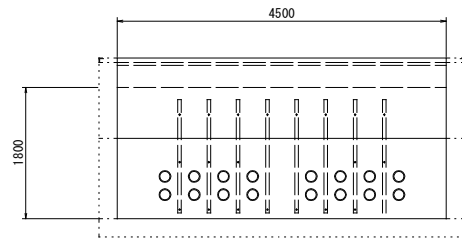


工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	特殊部構造図(1)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	43 葉之内 23
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

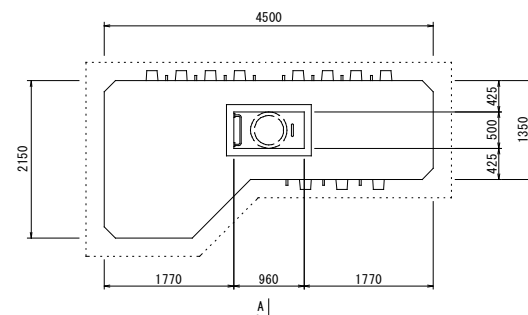
特殊部構造図(2)

L型マンホール
(MN1-1, MN4, MS1)

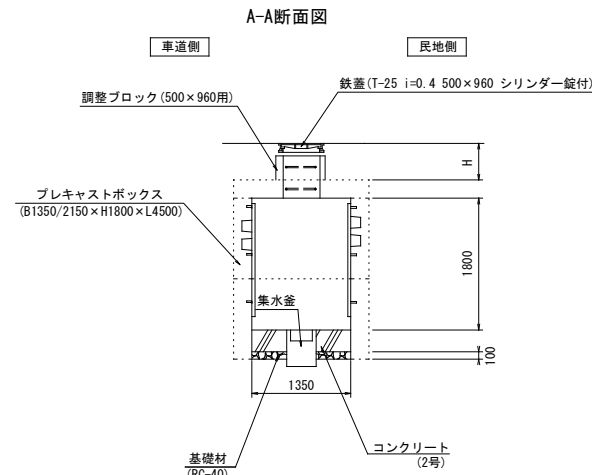
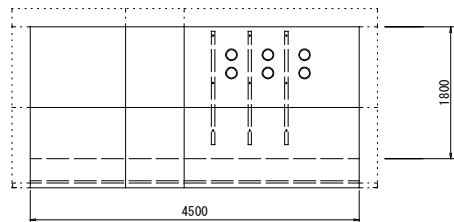
構造図 S=1:50
民地側 側面図



平面図
民地側
A

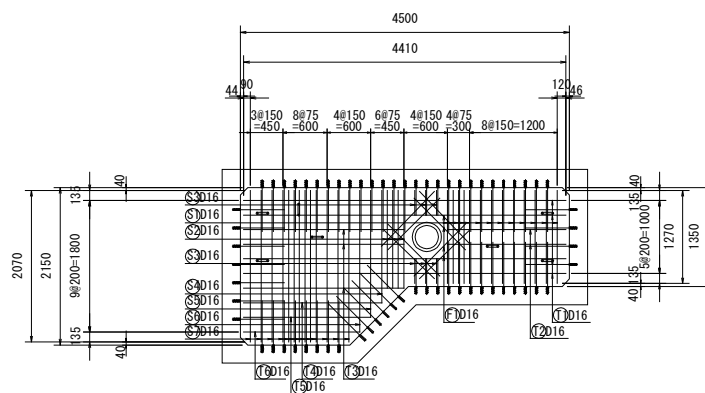


車道側 側面図

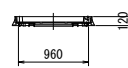


下床版配筋図

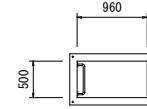
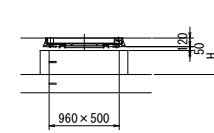
配筋図 S=1:50



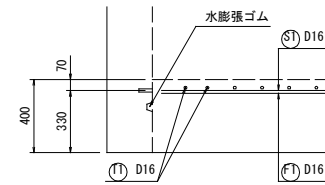
鉄蓋



首部配置図



詳細図 S=1:20



鉄筋質量表

符号	径	単位質量	長さ	1本当り質量	本数	質量	形状
S1	D16	1.560	1.270	1.98	13	26	—
S2	D16	1.560	1.335	2.08	4	8	—
S3	D16	1.560	0.340	0.53	6	3	—
S4	D16	1.560	1.550	2.42	1	2	—
S5	D16	1.560	1.750	2.73	1	3	—
S6	D16	1.560	1.950	3.04	1	3	—
S7	D16	1.560	2.070	3.23	13	42	—
T1	D16	1.560	4.410	6.88	4	28	—
T2	D16	1.560	1.620	2.53	2	5	—
T3	D16	1.560	2.190	3.42	3	10	—
T4	D16	1.560	1.890	2.95	1	3	—
T5	D16	1.560	1.740	2.71	1	3	—
T6	D16	1.560	1.590	2.48	1	2	—
F1	D16	1.560	1.000	1.56	8	12	—
鉄筋合計							150 kg
差筋	D16	1.560	0.650	1.01	46	46	—
差筋	D16	1.560	0.420	0.66	6	4	—
差筋合計							50 kg
D16							200 kg
合計							200 kg

特殊部	首高
MS1, MN1-1	H=600
MN4	H=700

設計条件

設計荷重	活荷重	T-25
	衝撃係数	頂版・底版 i=0.4
構造形式		鉄筋コンクリート箱形断面
内空寸法 (幅×高さ×長さ)		B=1350/2150×H=1800×L=4500
土の単位重量	地下水位以上	$\gamma_s = 19.0\text{KN/m}^3$
	地下水位以下	—
	地下水位	—
	土圧係数	$K_a=0.500$
使用材料	コンクリート	設計基準強度 $\sigma_{ck}=40\text{N/mm}^2$
	コンクリート(下床版)	設計基準強度 $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄筋	SD345 D13~D22
	鉄筋(下床版)	SD345 D16

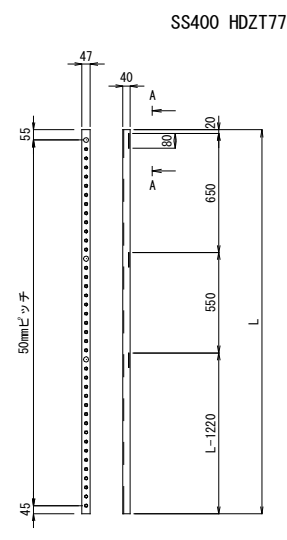
数量表(MS1, MN1-1)

名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B1350/2150 x H1800 x L4500	基	1	ベルマウス付風食物含む
調整ブロック	500 x 960用 H=600	個	1	
鉄蓋	T-25 i=0.4 500 x 960 シリンダー錠付	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m2	7.355	
コンクリート	2号	m3	2.207	
鉄筋	SD345 D16	t	0.150	
差筋	SD345 D16	t	0.050	

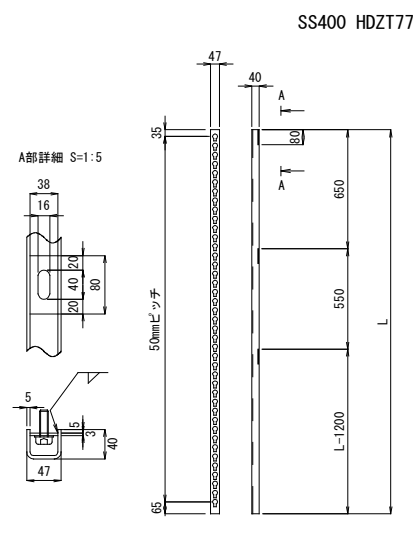
数量表(MN4)

名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B1350/2150 x H1800 x L4500	基	1	ベルマウス付風食物含む
調整ブロック	500 x 960用 H=700	個	1	
鉄蓋	T-25 i=0.4 500 x 960 シリンダー錠付	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m2	7.355	
コンクリート	2号	m3	2.207	
鉄筋	SD345 D16	t	0.150	
差筋	SD345 D16	t	0.050	

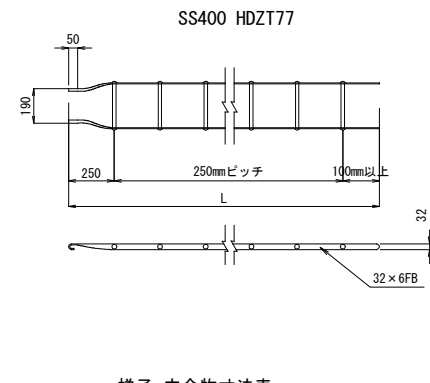
電力用立金物構造図 S=1:20



通信用立金物構造図 S=1:20



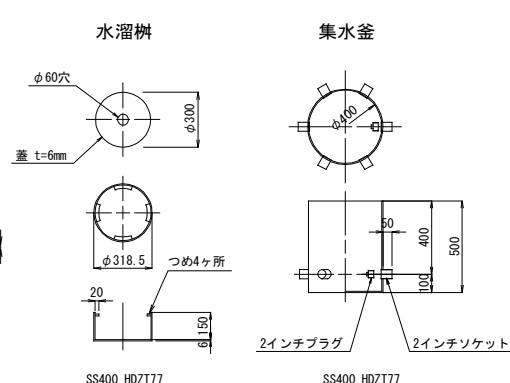
梯子構造図 S=1:20



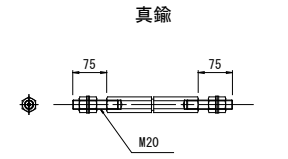
梯子、立金物寸法表

内空高さ (mm)	梯子長さL (mm)	立金物長さL (mm)
1800	2000	1550

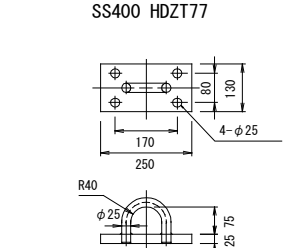
集水釜構造図 S=1:20



接地線取付けボルト S=1:8



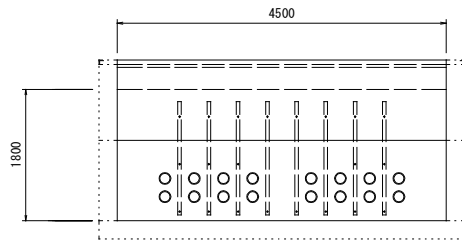
ケーブル引込フック S=1:10



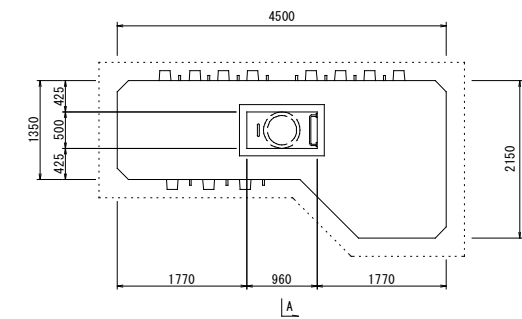
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	特殊部構造図(2)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	43葉之内 24
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

特殊部構造図(3) L型マンホール (MN1, MS1-1, MS5)

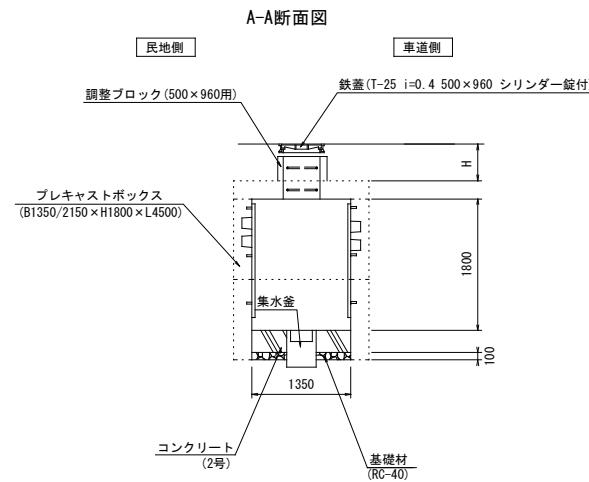
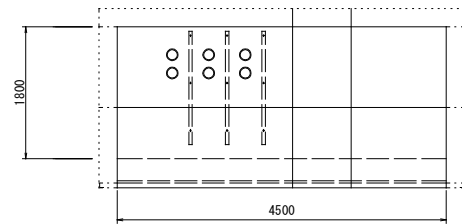
構造図 S=1:50
民地側 側面図



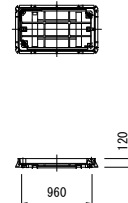
平面図
民地側
A



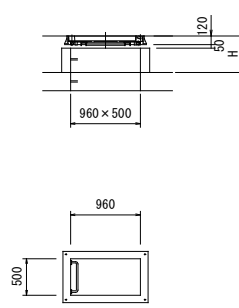
車道側 側面図



鉄蓋

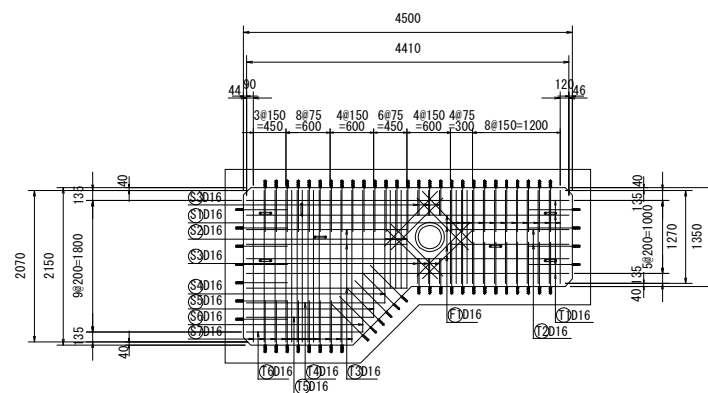


首部配置図

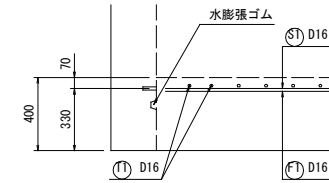


下床版配筋図

配筋図 S=1:50



詳細図 S=1:20



鉄筋質量表

符号	径	単位質量	長さ	1本当り質量	本数	質量	形状
S1	D16	1.560	1.270	1.98	13	26	—
S2	D16	1.560	1.335	2.08	4	8	—
S3	D16	1.560	0.340	0.53	6	3	—
S4	D16	1.560	1.550	2.42	1	2	—
S5	D16	1.560	1.750	2.73	1	3	—
S6	D16	1.560	1.950	3.04	1	3	—
S7	D16	1.560	2.070	3.23	13	42	—
T1	D16	1.560	4.410	6.88	4	28	—
T2	D16	1.560	1.620	2.53	2	5	—
T3	D16	1.560	2.190	3.42	3	10	—
T4	D16	1.560	1.890	2.95	1	3	—
T5	D16	1.560	1.740	2.71	1	3	—
T6	D16	1.560	1.590	2.48	1	2	—
F1	D16	1.560	1.000	1.56	8	12	—
鉄筋合計						150 kg	
差筋	D16	1.560	0.650	1.01	46	46	—
差筋	D16	1.560	0.420	0.66	6	4	—
差筋合計						50 kg	
D16						200 kg	
合計						200 kg	

特殊部	首高
MS1-1, MS5	H=700
MN1	H=600

設計条件

設計荷重	活荷重	T-25
	衝撃係数	頂版・底版 i=0.4
	構造形式	鉄筋コンクリート箱形断面
内空寸法 (幅×高さ×長さ)		B=1350/2150×H=1800×L=4500
土の単位重量	地下水位以上	$\gamma_s = 19.0 \text{ KN/m}^3$
	地下水位以下	—
	土圧係数	$K_a = 0.500$
使用材料	コンクリート	設計基準強度 $\sigma_{ck} = 40 \text{ N/mm}^2$
	コンクリート(下床版)	設計基準強度 $\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$
	鉄筋	SD345 D13~D22
	鉄筋(下床版)	SD345 D16

数量表 (MN1)

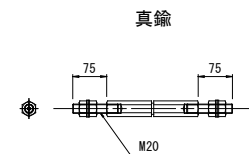
名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B1350/2150 x H1800 x L4500	基	1	ベルマウス付真食物含む
調整ブロック	500 x 960用 H=600	個	1	
鉄蓋	T-25 i=0.4 500 x 960 シリンダー錠付	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m2	7.355	
コンクリート	2号	m3	2.207	
鉄筋	SD345 D16	t	0.150	
差筋	SD345 D16	t	0.050	

数量表 (MS1-1, MS5)

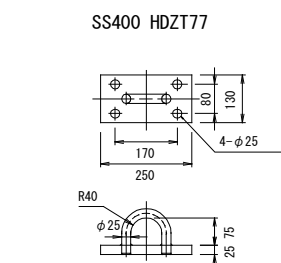
名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B1350/2150 x H1800 x L4500	基	1	ベルマウス付真食物含む
調整ブロック	500 x 960用 H=700	個	1	
鉄蓋	T-25 i=0.4 500 x 960 シリンダー錠付	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m2	7.355	
コンクリート	2号	m3	2.207	
鉄筋	SD345 D16	t	0.150	
差筋	SD345 D16	t	0.050	

電力用立金物構造図 S=1:20

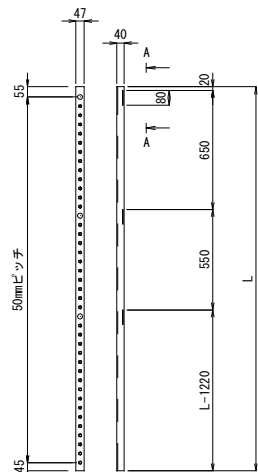
接地線取付けボルト S=1:8



ケーブル引込フック S=1:10

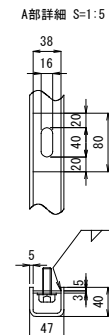
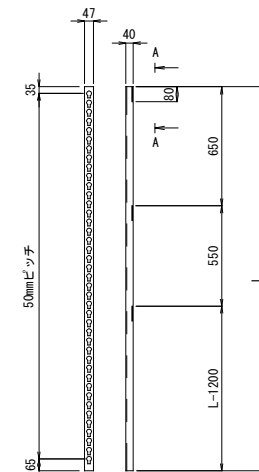
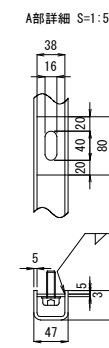


SS400 HDZT77



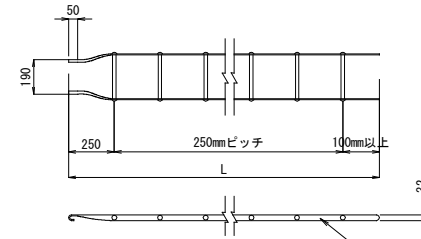
通信用立金物構造図 S=1:20

SS400 HDZT77



梯子構造図 S=1:20

SS400 HDZT77

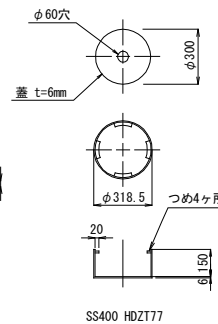


梯子、立金物寸法表

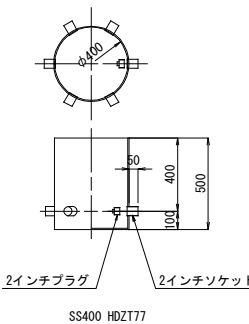
内空高さ (mm)	梯子長さL (mm)	立金物長さL (mm)
1800	2000	1550

集水釜構造図 S=1:20

水溜樹

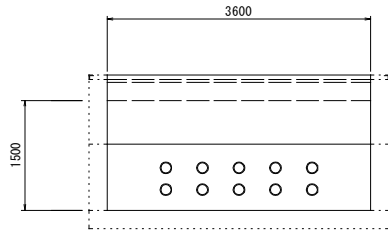


集水釜

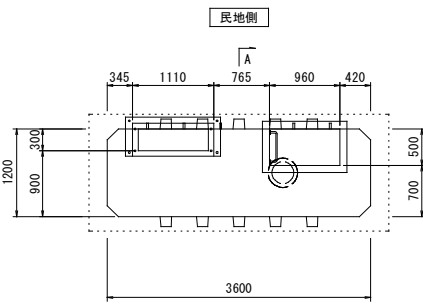


工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	特殊部構造図(3)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	43 葉之内 25
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

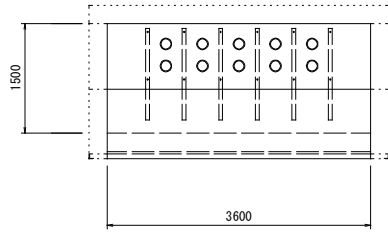
構造図 S=1:50
民地側 側面図



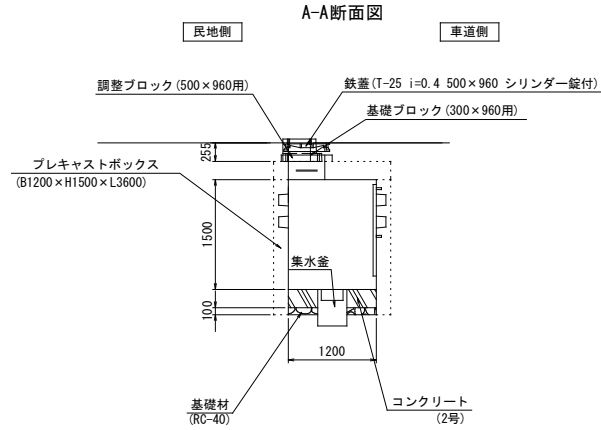
平面図



車道側 側面図



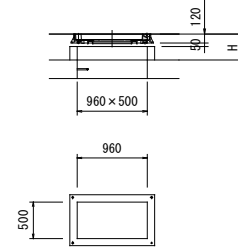
特殊部構造図(4)
電力地上機器部
(AN1, AS1)



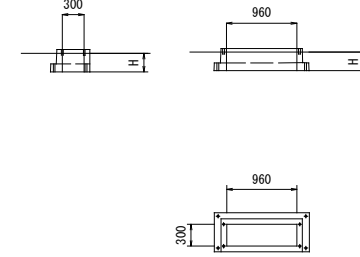
鉄蓋



首部配置図

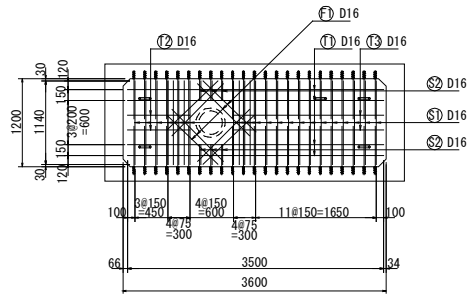


基礎ブロック図

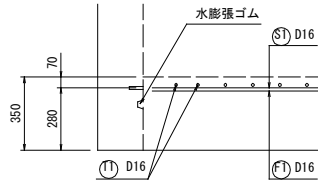


下床版配筋図

配筋図 S=1:50



詳細図 S=1:20



鉄筋質量表 (SD345)

符号	径	単位質量	長さ	1本当り質量	本数	質量	形状
S1	D16	1.560	1.140	1.78	24	43	—
S2	D16	1.560	0.280	0.44	6	3	—
T1	D16	1.560	3.500	5.46	4	22	—
T2	D16	1.560	0.860	1.34	2	3	—
T3	D16	1.560	2.060	3.21	2	6	—
F1	D16	1.560	1.000	1.56	8	12	—
鉄筋合計							89 kg
差筋	D16	1.560	0.540	0.84	40	34	—
差筋	D16	1.560	0.340	0.53	6	3	—
差筋合計							37 kg
D16							126 kg
合計							126 kg

設計条件

特殊部	首高	設計荷重	活荷重	T-25
AN1	H=650	衝撃係数	頂版・底版 i=0.4	
AS1	H=700	構造形式	鉄筋コンクリート箱形断面 レジンコンクリート箱形断面	
		内寸法 (幅×高さ×長さ)	B=1200×H=1500×L=3600	
		土の単位重量	地下水位以上 γs =19.0kN/m3	
		地下水位	地下水位以下 -	
		土圧係数	Ka=0.500	
		コンクリート	設計基準強度 σck=40N/mm2	
		レジンコンクリート	設計基準強度 σbk=20.6MPa	
		コンクリート(下床版)	設計基準強度 σck=24N/mm2	
		鉄筋	SD345 D13~D22	
		鉄筋(下床版)	SD345 D16	

数量表 (AN1)

名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B1200×H1500×L3600	基	1	ベルマウス付風金物含む
調整ブロック	500×960用 H=650	個	1	
基礎ブロック	300×960用 H=650	個	1	
鉄蓋	T-25 i=0.4 500×960 シリンダー錠付	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m2	4.320	
コンクリート	2号	m3	1.080	
鉄筋	SD345 D16	t	0.089	
差筋	SD345 D16	t	0.037	

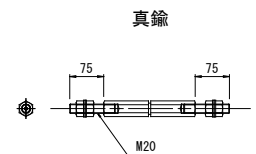
数量表 (AS1)

名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B1200×H1500×L3600	基	1	ベルマウス付風金物含む
調整ブロック	500×960用 H=700	個	1	
基礎ブロック	300×960用 H=700	個	1	
鉄蓋	T-25 i=0.4 500×960 シリンダー錠付	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m2	4.320	
コンクリート	2号	m3	1.080	
鉄筋	SD345 D16	t	0.089	
差筋	SD345 D16	t	0.037	

電力用立金物構造図 S=1:20

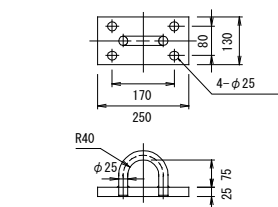
SS400 HDZT77

接地線取付けボルト S=1:8



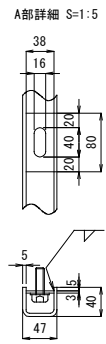
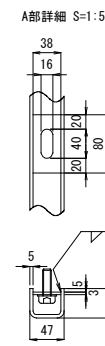
ケーブル引込フック S=1:10

SS400 HDZT77



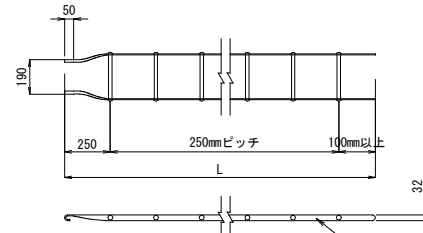
通信用立金物構造図 S=1:20

SS400 HDZT77



梯子構造図 S=1:20

SS400 HDZT77

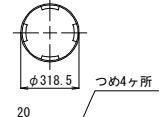
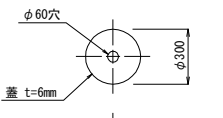


梯子、立金物寸法表

内空高さ (mm)	梯子長さL (mm)	立金物長さL (mm)
1500	1800	1350

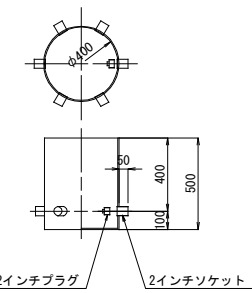
集水釜構造図 S=1:20

水溜樹



SS400 HDZT77

集水釜



SS400 HDZT77

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	特殊部構造図(4)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	43 葉之内 26
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

特殊部構造図(5)

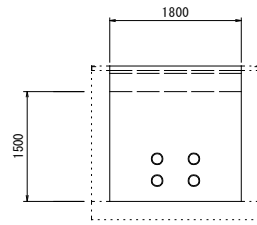
電力地上機器部
(AN2, AS2, AS3)

設計条件

設計荷重	活荷重	T-25
	衝撃係数	頂板・底板 i=0.1
構造形式		鉄筋コンクリート箱形断面 レジンコンクリート箱形断面
内空寸法(幅×高さ×長さ)		B=1200×H=1500×L=1800
土の単位重量	地下水位以上	$\gamma_s = 19.0 \text{ KN/m}^3$
	地下水位以下	-
地下水位		-
土圧係数		Ka=0.500
使用材料	コンクリート	設計基準強度 $\sigma_{ck}=40 \text{ N/mm}^2$
	レジンコンクリート	設計基準強度 $\sigma_{bk}=20.6 \text{ MPa}$
	コンクリート(下床版)	設計基準強度 $\sigma_{ck}=24 \text{ N/mm}^2$
	鉄筋	SD345 D13~D22
	鉄筋(下床版)	SD345 D16

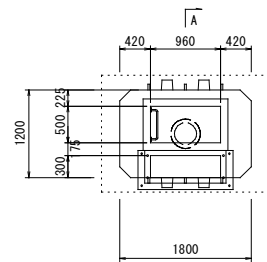
構造図 S=1:50

民地側 側面図

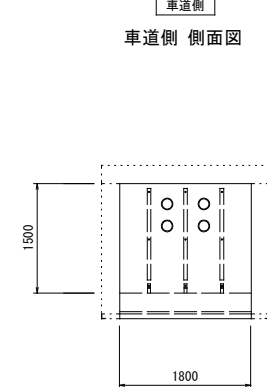


平面図

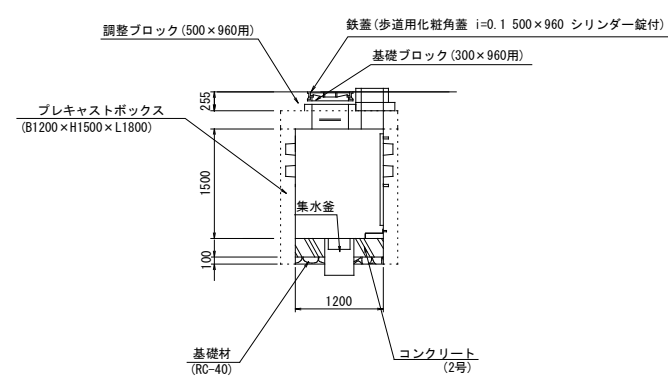
民地側



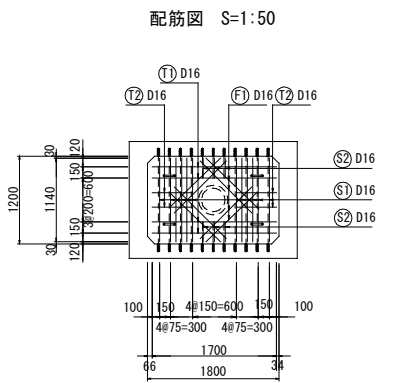
車道側 側面図



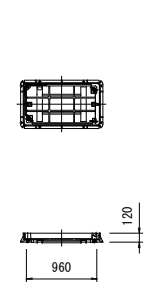
A-A断面図



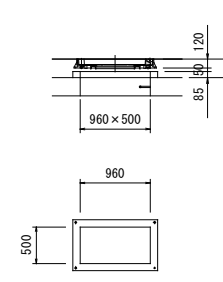
下床版配筋図



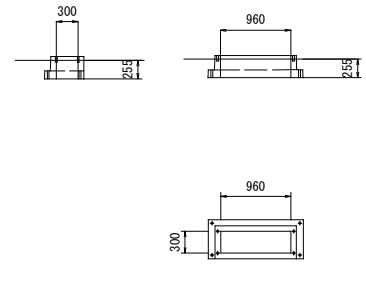
鉄蓋



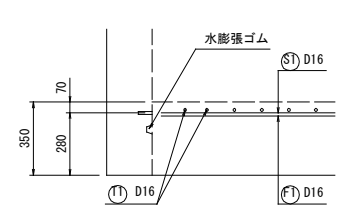
首部配置図



基礎ブロック図



詳細図 S=1:20



鉄筋質量表

符号	径	単位質量	長さ	1本当り質量	本数	質量	形状	
S1	D16	1.560	1.140	1.78	12	21	—	
S2	D16	1.560	0.280	0.44	6	3	—	
T1	D16	1.560	1.700	2.65	4	11	—	
T2	D16	1.560	0.560	0.87	4	3	—	
F1	D16	1.560	1.000	1.56	8	12	—	
鉄筋合計							50 kg	
差筋	D16	1.560	0.580	0.90	16	14	—	
差筋	D16	1.560	0.330	0.51	6	3	—	
差筋合計							17 kg	
D16							67 kg	
合計							67 kg	

数量表 (AN2, AS2, AS3)

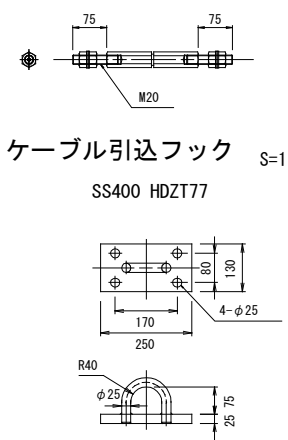
名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B1200×H1500×L1800	基	1	ヘルマウス付風金物含む
調整ブロック	500×960用 H=255	個	1	
基礎ブロック	300×960用 H=255	個	1	
鉄蓋	歩道用化粧角蓋 i=0.1 500×960 シリンダー錠付	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m2	2.160	
コンクリート	2号	m3	0.540	
鉄筋	SD345 D16	t	0.050	
差筋	SD345 D16	t	0.017	

電力用立金物構造図 S=1:20

SS400 HDZT77

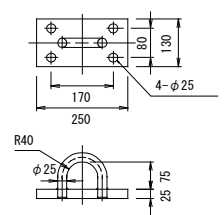
接地線取付けボルト S=1:8

真鍮



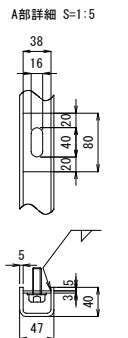
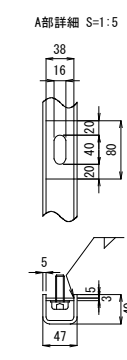
ケーブル引込フック S=1:10

SS400 HDZT77



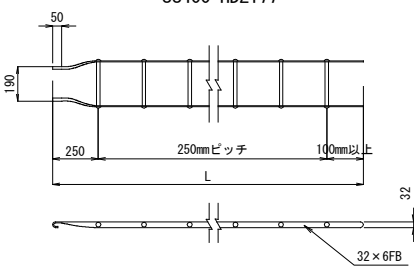
通信用立金物構造図 S=1:20

SS400 HDZT77



梯子構造図 S=1:20

SS400 HDZT77



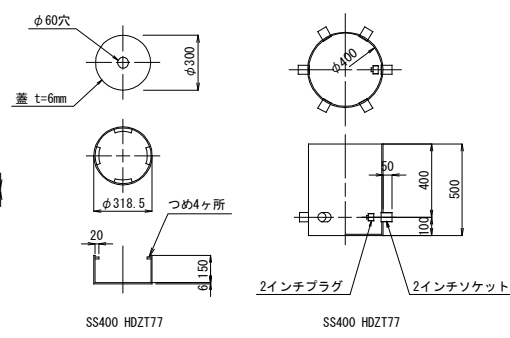
梯子、立金物寸法表

内空高さ (mm)	梯子長さL (mm)	立金物長さL (mm)
1500	1800	1350

集水釜構造図 S=1:20

水溜樹

集水釜

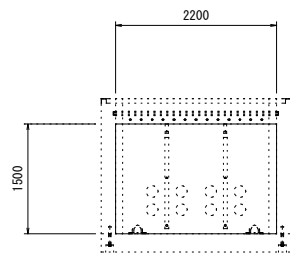


工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	特殊部構造図(5)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	43葉之内 27
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

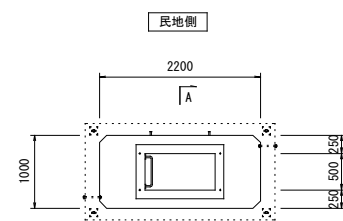
特殊部構造図(6)

通信基点柵 (TN2, TS2)

構造図 S=1:50
民地側 側面図

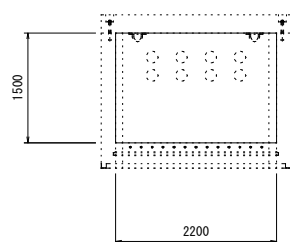


平面図

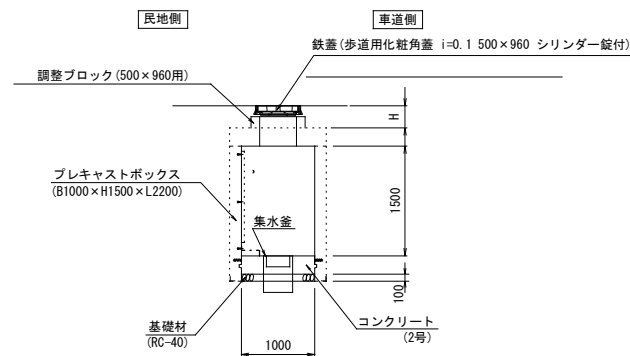


民地側

車道側 側面図

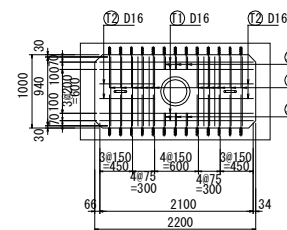


A-A断面図

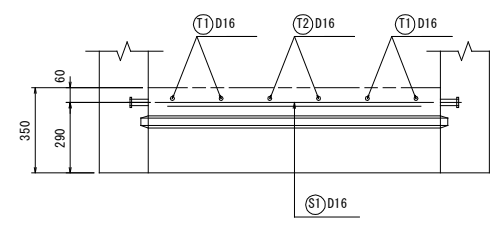


下床版配筋図

配筋図 S=1:50

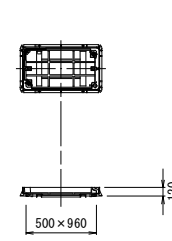


詳細図 S=1:15

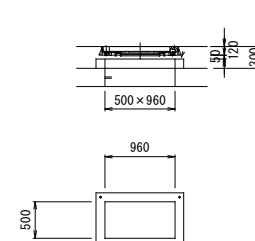


注) 鉄筋はT1, T2部材が上側になるように設置する。

鉄蓋



首部配置図



特殊部	首高
TS2	H=300
TN2	H=700

設計条件

設計荷重	活荷重	T-25
	衝撃係数	側壁 i=0 頂版, 底版 i=0.1
構造形式	鉄筋コンクリート箱型断面 レジンコンクリート箱型断面	
内空寸法(幅×高さ×長さ)	1.0m×1.5m×2.2m	
土の単位重量	地下水位以上	19kN/m ³
	地下水位以下	-
土圧係数	コンクリート	K ₀ =0.5
	レジンコンクリート	設計基準強度 σ _{ck} =30N/mm ²
使用材料	下床版コンクリート	設計基準強度 σ _{ck} =20.6MPa
	鉄筋	SD 345

数量表 (TS2)

名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B1000×H1500×L2200	基	1	ベルマウス付風金物含む
調整ブロック	500×960用 H=300	個	1	
鉄蓋	歩道用化粧角蓋 i=0.1 500×960 シリンダー錠付	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m ²	2.200	
コンクリート	2号	m ³	0.550	
鉄筋	SD345 D16	t	0.041	
差筋	SD345 D16	t	0.017	

数量表 (TN2)

名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B1000×H1500×L2200	基	1	ベルマウス付風金物含む
調整ブロック	500×960用 H=700	個	1	
鉄蓋	歩道用化粧角蓋 i=0.1 500×960 シリンダー錠付	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m ²	2.200	
コンクリート	2号	m ³	0.550	
鉄筋	SD345 D16	t	0.041	
差筋	SD345 D16	t	0.017	

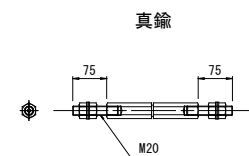
鉄筋質量表 (SD345)

符号	径	単位質量	長さ	1本当り質量	本数	質量	形状
S1	D16	1.560	0.940	1.47	14	21	—
S2	D16	1.560	0.180	0.28	6	2	—
T1	D16	1.560	2.100	3.28	4	13	—
T2	D16	1.560	0.760	1.19	4	5	—
鉄筋合計							41 kg
差筋	D16	1.560	0.480	0.75	20	15	—
差筋	D16	1.560	0.230	0.36	6	2	—
差筋合計							17 kg
D16							58 kg
合計							58 kg

電力用立金物構造図 S=1:20

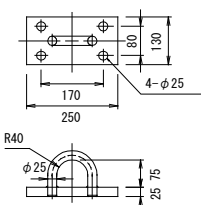
SS400 HDZT77

接地線取付けボルト S=1:8



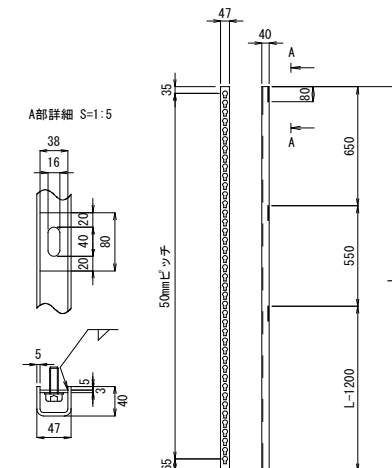
ケーブル引込フック S=1:10

SS400 HDZT77



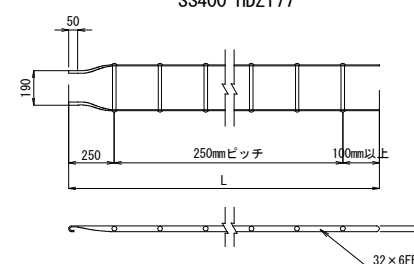
通信用立金物構造図 S=1:20

SS400 HDZT77



梯子構造図 S=1:20

SS400 HDZT77

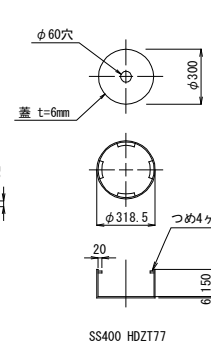


梯子, 立金物寸法表

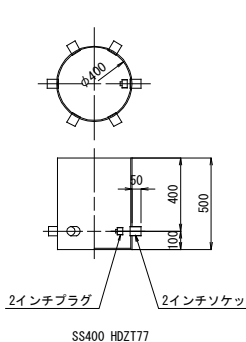
内空高さ (mm)	梯子長さL (mm)	立金物長さL (mm)
1500	1800	1350

集水釜構造図 S=1:20

水溜樹



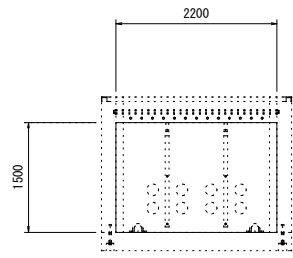
集水釜



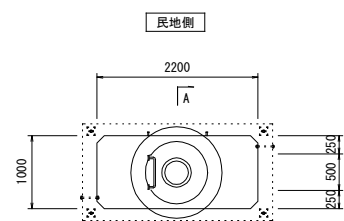
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	特殊部構造図(6)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	43 葉之内 28
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

特殊部構造図(7) 通信基点柵 (TN5, TS3)

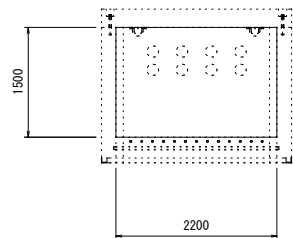
構造図 S=1:50
民地側 側面図



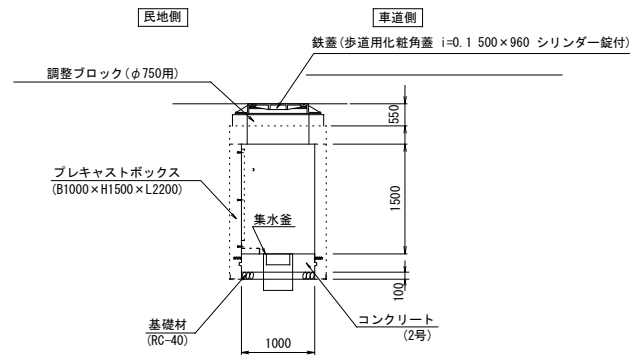
平面図



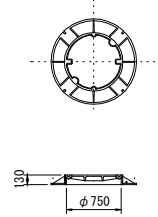
車道側 側面図



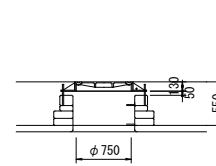
A-A断面図



鉄蓋

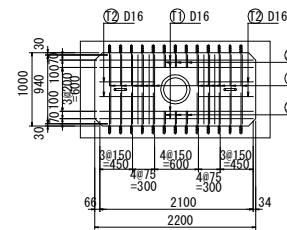


首部配置図

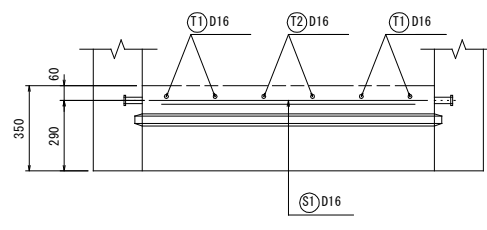


下床版配筋図

配筋図 S=1:50



詳細図 S=1:15



注) 鉄筋はT1, T2部材が上側になるように設置する。

鉄筋質量表

符号	径	単位質量	長さ	1本当り質量	本数	質量	形状
S1	D16	1.560	0.940	1.47	14	21	—
S2	D16	1.560	0.180	0.28	6	2	—
T1	D16	1.560	2.100	3.28	4	13	—
T2	D16	1.560	0.760	1.19	4	5	—
鉄筋合計							41 kg
差筋	D16	1.560	0.480	0.75	20	15	—
差筋	D16	1.560	0.230	0.36	6	2	—
差筋合計							17 kg
D16							58 kg
合計							58 kg

設計条件

設計荷重	活荷重	T-25
衝撃係数	倒壁i=0 頂版 底版i=0.1	
構造形式	鉄筋コンクリート箱型断面 レジンコンクリート箱型断面	
内空寸法(幅x高さx長さ)	1.0m x 1.5m x 2.2m	
地下水位	—	
土の単位重量	地下水位以上 地下水位以下	19kN/m ³ —
土圧係数		Ko=0.5
使用材料	コンクリート	設計基準強度σ _{ck} =30N/mm ²
	レジンコンクリート	設計基準強度σ _{bk} =20.6MPa
	下床版コンクリート	設計基準強度σ _{ck} =24N/mm ²
	鉄筋	SD 345

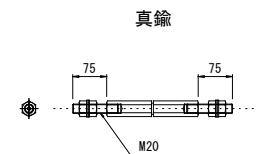
数量表 (TS3, TN5)

名称	規格	単位	数量	1箇所当り	備考
プレキャストボックス	B1000xH1500xL2200	基	1		ベルマウス付風室物含む
調整ブロック	φ750用 H=550	個	1		
鉄蓋	T-25 i=0.1 φ750 シリンダー製付 球状裏面鋼鉄	組	1		化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m ²	2.200		
コンクリート	2号	m ³	0.550		
鉄筋	SD345 D16	t	0.041		
差筋	SD345 D16	t	0.017		

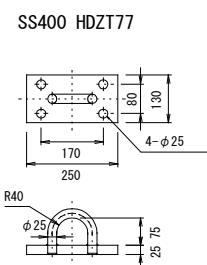
電力用立金物構造図 S=1:20

SS400 HDZT77

接地線取付けボルト S=1:8

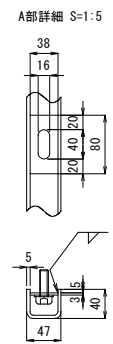
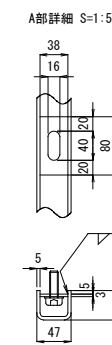


ケーブル引込フック S=1:10



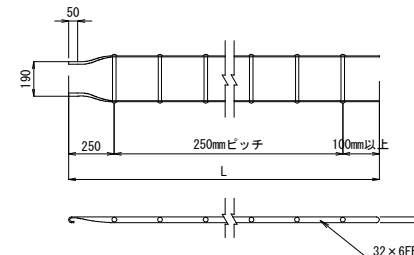
通信用立金物構造図 S=1:20

SS400 HDZT77



梯子構造図 S=1:20

SS400 HDZT77

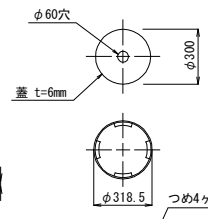


梯子、立金物寸法表

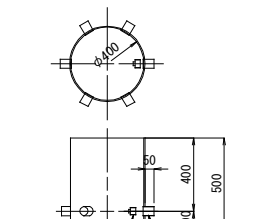
内空高さ (mm)	梯子長さL (mm)	立金物長さL (mm)
1500	1800	1350

集水蓋構造図 S=1:20

水溜樹



集水蓋



工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	特殊部構造図(7)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	43 葉之内 29
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

特殊部構造図(8)

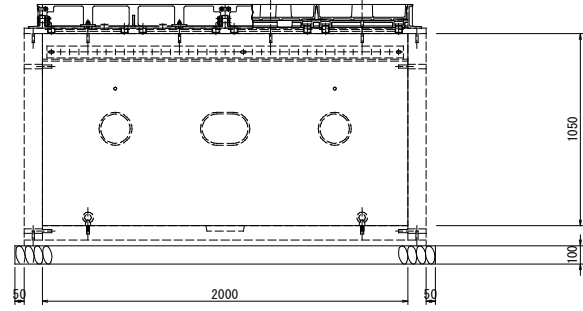
通信接続機

(TN1, TN3, TN4, TN6, TS1, TS4, TS5)

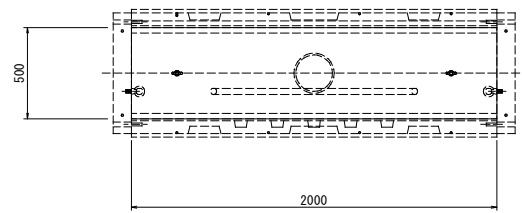
設計条件

設計荷重	活荷重	T-25 (軸荷重50kN, 隣接軸距1.3m)
	衝撃係数	側壁 <i>i</i> =0 底板 <i>i</i> =0.1
構造形式		鉄筋コンクリート箱型断面
		レジンコンクリート箱型断面
内空寸法 (幅×高さ×長さ)		0.5m × 1.050m × 2.000m
土の単位重量	地下水位以上	<i>r</i> =19kN/m ³
	地下水位以下	-
土圧係数		<i>K</i> ₀ =0.5
使用材料	コンクリート	設計基準強度 σ_{ck} =30N/mm ²
	レジンコンクリート	設計基準強度 σ_{bk} =20.6MPa
	鉄筋	鉄線 (SMM-P)

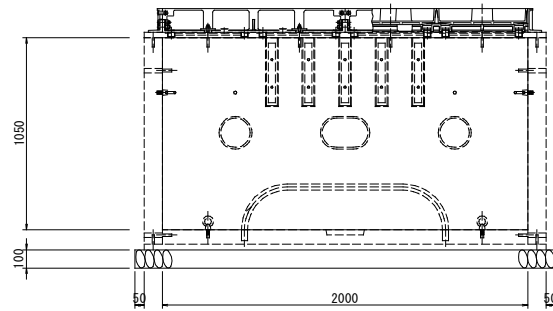
民地側
2-2側面図



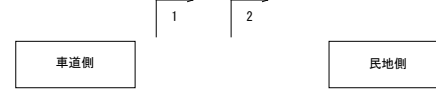
平面図



車道側
1-1側面図



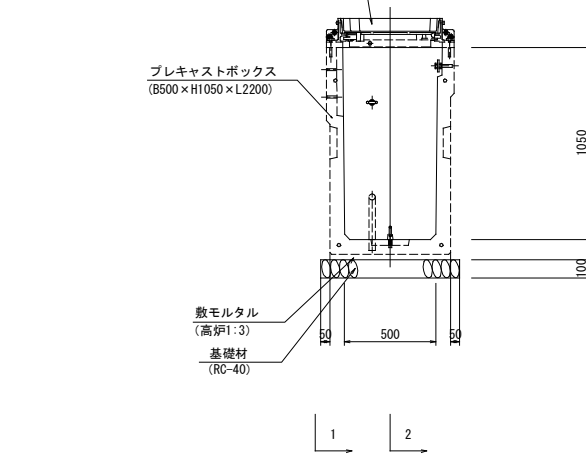
断面図



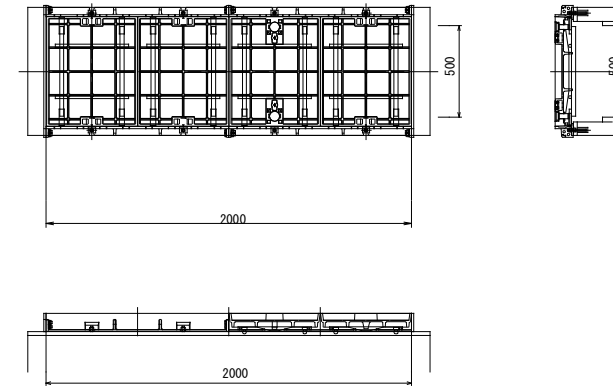
鉄蓋 (T-25 500×2000 スライドロック式 (シリンダー錠付))

プレキャストボックス
(B500×H1050×L2200)

敷モルタル
(高炉1:3)
基礎材
(RC-40)



鉄蓋
(500×2000)



数量表 (TN1, TN3, TN4, TN6, TS1, TS4, TS5)

名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B500×H1050×L2200	基	1	ベルマウス付 盛金物会社
鉄蓋	T-25 500×2000 スライドロック式 (シリンダー錠付)	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m ²	1.748	
敷モルタル	高炉1:3	式	1	

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	特殊部構造図(8)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43 葉之内 30
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

特殊部構造図(9)

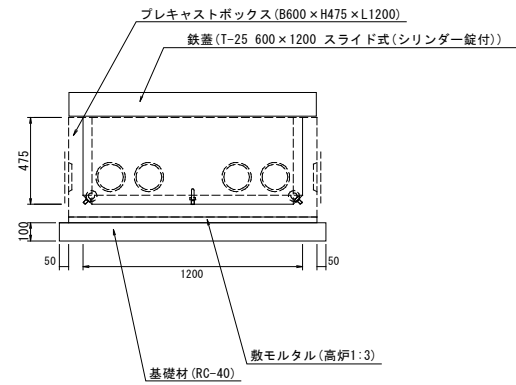
分岐柵

(BS1-1, BS1, BS2, BS3)

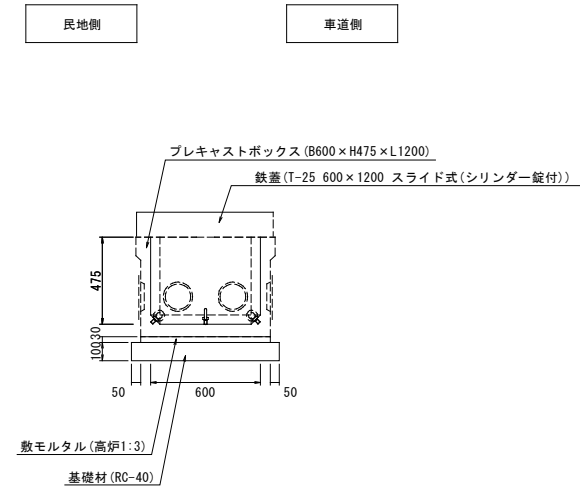
設計条件

設計荷重	活荷重	T-25 (軸荷重50kN, 隣接軸距1.3m)
	衝撃係数	i=0.1
構造形式		鉄筋コンクリート箱型断面
		レジンコンクリート箱型断面
内空寸法(幅×高さ×長さ)		0.6m×0.475m×1.2m
土の単位重量		r=19kN/m ³
土圧係数		KA=0.5
使用材料	コンクリート	設計基準強度σ _{ck} =30N/mm ²
	レジンコンクリート	設計基準強度σ _{bk} =20.6MPa
	鉄筋	SD295A
本体土被り		GL-160mm

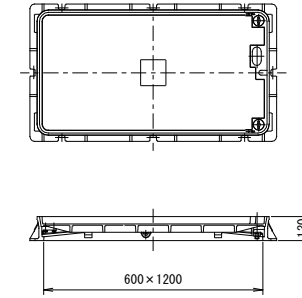
A-A断面



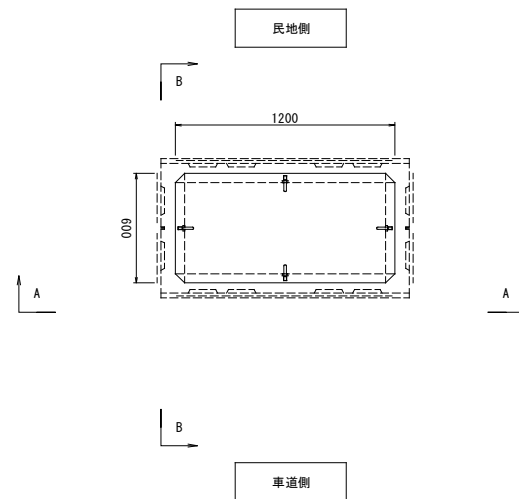
B-B断面



鉄蓋



平面図



数量表 (BS1-1, BS1, BS2, BS3)

名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B600×H475×L1200	基	1	ベルマウス、付属金物含む
鉄蓋	T-25 600×1200 スライド式(シリンダー設付)	組	1	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m ²	1.183	
敷モルタル	高炉 1:3	式	1	

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	特殊部構造図(9)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43 葉之内 31
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

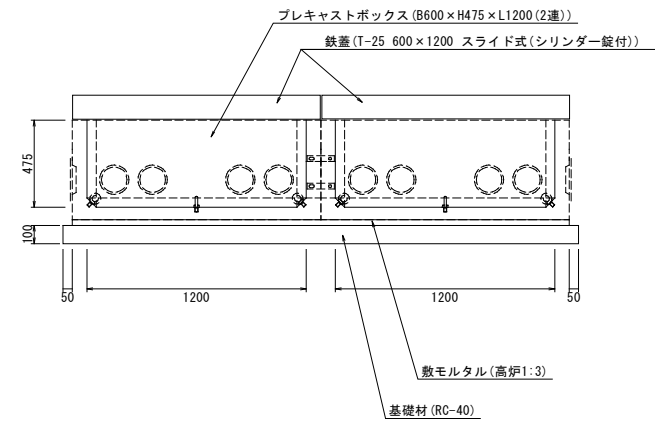
特殊部構造図(10)

分岐樹 2連 (BN1)

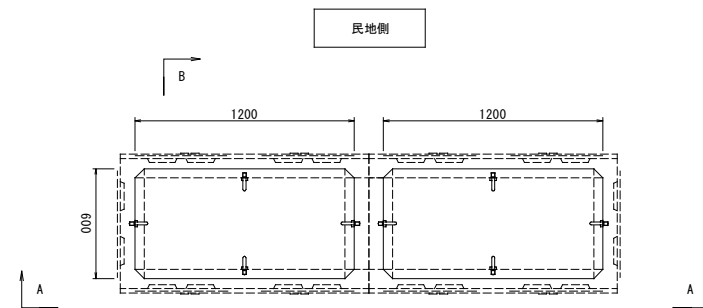
設計条件

設計荷重	活荷重	T-25 (軸荷重50kN, 隣接軸距1.3m)
	衝撃係数	i=0.1
構造形式		鉄筋コンクリート箱型断面
		レジンコンクリート箱型断面
内空寸法(幅×高さ×長さ)		0.6m×0.475m×1.2m 2連
土の単位重量		r=19kN/m ³
土圧係数		KA=0.5
使用材料	コンクリート	設計基準強度σ _{ck} =30N/mm ²
	レジンコンクリート	設計基準強度σ _{bk} =20.6MPa
	鉄筋	SD295A
本体土被り		GL-160mm

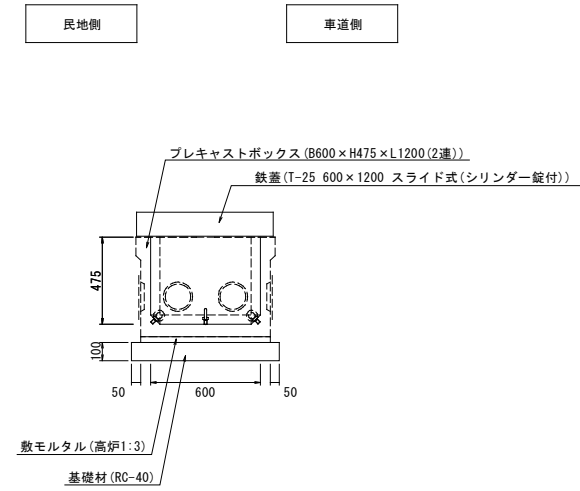
A-A断面



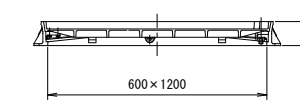
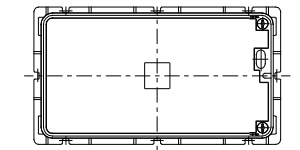
平面図



B-B断面



鉄蓋



数量表

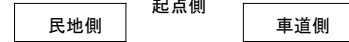
名称	規格	単位	数量	備考
プレキャストボックス	B600×H475×L1200(2連)	基	1	ベルマウス、付属金物含む
鉄蓋	T-25 600×1200 スライド式(シリンダー設付)	組	2	化粧用鉄蓋
基礎材	RC-40 t=10cm	m ²	2.284	
敷モルタル	高炉 1:3	式	1	

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	特殊部構造図(10)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43 葉之内 32
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

ベルマウス配置図(1)

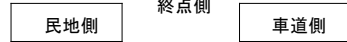
I型電力・通信接続部

(MS1-1)
起点側



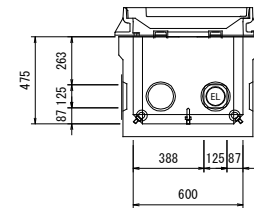
I型電力・通信接続部

(MS1-1)
終点側

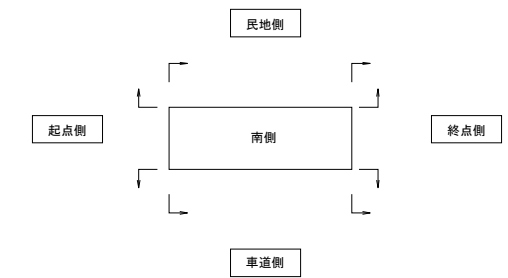


分岐箱

(BS1-1, BS1~BS3)



BS2 起点側・終点側、BS3 起点側・終点側は、HIVP管

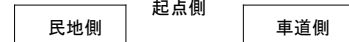


ベルマウス数量表

管種別	種類	管路条数			
		MS1-1	MS1	BS1-1, BS1	BS2, BS3
角型FEPφ130	沈下埋設型	2	6	-	-
	従来型	-	-	-	-
角型FEPφ100	沈下埋設型	2	4	-	-
	従来型	-	-	2	-
角型FEPφ75	沈下埋設型	3	11	-	-
	従来型	-	-	-	-
HIVPφ125	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
HIVPφ100	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	2
VPφ250	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
VPφ200	沈下埋設型	1	2	-	-
	従来型	-	-	-	-
VPφ150	沈下埋設型	1	3	-	-
	従来型	-	-	-	-
PVφ75	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
PVφ50	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
VEφ70	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-

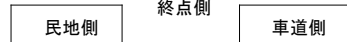
I型電力・通信接続部

(MS1)
起点側



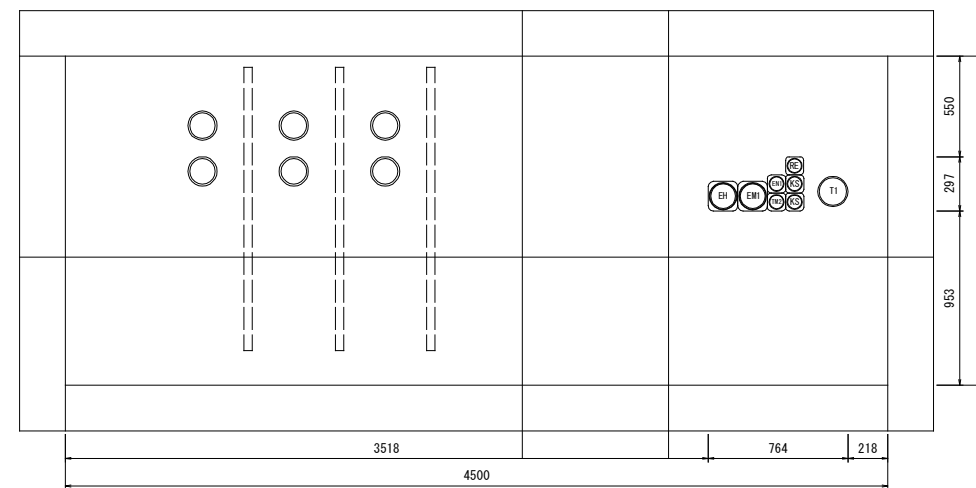
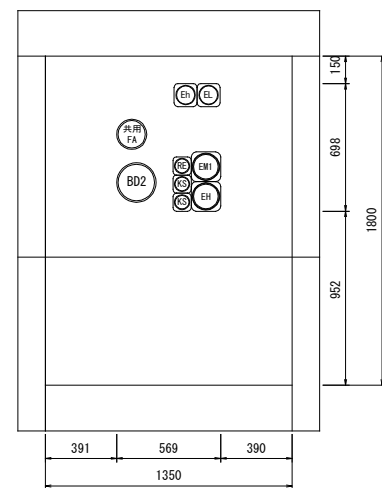
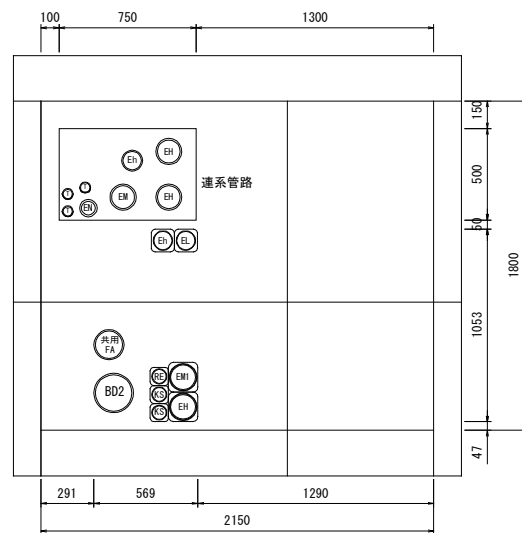
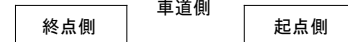
I型電力・通信接続部

(MS1)
終点側



I型電力・通信接続部

(MS1)
車道側



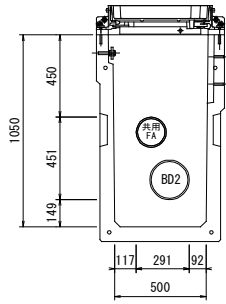
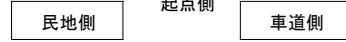
区分	事業者	記号	備考	
電力	中国電力	EH		
		Eh		
		EL		
		EC1		
		電力メンテナンス管	EM1	
		EM2		
通信	共通FA	FA		
		通信ポディー管	BD1	
		BD2		
	NTT	T1		
		T2		
		T3		
	エネルギー・コミュニケーションズ	EN1		
	ひとまるビジョン	CA1		
		MC1		
	通信メンテナンス管	TM1		
TM2				
TM3				
道路管理者	R1			
	R2			
	RS			
道路管理者照明用	RE			
公安用	KS			

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	ベルマウス配置図(1)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43 葉之内 33
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

ベルマウス配置図(2)

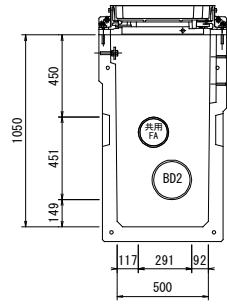
通信接続樹

(TS1)
起点側



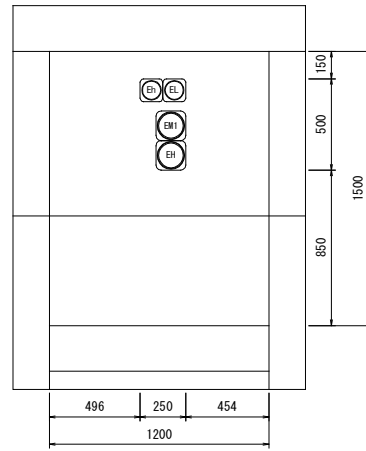
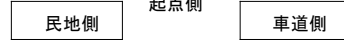
通信接続樹

(TS1)
終点側



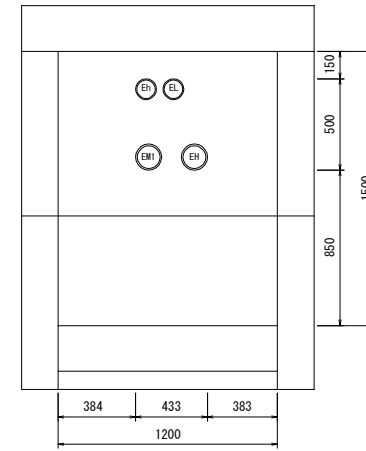
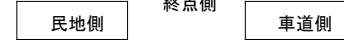
電力地上機器部

(AS1)
起点側



電力地上機器部

(AS1)
終点側

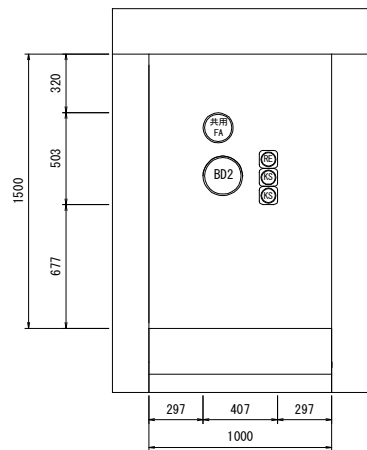
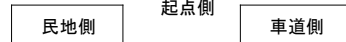


ベルマウス数量表

管種別	種類	管路条数			
		TS1	AS1	TS2	MS2
角型FEPφ130	沈下埋設型	-	2	-	2
	従来型	-	-	-	-
角型FEPφ100	沈下埋設型	-	2	-	2
	従来型	-	-	-	-
角型FEPφ75	沈下埋設型	-	-	3	3
	従来型	-	-	-	-
HIVPφ125	沈下埋設型	-	2	-	2
	従来型	-	-	-	-
HIVPφ100	沈下埋設型	-	2	-	2
	従来型	-	-	-	-
VPφ250	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
VPφ200	沈下埋設型	-	-	1	1
	従来型	2	-	-	-
VPφ150	沈下埋設型	-	-	2	2
	従来型	2	-	-	-
PVφ75	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
PVφ50	沈下埋設型	-	-	7	7
	従来型	-	-	-	-
VEφ70	沈下埋設型	-	-	2	2
	従来型	-	-	-	-

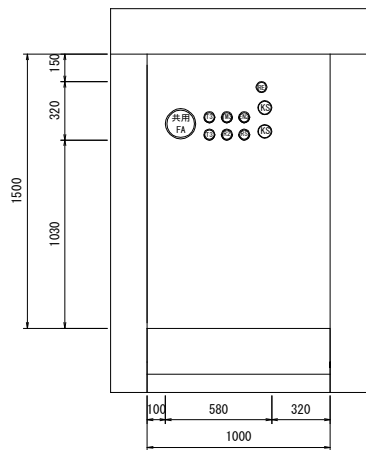
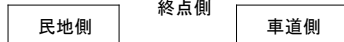
通信基点樹

(TS2)
起点側



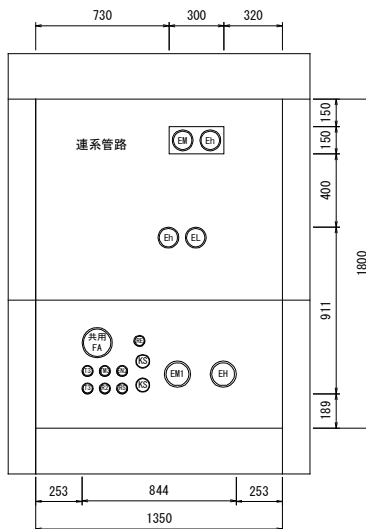
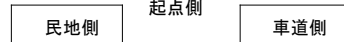
通信基点樹

(TS2)
終点側



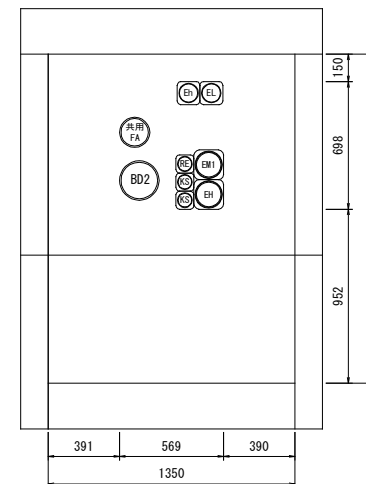
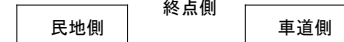
I型電力・通信接続部

(MS2)
起点側



I型電力・通信接続部

(MS2)
終点側



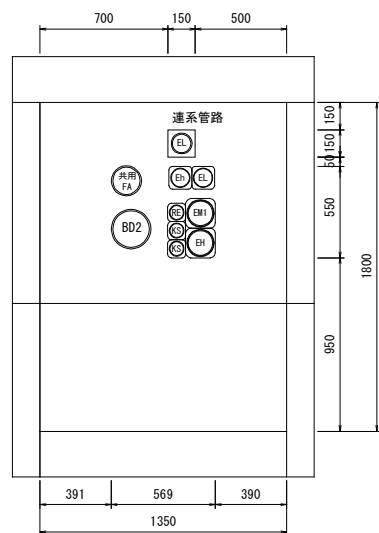
区分	事業者	記号	備考	
電力	中国電力	EH		
		Eh		
		EL		
		EC1		
		電力メンテナンス管	EM1	
		EM2		
通信	共通FA	FA		
		通信ポディー管	BD1	
	NTT	BD2		
		T1		
		T2		
	エネルギー・コミュニケーションズ	T3		
		EN1		
		ひとまるビジョン	CA1	
		MC1		
		通信メンテナンス管	TM1	
道路管理者	TM2			
	TM3			
	R1			
	R2			
道路管理者照明用	RS			
	RE			
	公安用	KS		

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	ベルマウス配置図(2)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43 葉之内 34
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

ベルマウス配置図(3)

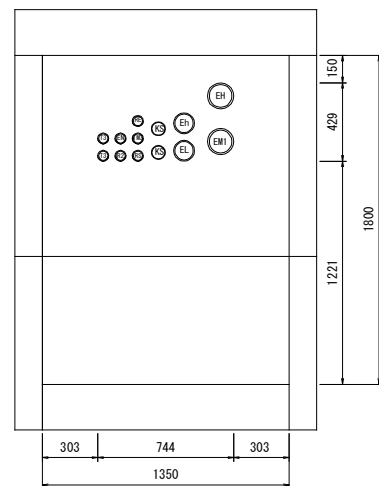
I型電力・通信接続部

(MS3) 起点側
民地側 車道側



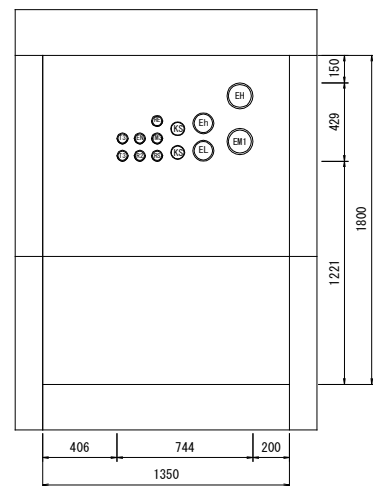
I型電力・通信接続部

(MS3) 終点側
民地側 車道側



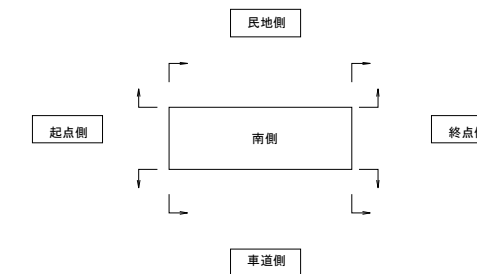
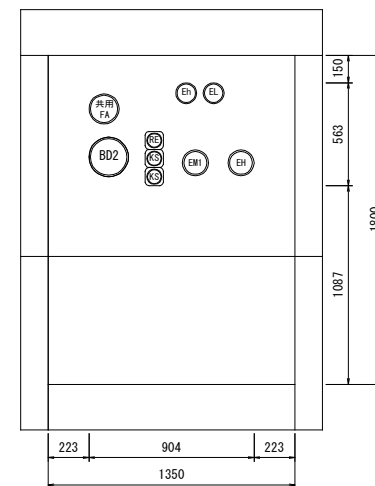
I型電力・通信接続部

(MS4) 起点側
民地側 車道側



I型電力・通信接続部

(MS4) 終点側
民地側 車道側

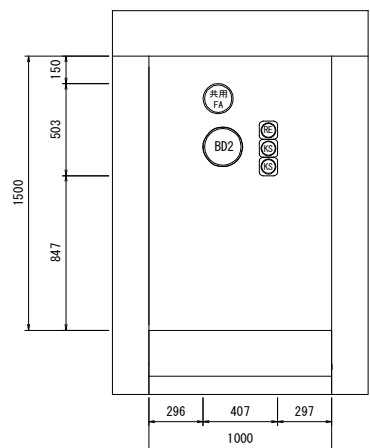


ベルマウス数量表

管種別	種類	管路条数		
		MS3	MS4	TS3
角型FEPφ130	沈下埋設型	2	-	-
	従来型	-	-	-
角型FEPφ100	沈下埋設型	2	-	-
	従来型	-	-	-
角型FEPφ75	沈下埋設型	3	3	3
	従来型	-	-	-
HIVPφ125	沈下埋設型	2	4	-
	従来型	-	-	-
HIVPφ100	沈下埋設型	2	4	-
	従来型	-	-	-
VPφ250	沈下埋設型	-	-	-
	従来型	-	-	-
VPφ200	沈下埋設型	1	1	1
	従来型	-	-	-
VPφ150	沈下埋設型	1	1	2
	従来型	-	-	-
PVφ75	沈下埋設型	-	-	-
	従来型	-	-	-
PVφ50	沈下埋設型	7	7	7
	従来型	-	-	-
VEφ70	沈下埋設型	2	2	2
	従来型	-	-	-

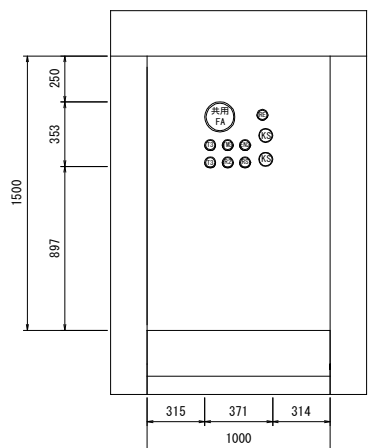
通信基点樹

(TS3) 起点側
民地側 車道側



通信基点樹

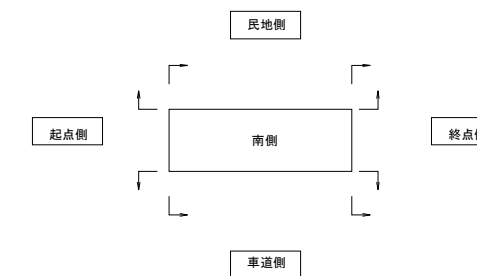
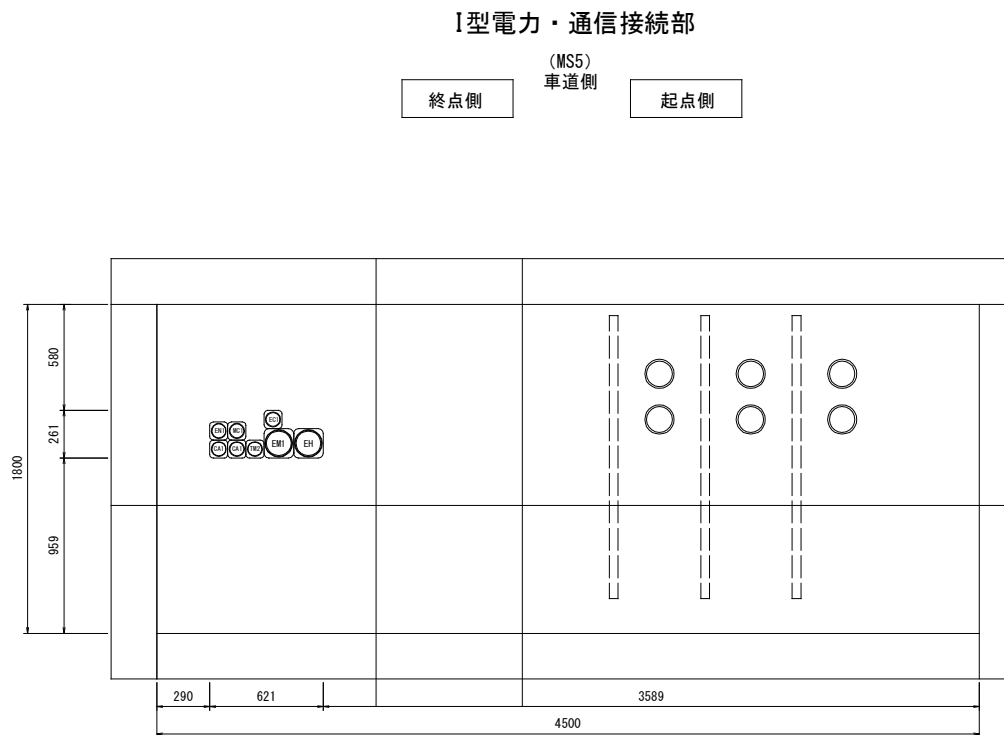
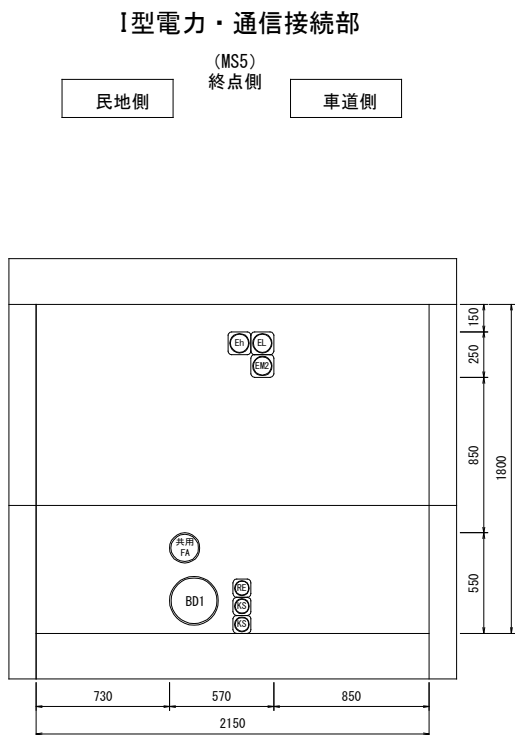
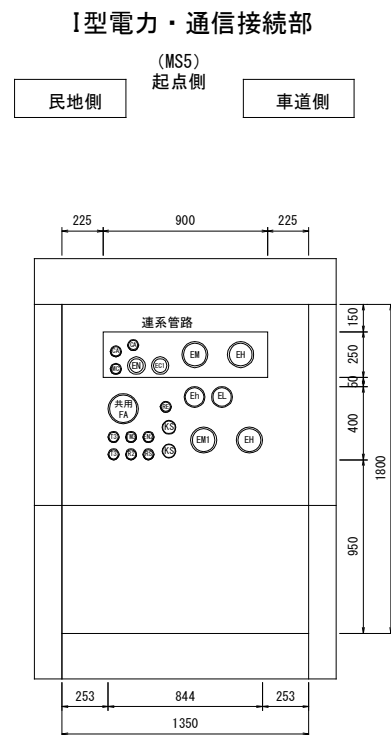
(TS3) 終点側
民地側 車道側



区分	事業者	記号	備考
電力	中国電力	EH	
		Eh	
		EL	
	電力メンテナンス管	EM1	
		EM2	
		EM3	
通信	共通FA	FA	
		通信ポディー管	BD1
	NTT	BD2	
		T1	
		T2	
	エネルギー・コミュニケーションズ	T3	
		EN1	
		CA1	
	ひとまるビジョン	MC1	
		通信メンテナンス管	TM1
TM2			
TM3			
道路管理者	R1		
	R2		
	RS		
道路管理者照明用	RE		
公安用	KS		

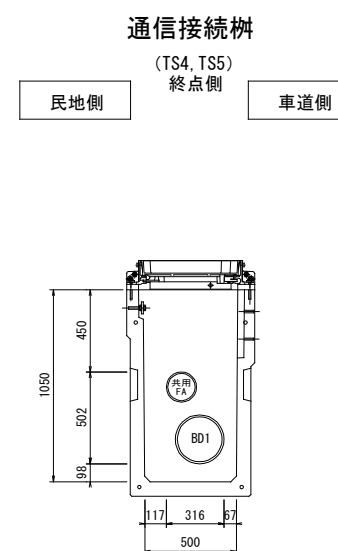
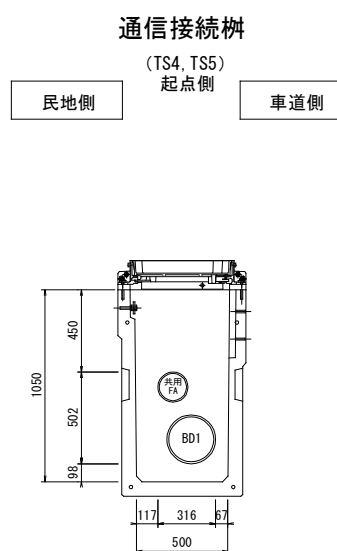
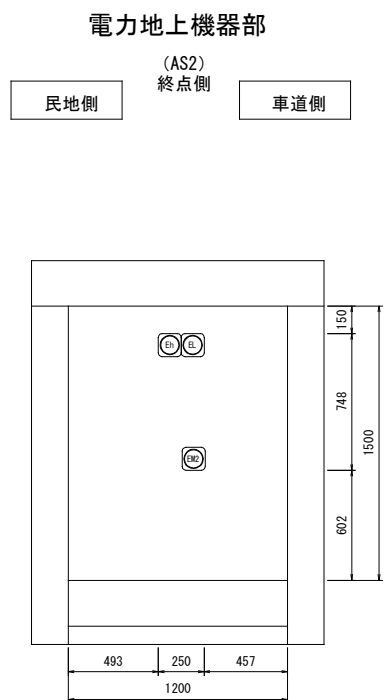
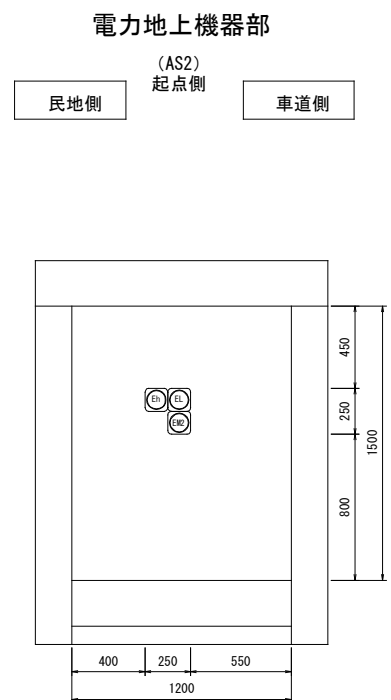
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	ベルマウス配置図(3)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43 葉之内 35
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

ベルマウス配置図(4)



ベルマウス数量表

管種別	種類	管路条数			
		MS5	AS2	TS4, TS5	
角型FEPφ130	沈下埋設型	2	-	-	
	従来型	-	-	-	
角型FEPφ100	沈下埋設型	3	6	-	
	従来型	-	-	-	
角型FEPφ75	沈下埋設型	9	-	-	
	従来型	-	-	-	
HIVPφ125	沈下埋設型	2	-	-	
	従来型	-	-	-	
HIVPφ100	沈下埋設型	2	-	-	
	従来型	-	-	-	
VPφ250	沈下埋設型	1	-	-	
	従来型	-	-	2	
VPφ200	沈下埋設型	-	-	-	
	従来型	-	-	-	
VPφ150	沈下埋設型	2	-	-	
	従来型	-	-	2	
PVφ75	沈下埋設型	-	-	-	
	従来型	-	-	-	
PVφ50	沈下埋設型	7	-	-	
	従来型	-	-	-	
VEφ70	沈下埋設型	2	-	-	
	従来型	-	-	-	

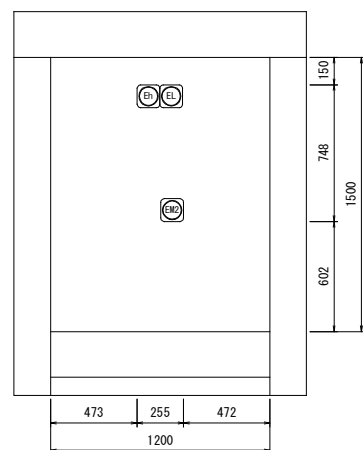


区分	事業者	記号	備考	
電力	中国電力	EH		
		Eh		
		EL		
		EC1		
		電力メンテナンス管	EM1	
		EM2		
通信	共通FA	FA		
		通信ボディー管	BD1	
		BD2		
	NTT	T1		
		T2		
		T3		
	エネルギア・コミュニケーションズ	EN1		
		ひとまるビジョン	CA1	
			MC1	
	通信メンテナンス管	TM1		
TM2				
TM3				
道路管理者	R1			
	R2			
	RS			
	道路管理者照明用	RE		
公安用		KS		

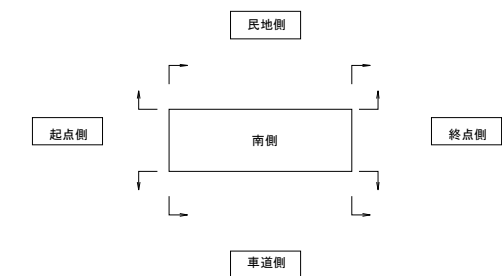
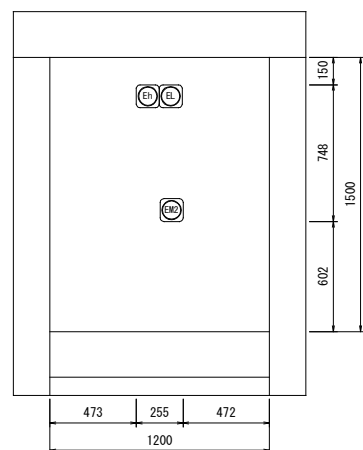
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	ベルマウス配置図(4)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43 葉之内 36
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

ベルマウス配置図(5)

電力地上機器部
(AS3) 起点側
民地側 車道側



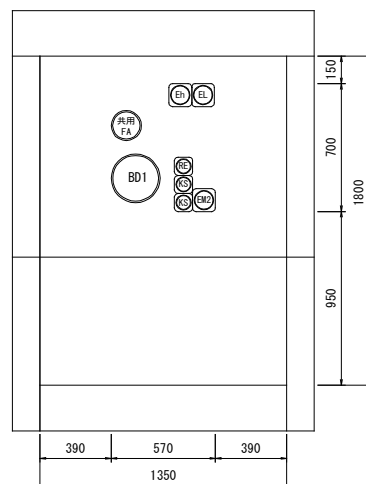
電力地上機器部
(AS3) 終点側
民地側 車道側



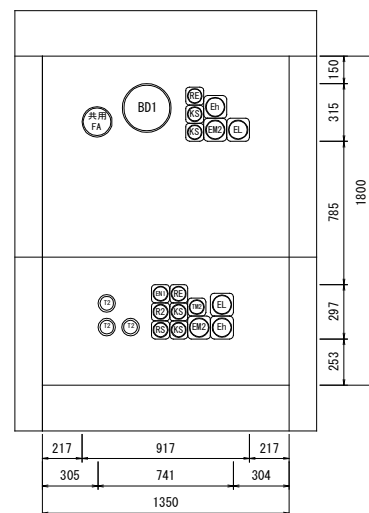
ベルマウス数量表

管種別	種類	管路条数	
		AS3	MS6
角型FEPφ130	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
角型FEPφ100	沈下埋設型	6	9
	従来型	-	-
角型FEPφ75	沈下埋設型	-	19
	従来型	-	-
HIVPφ125	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
HIVPφ100	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
VPφ250	沈下埋設型	-	2
	従来型	-	-
VPφ200	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
VPφ150	沈下埋設型	-	3
	従来型	-	-
PVφ75	沈下埋設型	-	3
	従来型	-	-
PVφ50	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
VEφ70	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-

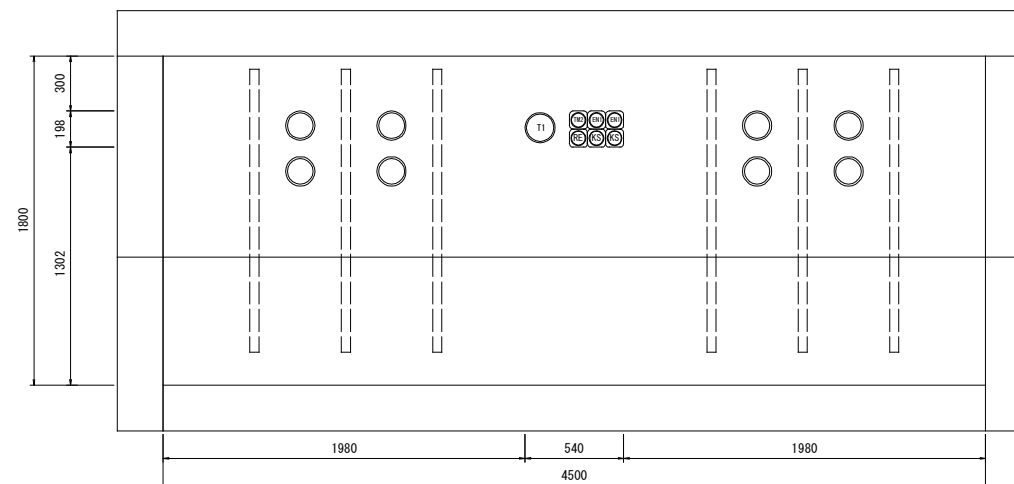
I型電力・通信接続部
(MS6) 起点側
民地側 車道側



I型電力・通信接続部
(MS6) 終点側
民地側 車道側



I型電力・通信接続部
(MS6) 車道側
終点側 起点側



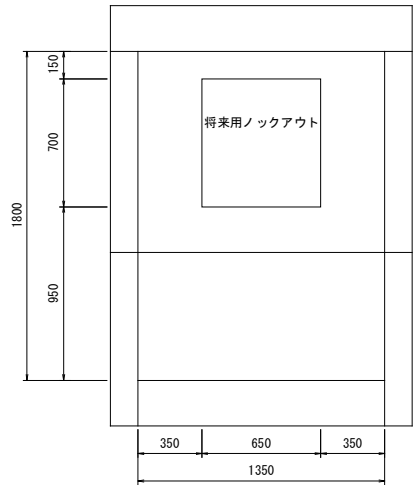
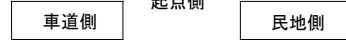
区分	事業者	記号	備考	
電力	中国電力	EH		
		Eh		
		EL		
	電力メンテナンス管	EM1		
		EM2		
		EM3		
通信	共通FA	FA		
		BD1		
	通信ポディー管	BD2		
		T1		
		T2		
	NTT	T3		
		エネルギア・コミュニケーションズ	EN1	
		ひとまるビジョン	CA1	
	通信メンテナンス管	MC1		
		TM1		
TM2				
道路管理者	R1			
	R2			
	RS			
道路管理者照明用	RE			
公安用	KS			

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	ベルマウス配置図(5)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43 葉之内 37
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

ベルマウス配置図(6)

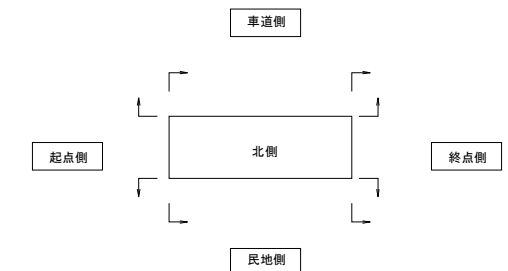
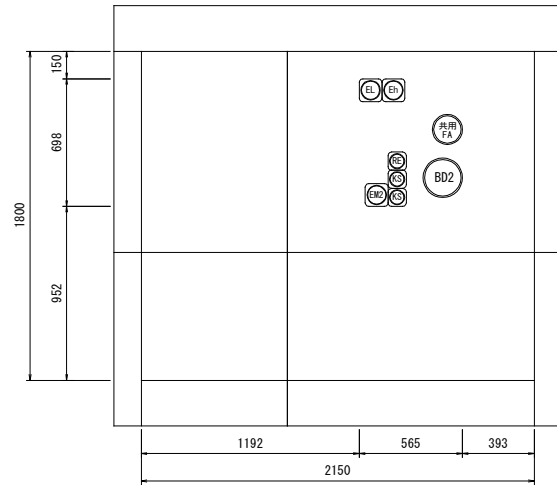
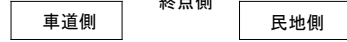
I型電力・通信接続部

(MN1-1)
起点側



I型電力・通信接続部

(MN1-1)
終点側

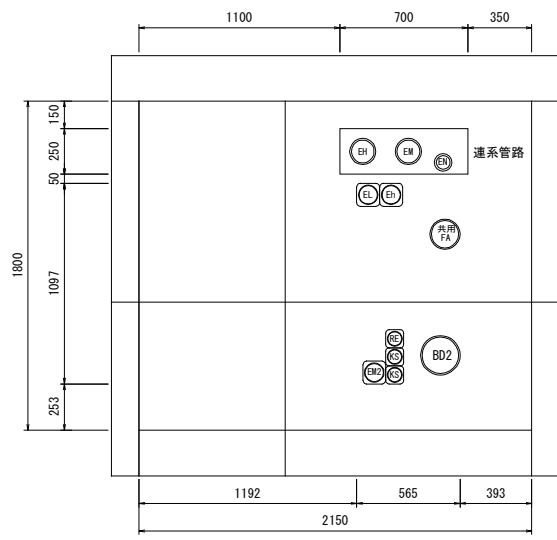
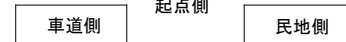


ベルマウス数量表

管種別	種類	管路条数	
		MN1-1	MN1
角型FEPφ130	沈下埋設型	-	2
	従来型	-	-
角型FEPφ100	沈下埋設型	3	3
	従来型	-	-
角型FEPφ75	沈下埋設型	3	11
	従来型	-	-
HIVPφ125	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
HIVPφ100	沈下埋設型	-	3
	従来型	-	-
VPφ250	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
VPφ200	沈下埋設型	1	2
	従来型	-	-
VPφ150	沈下埋設型	1	3
	従来型	-	-
PVφ75	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
PVφ50	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
VEφ70	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-

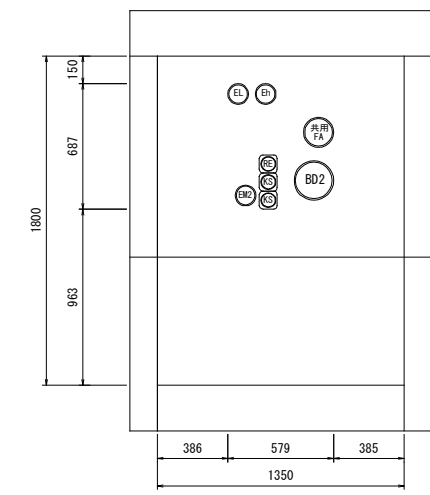
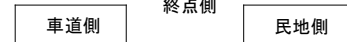
I型電力・通信接続部

(MN1)
起点側



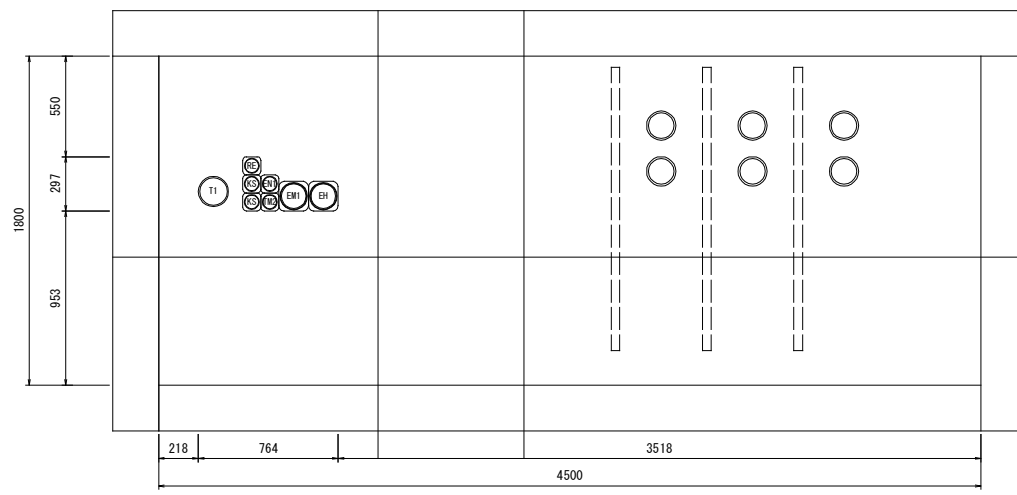
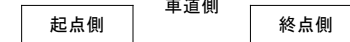
I型電力・通信接続部

(MN1)
終点側



I型電力・通信接続部

(MN1)
車道側

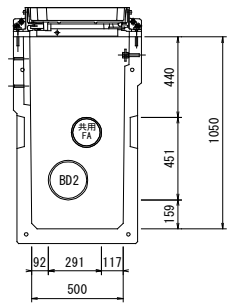


区分	事業者	記号	備考	
電力	中国電力	EH		
		Eh		
		EL		
		EC1		
		電力メンテナンス管	EM1	
		EM2		
通信	共通FA	FA		
		通信ポディー管	BD1	
		BD2		
	NTT	T1		
		T2		
		T3		
	エネルギア・コミュニケーションズ	EN1		
		ひとまるビジョン	CA1	
			MC1	
	通信メンテナンス管	TM1		
TM2				
TM3				
道路管理者	R1			
	R2			
	RS			
道路管理者照明用	RE			
公安用	KS			

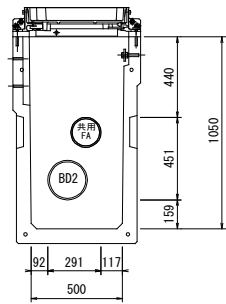
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	ベルマウス配置図(6)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43葉之内 38
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

ベルマウス配置図(7)

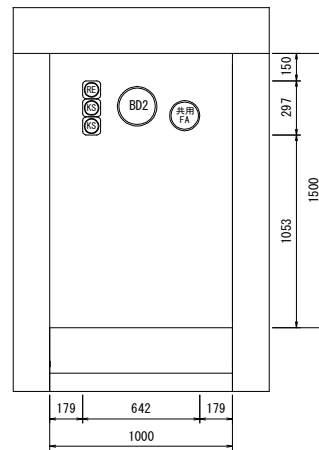
通信接続樹
(TN1, TN6)
起点側



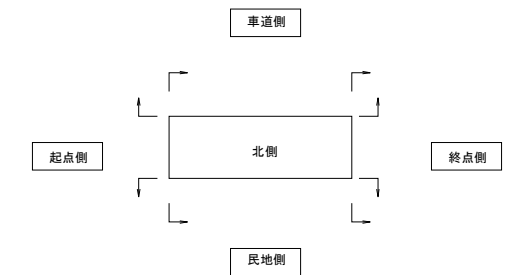
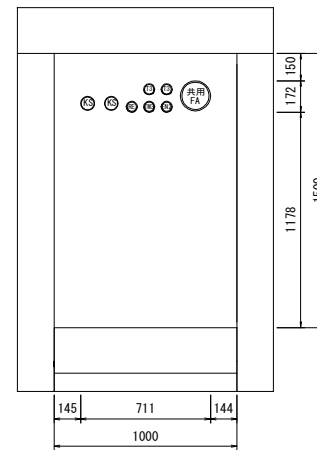
通信接続樹
(TN1, TN6)
終点側



通信基点樹
(TN2)
起点側



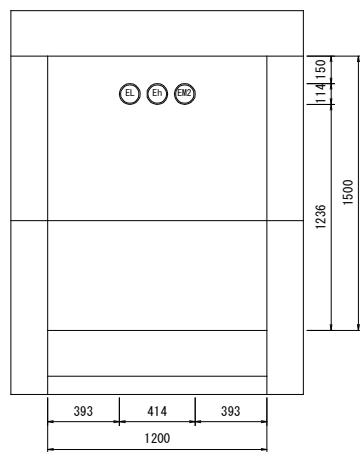
通信基点樹
(TN2)
終点側



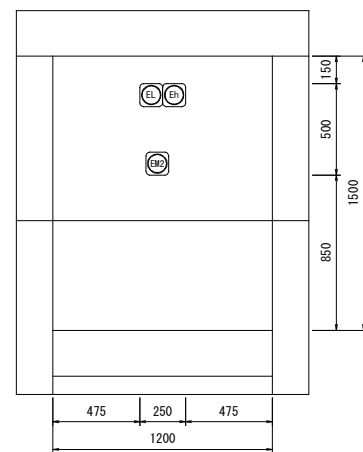
ベルマウス数量表

管種別	種類	管路条数			
		TN1, TN6	TN2	AN1	TN3
角型FEPφ130	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
角型FEPφ100	沈下埋設型	-	-	3	-
	従来型	-	-	-	-
角型FEPφ75	沈下埋設型	-	3	-	-
	従来型	-	-	-	-
HIVPφ125	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
HIVPφ100	沈下埋設型	-	-	3	-
	従来型	-	-	-	-
VPφ250	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
VPφ200	沈下埋設型	-	1	-	-
	従来型	2	-	-	1
VPφ150	沈下埋設型	-	2	-	-
	従来型	2	-	-	2
PVφ75	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
PVφ50	沈下埋設型	-	5	-	-
	従来型	-	-	-	4
VEφ70	沈下埋設型	-	2	-	-
	従来型	-	-	-	-

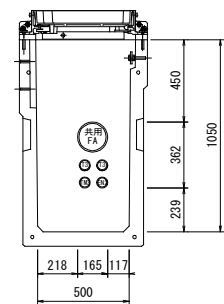
電力地上機器部
(AN1)
起点側



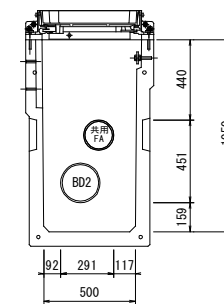
電力地上機器部
(AN1)
終点側



通信接続樹
(TN3)
起点側



通信接続樹
(TN3)
終点側



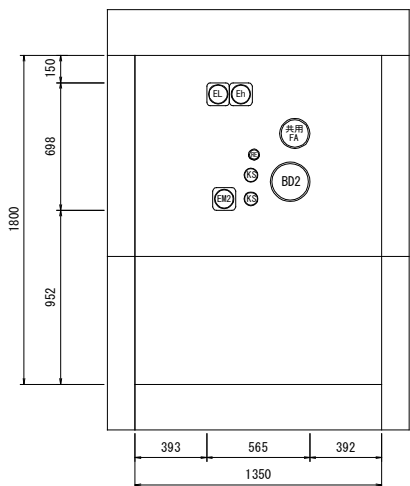
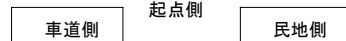
区分	事業者	記号	備考	
電力	中国電力	EH		
		Eh		
		EL		
		EC1		
		EC2		
通信	電力メンテナンス管	EM1		
		EM2		
	共通FA	FA		
		通信ポディー管	B01	
			B02	
	NTT	T1		
		T2		
		T3		
	エネルギー・コミュニケーションズ	EN1		
		CA1		
MC1				
通信メンテナンス管	TM1			
	TM2			
	TM3			
	TM4			
道路管理者	R1			
	R2			
	RS			
	RE			
道路管理者照明用	RE			
	KS			

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	ベルマウス配置図(7)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43 葉之内 39
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

ベルマウス配置図(8)

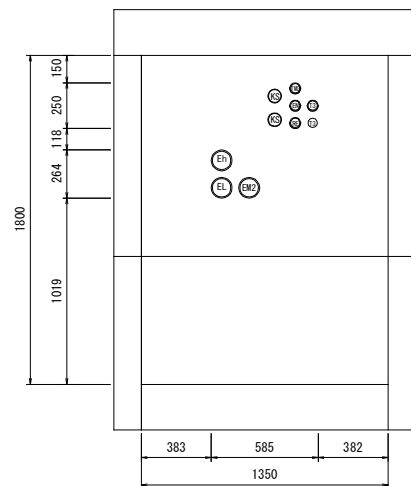
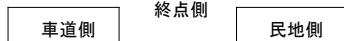
I型電力・通信接続部

(MN2)
起点側



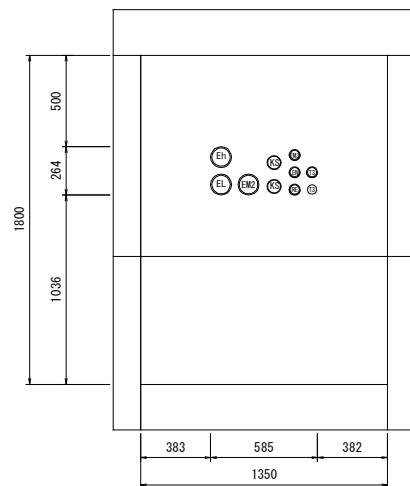
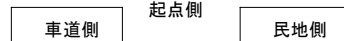
I型電力・通信接続部

(MN2)
終点側



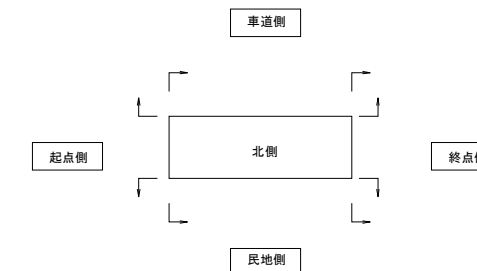
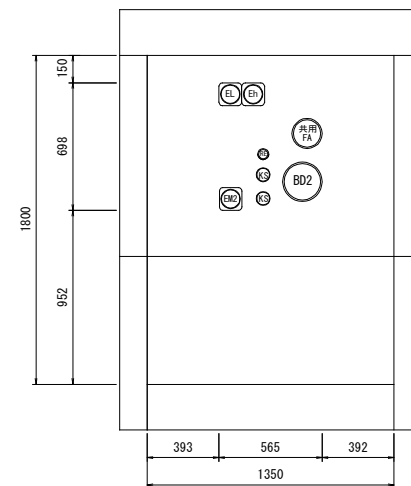
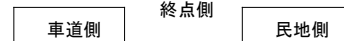
I型電力・通信接続部

(MN3)
起点側



I型電力・通信接続部

(MN3)
終点側

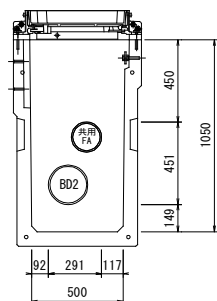
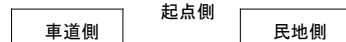


ベルマウス数量表

管種別	種類	管路条数			
		MN2	MN3	TN4	BN1
角型FEPφ130	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
角型FEPφ100	沈下埋設型	3	3	-	-
	従来型	-	-	-	2
角型FEPφ75	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
HIVPφ125	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
HIVPφ100	沈下埋設型	3	3	-	-
	従来型	-	-	-	-
VPφ250	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
VPφ200	沈下埋設型	1	1	-	-
	従来型	-	-	1	-
VPφ150	沈下埋設型	1	1	-	-
	従来型	-	-	2	-
PVφ75	沈下埋設型	-	-	-	-
	従来型	-	-	-	-
PVφ50	沈下埋設型	6	6	-	-
	従来型	-	-	4	-
VEφ70	沈下埋設型	4	4	-	-
	従来型	-	-	-	-

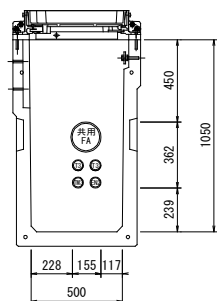
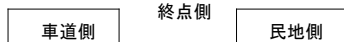
通信接続樹

(TN4)
起点側



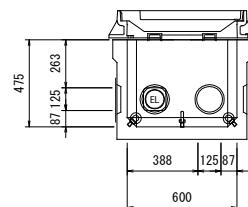
通信接続樹

(TN4)
終点側



分岐樹

(BN1)

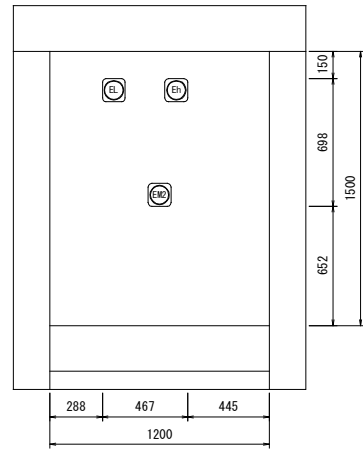


区分	事業者	記号	備考	
電力	中国電力	EH		
		Eh		
		EL		
		EC1		
		電力メンテナンス管	EM1	
		EM2		
通信	共通FA	FA		
		通信ポディー管	BD1	
		BD2		
	NTT	T1		
		T2		
		T3		
	エネルギア・コミュニケーションズ	EN1		
		ひとまるビジョン	CA1	
		MC1		
	通信メンテナンス管	TM1		
TM2				
TM3				
道路管理者	R1			
	R2			
	RS			
道路管理者照明用	RE			
公安用	KS			

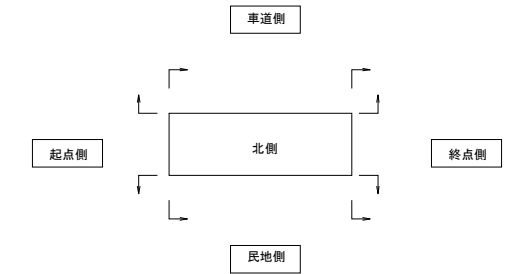
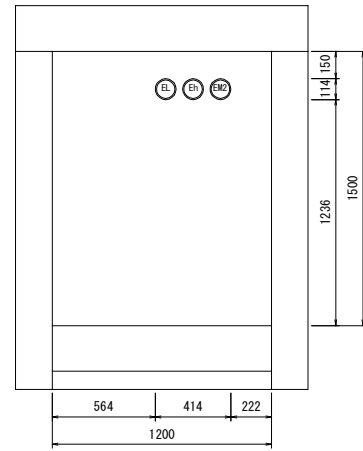
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	ベルマウス配置図(8)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43 葉之内 40
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

ベルマウス配置図(9)

電力地上機器部
(AN2)
起点側



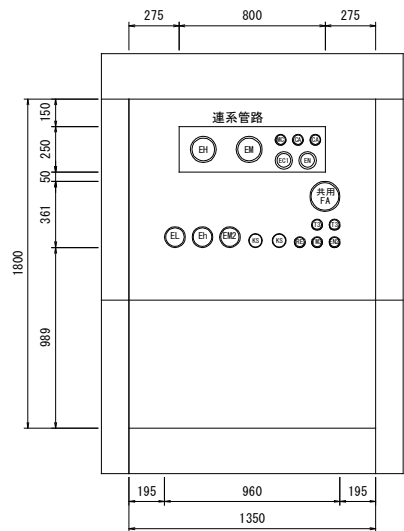
電力地上機器部
(AN2)
終点側



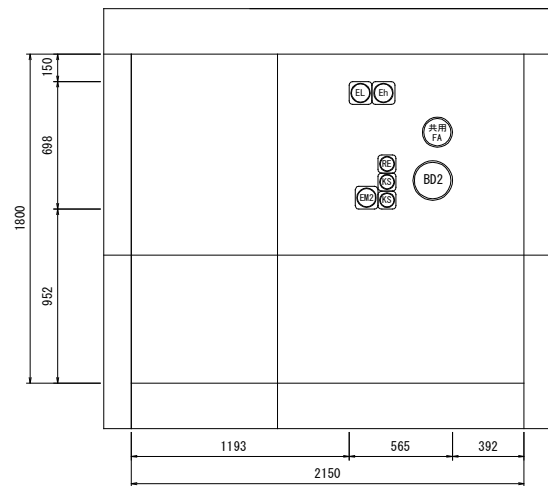
ベルマウス数量表

管種別	種類	管路条数	
		AN2	MN4
角型FEPφ130	沈下埋設型	-	2
	従来型	-	-
角型FEPφ100	沈下埋設型	3	3
	従来型	-	-
角型FEPφ75	沈下埋設型	-	9
	従来型	-	-
HIVPφ125	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
HIVPφ100	沈下埋設型	3	3
	従来型	-	-
VPφ250	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
VPφ200	沈下埋設型	-	1
	従来型	-	-
VPφ150	沈下埋設型	-	2
	従来型	-	-
PVφ75	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
PVφ50	沈下埋設型	-	5
	従来型	-	-
VEφ70	沈下埋設型	-	2
	従来型	-	-

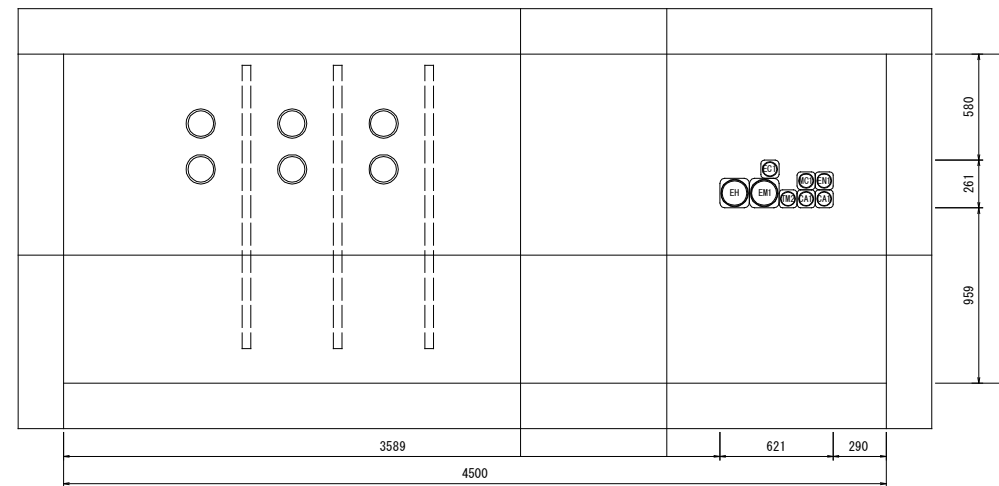
I型電力・通信接続部
(MN4)
起点側



I型電力・通信接続部
(MN4)
終点側



I型電力・通信接続部
(MN4)
車道側



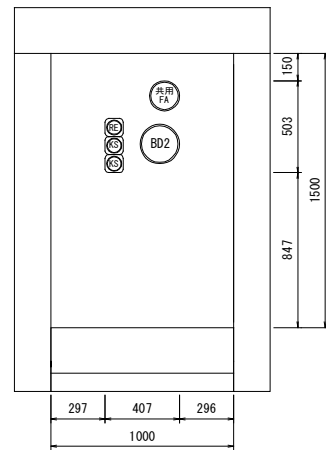
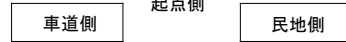
区分	事業者	記号	備考
電力	中国電力	EH	
		Eh	
		EL	
		EC1	
		EM1	
		EM2	
通信	共通FA	FA	
		BD1	
	通信ポディー管	BD2	
		T1	
		T2	
	NTT	T3	
		EN1	
		CA1	
	エネルギア・コミュニケーションズ	MC1	
		TM1	
		TM2	
	ひとまるビジョン	TM3	
TM1			
TM2			
通信メンテナンス管	TM3		
	R1		
	R2		
道路管理者	RS		
	RE		
	KS		
道路管理者照明用	RE		
	KS		
公安用	KS		

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	ベルマウス配置図(9)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43 葉之内 41
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

ベルマウス配置図(10)

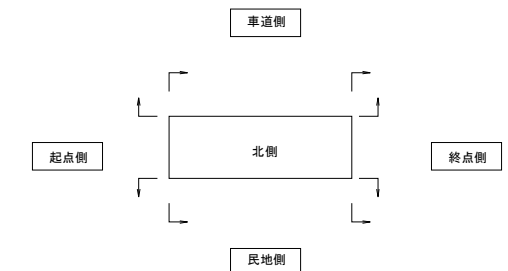
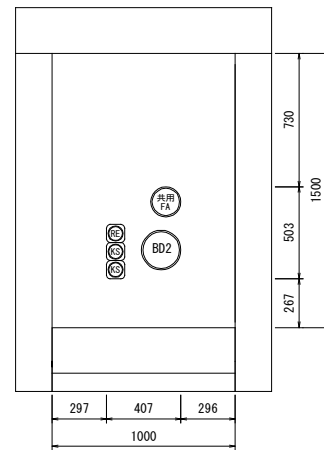
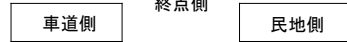
通信基点樹

(TN5)
起点側



通信基点樹

(TN5)
終点側

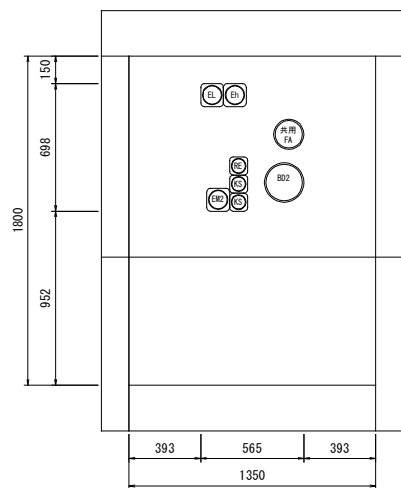
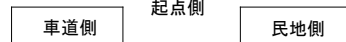


ベルマウス数量表

管種別	種類	管路条数	
		TN5	MN5
角型FEPφ130	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
角型FEPφ100	沈下埋設型	-	9
	従来型	-	-
角型FEPφ75	沈下埋設型	6	17
	従来型	-	-
HIVPφ125	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
HIVPφ100	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
VPφ250	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
VPφ200	沈下埋設型	2	2
	従来型	-	-
VPφ150	沈下埋設型	2	3
	従来型	-	-
PVφ75	沈下埋設型	-	3
	従来型	-	-
PVφ50	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-
VEφ70	沈下埋設型	-	-
	従来型	-	-

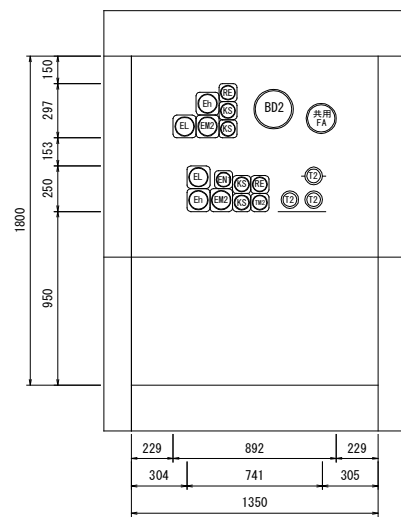
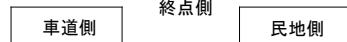
I型電力・通信接続部

(MN5)
起点側



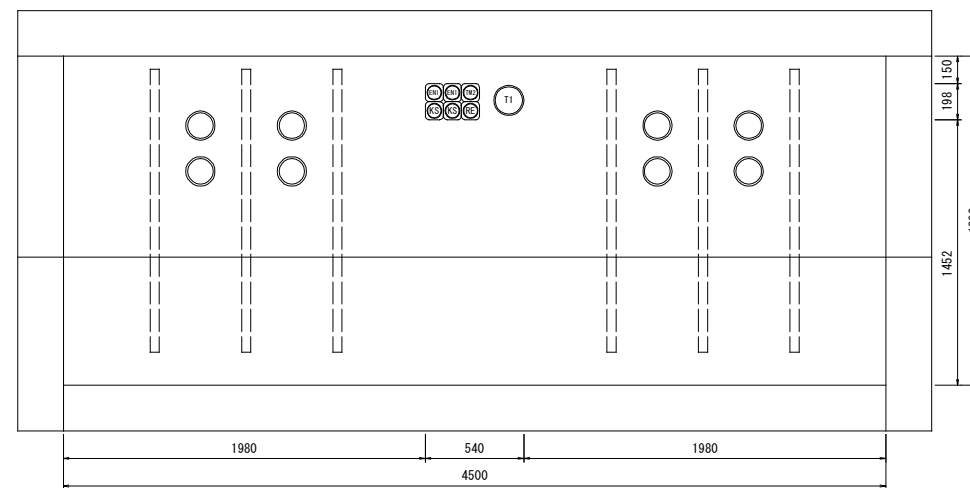
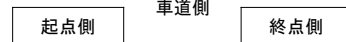
I型電力・通信接続部

(MN5)
終点側



I型電力・通信接続部

(MN5)
車道側

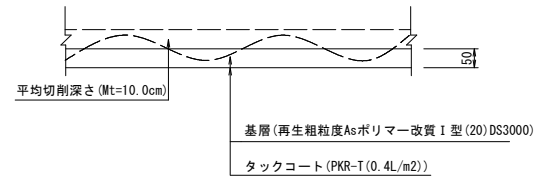


区分	事業者	記号	備考	
電力	中国電力	EH		
		Eh		
		EL		
		EC1		
		電力メンテナンス管	EM1	
		EM2		
通信	共通FA	FA		
		通信ポディー管	BD1	
	NTT	BD2		
		T1		
		T2		
	エネルギー・コミュニケーションズ	T3		
		EN1		
		ひとまるビジョン	CA1	
		MC1		
		通信メンテナンス管	TM1	
道路管理者	TM2			
	TM3			
	R1			
	R2			
道路管理者照明用	RS			
	RE			
	公安用	KS		

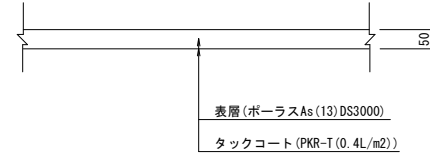
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	ベルマウス配置図(10)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	43 葉之内 42
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

構造図

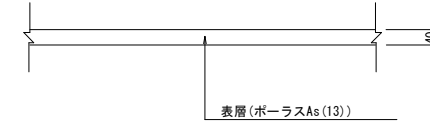
切削オーバーレイ (A)



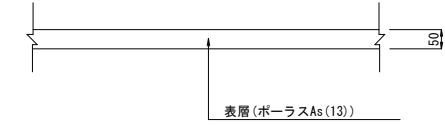
車道舗装 (A)



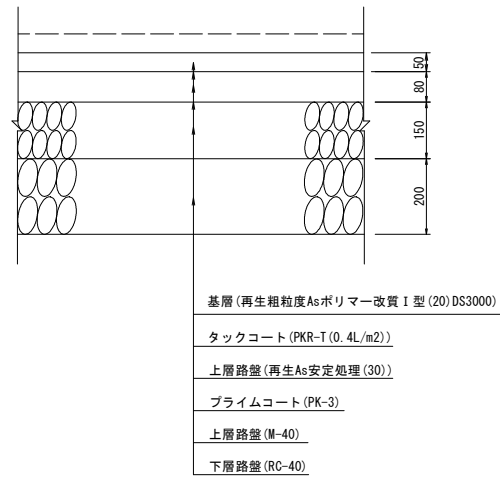
歩道舗装 (A)



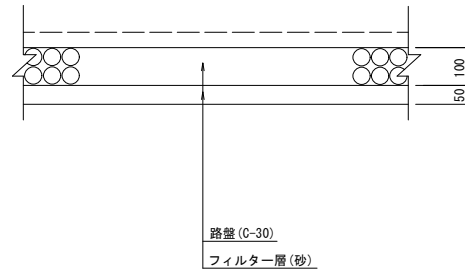
歩道舗装 (B)



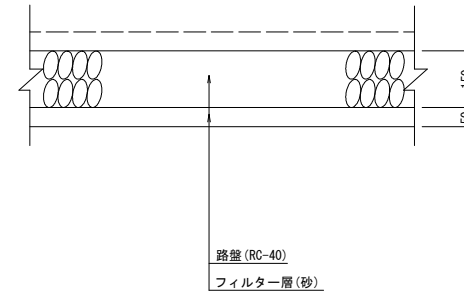
舗装復旧 (A)



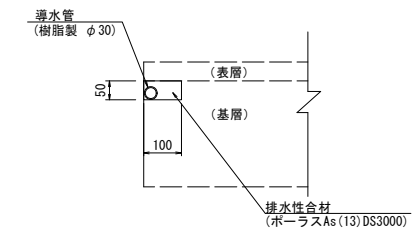
舗装復旧 (B)



舗装復旧 (C)



導水管 (A)



数量表 10m当り

名称	規格	単位	数量
導水管	樹脂製 φ30	m	10.000
排水性合材	ポーラスAs (13) DS3000	t	0.100

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	構造図		
作成年月日			
縮尺	1:10	図面番号	43 葉之内 43
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		